取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PRIUS

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 8
本書の見方 13
検索のしかた 14
イラスト目次 16

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 26
安全なドライブのために 28
シートベルト 30
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 42
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート 44
1-3. コネクティッドサービス
T-Connect DCM 単体 64
1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 95
ハイブリッドシステムの注意 100
1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 107
オートアラーム 108

2 メーターの見方

2. メーターの見方
コンビネーションメーター ... 112
警告灯／表示灯 122
メインディスプレイ 129
マルチインフォメーションディスプレイ 135
カラーヘッドアップディスプレイ 166
エネルギーモニター／燃費画面／ ESPO 画面（ナビゲーションシステム装着車）..... 173

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い
キー 182

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 187
バックドア 192
スマートエントリー＆スタートシステム 198

3-3. シートの調整
フロントシート 205
リヤシート 207
ヘッドレスト 209

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 212
インナーミラー 214
ドアミラー 216

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 218
ムーンルーフ 222

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 226
荷物を積むときの注意 238

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 240
EV ドライブモード 246
トランスミッション 248
方向指示レバー 254
パーキングブレーキ 255

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 256
AHB（オートマチックハイビーム） 260
フォグランプスイッチ 264
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 267
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 271

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 273

4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense.....278
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....284
LTA（レーントレーシングアシスト）.....294
RSA（ロードサインアシスト）.....306
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....311
先行車発進告知機能.....327
ITS Connect.....330
ドライブモードセレクトスイッチ.....340
BSM（ブラインドスポットモニター）.....342
・BSM 機能.....346
・RCTA 機能.....349
クリアランスソナー.....354
パーキングサポートブレーキ.....364
プラスサポート（販売店装着オプション）.....376
S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）.....381
運転を補助する装置.....414
パノラミックビューモニター.....422
4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス.....452
寒冷時の運転.....454

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）.....458
オートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）.....469
シートヒーター（快適温熱シート）／シートベンチレーター.....481
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....483
・フロントインテリアランプ.....484
・マップランプ.....484
・リヤインテリアランプ.....485
5-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧.....486
・グローブボックス.....487
・コンソールボックス.....488
・カップホルダー.....489
・ボトルホルダー／ドアポケット.....490
・小物入れ.....491
・カードホルダー.....492
・シートバックポケット.....492
ラゲージルーム内装備.....493

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 499
・サンバイザー.....499
・バニティミラー.....499
・アクセサリーソケット 500
・ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.....501
・アームレスト.....507
・コートフック.....507
・アシストグリップ.....508
・ステアリングスイッチ 509
アクセサリーコンセント 510
非常時給電システム 517

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....528
内装の手入れ.....534

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....537
ガレージジャッキ.....540
ウォッシャー液の補充 541
タイヤについて.....543
タイヤ空気圧について 547
エアコンフィルターの交換.....549
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃 552
ワイパーゴムの交換 557
電子キーの電池交換 562
ヒューズの点検、交換 565
電球（バルブ）の交換 568

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 576
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 577
発炎筒 578
車両を緊急停止するには..... 580
水没したときは 581

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 582
警告灯がついたときは 590
警告メッセージが表示されたときは..... 596
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 605
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 623
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 635
電子キーが正常に働かないときは 637
補機バッテリーがあがったときは 640
オーバーヒートしたときは 646
スタックしたときは 651

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....654
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....661
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 670

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）....672
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....676
アルファベット順さくいん.....678
五十音順さくいん 680

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

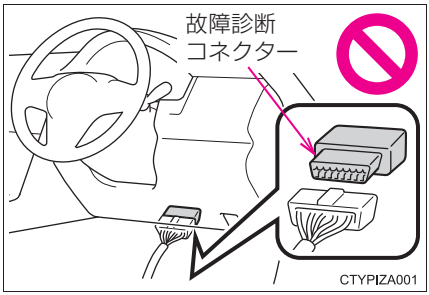
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 12 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・前方カメラの画像情報
　車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。
・駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 376）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

本書の見方

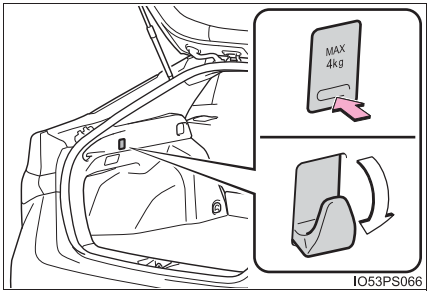
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

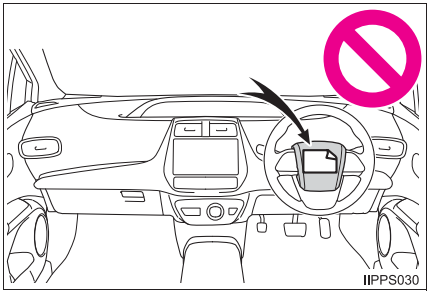
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

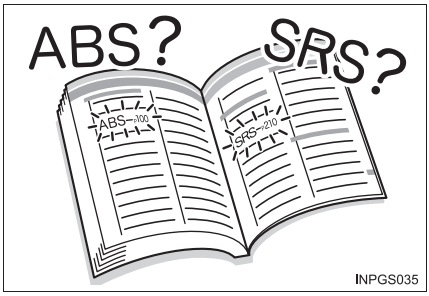


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

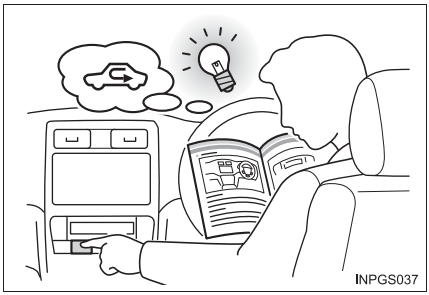
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....680
・アルファベット順
さくいん.....678



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....16

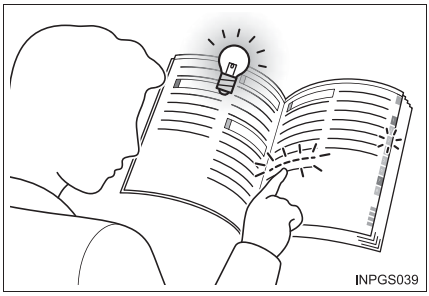


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....672
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....676

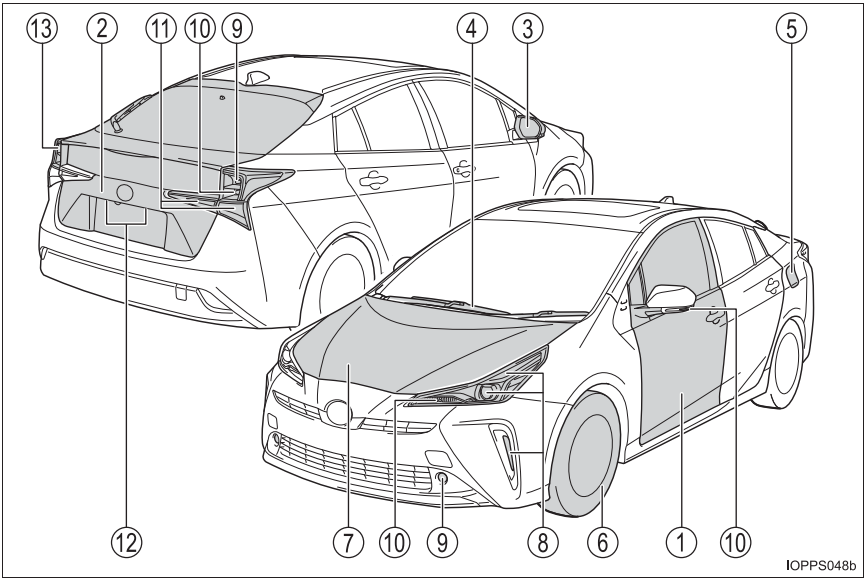
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■外観



① **ドア . . . . . P. 187**

施錠／解錠 . . . . . P. 187

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 218

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 637

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 592, 596

② **バックドア . . . . . P. 192**

車外から開ける . . . . . P. 193

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 592, 596

③ **ドアミラー . . . . . P. 216**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 216

ミラーの格納 . . . . . P. 216

曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 462, 474

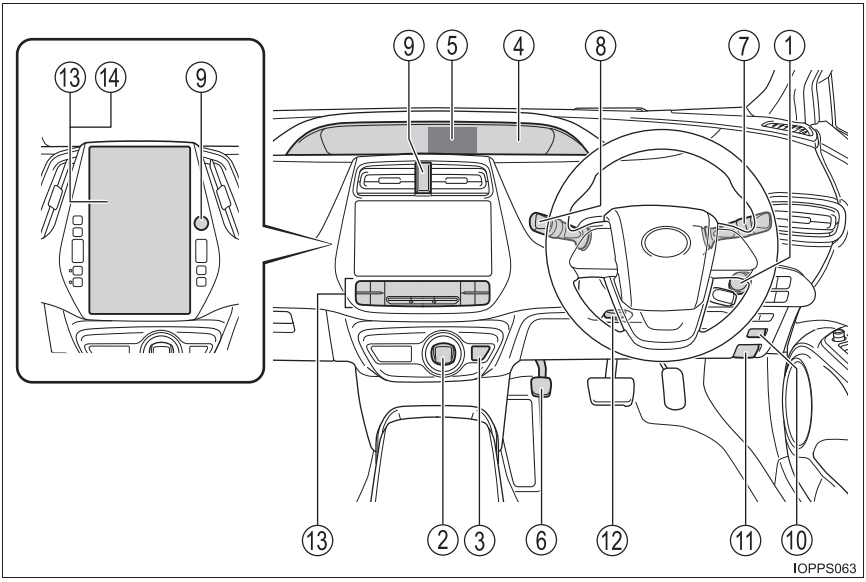
④ **ワイパー** . . . . . **P. 267**
冬季の注意 . . . . . P. 454
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 462
洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー装着車）. . . . . P. 530
ワイパーゴムの交換 . . . . . P. 557
⑤ **給油口** . . . . . **P. 273**
給油方法 . . . . . P. 273
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 654
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 543**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 659
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 454
点検・ローテーション . . . . . P. 543
パンク時の対処 . . . . . P. 605, 623
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 537**
開け方 . . . . . P. 537
エンジンオイル . . . . . P. 655
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 646

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 568, ワット数：P. 660）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・薄暮灯★** . . . . . **P. 256**
⑨ **フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 264**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 254**
⑪ **尾灯** . . . . . **P. 256**
⑫ **番号灯** . . . . . **P. 256**
⑬ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 248

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル

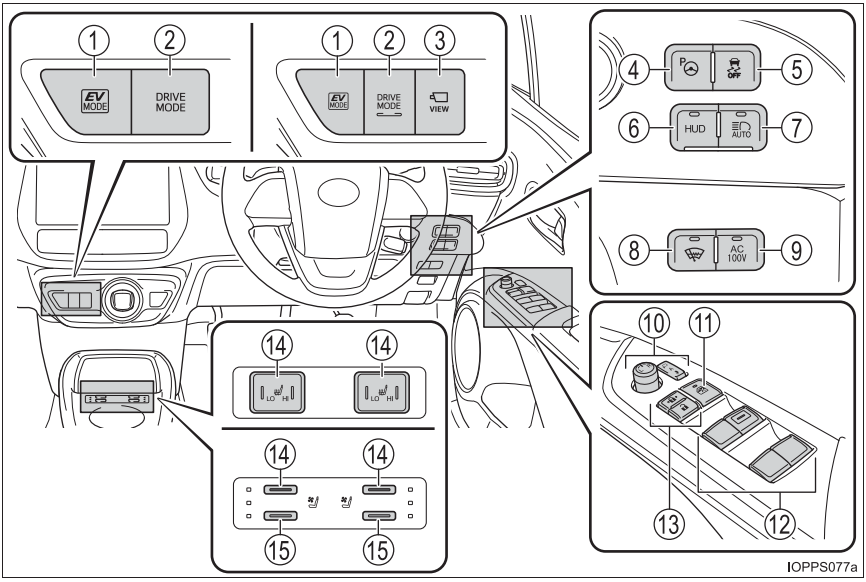


① **パワースイッチ . . . . . P. 240**
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 240
ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 580
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 635
警告メッセージ . . . . . P. 596
② **シフトレバー . . . . . P. 248**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 248
けん引時の注意 . . . . . P. 582
③ **P ポジションスイッチ . . . . . P. 249**
④ **メーター . . . . . P. 112**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 112, 114
警告灯／表示灯 . . . . . P. 122
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 590

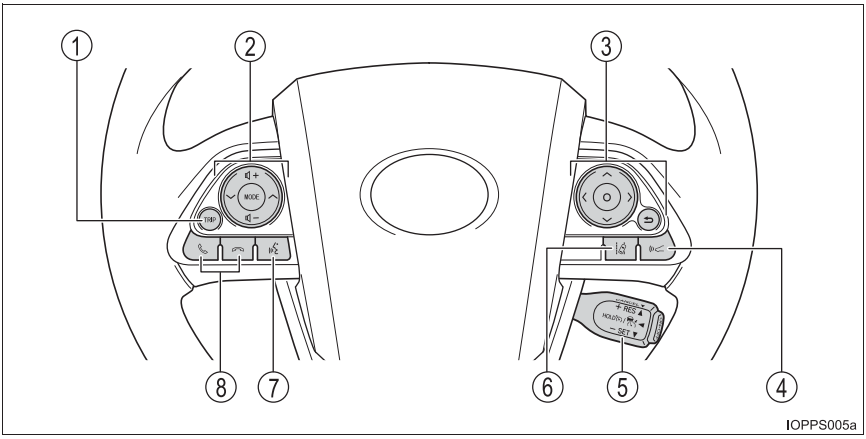
⑤ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 135**
表示内容 . . . . . .P. 135
エネルギーモニター . . . . . .P. 138
警告メッセージ表示時の対処. . . . . .P. 596
⑥ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 255**
かける・解除する . . . . . .P. 255
冬季の注意 . . . . . .P. 455
警告ブザー . . . . . .P. 255
⑦ **方向指示レバー. . . . . .P. 254**
ランプスイッチ. . . . . .P. 256
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・薄暮灯★. . . . . .P. 256
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★. . . . . .P. 264
⑧ **ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント）. . . . . .P. 267**
ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ）★ . . . . . .P. 271
使い方. . . . . .P. 267, 271
ウォッシャー液の補充. . . . . .P. 541
⑨ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 577**
⑩ **給油口オープナー . . . . . .P. 275**
⑪ **ボンネット解除レバー. . . . . .P. 537**
⑫ **ハンドル位置調整レバー . . . . . .P. 212**
⑬ **オートエアコン. . . . . .P. 458, 469**
操作方法 . . . . . .P. 458, 471
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）. . . . . .P. 462, 474
⑭ **オーディオ★ ※**
音楽を聴く ※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■スイッチ類



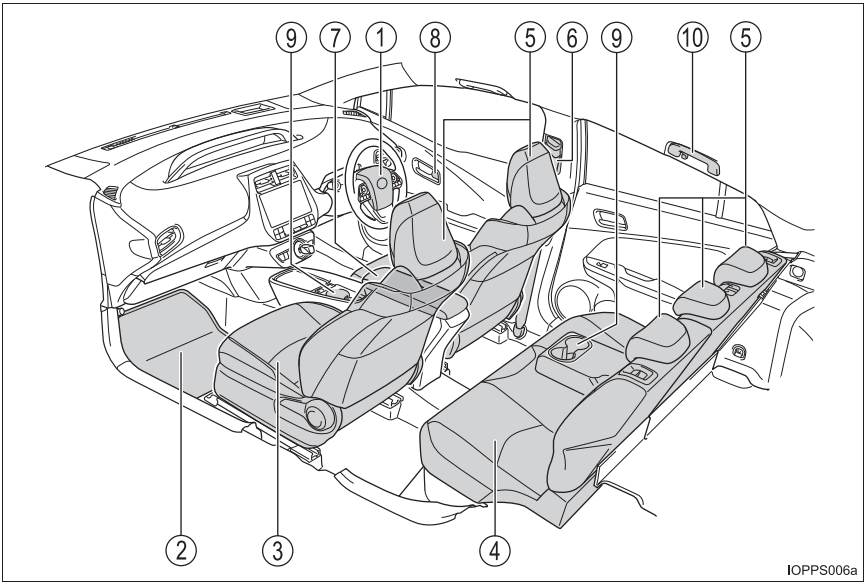
① EV ドライブモードスイッチ . . . . . .P. 246
② ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 340
③ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ . . . . . .P. 423
④ S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）スイッチ★. . . . . .P. 384
⑤ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 416
⑥ HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ★. . . . . .P. 167
⑦ オートマチックハイビームスイッチ. . . . . .P. 260
⑧ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . .P. 462
⑨ AC100V スイッチ★ . . . . . .P. 511, 518
⑩ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 216
⑪ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 218
⑫ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 218
⑬ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 189
⑭ シートヒータースイッチ★. . . . . .P. 482
⑮ シートベンチレータースイッチ★. . . . . .P. 482



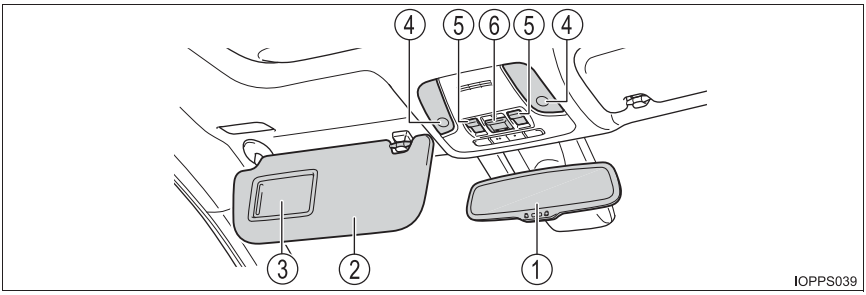
① TRIP スイッチ . . . . . .P. 131
② オーディオスイッチ ※. . . . . .P. 509
③ メーター操作スイッチ. . . . . .P. 113
④ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . .P. 317
⑤ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. . . . . .P. 311
⑥ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . .P. 300
⑦ トークスイッチ★ ※. . . . . .P. 509
⑧ 電話スイッチ★ ※ . . . . . .P. 509

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 34
② フロアマット . . . . . P. 26
③ フロントシート . . . . . P. 205
④ リヤシート . . . . . P. 207
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 209
⑥ シートベルト . . . . . P. 30
⑦ コンソールボックス . . . . . P. 488
⑧ ロックレバー . . . . . P. 189
⑨ カップホルダー . . . . . P. 489
⑩ アシストグリップ . . . . . P. 508



① インナーミラー.....P. 214
② サンバイザー ※1.....P. 499
③ バニティミラー.....P. 499
④ インテリアランプ ※2, 3.....P. 484, 485
マップランプ ※3.....P. 484
⑤ ムーンルーフスイッチ★ .....P. 222
⑥ ヘルプネットボタン ※4.....P. 72

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 47）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。
※3：ムーンルーフの有無により形状が異なります。
※4：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために 28
シートベルト.....30
SRS エアバッグ.....34
排気ガスに対する注意 42
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート.....44
1-3. コネクティッドサービス
T-Connect DCM 単体 64
1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 95
ハイブリッドシステムの注意 100
1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 107
オートアラーム.....108

運転する前に

点検整備

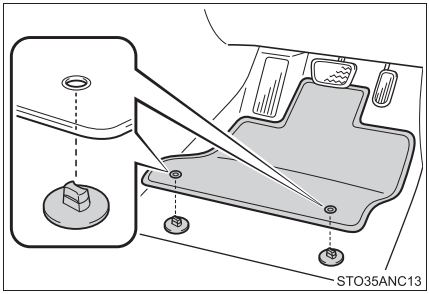
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

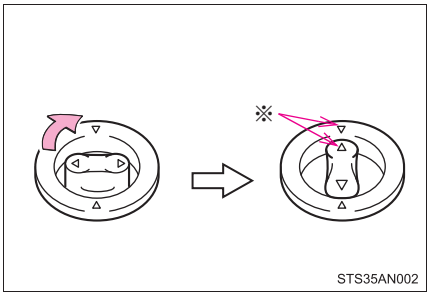
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

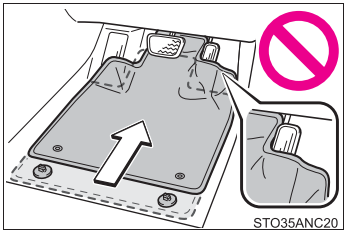
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

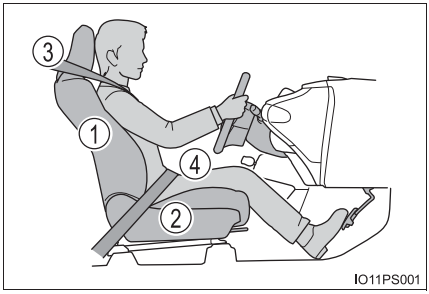
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 205）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 205）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 209）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 214, 216）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

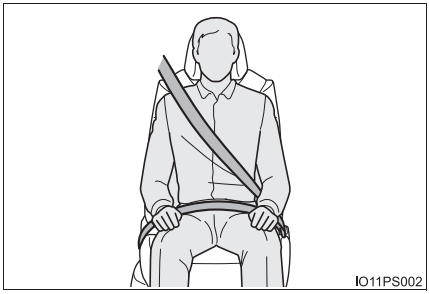
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

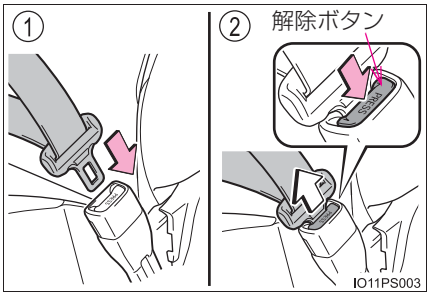
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、プレートに手を添えて解除ボタンを押す

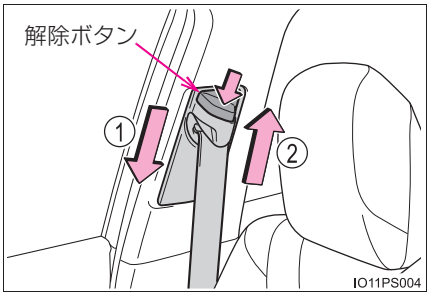


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② 解除ボタンを押しながら、アジャスターを上げる

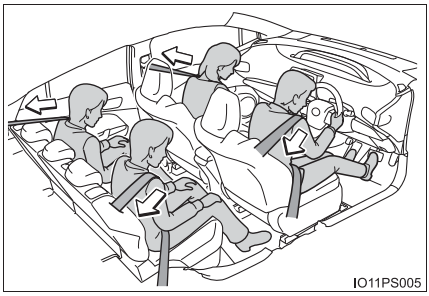
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 30）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

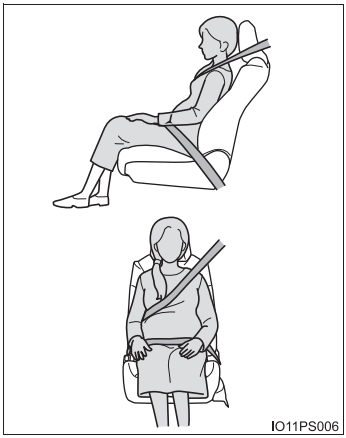
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 30）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 30）

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 59

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

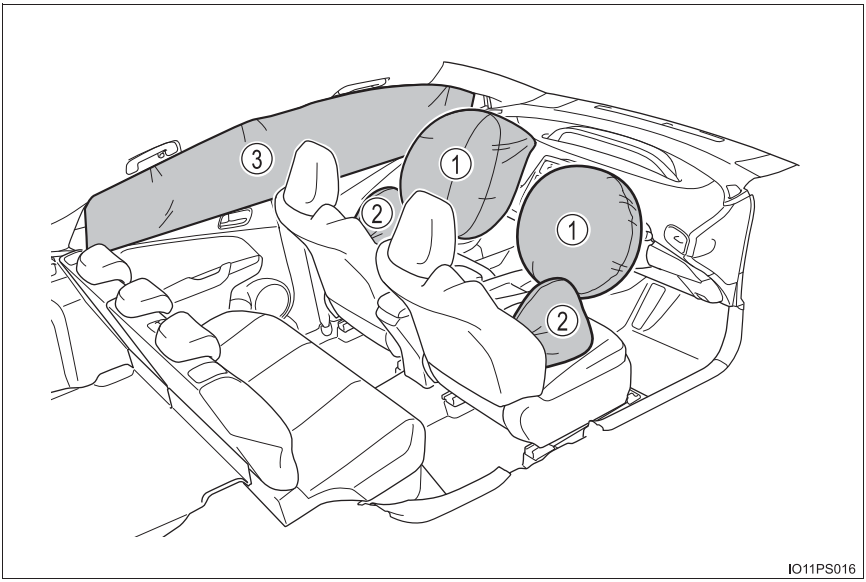
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

② 運転席 SRS サイドエアバッグ★／助手席 SRS サイドエアバッグ★
（運転者と助手席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

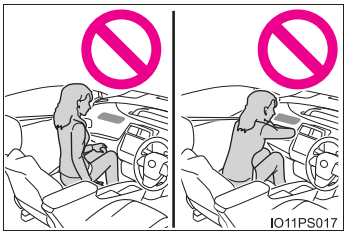
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

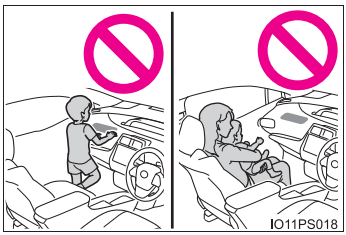
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 44）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



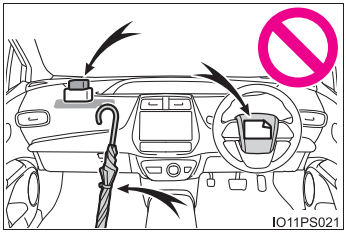
警告

■SRS エアバッグについて

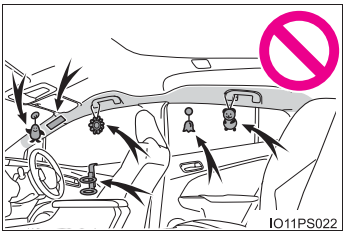
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー･ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール･アシストグリップなどには何も取り付けない



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 101）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 577）

●T-Connect DCM 単体の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。（→ P. 64）

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

●T-Connect DCM パッケージの契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

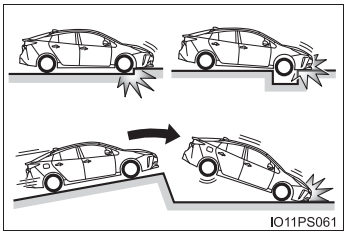
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


IO11PS061

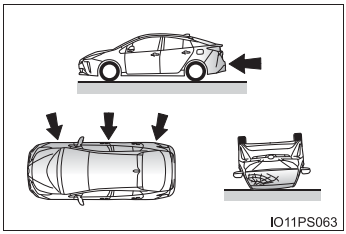
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

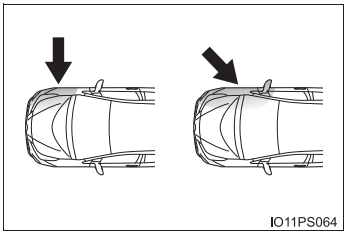

IO11PS063

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

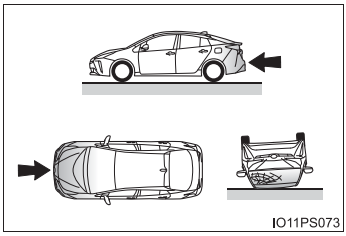


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

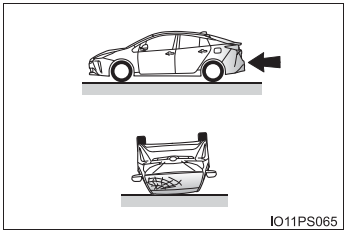
●横転



SRSカーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

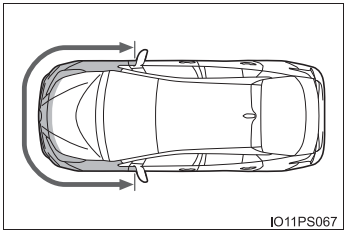


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

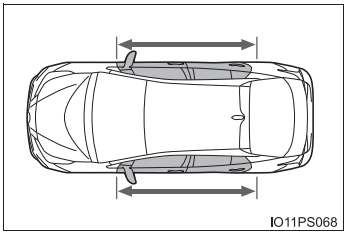
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

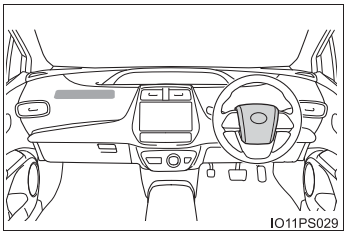
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


IO11PS067

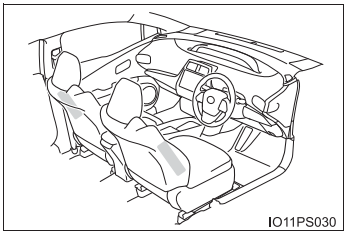
●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき


IO11PS068

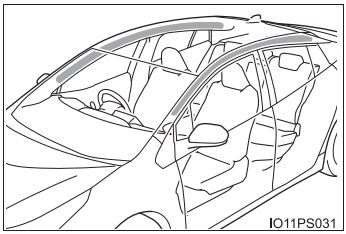
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PS029

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PS030

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


IO11PS031

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 190）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 218）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 44）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 57
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・P. 60
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・P. 62

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 49）

警告

■お子さまを乗せるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 49）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

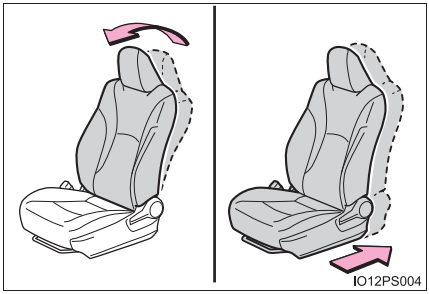
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる



● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

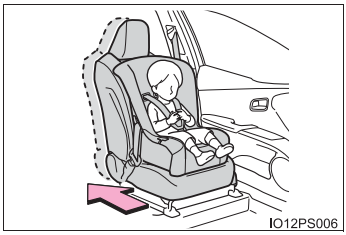
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

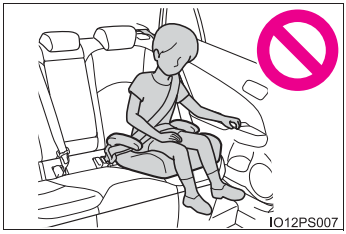
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

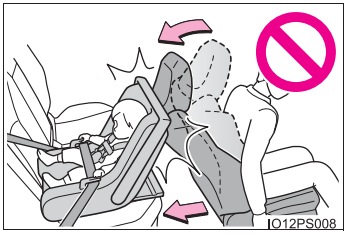


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 51）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 55）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

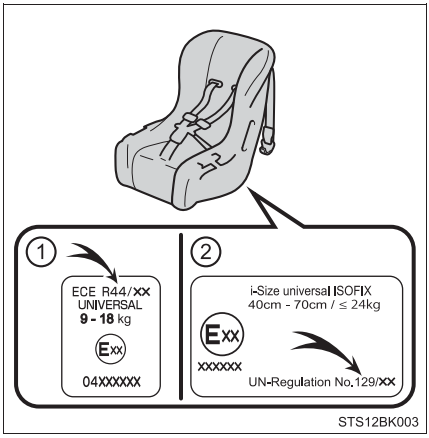
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN（ECE）R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

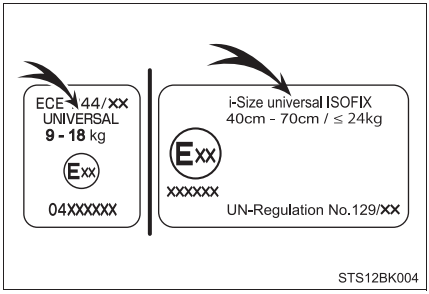
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

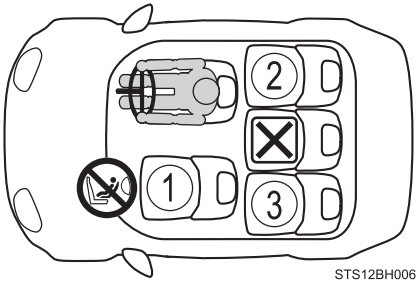
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4 L
2 ※3	U L
3 ※3	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 55）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

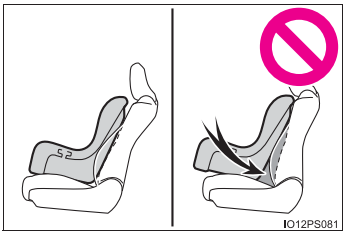
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2, R2X, R3	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

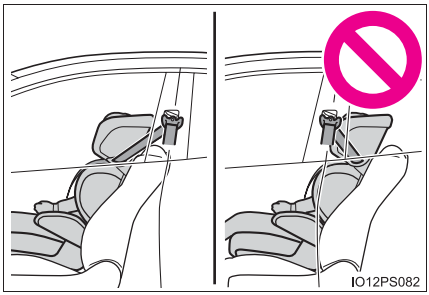
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ、Ⅲ（15 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

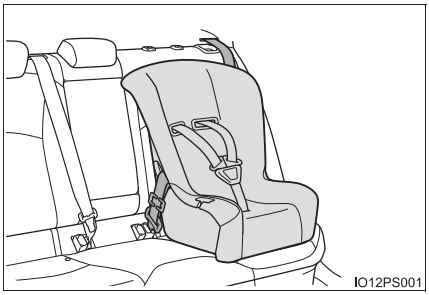
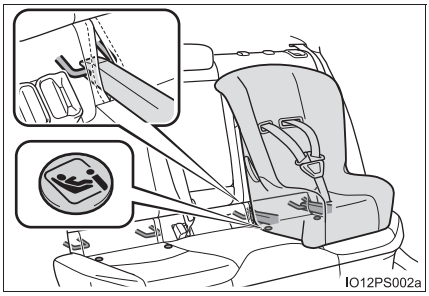
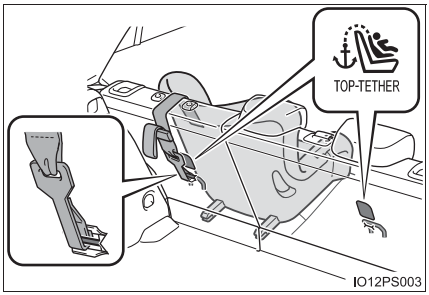
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 58
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P. 60
テザーベルトを固定する		P. 62

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

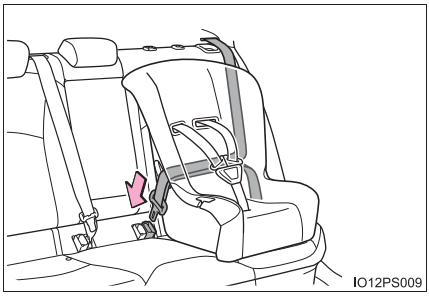
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 46）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 209）

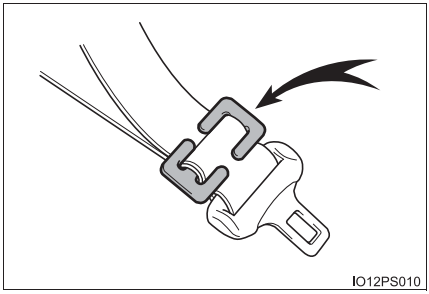
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 59）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

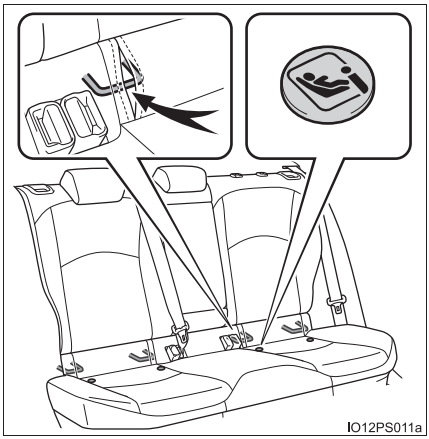
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 209）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 59）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

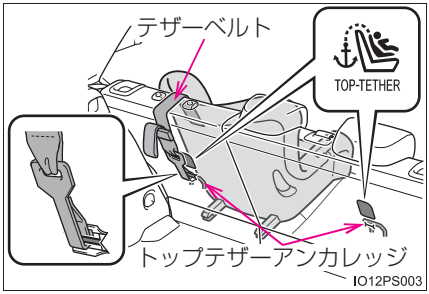
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

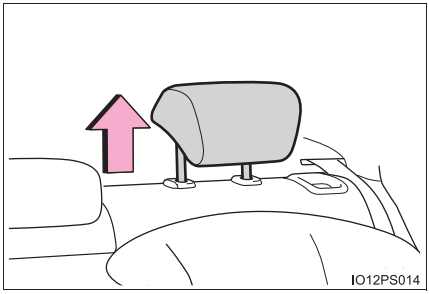


■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

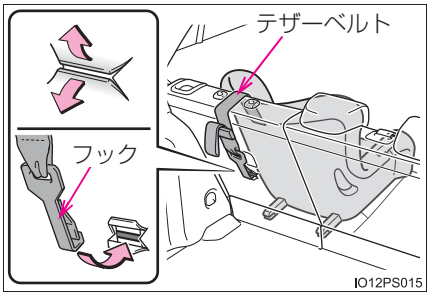
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 210）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 59）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

T-Connect DCM 単体★

ここでは、T-Connect DCM 単体について記載しています。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、システムが異なりますので、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

T-Connect について

車両に搭載された通信機器により、「安心・快適・便利」な車向け情報サービスをご利用いただけます。

■ サービス

サービス	ページ
ヘルプネット	P. 71
マイカー Security	P. 87
リモートメンテナンスサービス	P. 94

T-Connect ナビを装着されているお客様は、上記のサービスの他に T-Connect のさまざまなサービスがご利用いただけます。
販売店オプションのナビゲーションシステムは、製品に添付の取扱説明書を参照してください。

■ T-Connect のご契約

T-Connect DCM 単体	通信機器
	通信モジュール（DCM）
利用料金	初度登録日から 3 年無料 ※1 4 年目以降は有料 ※2
必要な手続き	トヨタ販売店または、Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）もしくは専用のスマホアプリにて T-Connect の利用申し込み

※1 無料期間：初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までとなります。無料期間内にいったん解約した場合でも、初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までは無料となります。

※2 利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

掲載の情報は 2020 年 7 月現在のサービスです。サービス内容は変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

最新のサービスは、T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

■ 通信モジュール（DCM）について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、インストルメントパネルに内蔵されています。

■ 通信モジュール（DCM）の消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。

寿命による交換時期は、ヘルプネットボタンの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。

ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■通信モジュール（DCM）について

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- フリー／オープンソースソフトウェア情報について
  通信モジュール（DCM）はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。
  このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
  http://www.globaldenso.com/en/opensource/dcm/toyota/

■データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

●通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。

●次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。

・トンネルの中にいるとき
・地下駐車場にいるとき
・山奥などの通信圏外にいるとき
・回線が混雑しているなど、発信規制中のとき

●T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

●この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
（その場合には事前にご連絡します）

■データ通信料金とデータ取得の時間について

●通信モジュール（DCM）でのデータ通信に関する通信料金は
T-Connect 利用料金に含まれています。

●データ取得までの時間は、車載機の状態やデータの内容、電波状態によって異なります。

警告

■T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

■ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。

T-Connect の利用開始操作

■ T-Connect の利用開始操作をする前に

T-Connect の利用開始操作をする前に、トヨタ販売店にて、申込みが必要です。

トヨタ販売店にお越しになれないお客様は、ホームページからもお申込みいただけます。

● URL：https://toyota.jp/tconnectservice/

● QR コード：

「QR コード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

＜用意するもの＞

● 車検証

● メールアドレス
（パソコン、スマートフォン、携帯電話のもの）

一部のサービスは専用のスマホアプリを使用します。ご利用の際は、スマホアプリのインストールとログインを実施してください。

■ パソコンまたはスマートフォンをお持ちのお客様へ

T-Connect の利用開始操作を実施する前に T-Connect ユーザーサイト、または専用のスマホアプリでログインすることで、T-Connect の契約状況を確認することができます。

■ T-Connect の利用開始操作をする

1 できるだけ見晴らしの良い場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 手動保守点検を行い、次の点を確認する（→ P. 74）

・ 通信が正常に始まる
・ 通話ができる
・ 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

手動保守点検を実施する前に、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯している場合、前契約者の解約手続きが完了していません。T-Connect サポートセンターにご連絡ください。

3 手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅から点灯に変わり、赤の表示灯が消灯していることを確認する（→ P. 76）

・ ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない、または点灯しているにもかかわらず、赤の表示灯が点滅しているときは、一度パワースイッチを OFF にして、再度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてしばらくお待ちください。赤の表示灯が点滅または点灯した場合は、再度、手動保守点検を実施してください。
・ ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅から点灯に変わるまで、時間がかかります。
・ 手動保守点検が正常に終了しなくても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯することがあります。このとき、緊急通報できないことがあるため、トヨタ販売店にご相談ください。
・ ヘルプネットの利用開始操作 ※ が正常に完了しないと、ヘルプネットサービスの提供ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

● T-Connect の利用開始操作のお問い合せ先

T-Connect サポートセンター

全国共通・フリーダイヤル

0800― 500― 6200

受付時間　9：00 ～ 18：00（年中無休）

■ T-Connect の解約手続きについて

お車を手放すときなど、T-Connect を解約するときは、次のいずれかの手続きを行ってください。

● パソコンサイトから解約する場合
T-Connect の Web サイトに接続して解約手続きをする
https://toyota.jp/tconnectservice/

● サポートセンターから解約する場合
T-Connect サポートセンターに連絡して解約する

T-Connect サポートセンター

全国共通・フリーダイヤル

0800― 500― 6200

受付時間　9：00 ～ 18：00（年中無休）

知識

■ T-Connect の利用契約の継続方法について

●T-Connect は、契約の更新日が近付くと、トヨタコネクティッド（株）より案内を送付します。

●利用契約の継続／停止は T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）から手続きができます。

警告

■T-Connect の利用開始操作について

●次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

・通信が始まらない
・通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う
・通話できない

●T-Connect の利用開始操作は途中で中断せず、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯し、赤の表示灯が点滅または点灯しないことを確認するまで実施してください。赤の表示灯が点滅または点灯した場合は、再度手動保守点検を実施してください。
パワースイッチを OFF にして中断したときは、基本的にヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときはトヨタ販売店にご相談ください。

●ヘルプネットの利用開始操作 ※ 時の手動保守点検が正常に動作しなかったときは、緊急通報できないことがあり危険です。手動保守点検時に関連機器が正常に動作しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。ヘルプネットの利用開始操作中に、手動保守点検が正常に動作しても緑の表示灯が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてしばらくお待ちください。それでも緑の表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話し、車内からの通報を補助するシステムです。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

■ サービス開始と解約について

ヘルプネットは、ヘルプネットボタンの操作によるヘルプネットの利用開始操作※が完了すると利用できます。（→ P. 68）

ヘルプネットボタンなどが正常に動作するか確認してください。この確認を行わないと、ヘルプネットサービスの利用ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

■ 緊急通報について

緊急通報は、利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

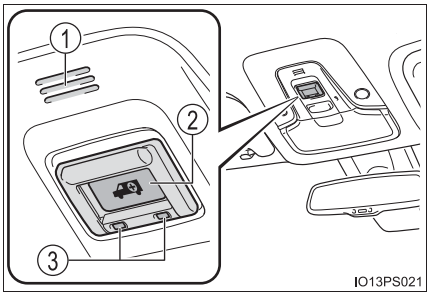
▶ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

▶ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

◆ 各部の名称とはたらき



① マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

② ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押します。

③ 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。（→ P. 76）

◆ 緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

お客様からの応答が無い場合には意識不明と判断し、オペレーターがお客様に代わってすみやかに救急車の手配を要請します。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断を行う

6 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

7 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

8 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

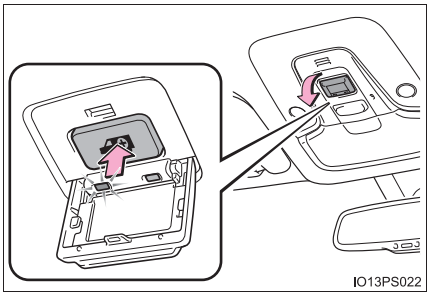
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットボタンのカバーを開き、ヘルプネットボタンを押す



3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

7 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断をする。

8 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

9 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

10 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

◆ ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

● 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

● ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

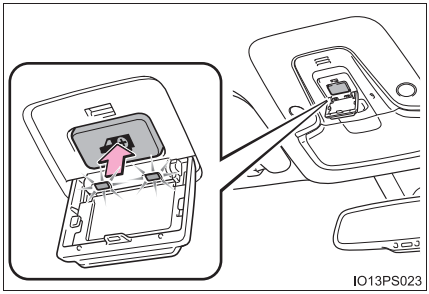
ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 ヘルプネットボタンのカバーを開く

3 パワースイッチを OFF にする

4 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする

5 ヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯がともに点灯したら、すぐにヘルプネットボタンを押し、音声案内が流れるまで押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、以下の確認が実施される

・ 車両の現在地
・ 手動保守点検をしていること
・ ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

10 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯は点滅を終了します。

◆ ヘルプネットボタンの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき（KDDI サービスエリア内）	緊急通報を利用できます。
		自動保守点検中のとき	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき（KDDI サービスエリア外）	緊急通報できません。KDDI サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき（KDDI サービスエリア内）	KDDI サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作中のとき	T-Connect の利用開始操作が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報が正常に行えなかったとき	約10秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。(→ P. 73)
		何度試行しても自動保守点検が正常に行えなかったとき (KDDI サービスエリア外)	KDDI サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。(→ P. 74) それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検が正常に行えなかったとき	KDDI サービスエリア内に移動してから、再試行してください。(→ P. 74)
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを ON モードにしたとき(約 5 秒間)	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
点灯	点滅	e ケア・マイカーカスタマイズの契約処理が正常に行えなかったとき	パワースイッチを OFF にした後、再度アクセサリーモードまたは ON モードにしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	ヘルプネットの利用開始操作※を行ってください。 (→ P. 68)
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作をしていないとき	T-Connect の利用開始操作を行ってください。 (→ P. 68)

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

◆ 故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症　状	考えられること	処　置
ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない	T-Connect の利用開始操作を完了していない	T-Connect の利用開始操作を行ってください。(→ P. 68)
緊急通報できない	パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにした直後の点検中である	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→ P. 73)
	電波状態が悪い	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→ P. 74)
	KDDI のサービスエリア外で使用している	
	携帯電話回線が混雑している	しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→ P. 74)
パワースイッチを OFF にしても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し続けている	緊急通報中である	「緊急通報を、終了しました」という音声案内が流れてから約 30 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットボタンの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 利用契約が完了していない	T-Connect の利用開始操作を行ってください。(→ P. 68)

知識

■ヘルプネットについて

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが開いたときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。

●ヘルプネットボタンの表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報について

●緊急通報中に音声案内が流れている間は、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。

●誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。なお、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

■緊急通報できない場合について

以下のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

●T-Connect 利用契約の不成立または消滅

・未登録の場合
・利用契約を解除した場合

●ヘルプネット利用登録の不成立

・利用開始操作※を完了していない場合
・登録情報が更新されていない場合

※利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●関連機器の異常による通信不能

・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
・補機バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
・車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

●緊急通報センターシステムの位置評定エラー

・GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われない、または誤差が大きいときなど
（T-Connect DCM 単体でヘルプネットをご利用の場合は、TEL メインアンテナで GPS 測位した情報から位置情報を取得しています。販売店オプションのナビゲーションシステム接続時は、ナビゲーションシステムが GPS アンテナで測位した情報から位置情報を取得しています。）

●ヘルプネットセンター／トヨタスマートセンターの異常による通信不能

・センターシステムの故障など
・センターの火災などによる、センターシステムの損傷

●ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能

・本サービスに使用する KDDI サービスエリア外に、登録車両が位置するとき
・本サービスに使用する KDDI サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
・本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

●緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止

・センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき
・大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

●その他の要因

・手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

警告

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●安全運転を心がけてください。本システムは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●ヘルプネットの利用開始操作※は契約者ご本人が実施し、ヘルプネットボタンの表示灯が緑点灯／赤消灯（KDDI サービスエリア内）していることを必ず確認してください。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●KDDI サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

警告

- 次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
  - ・KDDI サービスエリア外で使用している
  - ・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
  - ・T-Connect が未契約、または契約期限が切れている
  - ・ヘルプネットの利用開始操作 ※ を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

  ※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。
- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■緊急通報について

●呼び返し待機中は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

●呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

●緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・KDDI サービスエリア外では緊急通報できません。
・KDDI サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

■手動保守点検について

●手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度、手動保守点検をやり直してください。

●手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。途中で中断したときは、手動保守点検が失敗となるためヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときは緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ヘルプネットボタンの表示灯について

●表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける
・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く
・KDDI サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く
・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、利用契約の解除を行っていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報できないときは

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

注意

■ヘルプネットについて

ヘルプネットボタンなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
ヘルプネットボタンなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットボタンなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●本機内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとすると、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにトヨタ販売店にご相談ください。

●関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。

●緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。
動作温度範囲：－ 20 ℃～ 60 ℃

●実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。

●呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

■自動保守点検について

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF からアクセサリーモードまたは ON モードにしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■手動保守点検について

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやり直してください。KDDI サービスエリア内でやり直しても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

マイカー Security

マイカーSecurity は、ドアの不正な解錠などオートアラームの作動を検知した場合、異常をメールや電話でお知らせします。また、車両盗難時はお客様の要請により、車両の位置を追跡し、警備員を現場に派遣します。

◆ マイカー Security の内容

- アラーム通知（→ P. 89）

  お車のオートアラーム作動を検知した場合、お客様へメールと電話でお知らせします。

- エンジン始動通知（→ P. 89）

  ハイブリッドシステムの始動を検知し、メールでお知らせします。

- うっかり通知（→ P. 90）

  ドアロックのし忘れやドアガラスの閉め忘れ、非常点滅灯の消し忘れなどを、メールでお知らせします。

- リモート確認（→ P. 91）

  ドア・バックドア・ボンネット・ドアガラスの開閉やロックの状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンで確認できます。

- 車両の位置追跡（→ P. 91）

  お客様の要請により、盗難車の位置を追跡します。

- 警備員の派遣（→ P. 92）

  車両盗難や車上荒らしの際、お客様の要請により、警備員を派遣します。

詳しくは、T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご覧ください。

◆ 設定内容を確認・変更するには

アラーム通知、エンジン始動通知、うっかり通知の設定の確認・変更はT-Connect の Web サイト(https://toyota.jp/tconnectservice/)、または専用のスマホアプリから行えます。

それぞれの設定画面から実施してください。

サポートアドレスにメールアドレスの登録がない場合は、通知されません。
T-Connect のWebサイト(https://toyota.jp/tconnectservice/)、または専用のスマホアプリからサポートアドレスを登録してください。

サービス名	通知方法	設定		
アラーム通知	電話	設定中※	解除中	—
	E メール	設定中※	解除中	—
エンジン始動通知	E メール	設定中	解除中※	—
うっかり通知	E メール	設定中※	解除中	一時停止中

設定中：通知する

解除中：通知しない

一時停止中：通知を 2 時間停止します。一時停止後、2 時間経過すると自動的に設定中に切り替わります。

※ 納車時の設定

◆ アラーム通知

ドアの不正な解錠、車内侵入などによりオートアラーム作動を検知した場合、サポートアドレスに登録されているメールアドレス・電話番号に通知します。

アラーム通知の設定・解除を行うことができます。（→ P. 88）

- 車外に出たあと、ドア・バックドア・ボンネットを閉め、すべてのドアをロックしたあと、30秒以上経過すると自動的にオートアラームが設定されます。
- アラーム通知の連絡を受けたとき、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→ P. 91）／警備員の派遣（→ P. 92）サービスをご利用ください。
- 補機バッテリーがあがった場合、アラーム通知は行われません。
- 車両の室内温度が非常に高いとき、アラーム通知の送信が行われないことがあります。
- 通信環境が整わない状況等によりアラーム通知の送信が行われない場合、送信が完了するまで継続されます。
- アラーム通知が未送信状態で、アラームが複数回作動した場合は、最新のアラームを通知します。
- ヘルプネット通報中は、通報が終わるまで、アラーム通知は行われません。

◆ エンジン始動通知

ハイブリッドシステムの始動を検知し、サポートアドレスに登録してあるメールアドレスに通知します。

お車から離れるとき、スマートフォンなどから設定しておくと、第三者によるハイブリッドシステム始動を確認できます。

エンジン始動通知の設定・解除を行うことができます。（→ P. 88）

- エンジン始動通知の連絡を受けたとき、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→ P. 91）／警備員の派遣（→ P. 92）サービスをご利用ください。
- オプション設定で、エンジン始動通知の連絡を受けたあと、パワースイッチが OFF になったことを検知し、通知することができます。

◆ うっかり通知

ドアロック忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、サポートアドレスに登録してあるメールアドレスに通知します。

うっかり通知の設定・解除を行うことができます。（→P. 87）

- パワースイッチを OFF にして数分後、次の条件をすべて満たすと、うっかり通知メールが配信されます。
  - ・ドア・バックドア・ボンネットがすべて閉まっている
  - ・電子キーが車内未検知
  - ・ドアロック忘れやドアガラスが閉まっていない、非常点滅灯が点滅しているなど
- お車を駐車した場所やお客様の携帯電話／スマートフォンが電波状態の悪い所にあるときは、配信されなかったり、配信が遅れたりすることがあります。
- 補機バッテリー脱着後は、一度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするまで、うっかり通知メールが配信されません。
- 電子キーが車外にあっても、次のような場合は車内と判断されることがあります。その際には、うっかり通知メールが配信されない場合があります。
  - ・ドアガラスに近い位置、またはルーフ上に電子キーがあるとき
  - ・ドアガラスから車内にある電子キーを車外に出したとき
  - ・スマートエントリー＆スタートシステムを非作動に設定しているとき
- 電子キーが車内にあっても、次のような場合は車外と判断されることがあります。その際には、うっかり通知メールが配信される場合があります。
  - ・窓から電子キーを車内に入れたとき
  - ・電子キーの置き場所（インストルメントパネル上など）、状況（電池切れ、金属製ケースなどの中）、また周囲の電波環境によってスマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれがあるとき（→P. 201）

◆ リモート確認

ドア・バックドア・ボンネット・ドアガラスの開閉やロックの状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンで確認できます。

● スマートフォンでご覧いただける、リモート確認画面での情報は、センターの最新値で、アクセス時点での状態ではありません。お車が電波状態の悪い所に駐車してあるときなどは情報が更新できず、前回の情報が表示されることがあります。

各車両の状態はパワースイッチ OFF 後、ドアの開閉などが一定時間なかったときに、また、お車の状態の項目は状態に変化が発生するごとに更新されます。

● 補機バッテリー脱着後は、一度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするまで、リモート確認画面での情報は更新されません。

● スマートエントリー＆スタートシステムを非作動に設定している場合、電子キーが車外にあっても、車内にあると判断されることがあり、リモート確認時にも専用のスマホアプリには「スマートキー車内」と表示されます。

◆ 車両の位置追跡

お客様の要請により、オペレーターが盗難車両の位置を追跡します。

ご利用の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

● 車両の位置追跡を依頼するときには、警察への被害届けが必要となります。

◆ 警備員の派遣

お車が盗難にあったり、オートアラーム作動を検知した場合にお客様の要請により、警備員を現場に派遣します。

ご利用の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

- 警備員が出動してから 1 時間以内は無料です。1 時間をこえる場合は、オペレーターから延長するかどうかの確認を行います。
  延長した場合の利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。
- 警備員は盗難車両の確保はいたしません。追跡調査のみ行います。
- 警備員の派遣を依頼するときには、警察への被害届けが必要となります。

知識

■マイカー Security について

●マイカーSecurity では、車両の異常を検知した場合、サポートアドレスに登録されている電話番号やメールアドレスに通知します。サポートアドレスに登録されていない場合、通知できませんので、必ずご登録ください。また、連絡先に変更があった場合は T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）、または専用のスマホアプリから変更手続きを行ってください。

●携帯電話／スマートフォンで迷惑メールの拒否設定などをされている場合は、下記の発信元メールを受信できるようにご登録ください。
［登録する発信元メールアドレス］
t-connect.info@mail.tconnect.jp

●メールによる通知には遅延が発生することがありますので、あらかじめご了承ください。

●アラーム通知される番号は発信専用番号となっています。ご連絡の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

また、指定着信許可・拒否などの設定をされている場合は、以下の番号を着信できるようご登録ください。
［通知番号］0570-024-111

●マイカーSecurity では車両の位置情報を使用します。本機が起動していない状態で車両が移動された場合、または電波の届かない場所に車両が移動された場合は、位置情報の変化を確認できません。

●T-Connect 利用契約を解除した場合、メールや電話による通知は送信されません。

リモートメンテナンスサービス

お車の状態に関する情報をトヨタスマートセンターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、T-Connect ユーザーサイトまたは専用のスマホアプリにメールでご連絡します。

■ ウォーニング通知

お車のハイブリッドシステム・ブレーキ関係・オイルなどの項目について、メーター内の警告灯が点灯しトヨタスマートセンターが異常を検知していると、専用のスマホアプリでウォーニング内容を確認できます。

ウォーニング通知が送信されない警告灯もあります。

■ e ケア

走行アドバイス ※

ウォーニング点灯時、e ケアコールセンターへの接続またはトヨタ販売店からお客様へご連絡し、お車から発信される情報をもとに、最適なアドバイスを行います。

※ サービスのご利用にはリモートメンテナンス店として、トヨタ販売店の登録が必要です。登録したリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

ヘルスチェックレポート

お車の補機バッテリーの状態やエンジンオイルなどのメンテナンスについて、専用のスマホアプリにて確認することができます。

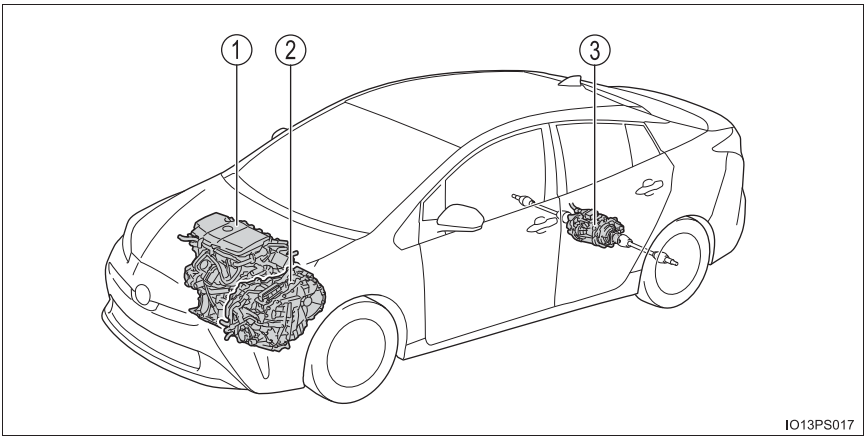
■ マイカーカスタマイズ

車両カスタマイズ項目の一部を遠隔で設定変更するサービスです。

専用のスマホアプリのご利用、または販売店からの遠隔操作により、設定変更ができます。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② フロント電気モーター

③ リヤ電気モーター（4WD 車）

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P. 97）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/hをこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

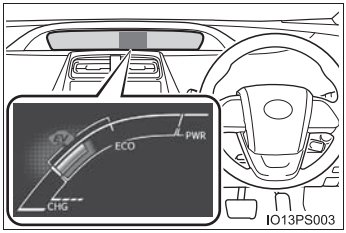
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

ハイブリッドシステムの作動状況に応じて、インジケーターの表示が変化します。
(→ P. 140)



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 642

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が２～３日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションをＰにしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 101）から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

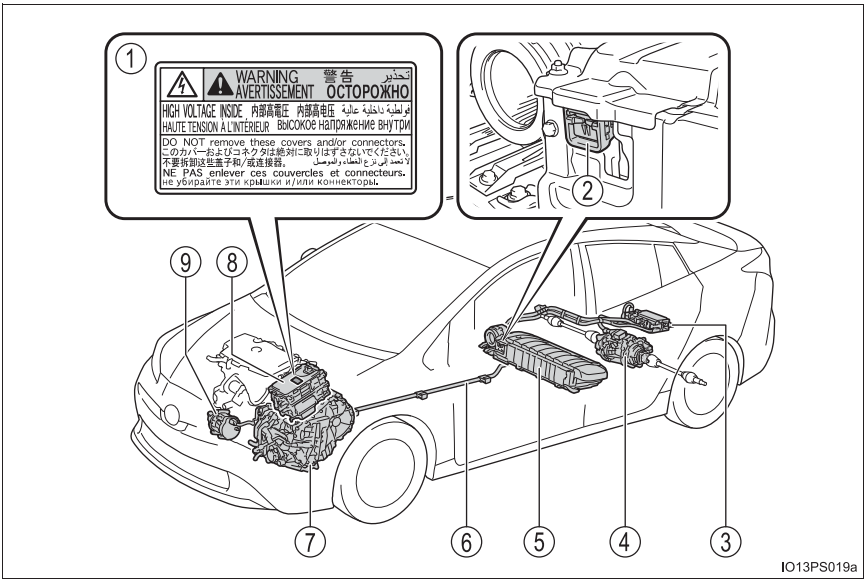
車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

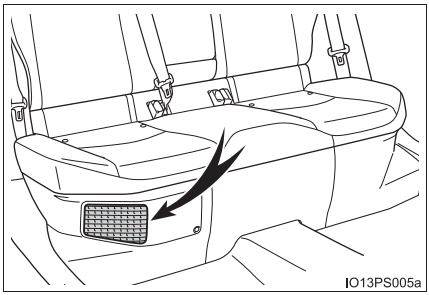


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ リヤインバーター（4WD 車）
④ リヤ電気モーター（4WD 車）
⑤ 駆動用電池
⑥ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑦ フロント電気モーター
⑧ パワーコントロールユニット
⑨ エアコンコンプレッサー

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



緊急停止システム

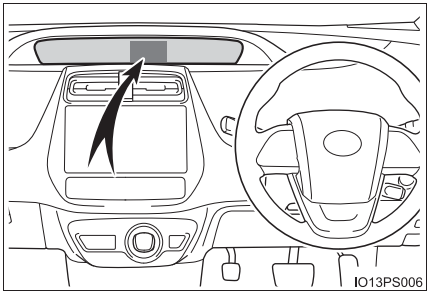
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 592）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 7.5L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

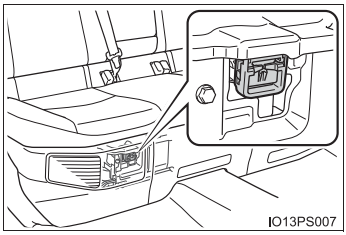
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF車）または4輪（4WD車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P. 582）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

▶4WD車

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

▶FF車

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。

●吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P. 552 を参照してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。P. 552 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

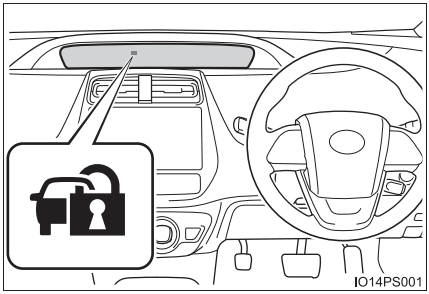
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ T-Connect DCM 単体をご利用のお客様、または T-Connect DCM パッケージをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。

▶ T-Connect DCM 単体をご利用のお客様

詳しくは、P. 64 を参照してください。

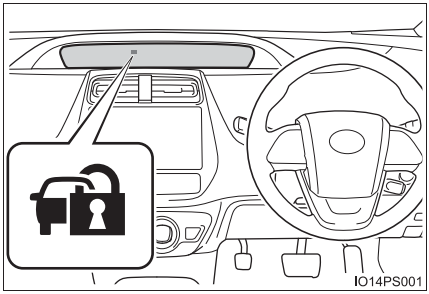
▶ T-Connect DCM パッケージをご利用のお客様

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

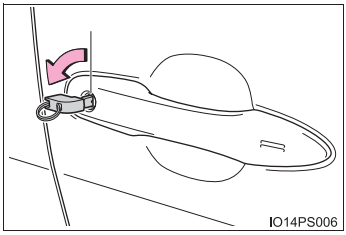
●ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

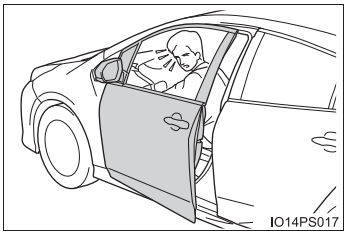
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

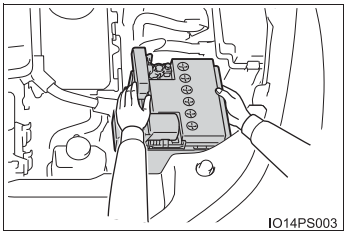
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 640）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 661）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

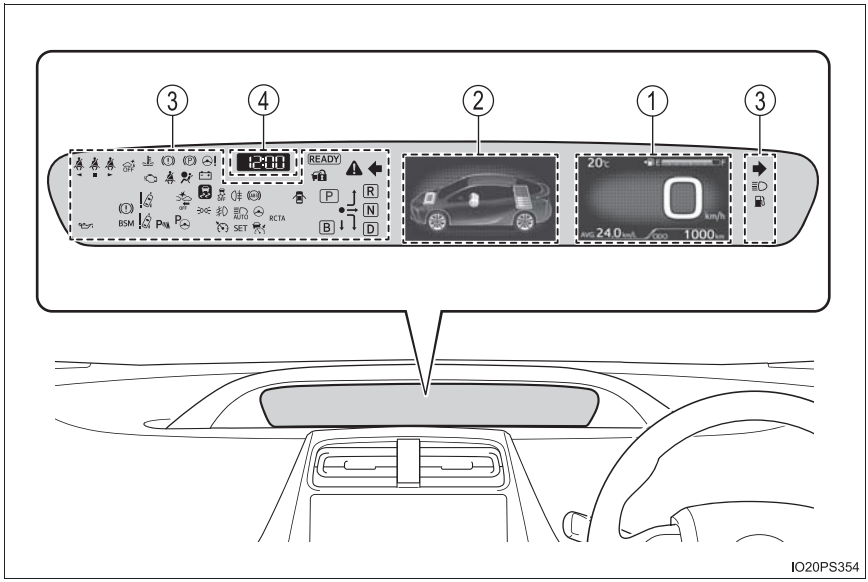
2

2. メーターの見方
コンビネーションメーター ...112
警告灯／表示灯.....122
メインディスプレイ.....129
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....135
カラーヘッドアップ
ディスプレイ.....166
エネルギーモニター／
燃費画面／ ESPO 画面
（ナビゲーションシステム
装着車）.....173

コンビネーションメーター

2 つの液晶ディスプレイを備えた大型メーターにより、車両の状態・走行状況・燃費などに関する、さまざまな情報を表示します。

コンビネーションメーターの構成



① メインディスプレイ（→ P. 129）

車速や燃料残量など、走行に関する基本的な情報が表示されます。

② マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 135）

ハイブリッドシステムの作動状況や燃費に関する履歴など、車を便利に使用するための各種情報が表示されます。また、設定画面に切りかえることで、走行支援システムの作動内容やメーターの表示設定などを変更できます。

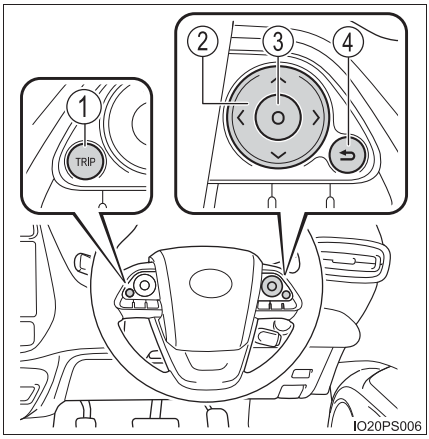
③ 警告灯・表示灯（→ P. 122）

車両に関する問題の発生や、車両の各システムの作動状態などを示す、警告灯・表示灯が点灯・点滅します。

④ 時計（→ P. 117）

メーター表示に関する操作を行うときは

ハンドルに装着されているメーター操作スイッチを使って、画面表示の切りかえや、画面に表示された機能に関する設定操作などを行います。



① 押すたび、オドメーター・トリップメーターなどの走行距離表示および、それぞれの走行距離に関する燃費情報が切りかわります。（→ P. 131）

② ∧・∨・〈・〉の位置を押して、画面のスクロール ※ や表示内容の切りかえ ※、カーソルの移動などの操作を行います。

③ 選択されている項目の決定やON／OFFの切りかえなどの操作に使用します。

④ 押すと、ひとつ前の画面にもどります。

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマーク（〈・〉など）が表示されます。

メーター照度の調整

メーター照度を調整するときは、マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）で操作を行います。

車幅灯の点灯状態、および周囲の明るさにより、選択できる照度は異なります。（→ P. 119）

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、 を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、 を選択する

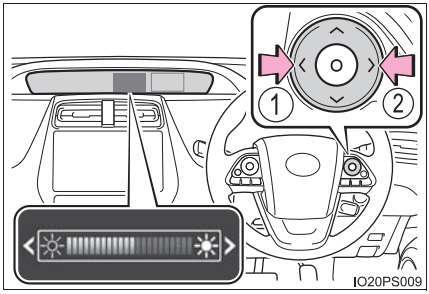
3 ○ を押して、カーソルを表示させる

4 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、メーター照度を調整する

① 暗くなる

② 明るくなる

調整が完了したら、 を押して前の画面にもどします。

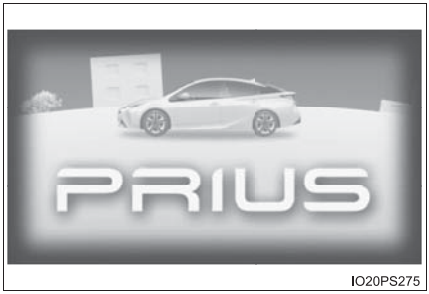


ディスプレイ上に自動表示される情報

パワースイッチの操作や車両の状況などに応じて、いくつかの情報がディスプレイ上に自動表示されます。

■ ハイブリッドシステム始動時

ハイブリッドシステムを始動すると、2 つのディスプレイを使ったオープニングアニメーションが表示されます。



IO20PS275

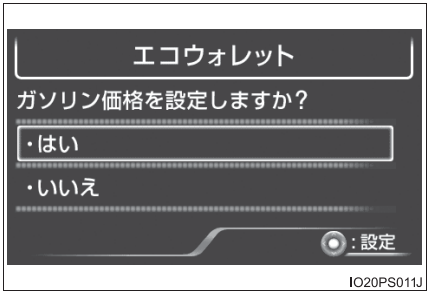
アニメーションの終了後、通常の画面表示にかわります。

オープニングアニメーションの実施中に次の操作を行ったときは、アニメーション表示が中断されます。

・シフトポジションを P 以外に切りかえたとき
・シンプルインテリジェントパーキングアシスト★を ON にしたとき

■ 燃料を補給したあと

燃料の補給後にパワースイッチを ON モードにすると、ガソリン価格の設定確認画面 ※ がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



IO20PS011J

エコウォレット機能（→ P. 147）を正しく作動させるため、給油後は必ずガソリン価格を設定してください。

「メーターカスタマイズ」設定（→ P. 162）で、エコウォレットに関する設定を変更できます。

※ 給油量が少なすぎると、この画面が表示されない場合があります。（→ P. 129）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 走行支援システムが作動しているとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 311）やLTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 294）などの使用時は、マルチインフォメーションディスプレイに各システムに関する情報が、状況に応じて自動表示されます。

表示される情報や表示内容などの詳細については、各システムの説明ページを参照してください。

■ 車両についてお知らせしたいことがあるとき

誤ったシフトポジションを選択したり、車両のシステムに問題が発生したりした際には、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（または画像）が表示されます。

警告メッセージが表示されたときは、画面に表示された指示に従って、それぞれ対処してください。（→ P. 596）

■ ハイブリッドシステム停止時

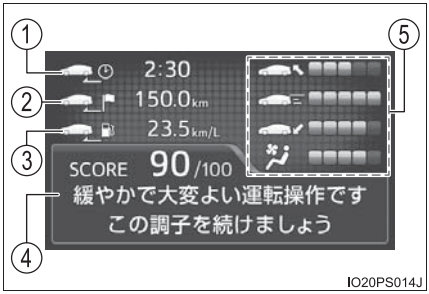
ハイブリッドシステムを始動してから停止するまでのあいだの、走行時間・走行距離・平均燃費、およびエコジャッジ（→ P. 142, 156）による採点結果が、マルチインフォメーションディスプレイに約 30 秒間、表示されます。

① ハイブリッドシステム始動後の走行時間

② ハイブリッドシステム始動後の走行距離

③ ハイブリッドシステム始動後の平均燃費

④ エコジャッジの採点結果とアドバイス表示



⑤ エコジャッジ採点項目のスコア表示（→ P. 142, 156）

時計の調整

時刻を合わせるときは、マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 135）で操作を行います。

■ 時刻を調整するときは

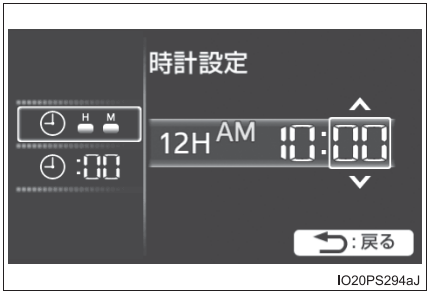
1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、 を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、 H M を選択する

3 を押して、カーソルを表示させる

4 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して調整する項目にカーソルを合わせ、∧ ／ ∨ を押して設定を変更する

12 時間表示にするときは「12H」を、24 時間表示にするときは「24H」を表示させます。



IO20PS294aJ

「分」を調整すると、自動的に 00 秒から作動開始します。

設定が完了したら、 を押して前の画面にもどします。

■ 正時合わせするときは

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの〈／〉を押して、を選択する

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、:00を選択する

3 ◎を押す

「分」の表示が「00」にかわります。

変更する前の分表示が 1 ～ 29 のときは切り捨て、30 ～ 59 のときは時表示がくり上げされます。

（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
　　1：30 ～ 1：59 → 2：00

知識

■メーターの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度調整について（→ P. 114）

●車幅灯の点灯状態、および周囲の明るさにより、選択できる照度が次のように異なります。

	車幅灯の消灯中	車幅灯の点灯中
周囲が明るいとき	2 段階 ※	2 段階 ※
周囲が暗いとき		22 段階

※ 調整画面には 22 段階の目盛りが表示されますが、1 段階目（最も暗い状態）以外の段階を選択しても、最も明るい状態のままメーター照度は変化しません。ただし、1 または 22 以外の段階に調整した場合は、周囲が暗い状態で車幅灯を点灯したとき、調整されている値でメーター照明が点灯します。

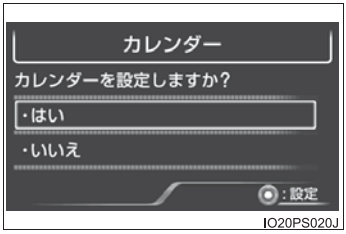
●周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度を最小または最大（メーター照度調整値の 1 または 22）に設定しているときは、車幅灯を点灯しても減光されません。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

時計の設定がリセットされます。

■カレンダー設定について

補機バッテリーの交換や補機バッテリーあがりなどによってカレンダーの記録が中断された場合は、それぞれの処置後にパワースイッチを ON モードにしたとき、カレンダーの設定確認画面がマルチインフォメーションディスプレイに自動表示されます。



IO20PS020J

●日付の情報が設定されていないと、燃費の記録が正しく行われません。カレンダー設定の確認画面が表示されたときは、必ず設定を行ってください。（→ P. 159）

●カレンダー設定を実施するまでは、パワースイッチをONモードにするたびに確認画面が表示されます。

●設定済みのカレンダー情報は、「メーターカスタマイズ」設定で変更することができます。（→ P. 162）

■ナビゲーションシステムのメニュー画面を操作したとき（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムでメニュー画面を操作すると、マルチインフォメーションディスプレイ上にメニュー画面のアイコンが割り込み表示されます。※

IO20PS276a

※「メーターカスタマイズ」設定で、ナビゲーションシステムの割り込み表示を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

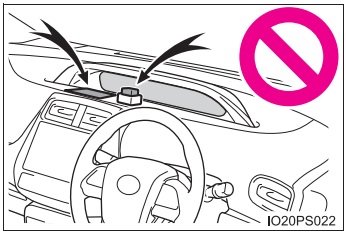
■割り込み表示について

ドライブモードセレクトスイッチやエアコンなどの一部の機能は、操作に連動して、マルチインフォメーションディスプレイ上に割り込み画面を表示します。これらの機能の割り込み表示が不要な場合は、「メーターカスタマイズ」設定で OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

警告

■事故を防ぐために

メーター表示部の前にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。置いたものがメーター表示のさまたげとなったり、表示部に映り込んでメーター表示が見えなくなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。


IO20PS022

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

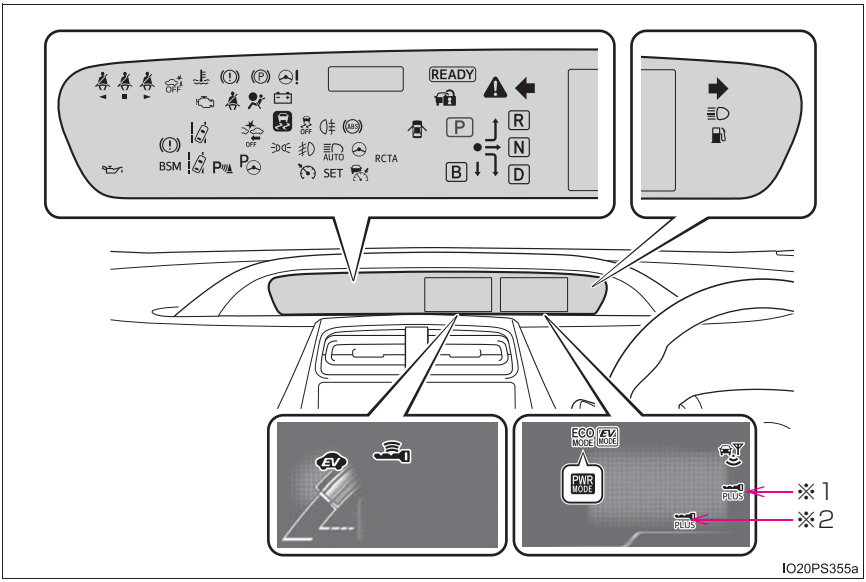
注意

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



※1 ITS Connect 装着車

※2 ITS Connect 非装着車

警告灯

システム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※		ブレーキ警告灯（赤色）	P. 590
※		電子制御ブレーキ警告灯（黄色）	P. 590
※		充電警告灯	P. 590
※		油圧警告灯	P. 590
※		エンジン警告灯	P. 590
※		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 591
※		ABS ＆ブレーキアシスト警告灯	P. 591
※		パワーステアリング警告灯 （赤色／黄色）	P. 591
※	OFF	PCS 警告灯 （点滅または点灯）	P. 591
		LTA 表示灯（橙色）	P. 591
※		スリップ表示灯	P. 591
※		高水温警告灯	P. 592
※	OFF	PKSB OFF 表示灯★ （点滅）	P. 592

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		半ドア警告灯	P. 592
		燃料残量警告灯	P. 592
		シートベルト非着用警告灯	P. 592
		リヤ席シートベルト非着用警告灯	P. 592
※		マスターウォーニング	P. 592

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯			参照先
		方向指示表示灯	P. 254
		尾灯表示灯	P. 256
		パーキングブレーキ表示灯	P. 255
		ハイビーム表示灯	P. 257
		フロントフォグランプ表示灯★	P. 264, 265
		リヤフォグランプ表示灯★	P. 265
		セキュリティ表示灯	P. 107, 108
	READY	READY インジケーター	P. 240
	P R N D B	シフトポジション表示灯	P. 248
※1		スリップ表示灯（点滅）	P. 415
※1, 2	OFF	VSC OFF 表示灯	P. 416
		クルーズコントロール表示灯	P. 319
		レーダークルーズコントロール表示灯	P. 311

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
	SET	クルーズコントロールセット表示灯	P. 311
※1, 2	OFF	PCS 警告灯	P. 287
※3		LTA 表示灯	P. 300
		ステアリング制御表示灯	P. 300
	AUTO	オートマチックハイビーム表示灯	P. 260
	RCTA	RCTA 表示灯★	P. 342
	BSM	BSM 表示灯★	P. 342
	P	クリアランスソナー表示灯	P. 354
※1, 2	OFF	PKSB OFF 表示灯★	P. 366
※1	P	シンプルインテリジェントパーキングアシスト表示灯★	P. 385

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ディスプレイ上に表示される表示灯・シンボル表示

■ メインディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイ

表示灯			参照先
	EV MODE	EV ドライブモード表示灯	P. 246
※1	ECO MODE	エコドライブモード表示灯	P. 340
※1	PWR MODE	パワーモード表示灯	P. 340
	EV	EV インジケーター	P. 141
※2		ITS Connect 通信接続状態表示★	P. 332
	PLUS	プラスサポート表示灯★	P. 376

※1 現在の走行モードに従って、表示される表示灯がかわります。
※2 現在の通信状況により、アイコンの意匠がかわります。

■ マルチインフォメーションディスプレイ（シンボル表示※）

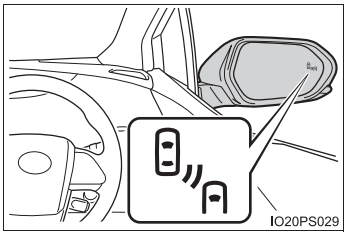
シンボル表示			参照先
		スマートエントリー＆スタートシステム	P. 240
		ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／パーキングサポートブレーキ★／急アクセル時加速抑制★	P. 593
		LTA（レーントレーシングアシスト）	P. 304
			P. 305

※ メッセージに併せて表示されます。また、ここに掲載しているシンボル表示は一例であり、マルチインフォメーションディスプレイでお知らせする内容により、異なるシンボルが表示される場合もあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ブラインドスポットモニター（→ P. 342）のインジケーターについて★



●ドアミラーにもインジケーターが表示されます。

●作動確認のため、次の条件のときインジケーターが点灯します。

・マルチインフォメーションディスプレイの画面で BSM の機能を ON に設定している状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき

・パワースイッチが ON モードの状態で、BSM の機能をマルチインフォメーションディスプレイの画面で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために

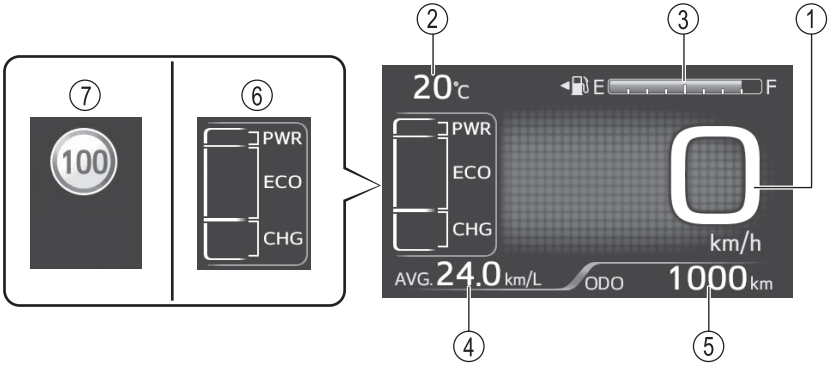
高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 646）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メインディスプレイ

車速や燃料残量などの基本的な情報が表示されます。また、お好みに応じて、画面上に表示される情報を切りかえることができます。

メインディスプレイの表示内容



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 外気温

外気温を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

外気温が約 3 ℃以下になると温度表示が約 10 秒間点滅したあと、通常の表示にもどります。

③ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

④ 平均燃費表示

走行距離表示の内容に連動した平均燃費を表示することができます。（→ P. 131）

⑤ 走行距離表示（オドメーター／トリップメーター／航続可能距離）

車両が走行した距離、または現在の燃料残量から推定される航続可能距離を表示することができます。（→ P. 131）

⑥ サブ画面（RSA［ロードサインアシスト］が OFF のとき）

ハイブリッドシステムインジケーターや瞬間燃費などの情報を表示することができます。（→ P. 132）

⑦ サブ画面（RSA［ロードサインアシスト］が ON のとき）

RSA（ロードサインアシスト）※ の情報を表示します。（→ P. 306）

※ マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 158）に RSA（ロードサインアシスト）の情報が表示されているときは、サブ画面には RSA（ロードサインアシスト）の情報が表示されません。

平均燃費表示・走行距離表示の切りかえ

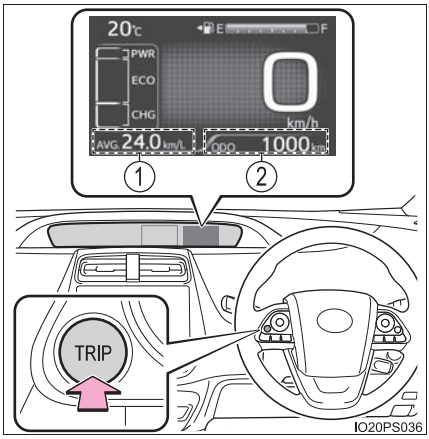
TRIP スイッチを押すたびに、平均燃費表示と走行距離表示が次の 1 ～ 6 の順に切りかわります。

① 平均燃費表示

② 走行距離表示

6 まで表示されたあとは、1 にもどります。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。



	①平均燃費表示	②走行距離表示
1	**リセット間平均燃費** 前回リセットしてから現在までの平均燃費 ※1	**ODO（オドメーター）** 現在までに走行した総距離
2	**TRIP A 平均燃費** TRIP A をリセットしてからの平均燃費 ※1	**TRIP A（トリップメーター A）** リセットしてからの走行距離 ※1
3	**TRIP B 平均燃費** TRIP B をリセットしてからの平均燃費 ※1	**TRIP B（トリップメーター B）** リセットしてからの走行距離 ※1
4	**始動後平均燃費** ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費 ※2	**（始動後走行距離）** ハイブリッドシステムを始動してからの走行距離 ※2
5	**ブランク表示**	**（航続可能距離）** 現在の燃料残量で走行できるおよその距離
6	**ブランク表示**	**ブランク表示**

※1 表示中に TRIP を押し続けると、情報がリセットされます。

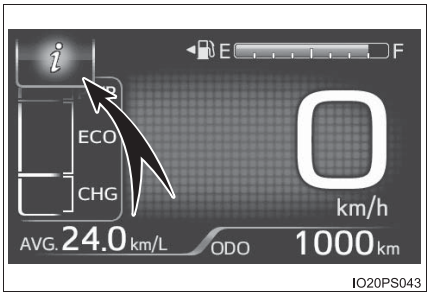
※2 ハイブリッドシステムを始動するたびにリセットされます。

サブ画面に表示する項目を切りかえるには

RSA（ロードサインアシスト）が OFF のとき、サブ画面に表示する項目を選択できます。

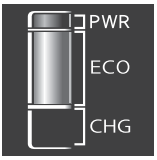
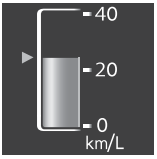
1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して、サブ画面を選択する

サブ画面が選択されると、サブ画面上に i が表示されます。



2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示項目を選択する

次の 3 種類の中から、表示する項目を選択できます。

表示項目	内容
	**ハイブリッドシステムインジケーター** 簡易的なハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。 ハイブリッドシステムインジケーターの見方については、P. 140 を参照してください
	**瞬間燃費** 走行中の瞬間燃費が表示されます。 ・▶マークは、平均燃費表示（→ P. 131）に表示されている値を示しています。平均燃費表示を切りかえると、▶マークの表示位置もかわります。 ・平均燃費をリセットすると、▶マークの表示も 0 の位置に移動します。
	駆動用電池の残量表示 エネルギーモニター上の駆動用電池残量表示と同じ内容が表示されます。（→ P. 139）

知識

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “ -- ” または “ E ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

燃料タンク内の燃料の動きがおさまるまで、しばらくお待ちください。

2 TRIP を押して走行距離表示をオドメーター（ODO）に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

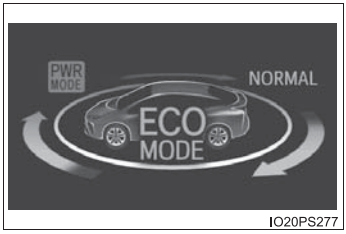
4 TRIP を押したまま、パワースイッチを ON モードにする

5 そのまま約 5 秒間 TRIP を押し続け、オドメーター（ODO）が点滅を開始したら手をはなす

オドメーター（ODO）が約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■走行モード（→ P. 340）を切りかえたとき

走行モードを切りかえると、走行モードの表示灯が変化するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえアニメーション※が表示されます。



また、メインディスプレイとエネルギーモニター（→ P. 138）、およびハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 140）の背景色が次のように変化します。

走行モード	背景色
ノーマルモード	緑色
パワーモード	赤色
エコドライブモード	青色

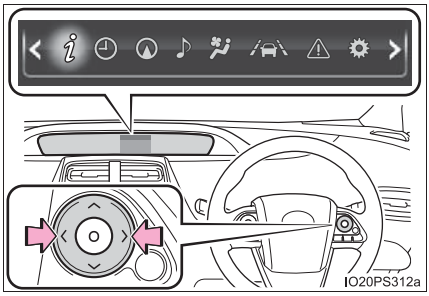
※「メーターカスタマイズ」設定で、切りかえ時のアニメーション表示を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

マルチインフォメーションディスプレイ

各システムの作動状況や経済走行に関するデータなど、車両に関するさまざまな情報を表示したり、各システムの設定をお好みに合わせて変更したりできます。

マルチインフォメーションディスプレイに表示できる項目

メーター操作スイッチを操作してマルチインフォメーションディスプレイの上部に表示されるアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。



アイコンはメーター操作スイッチの〈／〉を押すと表示され、操作後、しばらくすると表示が消えます。

車両の機能と連携している画面については、各機能の作動状況に従って自動的に表示される場合があります。

アイコン表示	表示画面の内容	記載ページ
	ドライブインフォメーション ハイブリッドシステムの作動状況を表示するエネルギーモニターや、燃費などに関する各種の情報を確認できます。	P. 137
	時計設定画面 時刻に関する設定を変更できます。	P. 153
	ナビゲーションシステム連携画面★ ナビゲーションシステムと連携した情報を表示できます。	P. 154
	オーディオ連携画面★ オーディオ機能に関する設定操作を行えます。	P. 154
	エアコン設定画面 エアコンの設定内容を確認したり、設定を変更したりできます。	P. 155
	走行支援システム連携画面 LTA（レーントレーシングアシスト）や、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムに関する情報を確認できます。	P. 158
	警告メッセージ表示画面 ※ 警告メッセージを確認できます。	P. 158
	設定画面 車両の機能やメーター表示などに関する設定を変更できます。	P. 159

※ 確認可能な警告メッセージがあるときは、が橙色で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作

1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して、表示したい項目のアイコンを選択する

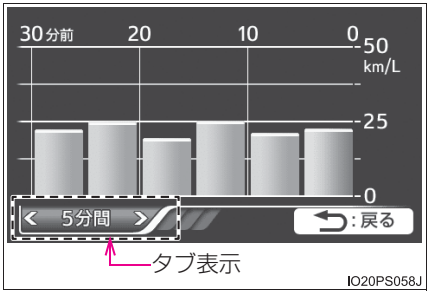
選択したアイコンがハイライト表示され、各情報画面に切りかわります。

RSA（ロードサインアシスト）が OFF のときは、メインディスプレイのサブ画面も、項目のひとつとして選択できます。（→ P. 132）

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示内容を切りかえる

3 選択・決定が必要な画面では ◎ を押す

タブ表示がある項目では、◎を押すとタブ表示が選択状態になり、メーター操作スイッチの〈／〉を押すことで、表示画面を変更できます。



4 前の画面にもどるときは ⮌ を押す

ドライブインフォメーション

が選択されているとき、メーター操作スイッチの∧／∨を押すことで、次の情報を表示することができます。

- エネルギーモニター（→ P. 138）
- ハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 140）
- 燃費履歴（→ P. 144）
- ドライブモニター（→ P. 146）
- エコウォレット（→ P. 147）
- エコダイアリー（→ P. 150）
- 4WD 状態表示★（→ P. 152）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

エネルギーの流れがあるとき、矢印の向きと光点の動きにより、エネルギーが流れている方向を表します。エネルギーの流れがない状態のときは、矢印と光点は表示されません。

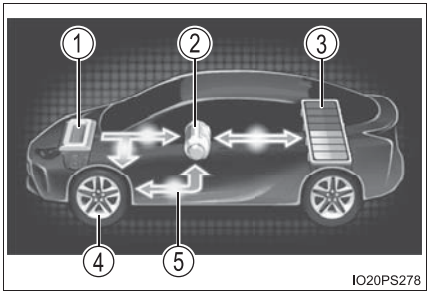
① エンジン

② モーター

③ 駆動用電池

④ タイヤ

⑤ エネルギーの流れを示す光点



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

（表示例）

- 駆動用電池に充電しているときは、③に向かって光点が移動します。
- 走行しているときは、①または②（状況により①と②の両方）から④に向かって光点が移動します。※
- 走行中は、タイヤの表示が回転します。

※ 表示内容は、車両の走行状況により異なる場合があります。

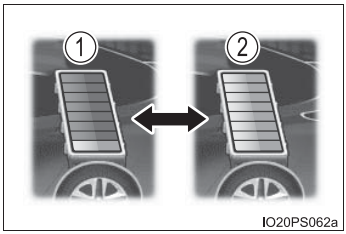
知識

■駆動用電池の残量表示について

●駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

① 残量が少ない

② 残量が多い



●次の画面にも駆動用電池の残量が表示されますが、表示内容はいずれも同じです。

・メインディスプレイのサブ画面（→ P. 132）
・ハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 140）
・ヘッドアップディスプレイ★（→ P. 166）

●駆動用電池の充電量は、ハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

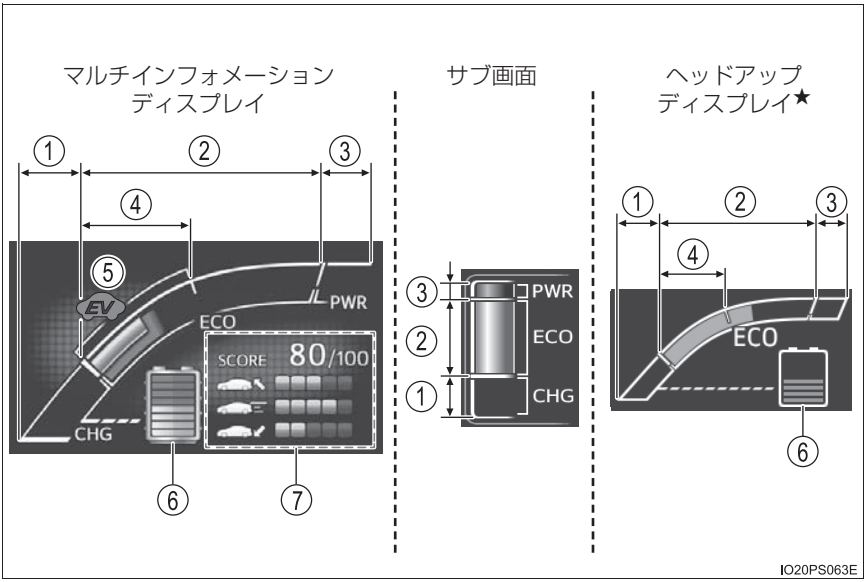
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ハイブリッドシステムインジケーター

アクセルペダルの操作に従って表示が変化し、現在の走行状況・エネルギーの回収状況を表示します。

ハイブリッドシステムインジケーターは、メインディスプレイのサブ画面（→ P. 132）、およびヘッドアップディスプレイ★（→ P. 166）にも表示させることができます。

■ 表示の見方



① チャージエリア

回生機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

④ ハイブリッドエコエリア ※1

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑤ EV インジケーター ※2, 3

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに表示されます。

⑥ 駆動用電池の残量表示

→ P. 139

⑦ エコジャッジ

→ P. 142

- インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生 ※4 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※1 サブ画面上には表示されません。

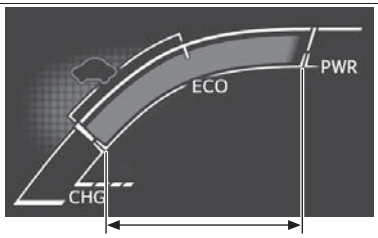
※2 サブ画面、およびヘッドアップディスプレイ上には表示されません。

※3「メーターカスタマイズ」設定で EV インジケーターの機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

※4 ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ エコアクセルガイド

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に青くゾーン表示されます。



エコアクセルガイド
IO20PS064E

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

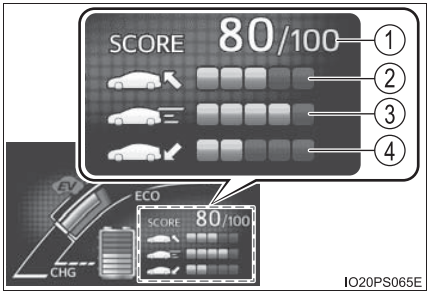
アクセルペダルの操作を示す表示が、エコアクセルガイドの範囲をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→ P. 228）

「メーターカスタマイズ」設定で、エコアクセルガイドの機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

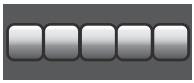
■ **エコジャッジ**

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

① 採点結果
② エコ発進の状況
③ 安定走行の状況
④ エコ停車の状況



バー表示の見方：

評価状況	低い ※	高い
バー表示		

※ 現在評価されていない項目は、表示数が 0 になります。

● エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

● シフトポジションが P のときは、エコジャッジ表示部のみが拡大表示されます。P ポジション以外に切りかえると、もとの表示にもどります。

● ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果と、得点を高くするためのアドバイスが表示されます。
（→ P. 116）

知識

■各機能の作動が停止するとき

●次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターの作動が停止します。

・READY インジケーターが点灯していないとき
・シフトポジションが D または B 以外のとき

●次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

・ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

■エコジャッジについて

●発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

●エコジャッジは、車両の走行状況のほかに、エアコンの使用状況についても評価を行います（→ P. 156）。ハイブリッドシステムを停止したときに表示される点数は、ハイブリッドシステム始動後の走行状況とエアコンの使用状況とを総合評価した結果になります。

■信号情報利用型エコアクセルガイド（ITS Connect 装着車）

ITS Connect が利用可能なときに作動します。（→ P. 336）

■先読みエコドライブ（先読み減速支援）（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に接近すると、エコアクセルガイドの表示が消え、早めにアクセルペダルをもどすことをユーザーにお知らせします。

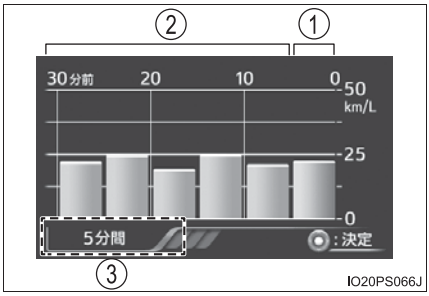
先読みエコドライブ（先読み減速支援）の詳細については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

◆ 燃費履歴

5分間ごとや1km走行ごとなどの単位で、ハイブリッドシステム始動後の平均燃費の推移を確認できます。また、「月別」表示に切りかえることで、月あたりの平均燃費の履歴を確認することも可能です。

■ 画面の見方

ここでは「5分間」の表示を例にしていますが、基本的な見方は各燃費履歴画面とも同様です。



① 現在の平均燃費の記録（黄色表示）※

5分間・1kmなど、それぞれの記録単位が過ぎると、現在の記録が履歴として左列へ移動し、最も古い記録が消去されます。

② 過去の平均燃費の記録（緑色表示）

③ タブ表示

燃費履歴の種類が表示されます。

※「月別」表示のときは、当月の平均燃費の記録になります。

■ 燃費履歴の種類

タブ表示	記録される内容	記録される範囲
5 分間	5 分間あたりの平均燃費 ※1	現在から 30 分前まで
1 km 毎	1km走行あたりの平均燃費 ※1	過去 15km 走行まで
5 km 毎	5km走行あたりの平均燃費 ※1	過去 30km 走行まで
月別	当月の平均燃費 ※2, 3	4ヶ月前まで、および 1 年前の同月の記録

※1 ハイブリッドシステムを停止すると、記録がリセットされます。

※2「月別」のタブ表示が選択されている状態でメーター操作スイッチの∧／∨を押すと、50km/L・40km/L・30km/L の 3 種類にグラフの最大値を切りかえることができます。

※3「月別」の記録は、「メーターカスタマイズ」設定でリセットすることができます。（→ P. 162）

■ 燃費履歴画面を切りかえるには

1 燃費履歴画面が表示されている状態で ○ を押す

タブ表示が選択状態になり、表示内容の切りかえが可能になります。

2 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、表示内容を切りかえる

〉を押すたびに「5 分間」・「1 km 毎」・「5 km 毎」・「月別」の順※に、〈を押すと逆の順に表示が切りかわります。

※「月別」の次は「5 分間」にもどります。

知識

■ カレンダー設定について

→ P. 164

◆ ドライブモニター

現在の走行距離表示（→ P. 131）の内容に連動した、走行時間や平均車速などの情報を表示します。

① 現在の表示内容

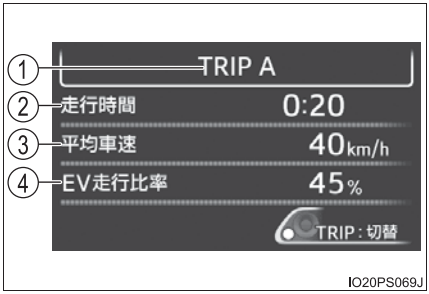
表示中の情報が、どの走行記録に基づく内容かを示しています。

② 走行時間

③ 平均車速

④ EV 走行比率

走行距離表示に表示された距離における、電気モーターの動力のみで走行した割合をパーセント表示します。



TRIP を押すたびに、走行距離表示（→ P. 130）が切りかわるとともに、ドライブモニターの表示内容が次のように変化します。

走行距離表示	①の表示	ドライブモニターの表示内容
ODO	通算	前回リセットしてからの情報 ※1
TRIP A	TRIP A	TRIP A の走行記録に基づいた情報 ※2
TRIP B	TRIP B	TRIP B の走行記録に基づいた情報 ※2
	始動後	ハイブリッドシステムを始動してから現在までの情報 ※3
ブランク表示		

※1 平均燃費をリセット（→ P. 131）すると、ドライブモニターの表示もリセットされます。

※2 トリップメーターをリセット（→ P. 131）すると、ドライブモニターの表示もリセットされます。

※3 ハイブリッドシステムを始動するたびにリセットされます。

◆ エコウォレット

「メーターカスタマイズ」設定（→ P. 162）で「ガソリン価格」※1・「比較燃費」の情報を登録しておくことにより、ガソリン消費に関する2 種類の情報を表示することができます。

▶ お得

この車と燃費を比較する車両の情報（比較燃費）を入力しておくことで、トリップメーターの走行距離 ※2 に対する燃費が比較車両を上まわったときに、燃費の差によって節約できた燃料費の目安 ※3 が累積表示されます。

▶ 消費

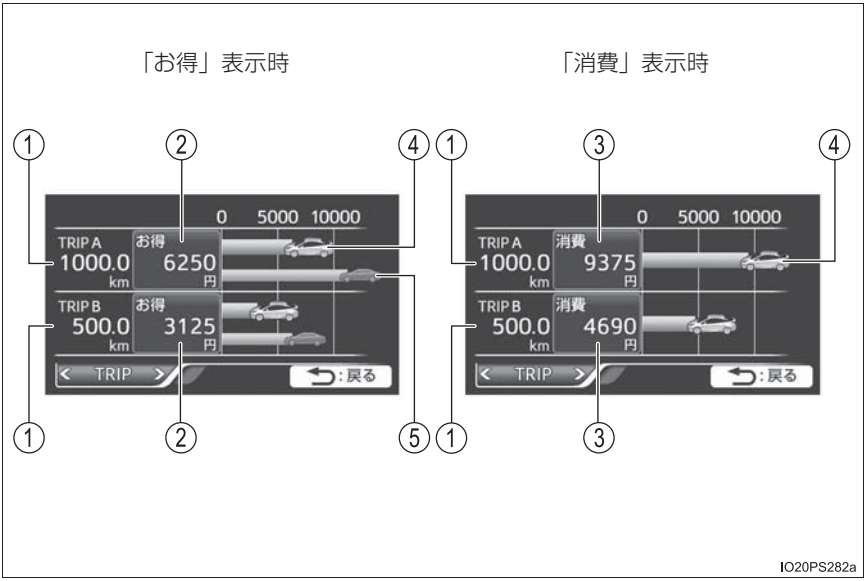
この車と燃費を比較する車両の情報（比較燃費）が入力されていないときは、トリップメーターの走行距離 ※2 に対する燃料費の目安 ※3 が累積表示されます。

※1「ガソリン価格」は、「お得」・「消費」いずれの記録を表示するためにも必要な情報です。

※2 走行距離ごとの記録から、1ヶ月あたりの記録に表示を切りかえることもできます。（→ P. 149）

※3 表示される金額は目安であり、実際の状況とは異なる場合があります。

■ 表示の見方



① トリップメーターの走行距離 ※

② 表示されている走行距離に対して節約できた燃料費の目安 ※

③ 表示されている距離を走行するために必要とした燃料費の目安 ※

④ 表示されている走行距離に対して消費した燃料費の目安（自車）※

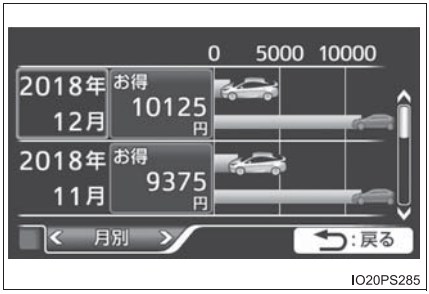
⑤ 表示されている走行距離に対して消費した燃料費の目安（比較車両）※

※ トリップメーターをリセット（→ P. 131）すると、エコウォレットの記録もリセットされます。

■ 1ヶ月あたりの記録を確認するには

エコウォレットの表示中に ◎ を押してタブ表示を選択し、メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押すと、「TRIP」または「月別」に表示を切りかえることができます。

「月別」表示では、「お得」または「消費」それぞれの、1ヶ月ごとの記録を確認できます。



IO20PS285

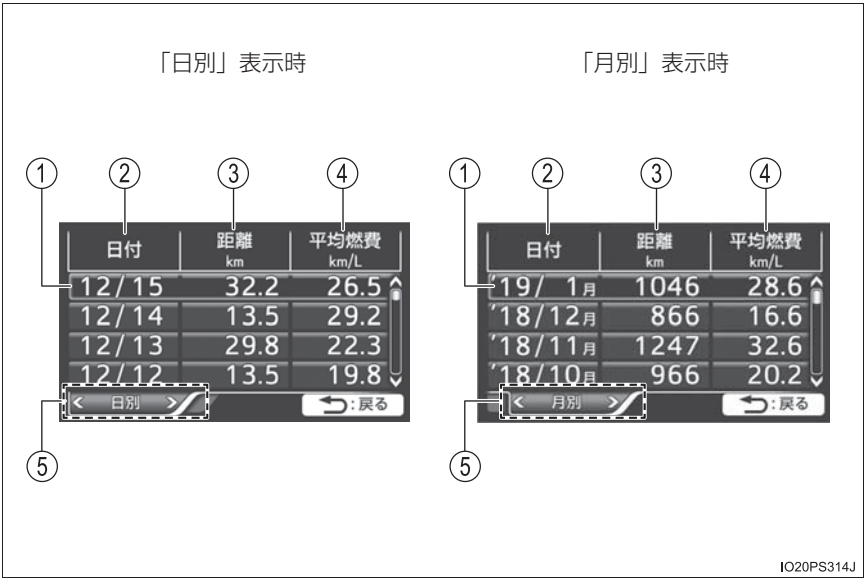
「月別」のタブ表示が選択されている状態でメーター操作スイッチの ∨ を押すと、過去 5ヶ月まで記録をさかのぼって表示することができます。

「月別」の記録内容をリセットするときは、「メーターカスタマイズ」設定（→ P. 162）から「履歴リセット」を実行します。

◆ エコダイアリー

1 日ごと（日別）、または 1ヶ月ごと（月別）の単位で、走行距離・平均燃費の履歴を一覧表示できます。

■ 表示の見方



① 当日／当月の記録

② 情報が記録された日付／年月

③ 当日／当月の通算走行距離

④ 当日／当月の平均燃費

⑤ タブ表示

◎を押すと選択状態になり、メーター操作スイッチの〈／〉を押すことで、「日別」または「月別」に表示が切りかわります。

■ 履歴を確認するには

各画面が選択されている状態でメーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押すと、それぞれ次の範囲まで過去の記録を表示することができます。

表示画面	1 画面に表示される情報	記録される情報
日別	4 件	最大 32 件（8 画面分）
月別		最大 12 件（3 画面分）

- 記録件数が上記をこえるときは、最も古い情報が消去されます。
- 履歴をリセットするときは、「メーターカスタマイズ」設定（→ P. 162）から「履歴リセット」を実行します。（「日別」・「月別」の情報をそれぞれ独立してリセットできます）

知識

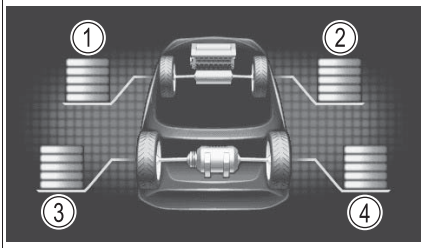
■カレンダー設定について

→ P. 164

◆ 4WD 状態表示（4WD 車のみ）

０～５の６段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

① 左前輪の駆動状態
② 右前輪の駆動状態
③ 左後輪の駆動状態
④ 右後輪の駆動状態



IO20PS286

駆動状態表示の見方：

駆動状態	駆動されていない状態	駆動力が最大の状態
表示		

知識

■駆動状態の表示について

●走行状況、および4WDシステムによる各輪の駆動状態を目盛りの数で表示します。

●各輪にかかる駆動力が大きい場合には目盛りの数が増加し、小さい場合には減少します。

●後輪の目盛りの数が小さいときは、システムが安定走行と判断し、燃費向上のために 4WD 機能を抑制している状態です。

時計設定画面

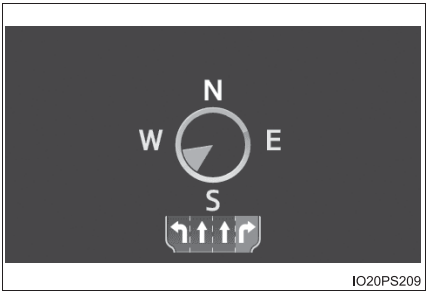
時計の設定を変更することができます。

設定項目	設定結果
H M	時計の表示が調整される（→P. 117）
:00	分の単位の表示が00になる（→P. 118）

IO20PS294aJ

ナビゲーションシステム連携画面★

メーカーオプションのナビゲーションシステム、またはマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合に、ナビゲーションシステムと連携した情報を表示することができます。



ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。また、ナビゲーションシステムでの目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

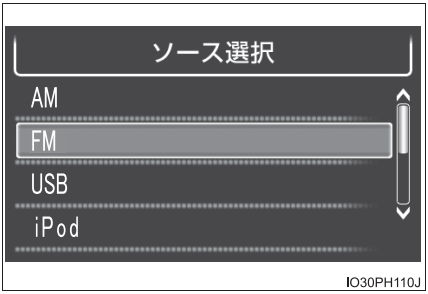
図は説明のための例であり、実際の画面表示とは異なる場合があります。

非対応のナビゲーションシステムを装着している場合はアイコンが表示されず、ナビゲーションシステム連携画面を表示できません。

対応機種などの詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

オーディオ連携画面★

メーカーオプションのナビゲーションシステム、またはマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合、選択されているオーディオソースの情報が表示されます。



図は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

オーディオソースを変更するときは、◎を押してオーディオソース選択画面を表示し、メーター操作スイッチの∧／∨を操作してご希望のオーディオソースを選択し、◎を押します。

オーディオソースの変更を中止する場合は、オーディオソース選択画面で⮌を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

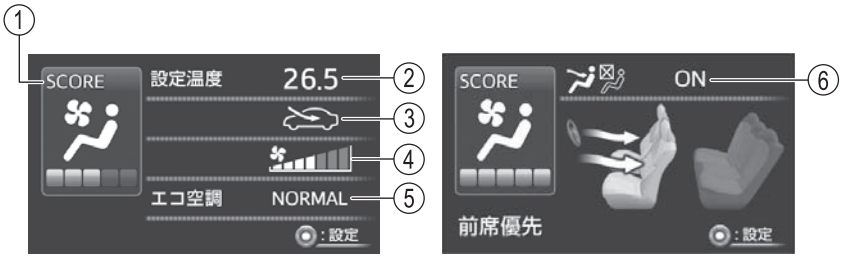
エアコン設定画面

エアコンの設定状態を画面表示で確認したり、メーター操作スイッチを使用して、エアコンの設定を変更したりすることができます。

エアコン設定画面でメーター操作スイッチの∧／∨を押すと、表示内容が切りかわります。

エアコンの機能の詳細については、P. 458, 469 を参照してください。

■ 画面表示・設定変更が可能な項目



IO20PS289

項目		設定値		
①	エコジャッジ（空調スコア）	P. 156		
②	設定温度	メーター操作スイッチの操作に連動して変化する ※1		
③	内気循環／外気導入モード	（外気導入）	（内気循環）	
④	風量	1 ～ 7		
⑤	エコ空調	NORMAL（通常）	ECO（エコ）	
⑥	フロント席集中送風モード（S-FLOW）	ON（運転席優先）※2	ON（前席優先）※2	OFF（全席空調）

※1 設定温度を最も低くすると「LO」、最も高くすると「HI」が、それぞれ表示されます。

※2 助手席乗員の有無などの状況により、選択可能なモードが異なります。（→ P. 460, 472）

■ エアコンの設定を変更するには

1 ◎ を押して、カーソルを表示させる

2 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、設定したい項目を選択する

3 メーター操作スイッチの 〈 ／ 〉 を押して、設定項目・設定値を選択する

エアコン設定画面の操作で、エアコンを停止することはできません。エアコンを停止するときは、エアコンのスイッチ、またはナビゲーションシステム（メーカーオプション）★を操作してください。

■ エコジャッジ（空調スコア）について

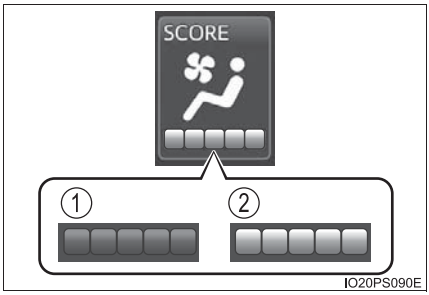
現在のエアコンの使用状況が環境に配慮した内容になっているか、5段階で評価します。

エアコンの使用状況に従って評価が変化し、パワースイッチを OFF にすると、今回の走行における総合得点 ※1 と、エアコンの使用に関するアドバイス ※2 が表示されます。（→ P. 116）

① 評価が低い ※3

② 評価が高い

過剰な冷暖房を避け、外気温や乗員の状況などに適した設定、およびフロント席集中送風モード（S-FLOW）（ ）・エコ空調モードでエアコンを使用すると、高評価につながります。



※1 パワースイッチを ON モードにしてから約 1 分以上が経過するまでは、エコジャッジ（空調スコア）の評価は開始されません。

※2 状況により、エアコンの使用に関するアドバイスが表示されない場合があります。

※3 エコジャッジ（空調スコア）が評価されていないときは、表示数が 0 になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エアコンを操作したとき

●マルチインフォメーションディスプレイにエアコン設定以外の画面が表示されている状態で、エアコンのスイッチを操作してエアコンの設定を変更すると、エアコン設定内容の確認画面が割り込み表示されます。なお、割り込み表示画面でエアコンの設定を変更することはできません。

IO20PS091Ja

●「メーターカスタマイズ」設定で、エアコンのスイッチを操作してエアコンの設定を変更したときの、割り込み表示機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

■エコジャッジ（空調スコア）について

●エアコンの各機能のうち、次の設定状況が評価に反映されます。

・設定温度
・風量
・内外気切りかえ
・A/C スイッチ
・フロント席集中送風モード（S-FLOW）
・エコ空調モード

●エコジャッジ（空調スコア）は、外気温や車内温度などを判断して評価を行います。よって、同じ設定でエアコンを使用していても、季節や天候などの状況により、評価がかわります。

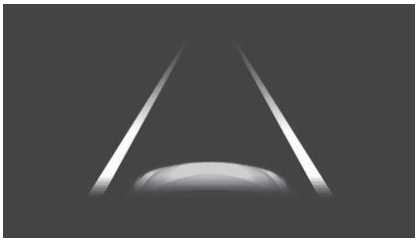
●エアコンを使用していないとき、または吹き出し口が ・ のときは、エコジャッジ（空調スコア）の評価を実施しません。（評価されていないあいだのエアコンの使用状況は、総合的なエコジャッジの採点結果にも反映されません）

●エコジャッジ（空調スコア）は、省燃費につながるエアコン設定へ誘導する機能であり、快適性との両立を保証するシステムではありません。

走行支援システム連携画面

LTA（レーントレーシングアシスト）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動状況や、各種警報などの情報が表示されます。

走行支援システムの詳細については、各機能の記載ページを参照してください。

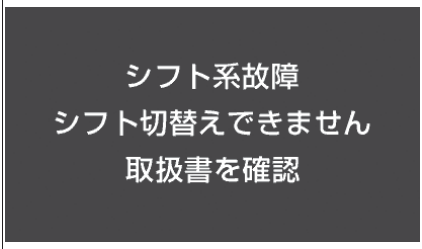


IO55PH205a

警告メッセージ表示画面

パワースイッチをONモードにしてから現在までに表示された警告メッセージを確認することができます。

複数の警告メッセージが現在までに表示されていたときは、メーター操作スイッチの∧／∨を押して、表示を切りかえることができます。



IO20PS158J

現時点で問題が解消している警告メッセージ、および一部の警告メッセージは表示されません。また、確認可能な警告メッセージがないときは、「メッセージがない」という内容の表示でお知らせします。

設定画面

走行支援システムの作動内容や、メーター表示に関する設定などを変更することができます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）やブラインドスポットモニター★などの走行支援システムは、を押すだけで ON ／ OFF の状態が切りかわります。システムを誤って解除してしまわないように、ご注意ください。

■ 設定操作のしかた

1 ハンドルにあるメーター操作スイッチの〈／〉を押して、を選択する

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して設定を変更したい項目を選択し、を押す

機能の ON ／ OFF や機能の感度レベルなどを設定する項目では、を押すたびに機能のON／OFF、または調整レベルが切りかわります。

機能の作動内容や表示内容などを設定できる項目では、設定画面が表示されます。

IO20PS356J

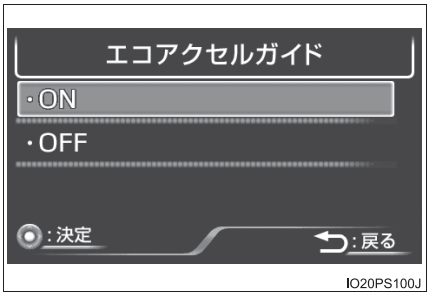
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 設定画面が表示されたときは、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定する ※1, 2

作動内容や設定値などを選択する項目では、ご希望の設定を選択、または値を設定したあと、◎を押します。

設定を中止する場合は、⮌を押します。

設定の実行を確認する画面が表示された場合は、実行か中止を選択の上、◎を押します。



IO20PS100J

※1 設定項目の種類によっては、項目を選択すると、さらに次の設定画面が表示される場合があります。

※2 調整レベルや時間などを設定する項目では、設定終了後に⮌を押すまで、設定画面が終了しません。

■ 設定項目一覧

設定項目	設定内容	設定結果
LTA	有	LTA（レーントレーシングアシスト）のセンタートレース制御の有無が切りかわる（→ P. 294）
	無	
	有	LTA（レーントレーシングアシスト）の操舵支援の有無が切りかわる（→ P. 294）
	無	
	高	LTA（レーントレーシングアシスト）の車線逸脱警報の感度が切りかわる（→ P. 294）
	普通	
	ON	PCS（プリクラッシュセーフティ）のON／OFF が切りかわる（→P. 287）
	OFF	
	早い	PCS（プリクラッシュセーフティ）の警報タイミングが切りかわる（→ P. 287）
	中間	
	遅い	
P	ON	クリアランスソナーの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 354）
	OFF	
★	ON	パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 366）
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定項目	設定内容	設定結果
★	ON	ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 346）
	OFF	
RCTA ★	ON	RCTA 機能の ON ／ OFF が切りかわる ※1（→ P. 349）
	OFF	
	有	LTA（レーントレーシングアシスト）のふらつき警報の有無が切りかわる（→ P. 294）
	無	
	高	LTA（レーントレーシングアシスト）のふらつき警報の感度が切りかわる（→ P. 294）
	普通	
	低	
HUD ★	表示位置	ヘッドアップディスプレイの表示位置･輝度が変化する（→ P. 168）
	明るさ	
nanoe ★	ON	「ナノイー」※2 の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 466）
	OFF	
	ON	RSA（ロードサインアシスト）の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 306）
	OFF	
	ON	先行車発進告知機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 327）
	OFF	
	早	先行車の発進を告知するタイミングが切りかわる（→ P. 327）
	普通	
	遅	
	輝度	メーターの輝度が変化する（→ P. 114）
	「メーターカスタマイズ」設定：→ P. 162	
	「車両カスタマイズ」設定：→ P. 662	

※1 RCTA 機能は BSM 機能が ON のときに設定変更できます。

※2 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「メーターカスタマイズ」設定項目一覧（ ）

設定項目	設定内容		設定結果
画面 OFF※	はい		実行すると、マルチインフォメーションディスプレイが非表示になる
	いいえ		
HV システムインジケーター（→ P. 140）	エコアクセルガイド	ON	エコアクセルガイドの表示・非表示が切りかわる
		OFF	
	EV 表示 ON ／ OFF	ON	EVインジケーターの有効・無効が切りかわる
		OFF	
割込み表示 ON ／ OFF	ナビゲーション★	ON	選択した項目の、マルチインフォメーションディプレイへの割り込み表示の有無が切りかわる
		OFF	
	ガソリン価格	ON	
		OFF	
	エアコン設定	ON	
		OFF	
	クルーズコントロールガイド	ON	
		OFF	
	HUD 調整★	ON	
		OFF	
	走行モード設定	ON	
		OFF	
	マルチメディアメニュー★	ON	
		OFF	
言語	日本語		画面上に表示される言語が切りかわる
	English（英語）		
カレンダー	年／月／日		燃費データの記録に使用する年月日が変更される

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定項目	設定内容		設定結果
エコウォレット（→ P. 147）	ガソリン価格		エコウォレットの計測・記録に使用されるデータが登録される
	比較燃費		
履歴リセット	月別燃費	はい	実行すると、「月別」燃費（→ P. 144）のデータが消去される
		いいえ	
	エコウォレット（月別）	はい	実行すると、エコウォレット（月別）（→ P. 147）のデータが消去される
		いいえ	
	エコダイアリー（日別）	はい	実行すると、エコダイアリー（日別）（→ P. 150）のデータが消去される
		いいえ	
	エコダイアリー（月別）	はい	実行すると、エコダイアリー（月別）（→ P. 150）のデータが消去される
		いいえ	
初期化	はい		実行すると、メーター設定が工場出荷時の状態にもどる
	いいえ		

※ 画面を非表示にしているときは、◎を押すと設定画面が再表示されます。

知識

■設定項目について

●「メーターカスタマイズ」／「車両カスタマイズ」設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■カレンダー設定について

●カレンダーの設定内容は、「月別」燃費履歴（→ P. 144）、およびエコダイアリー（→ P. 150）の記録情報と連動しています。カレンダーの日付を変更すると、それぞれの記録が次のように処理されます。

日付の変更内容	「月別」燃費履歴の記録	エコダイアリーの記録
現在よりも先の日付に変更したとき	保持 ※	保持 ※
先月以前の日付に変更したとき	消去	全消去
当月内の過去の日付に変更したとき	保持	「日別」のデータのみ消去

※ 記録されていない月・日付の情報は「0.0」になります。

●カレンダーの設定変更によって「月別」燃費履歴の記録内容がかわると、エコウォレットの「月別」（→ P. 147）の情報も同様に変更されます。

警告

■設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

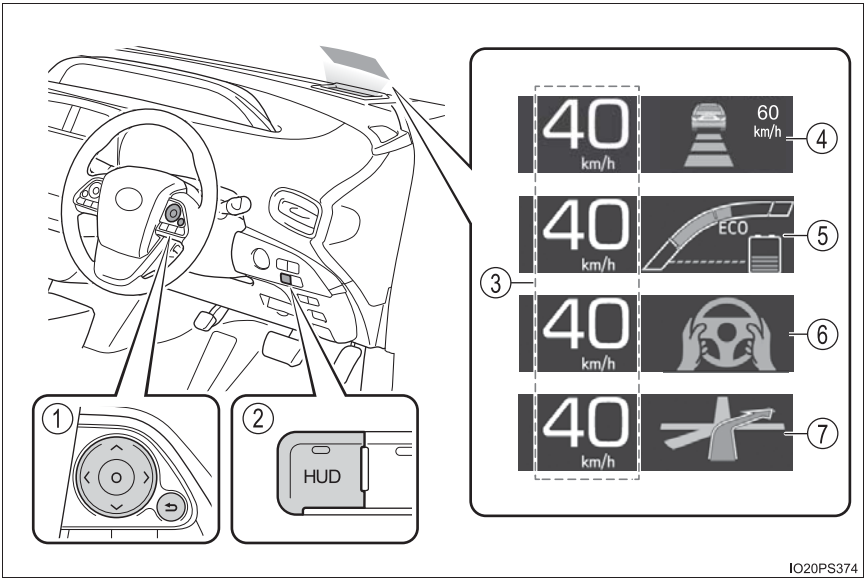
■設定操作を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

カラーヘッドアップディスプレイ★

現在の車速・ハイブリッドシステムインジケーターを運転者の視界前方に表示することができます。また、運転を補助するための各種の情報も表示されます。

操作スイッチ・表示内容



① メーター操作スイッチ

ヘッドアップディスプレイの表示位置・輝度を調整するときに使用します。
（→ P. 168）

② HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ（→ P. 167）

③ 車速表示

④ クルーズコントロール表示（→ P. 311）

⑤ ハイブリッドシステムインジケーター（→ P. 140）

⑥ 割り込み表示（→ P. 169）

走行状況に応じて、各走行支援システムからの情報が割り込み表示されます。

⑦ ナビゲーションシステム連携表示（→ P. 170）★

ナビゲーションシステムと連携した情報が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

HUD（ヘッドアップディスプレイ）スイッチ

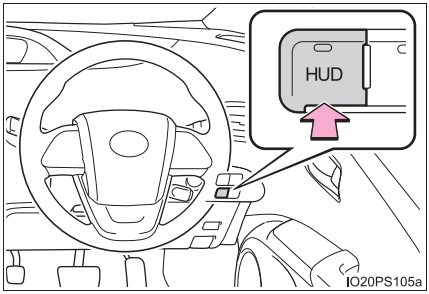
ヘッドアップディスプレイの ON ／ OFF、または表示内容を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイが OFF のとき

HUD スイッチを押すとヘッドアップディスプレイが ON になり、表示が開始されます。

スイッチの作動表示灯が点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイに表示位置・輝度の調整画面が自動表示されます。（→ P. 168）



■ ヘッドアップディスプレイが ON のとき

スイッチを押すたびに、次のように表示が切りかわります。

① 車速とクルーズコントロール表示 ※

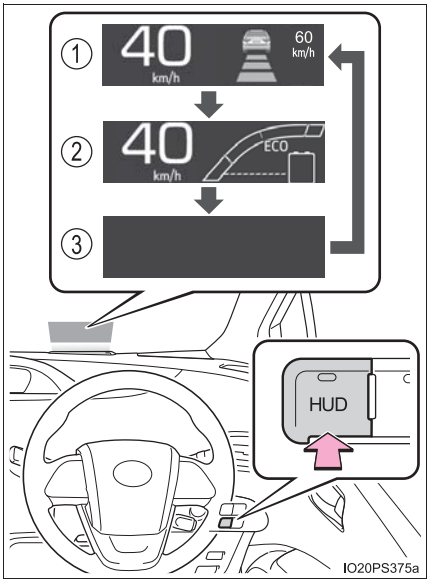
② 車速とハイブリッドシステムインジケーター ※

ハイブリッドシステムインジケーターの見方については、P. 140 を参照してください。

③ 非表示（ヘッドアップディスプレイ OFF）

スイッチの作動表示灯が消灯します。

※ 各走行支援システムからの割り込み表示があるときは、一時的に非表示になります。



表示位置・輝度の調整

ヘッドアップディスプレイが見やすくなるように、表示位置・輝度を調整することができます。

1 マルチインフォメーションディスプレイに調整画面を表示する

ヘッドアップディスプレイが ON のとき：

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で HUD を選択し、 を押します。（→ P. 160）

ヘッドアップディスプレイが OFF のとき：
HUD スイッチを押すと、ヘッドアップディスプレイの調整画面が自動で表示されます。※1

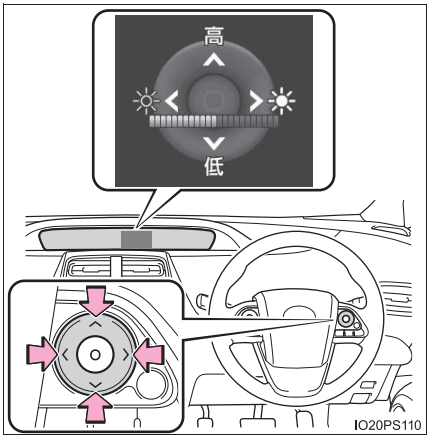
調整操作をしないまま約 6 秒間 ※2 が経過すると、自動でもとの画面にもどります。

2 メーター操作スイッチを操作して、表示位置・輝度を調整する

／ を押すと、ヘッドアップディスプレイの表示位置がかわります。

／ を押すと、ヘッドアップディスプレイの輝度がかわります。

を押すと、マルチインフォメーションディスプレイがもとの画面にもどります。



※1 この機能を OFF に設定することもできます。（→ P. 162）

※2 警告メッセージの割り込みにより、調整画面がすぐに中断される場合があります。

割り込み表示について

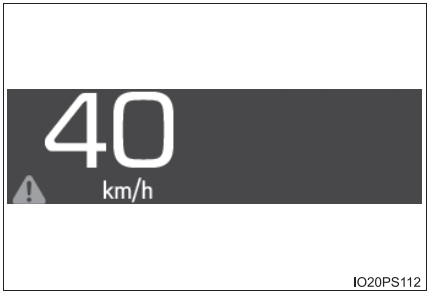
■ 走行支援システムの割り込み表示

次のシステムの作動に連動して、マルチインフォメーションディスプレイに表示される情報の一部が、ヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

対象のシステム	表示される情報
PCS（プリクラッシュセーフティ） （→ P. 284）	衝突警報表示
LTA（レーントレーシングアシスト） （→ P. 294）	車線逸脱警報表示
	手放し運転に対する注意喚起
	ふらつき警報表示
RSA（ロードサインアシスト） （→ P. 306）	道路標識表示
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） （→ P. 311）	接近警報表示
ITS Connect★ （→ P. 330）	各種の注意喚起
パーキングサポートブレーキ★ （→ P. 364）	作動表示 （シンボル表示）

■ マスターウォーニングの割り込み表示

マスターウォーニング（→P. 592）が点灯・点滅しているとき、ヘッドアップディスプレイへの割り込み表示でお知らせします。



マスターウォーニングが点灯・点滅したときは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの内容を確認して、それぞれ対処してください。
（→ P. 596）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

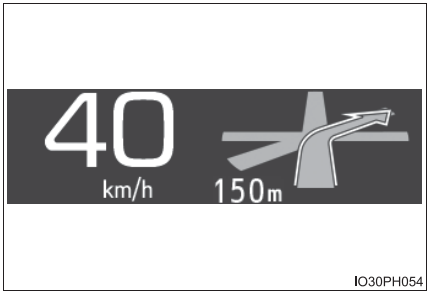
ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムでルート案内を設定しているとき、簡易的なルート案内またはレーン情報が表示されます。

■ ルート案内表示

交差点に接近すると、交差点の形状と交差点までの残距離※1が表示されます。

一定距離まで交差点に接近すると、矢印のアニメーション表示※2で進行方向をお知らせします。



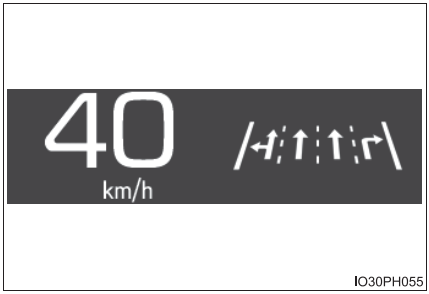
※1 アニメーション表示中は、残距離の表示が消えます。

※2 アニメーション表示中に停車すると、進行方向の表示が点滅にかわります。

■ レーン表示

ハイブリッドシステムインジケーターを非表示にしているとき、ナビゲーションシステムからの情報を受信して、レーン情報が自動的に表示されます。

一定距離まで交差点に接近すると表示がはじまり、交差点を通過すると、レーン表示が消えてもとの表示にもどります。



必要に応じて、ナビゲーションシステム連携表示 の ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 663）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

HUD スイッチの操作でヘッドアップディスプレイを OFF にしたときは、再度、スイッチを操作して ON にするまで、ヘッドアップディスプレイが表示されません。（パワースイッチの操作には連動しません）

■ヘッドアップディスプレイの輝度について

●ヘッドランプの ON ／ OFF の状態、および周囲の明るさに応じて、ヘッドアップディスプレイの輝度が自動調整されます。

●ヘッドアップディスプレイを一定以上の輝度に調整しているときは、車両が停止すると自動的に減光されます。発進後、車速が約 5km/h 以上になると自動でもとの輝度にもどります。

■車速表示について

外気温が極端に低い環境では、スピードメーターの表示とヘッドアップディスプレイの車速表示とのあいだに、わずかなズレが生じることがあります。

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイに関する設定内容がリセットされます。

■ナビゲーションシステム連携表示★について

ナビゲーションシステムの情報は、ヘッドアップディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに、同時には表示されません。ヘッドアップディスプレイにナビゲーションシステム連携表示が表示されているときは、ナビゲーションシステム連携画面（→ P. 154）が選択されている状態であっても、マルチインフォメーションディスプレイにはナビゲーションシステムの情報が表示されなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

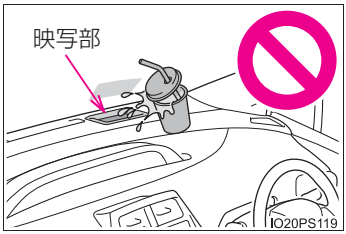
警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の注意

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意



- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。
- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
  ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
  装置が故障する原因となります。

エネルギーモニター／燃費画面／ ESPO 画面（ナビゲーションシステム ※ 装着車）

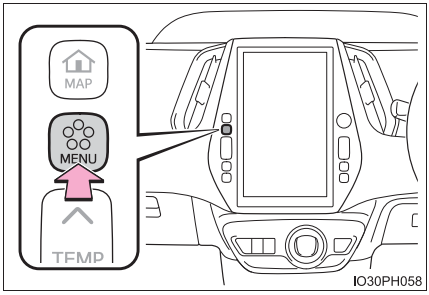
ナビゲーション画面にハイブリッドシステムの状態や、各部の詳細情報を表示します。

エネルギーモニターまたは燃費画面は、マルチインフォメーションディスプレイにも表示することができます。（→ P. 135）

表示のしかた

■ エネルギーモニター／燃費画面の表示のしかた

1 「MENU」を押す



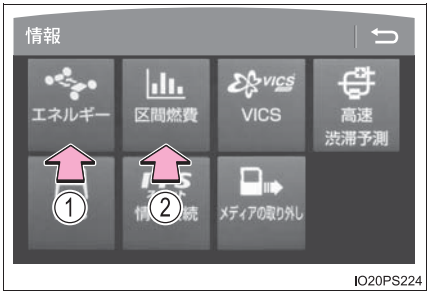
2 画面内の「情報」を選択する

3 エネルギーモニターまたは燃費画面を表示させる

① 「エネルギーモニター」：「エネルギー」を選択する

② 燃費画面：「区間燃費」を選択する

「毎分燃費」または「区間燃費」の画面が表示されます。



「MAP」を押して画面内の「情報」を選択しても「エネルギー」と「区間燃費」を選択することができます。

■ ESPO 画面の表示のしかた

1 「毎分燃費」または「区間燃費」の画面を表示させる

2 画面内の「ESPO」を選択する

※：メーカーオプションのナビゲーションシステム

■ エアコン消費電力の表示のしかた

1 「エネルギーモニター」の画面を表示させる

2 画面右上の を選択する

「×」を選択するとウインドウを閉じます。

エネルギーモニターの見方

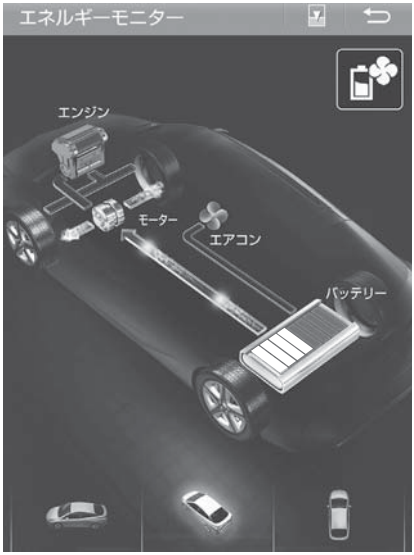
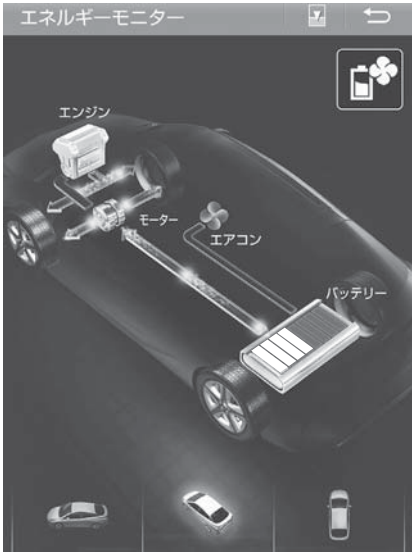
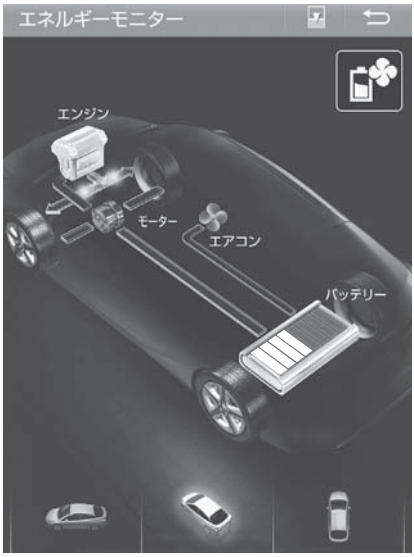
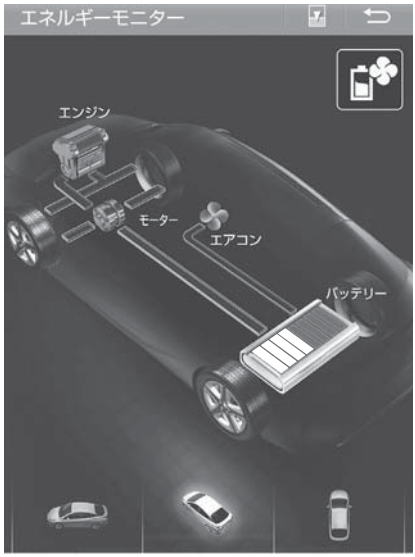
■ 機能概要

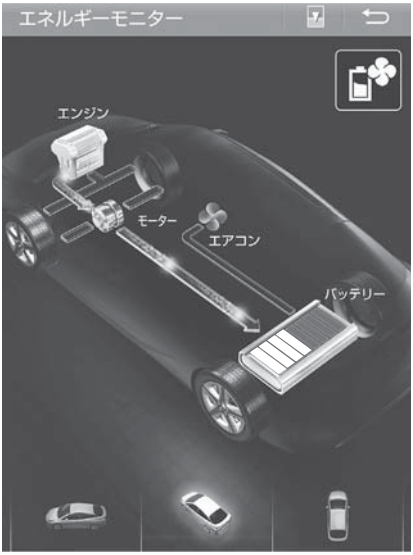
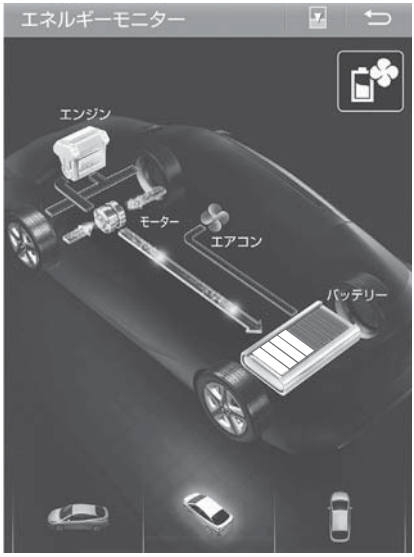
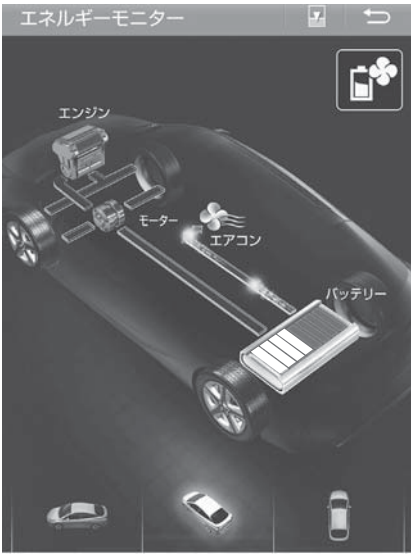
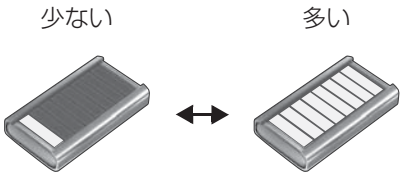
車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ エネルギーの流れ、各部の表示について

エネルギーの流れがあるとき、矢印の向きと光点の動きにより、エネルギーが流れている方向を表します。エネルギーの流れがない状態のときは、矢印と光点は表示されません。

- エンジンが作動しているときの表示は、暖機中は青色、暖機後は黄色で表示されます。
- エンジンからモーターまたはタイヤへの矢印は赤色で表示されます。
- エネルギー消費を示す矢印は黄色で、エネルギー回収または充電を示す矢印は緑色で表示されます。併せて、駆動用電池の色も変化します。
- 画面下側に表示されている 、 、 のいずれかを選択すると、それぞれの視点にエネルギーモニターの画面が切りかわります。
- 画面右上の を選択すると、画面下の半分に表示され、地図画面と並べて表示されます。
- 表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

電気のエネルギーで走行しているとき	ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき
 IO20PS225J	 IO20PS226J
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	エネルギーの流れがないとき
 IO20PS227J	 IO20PS228J

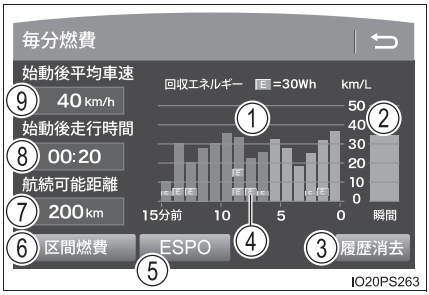
駆動用電池に充電しているとき	
 IO20PS229J	 IO20PS230J
エアコンを使用しているとき ※	駆動用電池の残量表示
 IO20PS231J	

※ エアコンのコンプレッサーが作動していないときは、矢印と光点は表示されません。

燃費画面の見方

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

⑤「ESPO」画面の表示

⑥「区間燃費」の表示

⑦ 航続可能距離

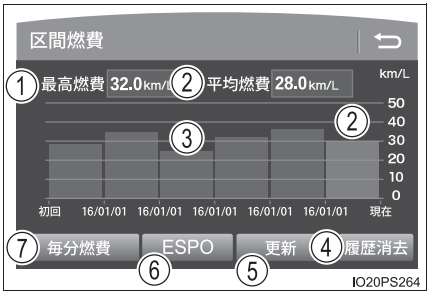
⑧ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑨ ハイブリッドシステム始動後平均車速

表示される平均燃費は、参考として利用してください。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。



① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

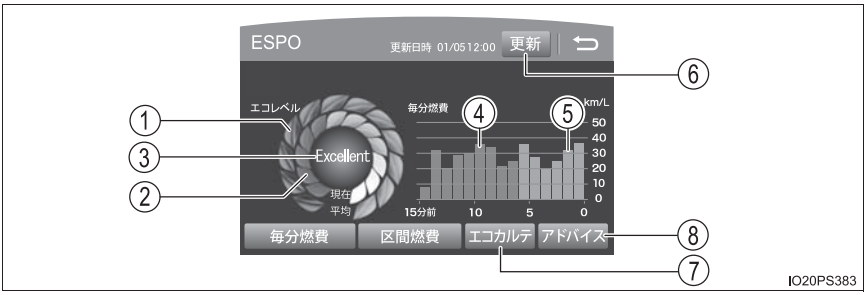
⑥「ESPO」画面の表示

⑦「毎分燃費」画面の表示

表示される平均燃費は、参考として利用してください。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方

毎分燃費画面、または区間燃費画面内の「ESPO」を選択します。



① エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

② エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

④ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑤ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 更新スイッチ ※

走行情報などがトヨタスマートセンターへ送信されます。

⑦ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費が表示されます。

⑧ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。よいところを確認および、さらによくするにはどうしたらよいかを知ることができます。

・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect を利用しているときのみ使用できます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キーの取り扱い
キー.....182
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....187
バックドア.....192
スマートエントリー&スタートシステム.....198
3-3. シートの調整
フロントシート.....205
リヤシート.....207
ヘッドレスト.....209
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....212
インナーミラー.....214
ドアミラー.....216
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ.....218
ムーンルーフ.....222

キー

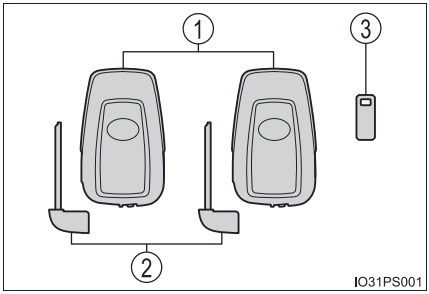
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 198）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



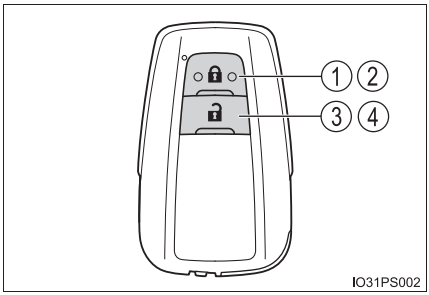
ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する（→ P. 187）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 187）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 187）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 187）

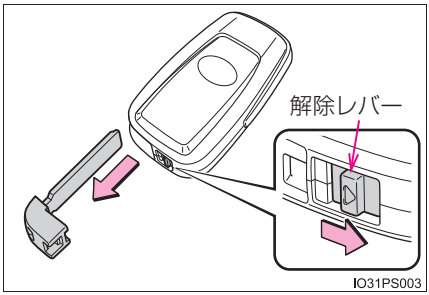


※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 661）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 637）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→ P. 562）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
(→ P. 562)

■電池の交換方法

→ P. 562

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。
電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

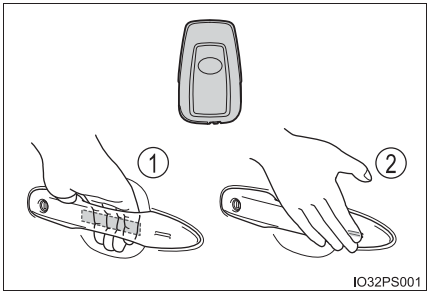
① ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

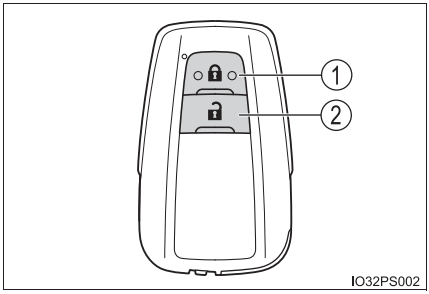
① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※



※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 661）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフ★：
ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

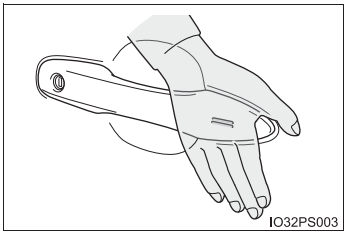
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 108）

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 637）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 562）

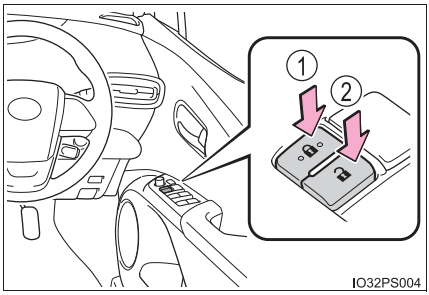
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

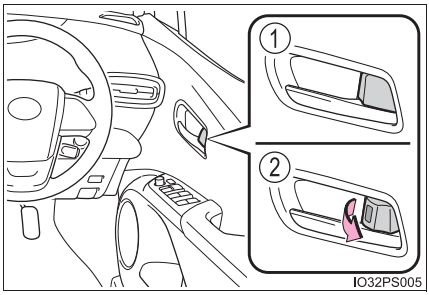


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■ **メカニカルキーでの施錠・解錠**

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 637）

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ **半ドア走行時警告ブザー**

全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ **スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況**

→ P. 201

■ **カスタマイズ機能**

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

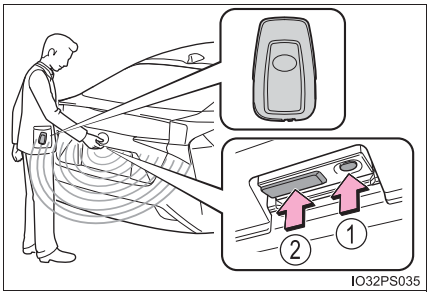
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

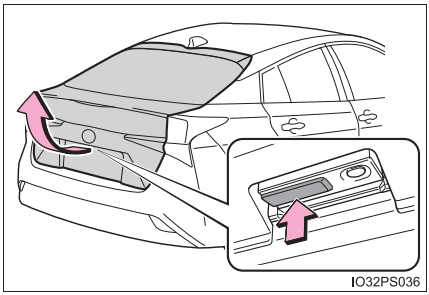
→ P. 187

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 189

バックドアを開ける

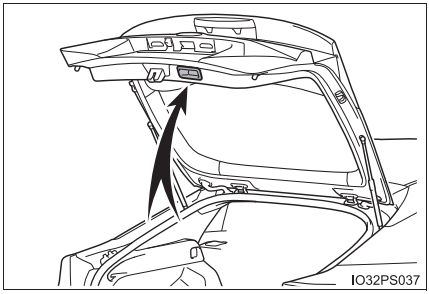
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げてください。



バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

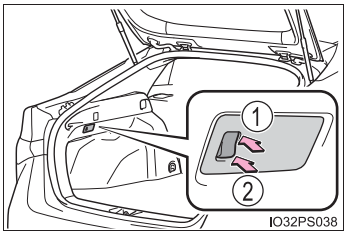
■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① OFF

② ON

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

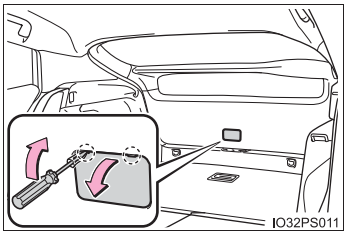


■バックドアが開かないとき

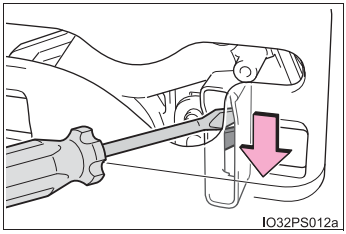
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

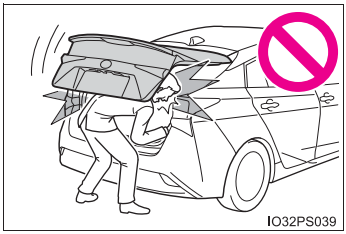
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

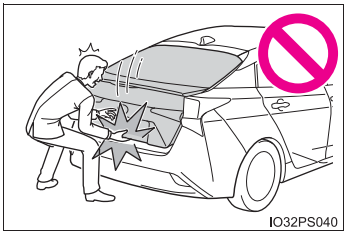
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IO32PS039

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


IO32PS040

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

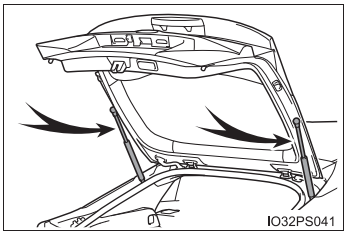
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

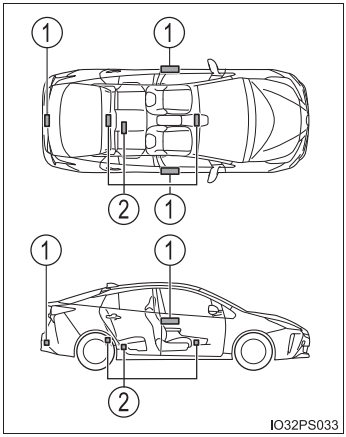
- ドアを解錠・施錠する（→ P. 187）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 192）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 240）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

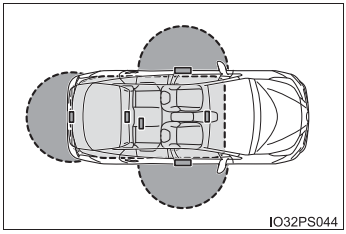
② 車室内アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルセンサー･助手席ドアハンドルセンサー・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

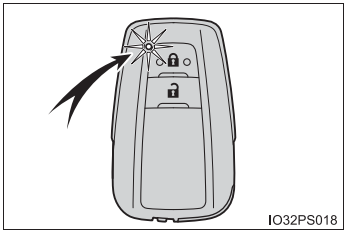
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 637）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると解錠・施錠しないことがあります。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 200）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 661）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 637

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 638

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 187, 637）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 638

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 241

警告

■**電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P. 198）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

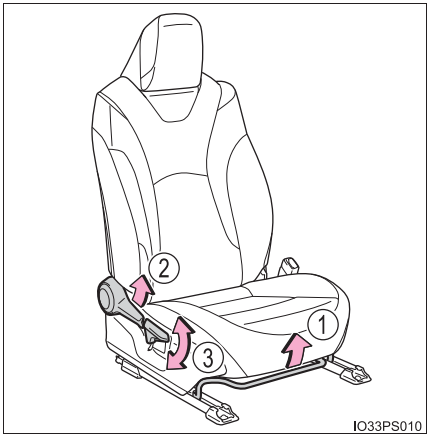
調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）★



▶ 運転席パワーシート装着車

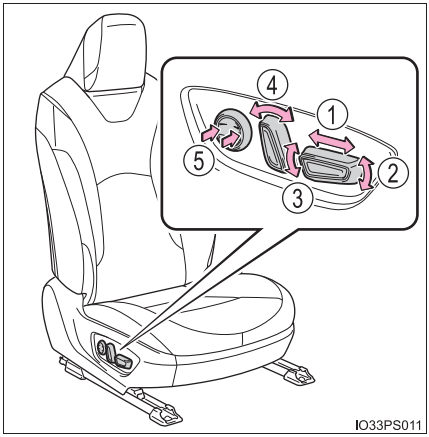
① 前後位置調整

② クッション前端の上下調整

③ シート全体の上下調整

④ リクライニング調整

⑤ 腰部硬さ調整



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

背もたれを倒して、ラゲージスペースを広げることができます。

背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ（→ P. 255）、シフトポジションを P にします。（→ P. 249）

2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→ P. 205）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

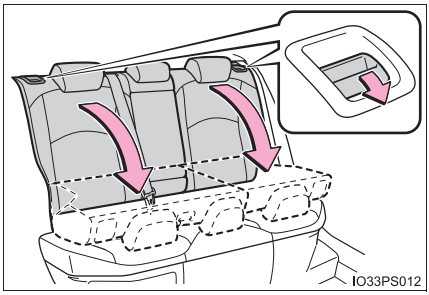
3 リヤシートのヘッドレストを下げる（→ P. 209）

4 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（装着車のみ：→ P. 507）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

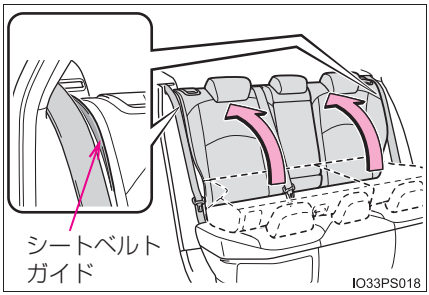
背もたれを倒す

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

■背もたれを前倒しするとき

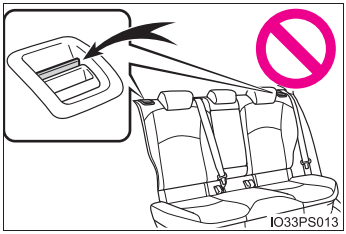
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

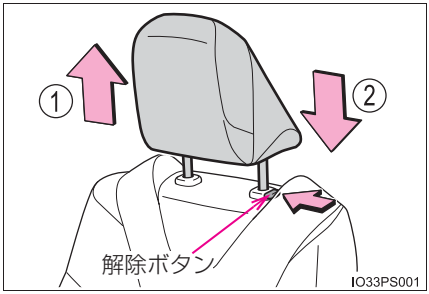
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



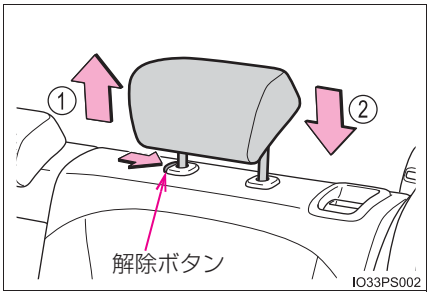
リヤシート

■ 左右席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

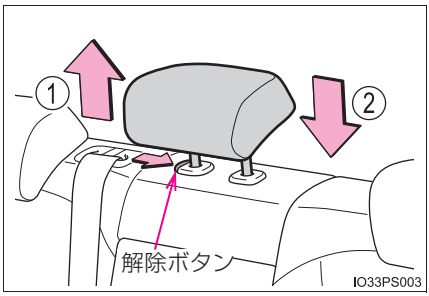


■ 中央席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



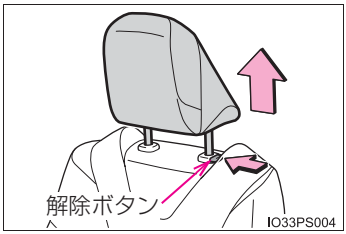
知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶フロント席・リヤ中央席

解除ボタンを押しながら取りはずします。

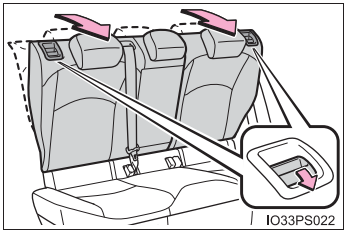
イラストはフロントシートで代表しています。



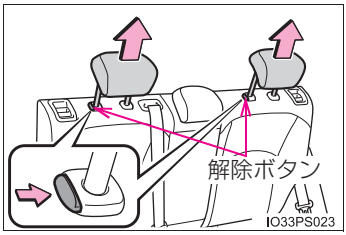
▶リヤ外側席

1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす



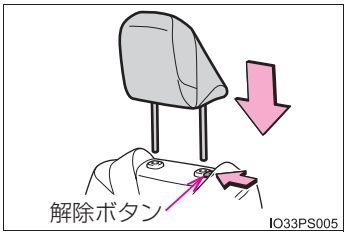
■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロント席・リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

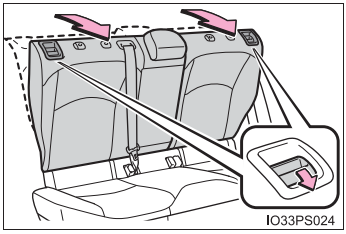
イラストはフロントシートで代表しています。



▶リヤ外側席

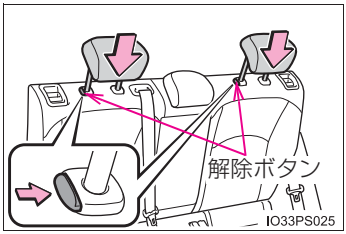
1 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



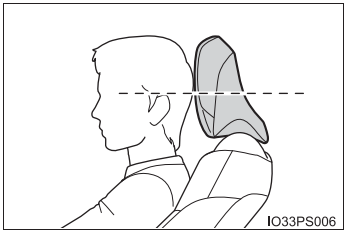
2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

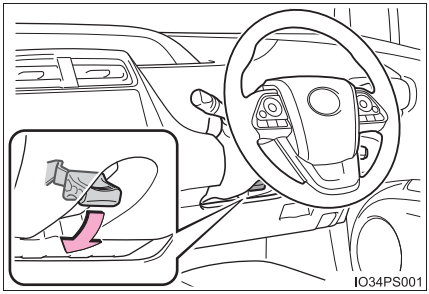
●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

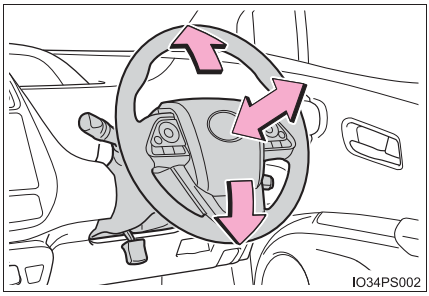
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



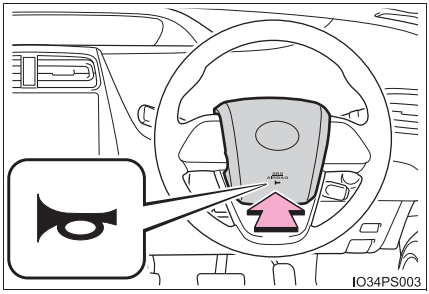
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



警告

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

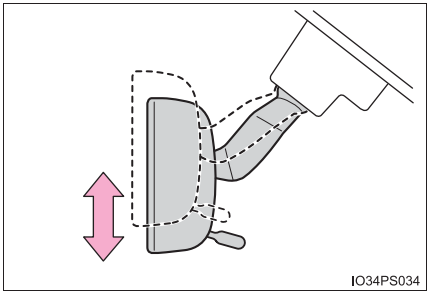
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



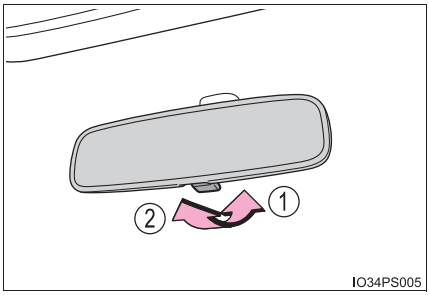
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

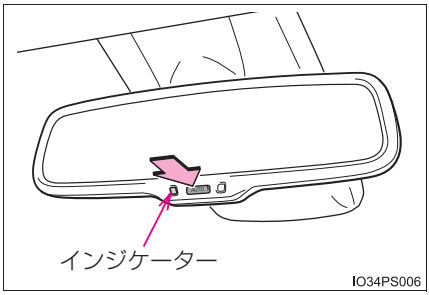
自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

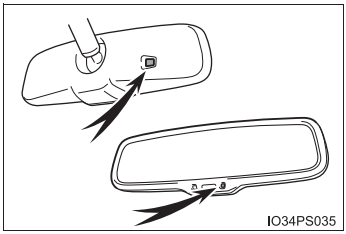
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

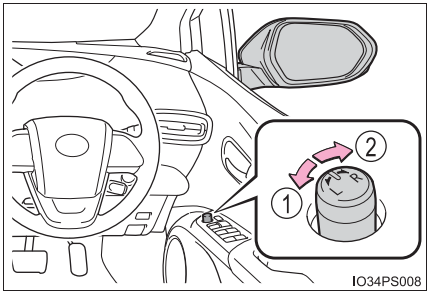
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 右



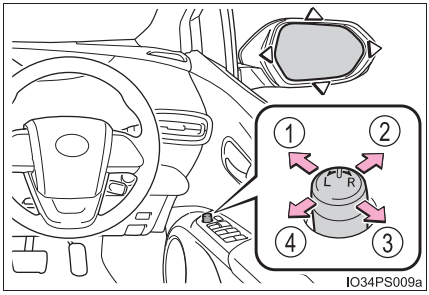
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

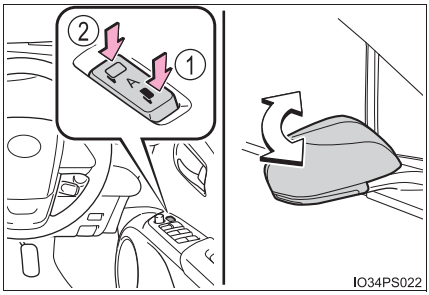


ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、ドアの施錠・解錠、パワースイッチの操作と連動して作動します。



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 462, 474）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

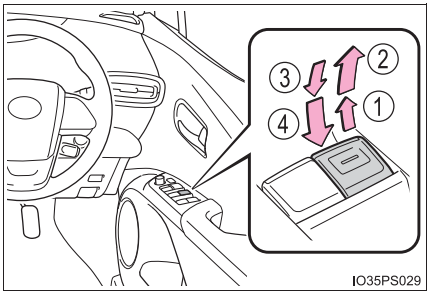
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

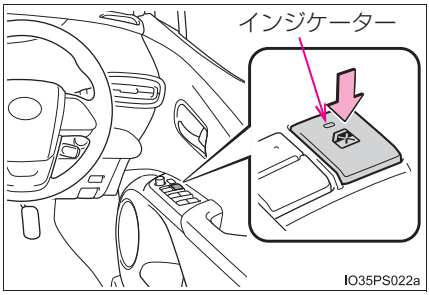
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 637）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 187）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

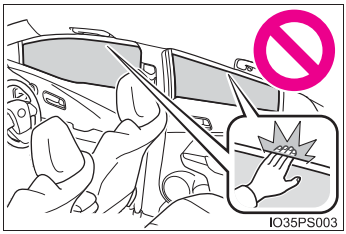
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 218）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンができます。

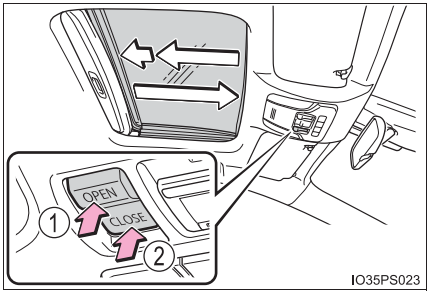
開閉する

① ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

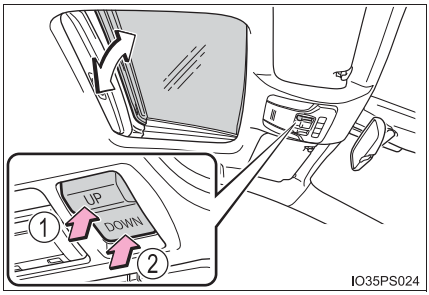


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くと全開の少し手前まで連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 637）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 187）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側または “ UP ” 側を押し続ける ※
チルトアップ位置まで開き、しばらく停止したあとチルトダウンします。その後、全開位置まで開き、再び閉じたあと停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

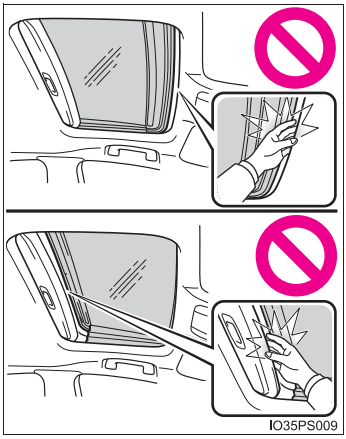
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 226
荷物を積むときの注意..... 238

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 240
EV ドライブモード..... 246
トランスミッション..... 248
方向指示レバー 254
パーキングブレーキ..... 255

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 256
AHB（オートマチックハイビーム）..... 260
フォグランプスイッチ..... 264
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 267
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 271

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 273

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 278
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 284
LTA（レーントレーシングアシスト）.....294
RSA（ロードサインアシスト）.....306
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....311
先行車発進告知機能.....327
ITS Connect.....330
ドライブモードセレクトスイッチ.....340
BSM（ブラインドスポットモニター）.....342
・BSM 機能 346
・RCTA 機能 349
クリアランスソナー.....354
パーキングサポートブレーキ.....364
プラスサポート（販売店装着オプション）.....376
S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）.....381
運転を補助する装置.....414
パノラミックビューモニター.....422

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....452
寒冷時の運転.....454

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 240

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→ P. 248）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 255）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→ P. 249）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 255）

3 シフトポジションを P にする（→ P. 249）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。

4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R から D、D から R、N から R、P から D※、P から R※）とき（D は B ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステムの出力を抑制※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 414）

■ 燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 452）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→ P. 141）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：
エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：
目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：
停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 602）

■ ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→ P. 416）すると、急発進の抑制制御も停止※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。

※ TRC の作動を停止しても、後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、所定の速度をこえなくても後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 661）

・パワースイッチを ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。後退時にアクセルペダルを踏みすぎたときなどに、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 580を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 249）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 605, 623 をご覧ください。

⚠注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。（→ P. 582）

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー★
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

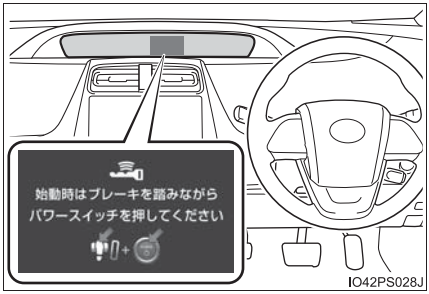
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 249）

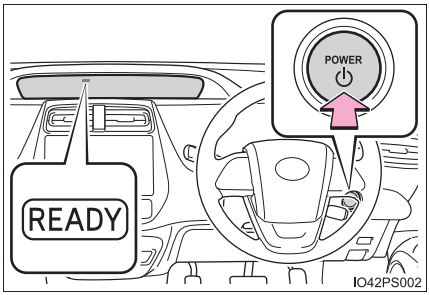


3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

プラスサポートをご使用の方は、P. 376 も併せて参照してください。

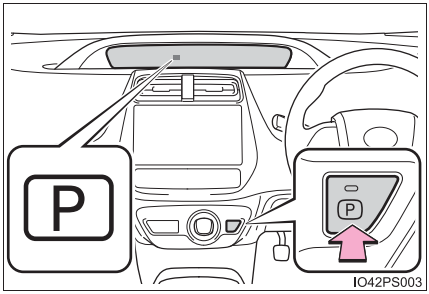
ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 255）

3 P ポジションスイッチを押す（→ P. 249）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。（→ P. 248）



4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

ハイブリッドシステム停止後、時間の経過に従って段階的に、メーター表示が消えます。（→ P. 244）

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

メインディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

メインディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 98

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 184

■外気温が低いとき

●ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ−30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 201

■ご留意いただきたいこと

→ P. 202

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 107）
トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 101

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 562

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 251

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしてもアクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができます。システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■メーター表示について

パワースイッチを OFF にすると、各表示が次のように消えます。

●約 2 秒後にシフトポジション表示灯が消えます。

●約 30 秒後にマルチインフォメーションディスプレイや時計などが消えます。（30 秒間経過する前でも、ドアを施錠すると各表示はすぐに消えます）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 638

⚠警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P. 580）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを P にし、パワースイッチを押してください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メインディスプレイの「アクセサリー」・「イグニッション ON」の表示、または走行距離表示（→ P. 131）が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

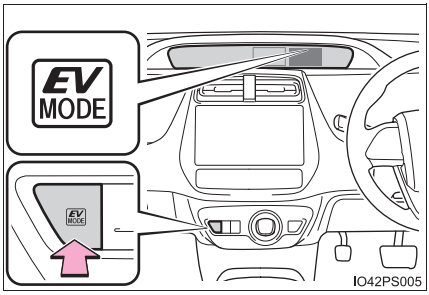
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 138）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 138）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■走行モード（→ P. 340）の切りかえについて

EV ドライブモードとエコドライブモード／パワーモードは併用することができます。
ただし、パワーモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなることがあります。

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

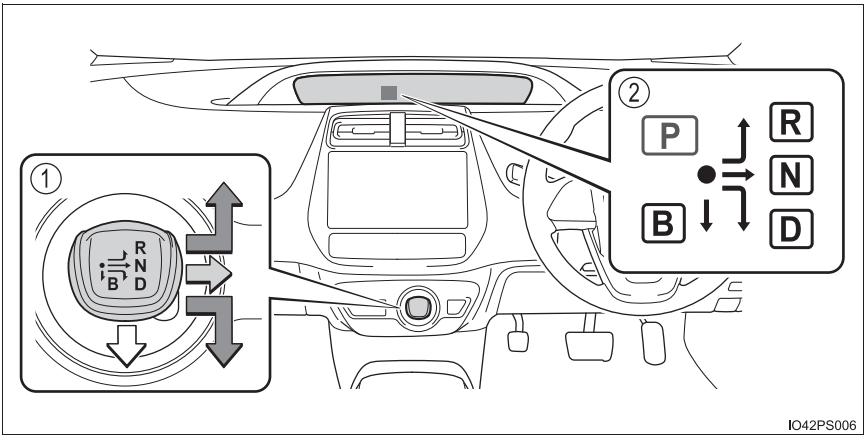
⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。
シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが●の位置に自然にもどります。

D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

B へ切りかえるときは、下側に操作します。
シフトポジションが D のときのみ、B に切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D・B 以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

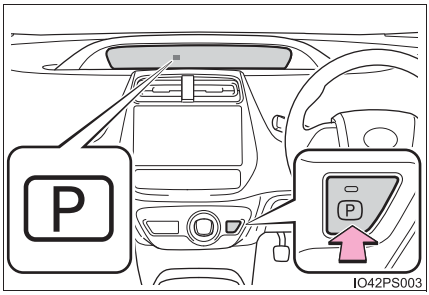
→ P. 340

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。シフトポジション表示灯で、P の位置が点灯していることを必ず確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

知識

■シフトポジションについて

●パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作してもPから他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

●D 以外から直接、B に切りかえることはできません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき

・P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・P または N から、B を選択したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※1
・車両が前進しているときに R を選択したとき ※2
・車両が後退しているときに D を選択したとき ※3
・R から B を選択したとき

※1 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

※2 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

●一定以上の速度で走行中にNを選択した場合は、シフトレバーをNの位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ドライブスタートコントロールについて

→ P. 227

■自動 P ポジション切りかえ機能について

●パワースイッチがONモードの状態でシフトポジションがP以外のとき、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。※

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の制御停車中に次を検出したときは、自動で P ポジションに切りかわる場合があります。

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。意図せぬ車両の急停止を防止するため、車両を完全に停止させてからパワースイッチを押してください。

■シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 640 を参照してください。

■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→ P. 643

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、画面の指示に従って操作し直してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバー／ P ポジションスイッチについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチやシフトレバーにふれないでください。

⚠注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
- ●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

■シフトポジションの切りかえ操作について

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、約20秒待ってから操作し直してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

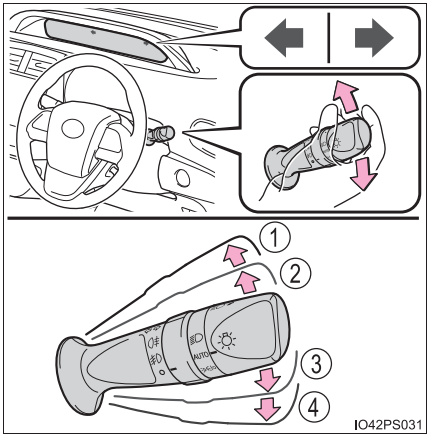
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

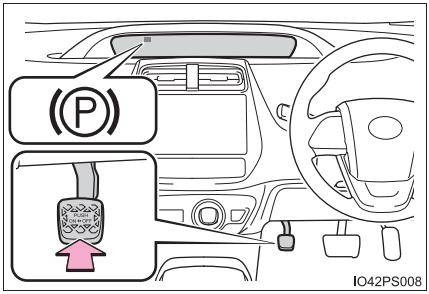
■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

各方向指示灯が正常に点滅しているか、確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車するとき

→ P. 226

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 455

注意

■走行前の注意

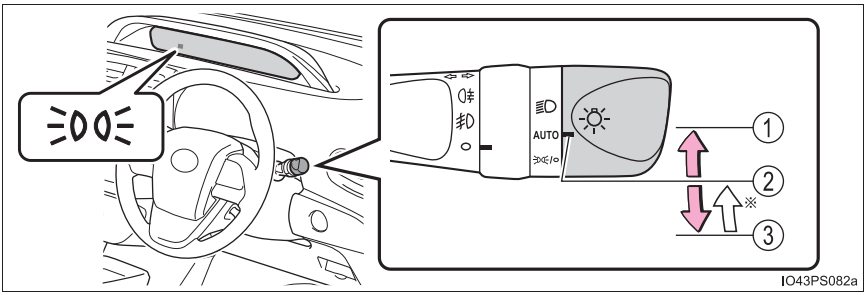
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※1	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③ ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、薄暮灯★・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③ による点灯状態が切りかわります。

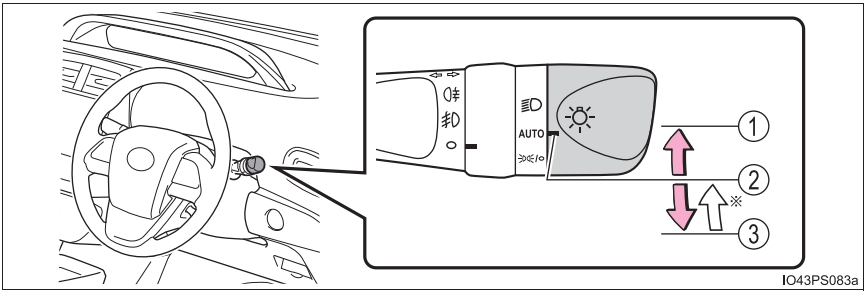
※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

スイッチを③ の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① か③ の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

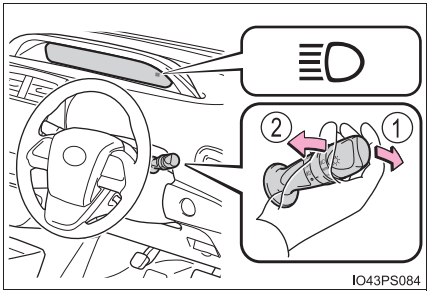
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

■AUTO モードの作動条件

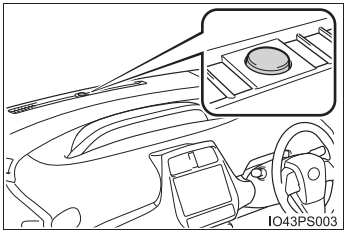
パワースイッチが ON モードのとき

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
また、エアコン作動のさまたげとなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが OFF で運転席ドアを開けたとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯したままの状態だと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 661）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

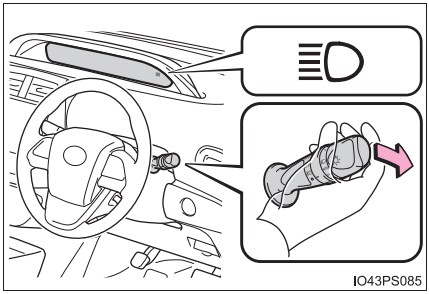
■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

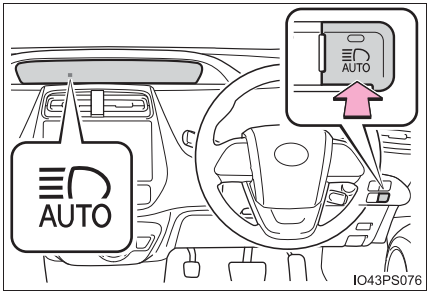
1 ランプスイッチを AUTO または

にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



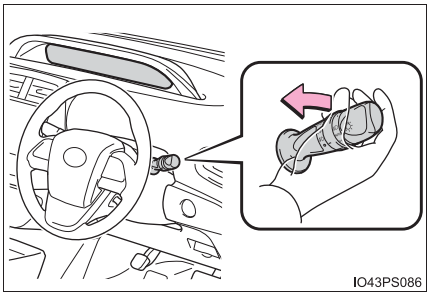
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

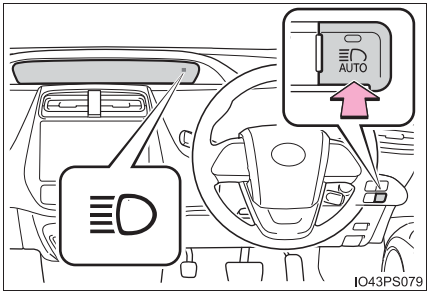


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ★

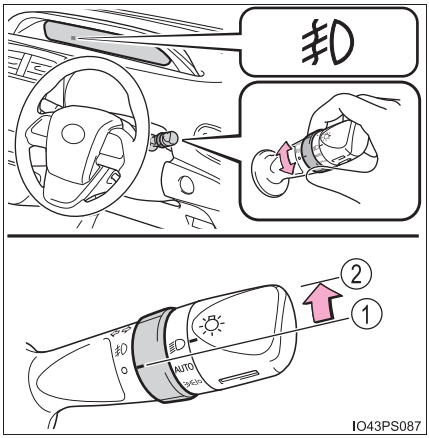
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① 消灯する

② 点灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

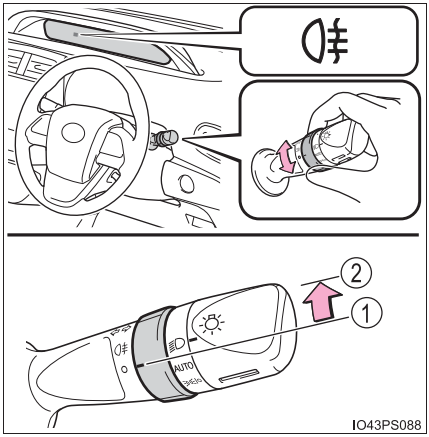
▶ リヤフォグランプ装着車

① 消灯する

② 点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

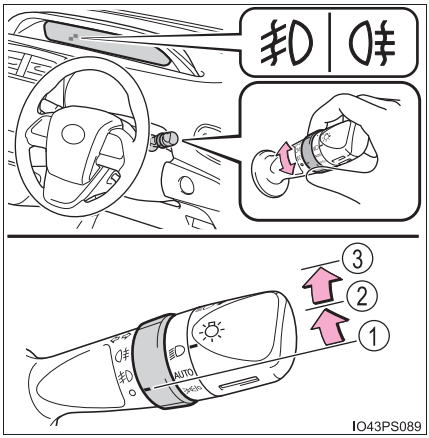
① 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドランプまたはフロントフォグランプ（装着車のみ）が点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー装着車

① 停止

② 間欠作動

③ 低速作動

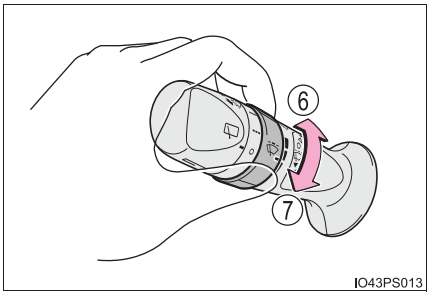
④ 高速作動

⑤ 一時作動

間欠作動（ ）を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

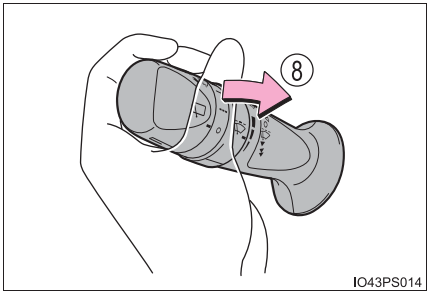
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

AUTO モード（ AUTO ）を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

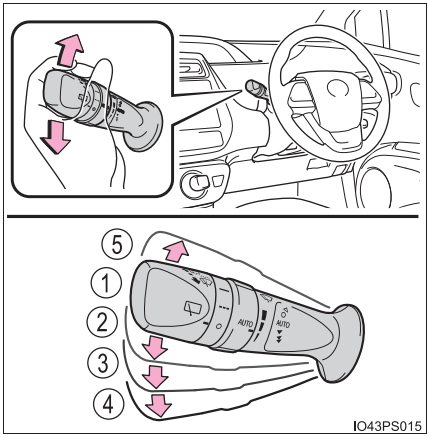
① ○ 停止

② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

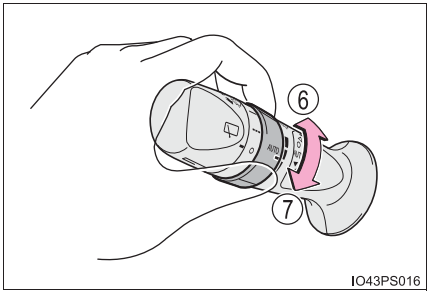
⑤ △ 一時作動



AUTO モード（ AUTO ）が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

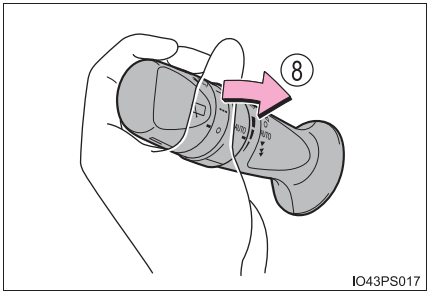
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

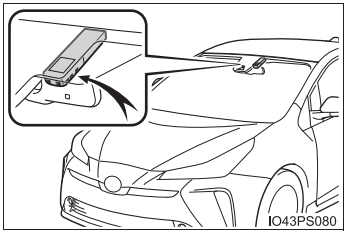
■液だれ防止作動（雨滴感知式ワイパー装着車）

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■カスタマイズ機能

AUTO モードの作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）★

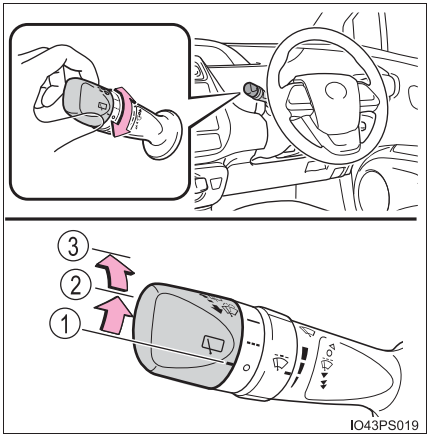
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① ○ 停止

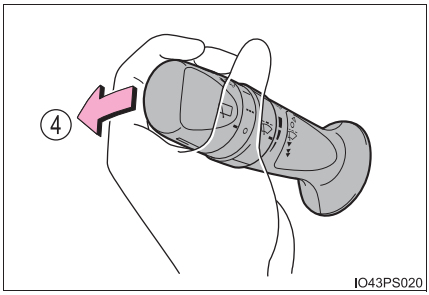
② - - - 間欠作動

③ — 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■ガソリン価格設定画面について

約 5L 以上給油したあとでパワースイッチを ON モードにすると、マルチインフォメーションディスプレイにガソリン価格設定画面が自動的に表示されます。（→ P. 115）

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

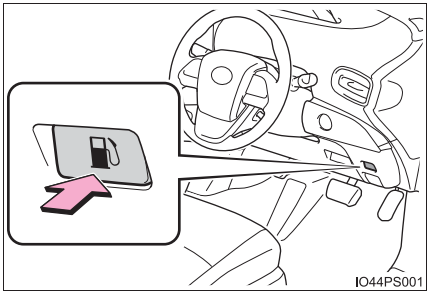
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

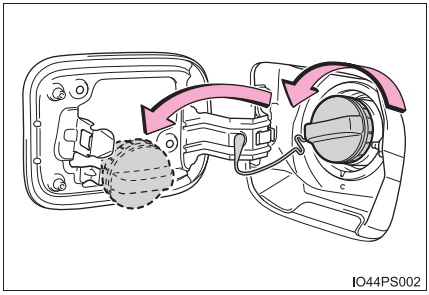
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを押して、給油扉を開く



2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

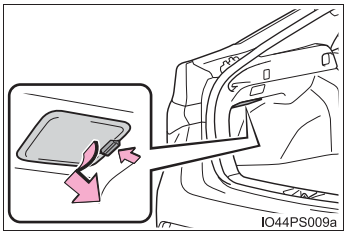


知識

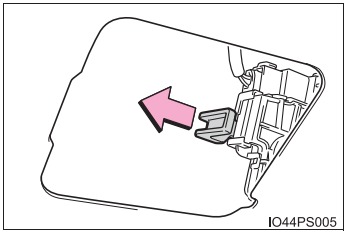
■車内のスイッチで給油扉が開かないとき

給油扉が開かないときは、次の方法で開けることができます。

1 ラゲージルームを開け、ラゲージルームランプ下部にあるカバーを取りはずす



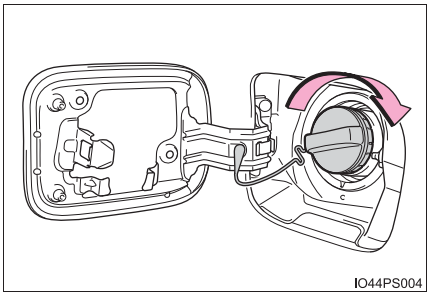
2 レバーを手前に引き、給油扉が開いたことを確認する



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 284

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 294

◆ AHB（オートマチックハイビーム）

→ P. 260

◆ RSA（ロードサインアシスト）

→ P. 306

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 311

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 327

警告

■ Toyota Safety Sense について

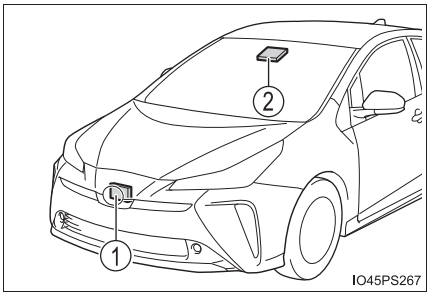
Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

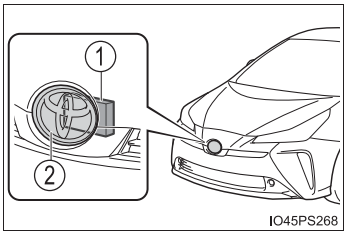
■**レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー



レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

警告

■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

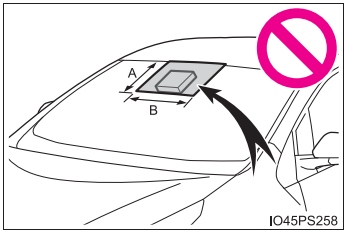
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 461, 473）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■ **レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く ・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 461, 473）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 284）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 287）

システムの作動対象

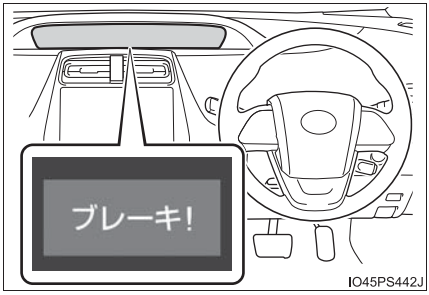
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 289
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 291

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

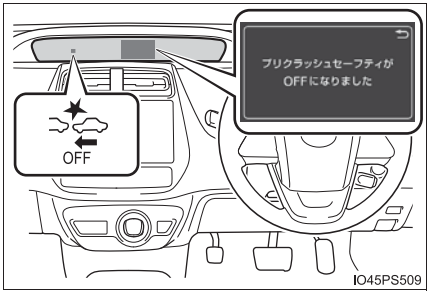
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 159）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 159）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

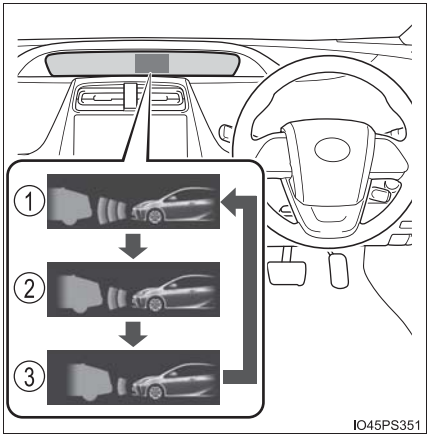
変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

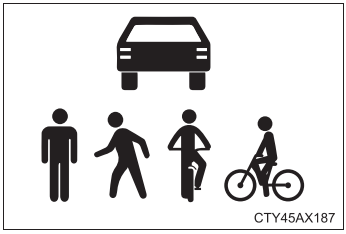
●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 291）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

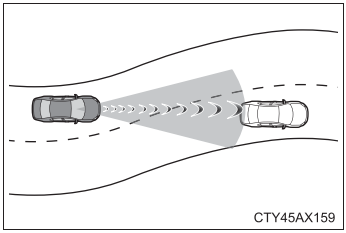
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

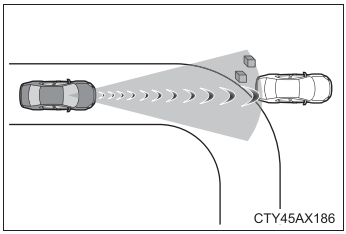
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

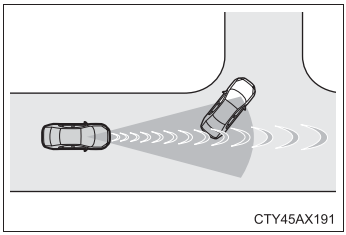
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき


CTY45AX159

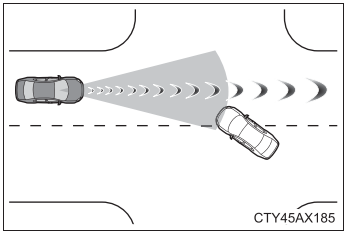
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき


CTY45AX186

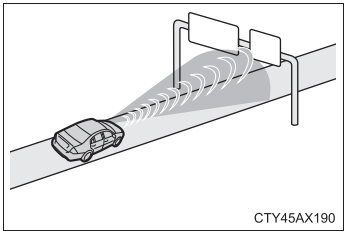
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTY45AX191

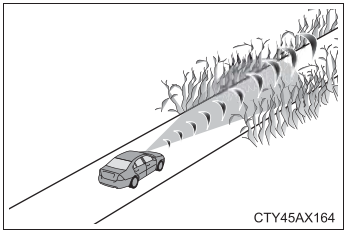
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

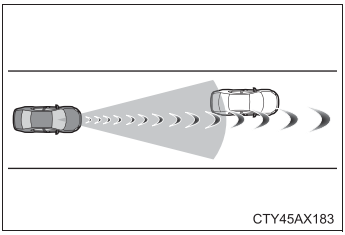


・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

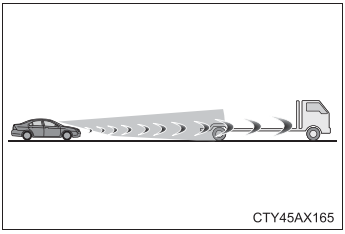
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

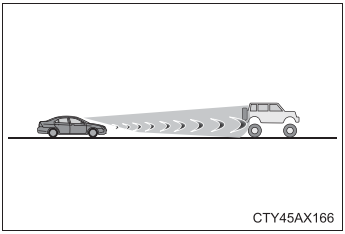
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき


CTY45AX183

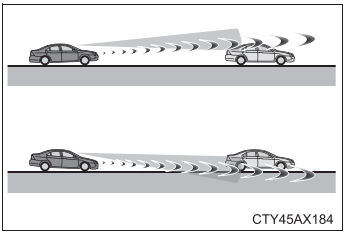
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）


CTY45AX165

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2　人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 416）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

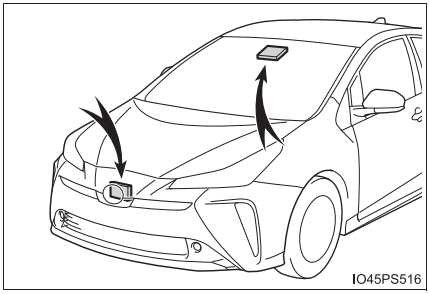
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P. 311）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

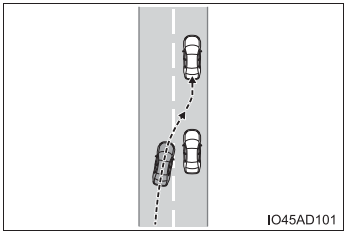
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

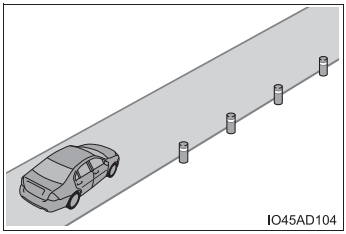
- 先行車追従表示中（→ P. 301）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



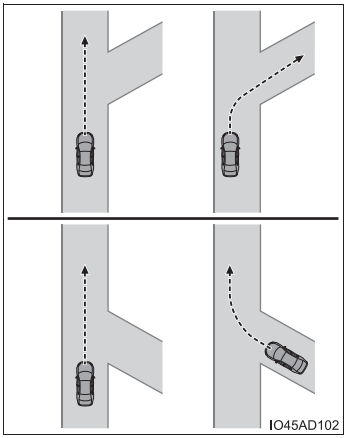
- 先行車追従表示中（→ P. 301）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 301）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 301）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

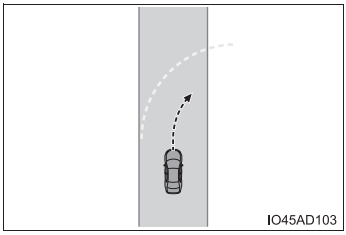
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

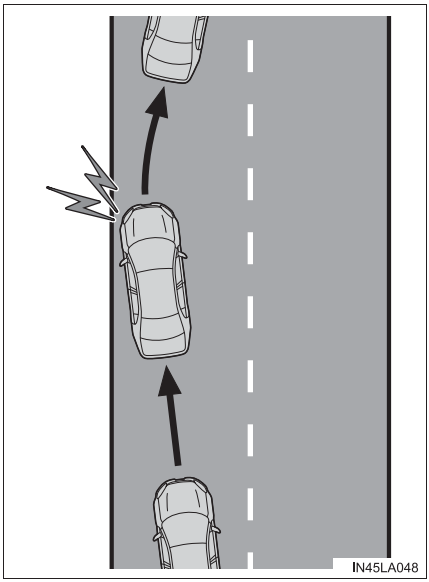
LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

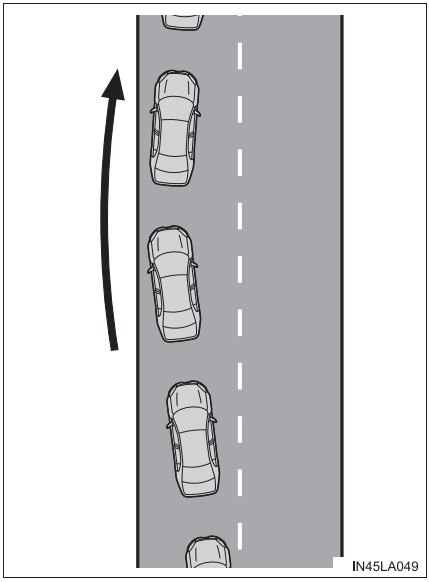


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

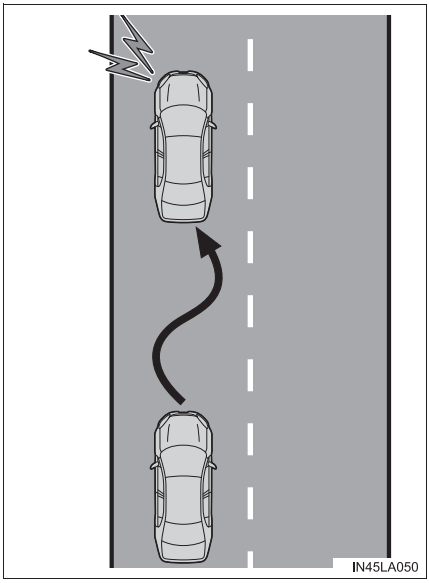
一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



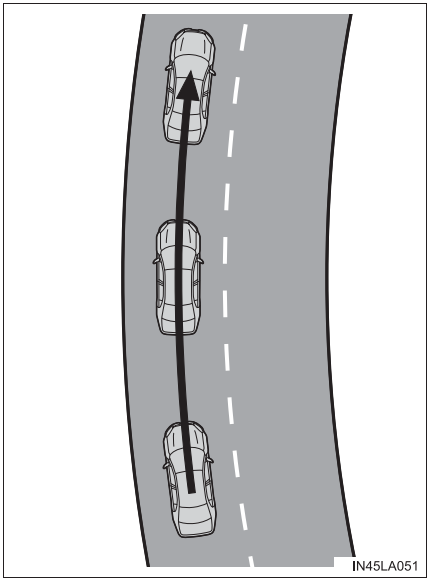
■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



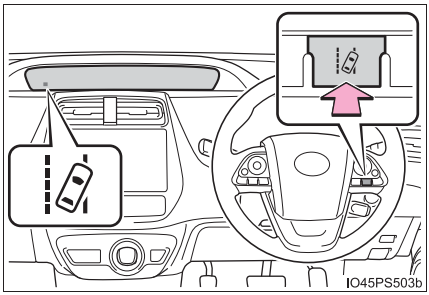
設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



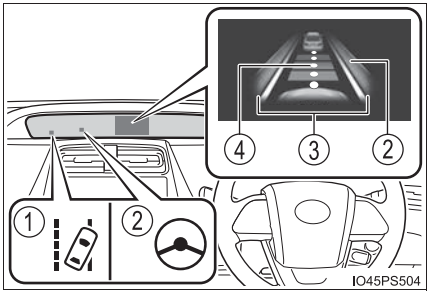
マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



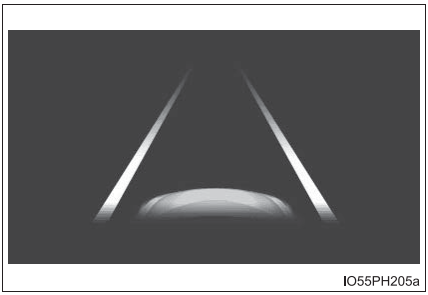
② ステアリング制御表示灯／ハンドル操舵支援作動表示

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中のとき、表示灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに作動画面が表示されます。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

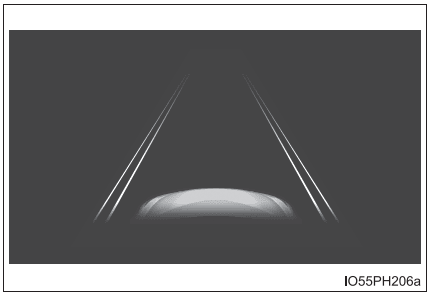
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 305）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （操舵支援）を「有」に設定しているとき（→ P. 135）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 304）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （ふらつき警報）を「有」に設定しているとき（→ P. 135）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 305）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で （操舵支援）を「有」かつ LTA （センタートレース制御）を「有」に設定しているとき（→ P. 135）

・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）

・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき

・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

・方向指示レバーを操作していないとき

・急カーブを走行していないとき

・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 305）

・一定以上の加減速がないとき

・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

・TRC または VSC を OFF にしていないとき

・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 304）が行われていないとき

・車線中央付近を走行しているとき

・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 302）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 303）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

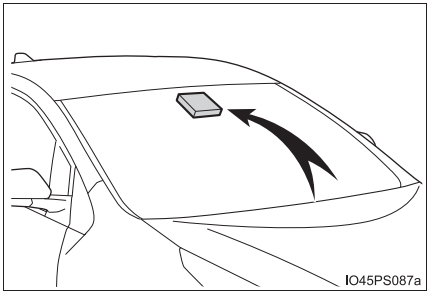
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 159）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

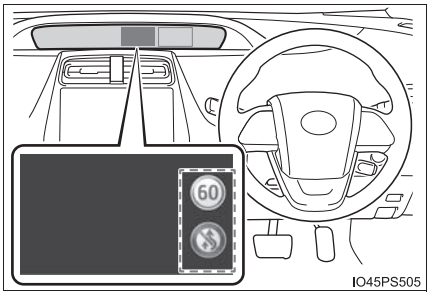
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

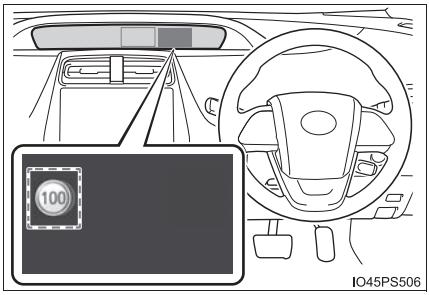
メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 走行支援システム連携画面を選択したときは、最大2つの標識をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P. 135）



● 走行支援システム連携画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識がメインディスプレイに表示されます。（→ P. 129）
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

終わり ※

一時停止

※ メインディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がメインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→P. 159

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●メインディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイとメインディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 314）
- 定速制御モード（→ P. 319）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect装着車のみ）（→ P. 320）

システムの構成部品

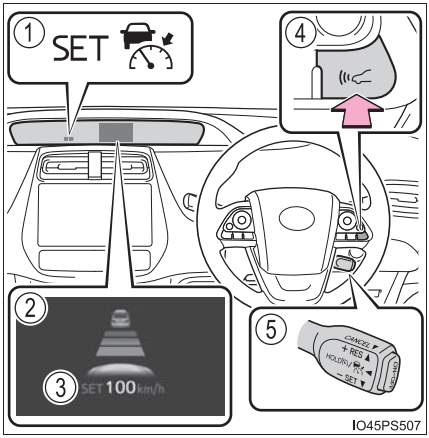
① 表示灯

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ クルーズコントロールスイッチ



警告

■**安全にお使いいただくために**

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P. 325
・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P. 326

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

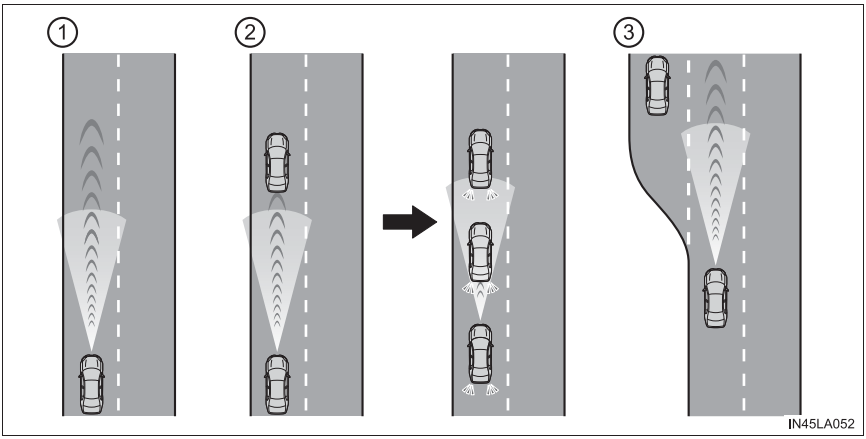
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行 ：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

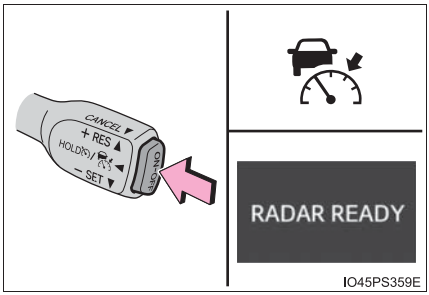
速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

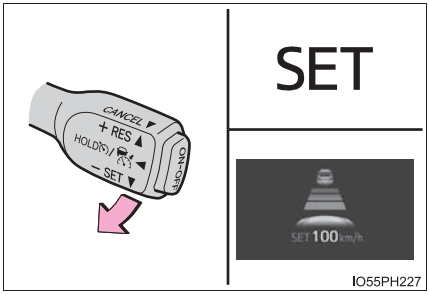
ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 319）



2 希望の車速(約30km/h以上)までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

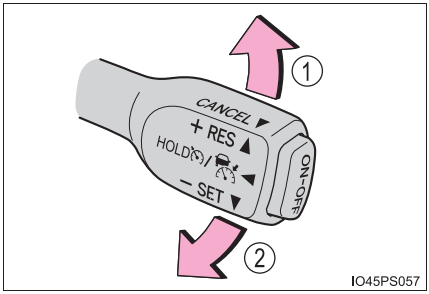
レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● レバーで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 319）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

① 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

② レバーを下げる

車間距離を変更する（車間制御モード）

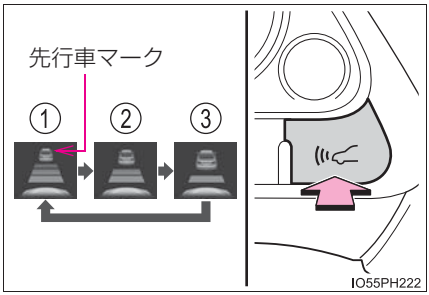
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

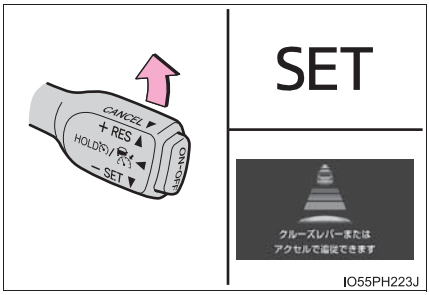
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

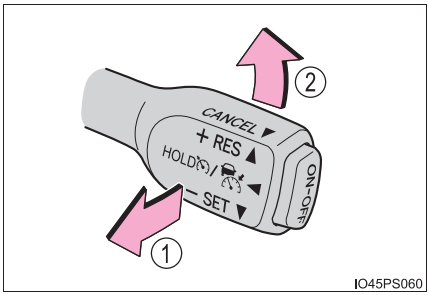


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

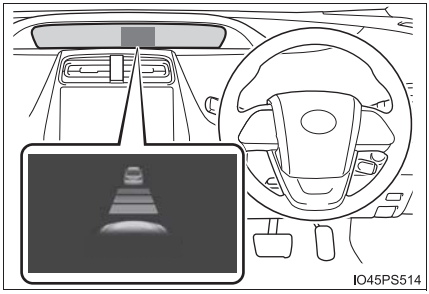
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

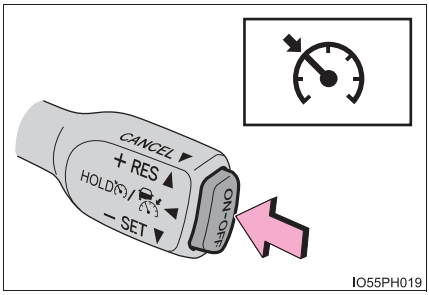
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



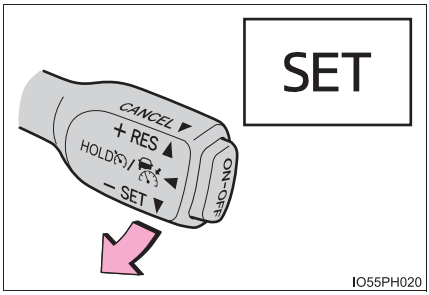
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 316）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 318）



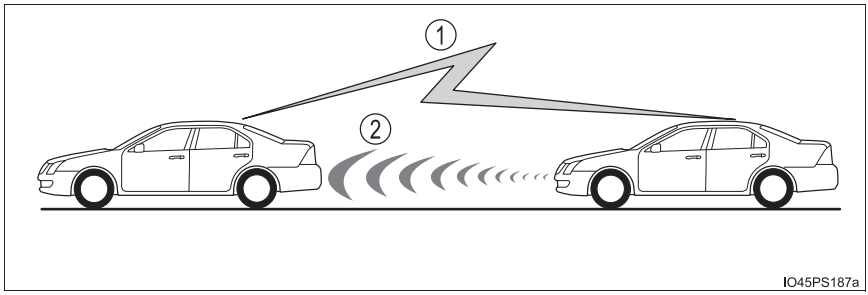
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 330 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② レーダー

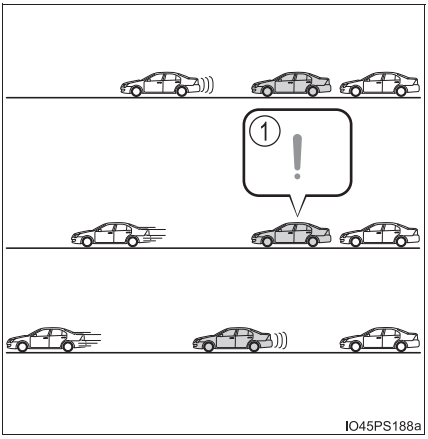
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

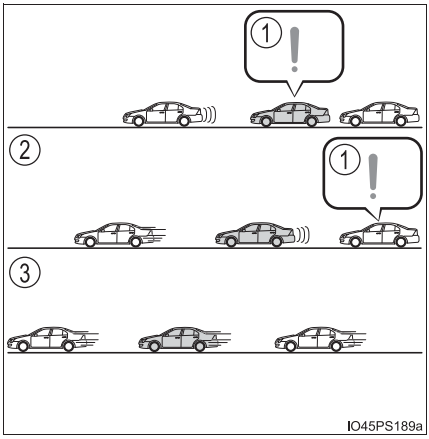
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



① 先行車の発進に遅れて気付く

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



① 先行車の発進に素早く気付く
② スムーズな加速で追従
③ 短時間で渋滞解消

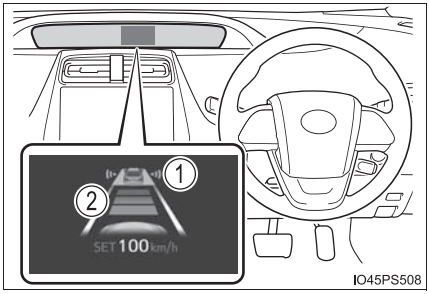
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。(→ P. 317)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
(ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます)

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した
この場合、自動で P ポジションに切りかわる場合があります。（→ P. 251）

●プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→ P. 376）が作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→ P. 376）が作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割り込んできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 283、596）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

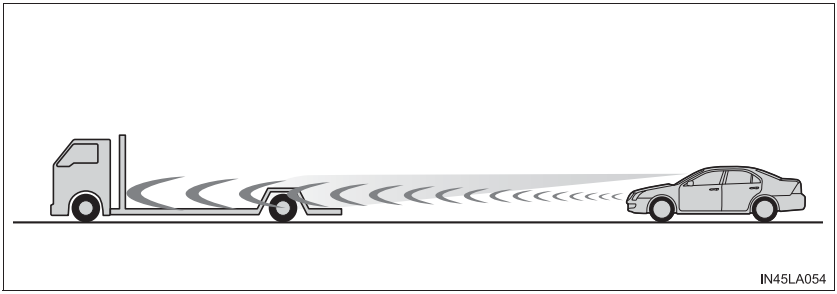
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 318）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

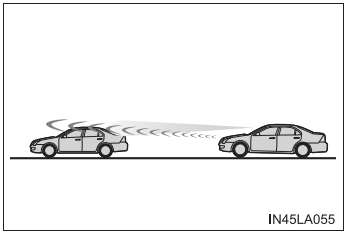
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



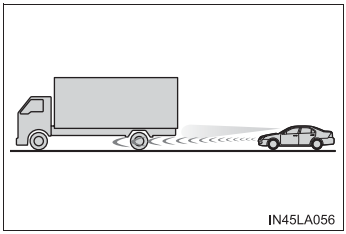
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



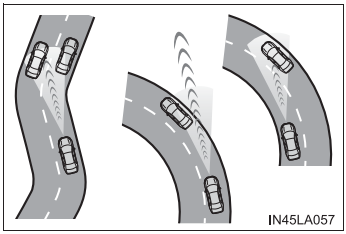
●先行車の車高が極端に高いとき



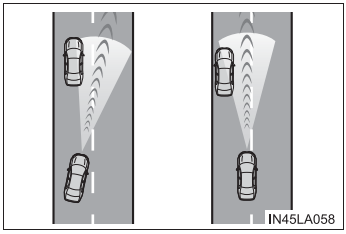
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

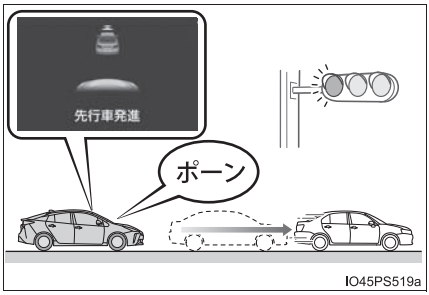
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 159）

●先行車発進告知機能の告知距離

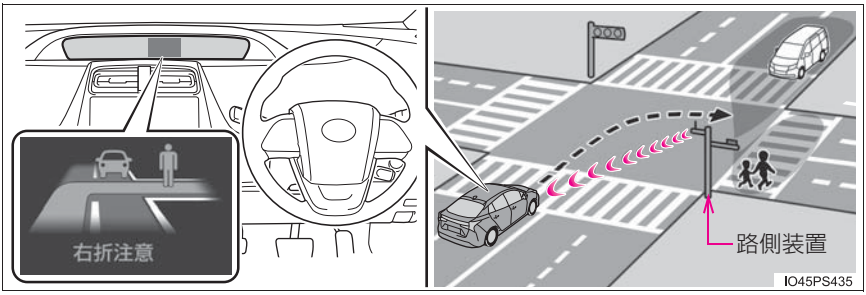
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 159）

ITS Connect ★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 320 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 338）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

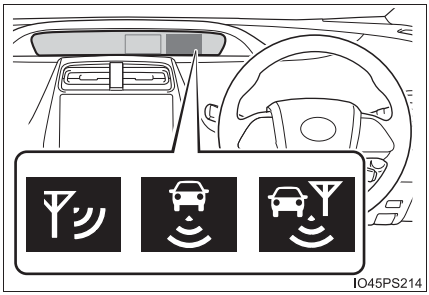
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 333）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メインディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

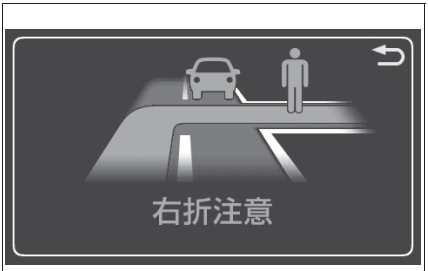
状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

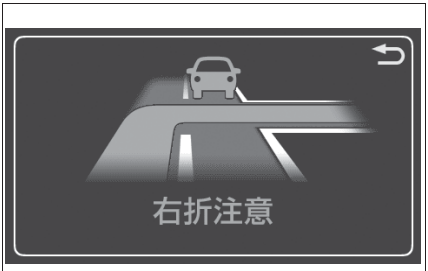
交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



IO45PS196a

▶ 対向車のみを感知する交差点

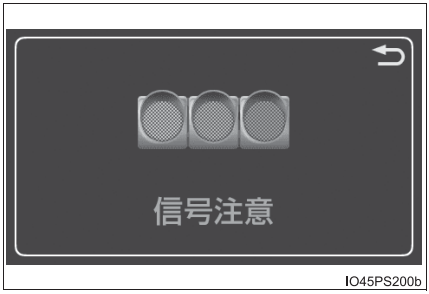


IO45PS195a

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

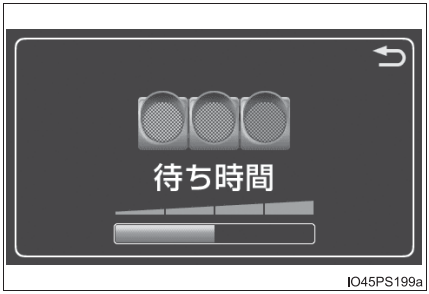


IO45PS200b

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



IO45PS199a

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

IO45PS434

■ 一時停止注意喚起 ※1（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときにブザーと表示で注意喚起を行います。

IO45PS255

■ 前方停止車両存在案内 ※1（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45PS256

■ わき道車両存在案内 ※1（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45PS257

※1 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ナビゲーション／地図画面を操作する／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能を使用する」を参照してください。

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステムのみ

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

IO45PS372

■ 通信車両接近通知の使い方

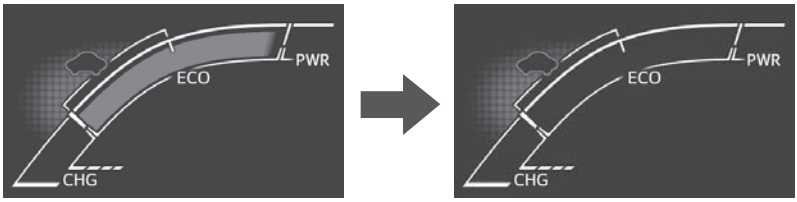
● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

ハンドルのメーター操作スイッチの〈または〉を押して を選択し、∧または∨を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

信号情報利用型エコアクセルガイド

赤信号により交差点で停止すると予測されるときに、ハイブリッドシステムインジケーターのエコアクセルガイド（→ P. 141）のゲージを 0 にし、運転者が余分な加速をし続けないように支援します。



IO45PS251

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。
・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内
・信号情報利用型エコアクセルガイド

● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。
・一時停止注意喚起 ※
・右折時注意喚起
・前方停止車両存在案内 ※
・わき道車両存在案内 ※

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。
・赤信号注意喚起
・一時停止注意喚起 ※
・右折時注意喚起
・信号情報利用型エコアクセルガイド

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム＆ETC2.0ユニット装着車のみ

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●信号情報利用型エコアクセルガイドは、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号・黄信号または矢印信号のとき
・遅い速度で走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

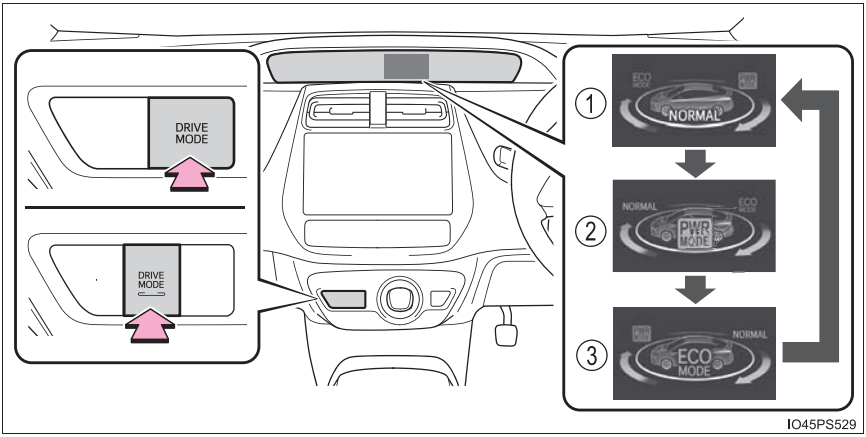
ドライブモードセレクトスイッチ

走行状況に応じて、3 種類から走行モードを選択することができます。

走行モードについて

目的の走行モードに切りかわるまで、スイッチをくり返し押す

スイッチを押すたびに走行モードが切りかわり、エコドライブモード表示灯／パワーモード表示灯の点灯状態がかわります。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモードの選択中は、エコドライブモード表示灯／パワーモード表示灯がともに消灯します。

② パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

パワーモードの選択中は、パワーモード表示灯が点灯します。

③ エコドライブモード

ノーマルモードにくらべて、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードの選択中は、エコドライブモード表示灯が点灯します。

エアコンの使用時は、エコ空調モード（→ P. 461, 473）に自動的に切りかわり、より燃費のよい走行につながります。

知識

■走行モードの解除について

●パワーモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。

●ノーマルモード、およびエコドライブモードは、スイッチ操作でほかのドライブモードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

■EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→ P. 247

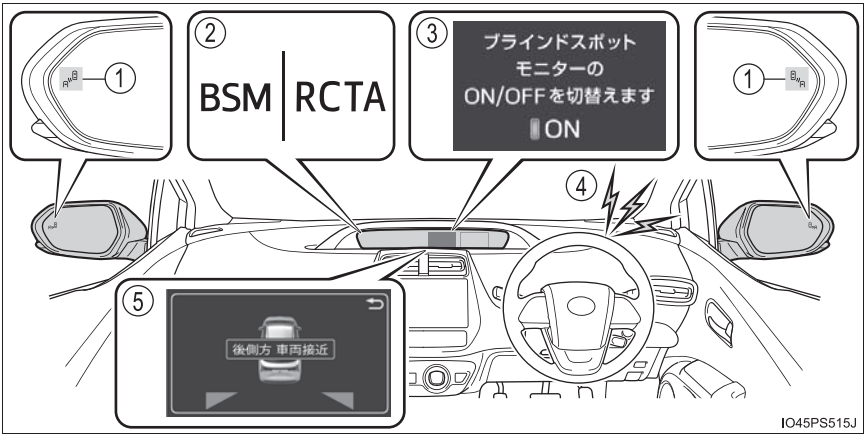
BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能★
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



① ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能★：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

② BSM 表示灯／ RCTA 表示灯★

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

③ マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

④ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

⑤ RCTA 検知画面（RCTA 機能のみ）★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、RCTA 検知画面がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で BSM ／ RCTA★の ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 159）

OFF（停止）に切りかえて、BSM ／ RCTA★を停止させた場合、再度マルチインフォメーションディスプレイから ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について★

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 345）。センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置・向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアミラーインジケーターの明るさを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

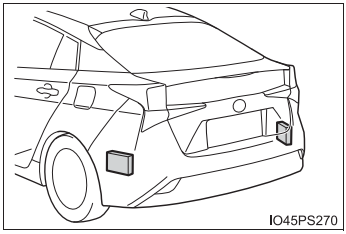
R 202 -LSC077

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパーの内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- ●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
- ●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
  - ・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - ・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- ●センサーを分解しない
- ●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない
- ●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- ●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

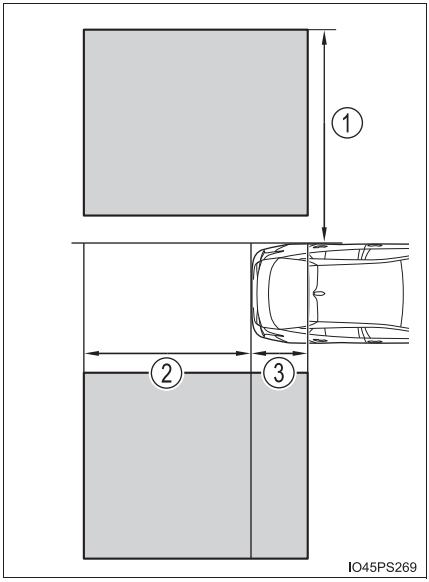
検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 3.5 m の領域

車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

③ リヤバンパーから約 1 m 前方の領域



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能または RCTA 機能★を ON にした直後

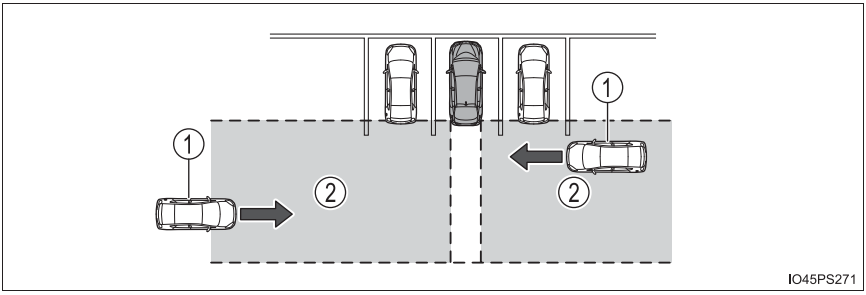
●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA 機能★

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

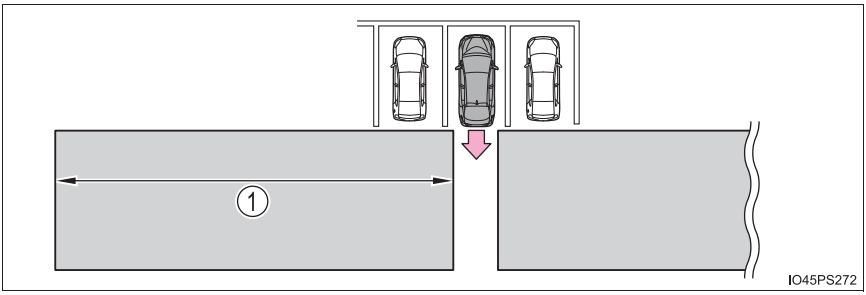
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA 機能★で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h のあいだのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

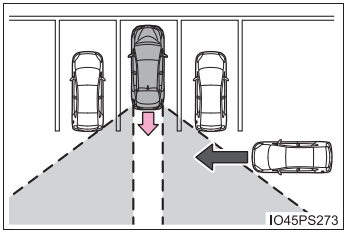
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

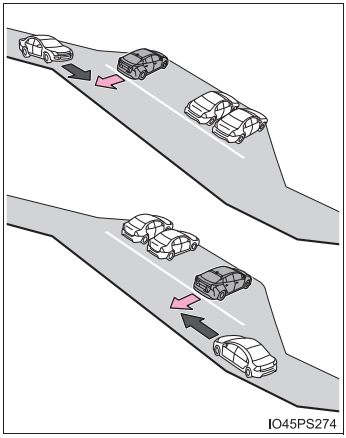
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

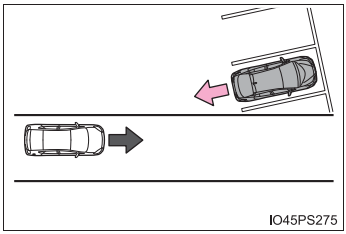
●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・高速で接近する車両

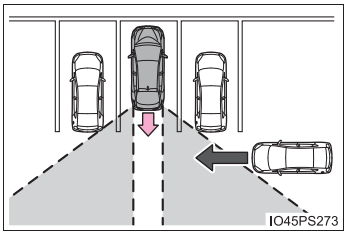
・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・浅い角度での駐車



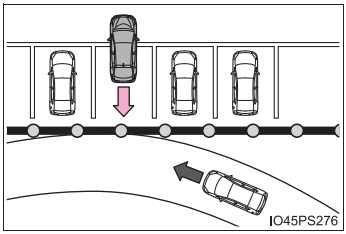
・RCTA 機能を ON にした直後
・RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・自車の横を通過する車両

・駐車場に面した道を走行する車両



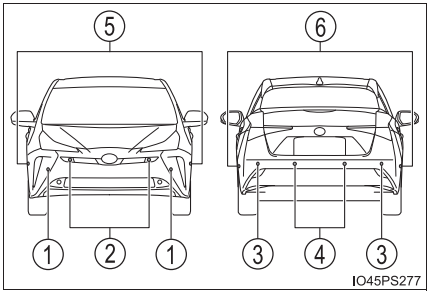
・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

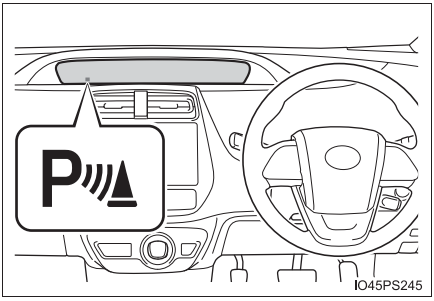
① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー
⑤ フロントサイドセンサー
⑥ リヤサイドセンサー



クリアランスソナーの設定変更

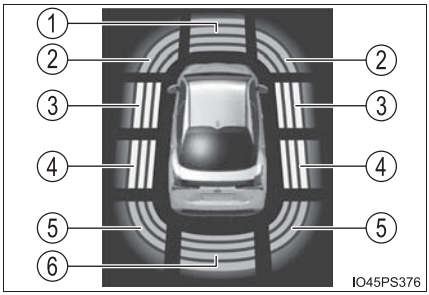
マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）から、クリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。



OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた



① フロントセンサー作動表示

② フロントコーナーセンサー作動表示

③ フロントサイドセンサー作動表示

④ リヤサイドセンサー作動表示

⑤ リヤコーナーセンサー作動表示

⑥ バックセンサー作動表示

・センサーが作動している場合は、灰色で作動表示されます。

・サイドエリアのスキャンが完了するまでのあいだは、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

距離表示の見方

表示※	障害物までのおおよその距離		
	ー	フロントコーナー& フロントセンサー& フロントサイドセンサー	リヤコーナー& バックセンサー& リヤサイドセンサー
 （点灯）	遠い ↑	**フロントセンサー**： 約 100cm ～ 60cm	**バックセンサー**： 約 150cm ～ 60cm
 （点灯）		**コーナーセンサー**： 約 60cm ～ 45cm **サイドセンサー**： 約 100cm ～ 70cm **フロントセンサー**： 約 60cm ～ 45cm	**コーナーセンサー**： 約 60cm ～ 45cm **サイドセンサー**： 約 100cm ～ 70cm **バックセンサー**： 約 60cm ～ 45cm
 （点灯）		**コーナーセンサー**： 約 45cm ～ 35cm **サイドセンサー**： 約 70cm ～ 30cm **フロントセンサー**： 約 45cm ～ 35cm	**コーナーセンサー**： 約 45cm ～ 35cm **サイドセンサー**： 約 70cm ～ 30cm **バックセンサー**： 約 45cm ～ 35cm
 （点滅）	↓ 近い	**コーナーセンサー**： 約 35cm 以下 **サイドセンサー**： 約 30cm 以下 **フロントセンサー**： 約 35cm 以下	**コーナーセンサー**： 約 35cm 以下 **サイドセンサー**： 約 30cm 以下 **バックセンサー**： 約 35cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。（→ P. 355）

ブザーについて

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約35cm以下
  ・フロントサイドセンサー、リヤサイドセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
  ・フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、最も近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● 障害物を車両の前後で同時に感知しているときは、フロント側、リヤ側それぞれで、障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 661）

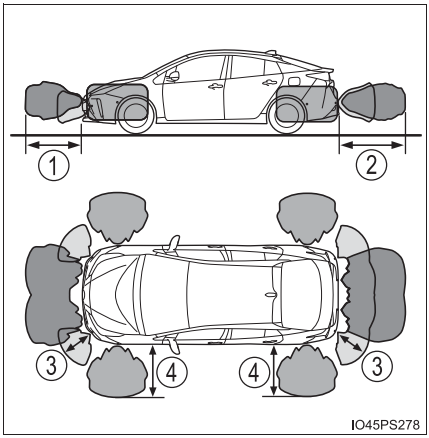
障害物を感知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

④ 約 100cm（約 1.0m）
  ・感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
  ・サイドエリアの障害物の感知については P. 359 を参照してください。
  ・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



障害物を感知できる範囲を変更することができます。（→ P. 661）

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

●フロントコーナーセンサー：

・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●フロントサイドセンサー／リヤサイドセンサー：

・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき
・ハンドルを約 90 度以上きっているとき

●フロントセンサー：

・シフトポジションが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー／バックセンサー：

シフトポジションが R にあるとき

■クリアランスソナーの割り込み表示について

→ P. 385

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物に近付きすぎると、表示が出なかったり、ブザーが鳴らない場合があります。

●センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●オーディオ★・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

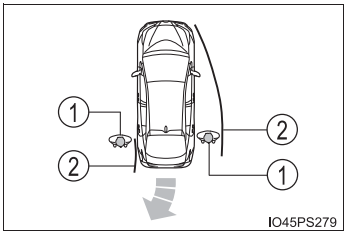
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み警報機能

前進または後退時、サイドエリアの障害物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

①障害物

②計算した車両経路



■サイドエリアの障害物について

●サイドエリアの障害物は、走行しながらサイドセンサーでスキャンすることで感知し、最大約 2 分間保持します。

●スキャンが完了するまでは、サイドエリアに障害物があっても感知できない場合があります。パワースイッチを ON モードにしたあと、しばらく走行するとスキャンが完了します。

●サイドセンサーで車・人・動物などを感知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの感知範囲内から出ても感知している状態が継続します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車速が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが自車付近にあるとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- 自車付近にクリアランスソナーを装備している別の車両があるとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■**サイドセンサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●サイドエリアのスキャン（→ P. 359）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できない場合があります。

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。

●サイドエリアのスキャン完了後でも、周囲の環境によっては障害物を感知できなくなることがあります。このとき、サイドセンサーの作動表示（→ P. 355）が一時的に表示されなくなります。

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナー･バックセンサーの作動表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

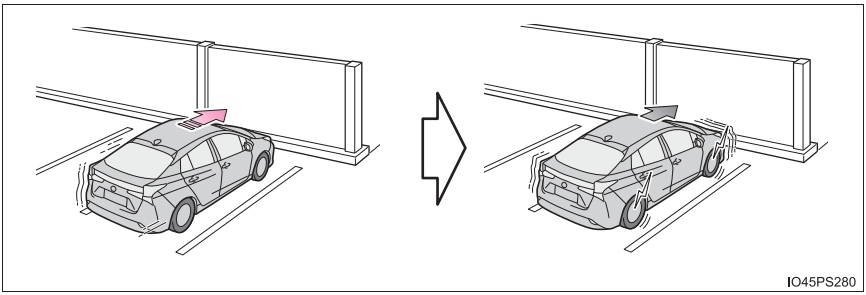
パーキングサポートブレーキ★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

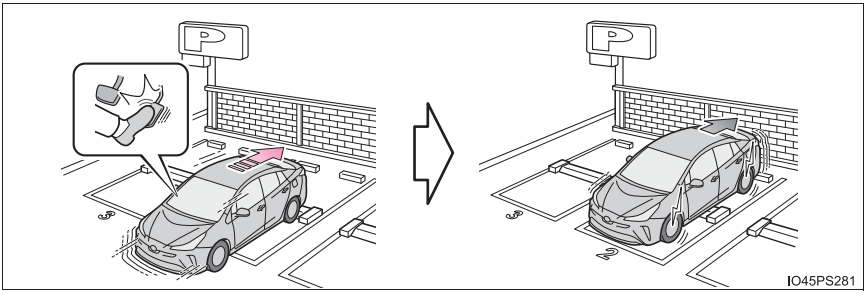
システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

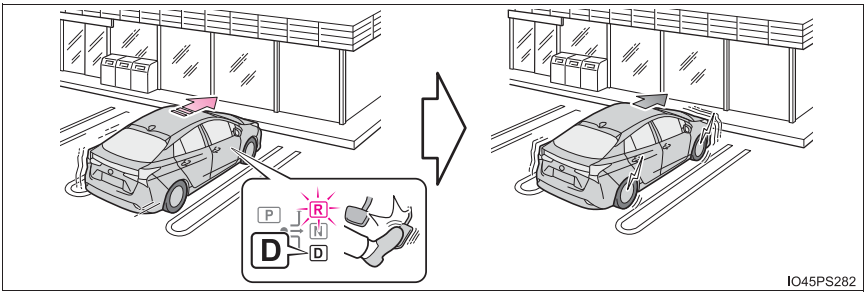


◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



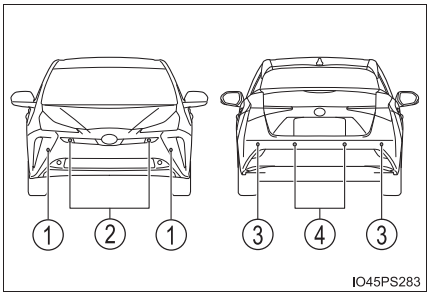
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



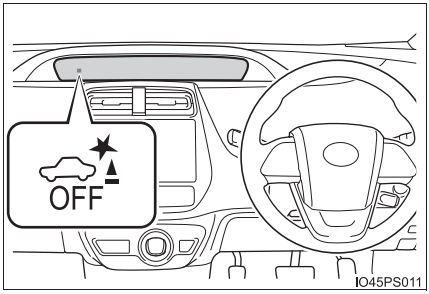
センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



パーキングサポートブレーキの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）から、パーキングサポートブレーキのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

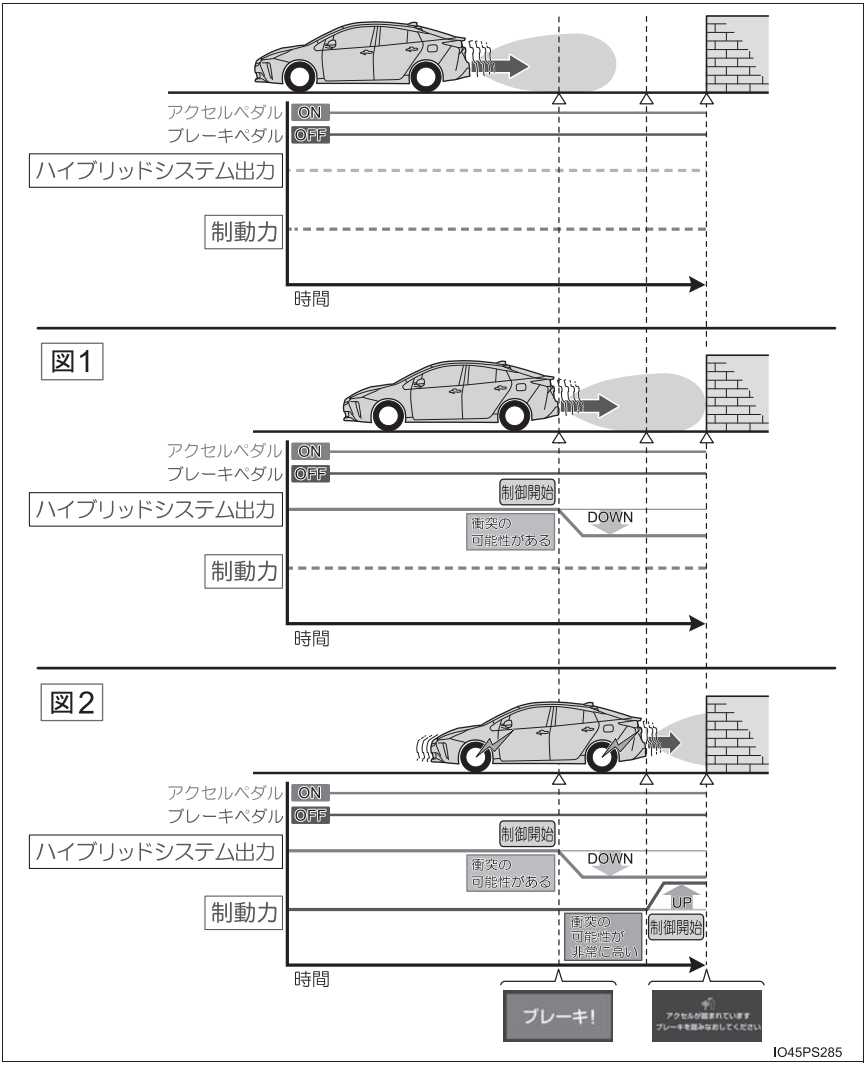


パーキングサポートブレーキが OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 366, 373）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキを ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

▶ ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶ ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

▶ ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF表示灯	ブザー
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	加速抑制中です	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	ブレーキ!	消灯のまま	
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください	点灯	

知識

■センサーの感知範囲について

パーキングサポートブレーキの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 357）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキは作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキが停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキが停止したときに、パーキングサポートブレーキを復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキを ON にし停止を解除（→ P. 366）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから、再度 ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■クリアランスソナーのブザーについて

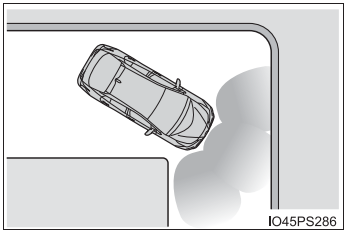
クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→ P. 354）、パーキングサポートブレーキを停止させていなければ（→ P. 366）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

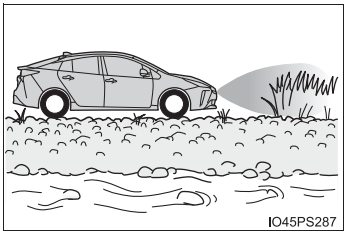
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき



・砂利道・草むらなどを走行するとき



・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

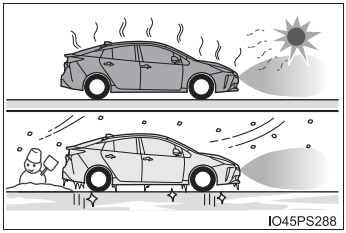
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

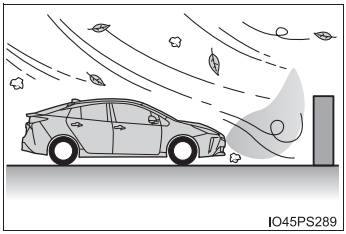
・感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
・車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合


IO45PS288

・風が強いとき


IO45PS289

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが自車付近にあるとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・シフトポジションが N で走行しているとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中のパーキングサポートブレーキについて

→ P. 383

■補機バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したとき

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 366）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠注意

■センサーの故障を防ぐために

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 自動洗車機を使用する場合

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

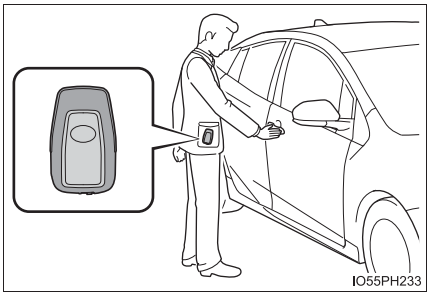
プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート電子キー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→ P. 182, 187）

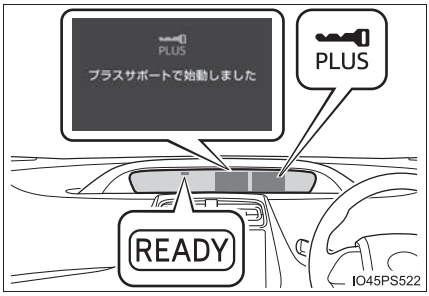
パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→ P. 240）

3 READY インジケーターが点灯し、「プラスサポートで始動しました」というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。



4 メーター操作スイッチの を押してメッセージを非表示にする

を押すまで、「プラスサポートで始動しました」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■プラスサポートを正しく使用するために

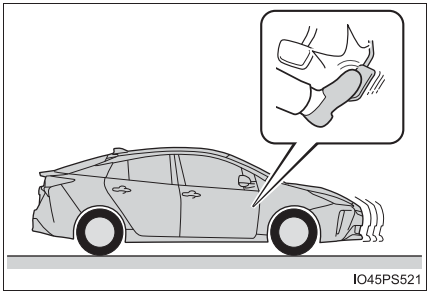
●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

●サポキーと黒色の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

●ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→ P. 127）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■**安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**急アクセル時加速抑制が作動したとき**

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

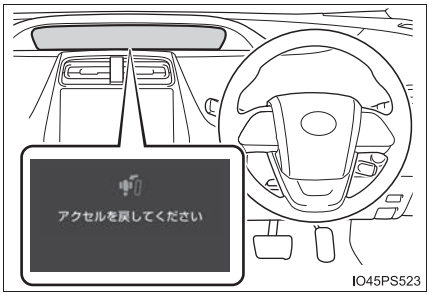
■**右左折・車線変更するとき**

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションが P・N 以外のとき

●車速が約 30km/h 以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制を作動させません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき

S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）★

シンプルインテリジェントパーキングアシストについて

■ 機能概要

シンプルインテリジェントパーキングアシストは、ハンドルを自動で操作することにより、目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助します。（シフトポジションの切りかえ、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）

- シンプルインテリジェントパーキングアシストは自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキとの連携

シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動しているときは、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、緊急ブレーキが作動します。（→ P. 383）

⚠ 警告

- 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチ（→ P. 384）を押してシステムを中止してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シンプルインテリジェントパーキングアシストのアシストモードと機能一覧

アシストモード（機能）	使用目的	機能概要	参照ページ
車庫入れ駐車アシストモード（前進誘導機能付き）	並列駐車	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 387
縦列駐車アシストモード	縦列駐車	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 393
縦列出庫アシストモード	縦列出庫	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 399

知識

■シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中のパーキングサポートブレーキについて

シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中は、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF（→ P. 366）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

- パーキングサポートブレーキ作動後はシンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を一時的に中断し、パーキングサポートブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 369）
- パーキングサポートブレーキの作動による中断が3回発生した場合、シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を中止します。
- パーキングサポートブレーキが作動したあと、シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作をうながすメッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 S-IPA スイッチ（→ P. 384）を押すことで、シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動を再開できます。

■シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中のシフト操作について

前進から後退（または後退から前進）時のシフト切りかえ案内前でも、運転者の意思で前進または、後退したいと判断した場合は、シフトを切りかえても支援を継続します。ただし、システム案内と異なる操作のため、切り返しを行う回数は多くなることがあります。

■カスタマイズ機能

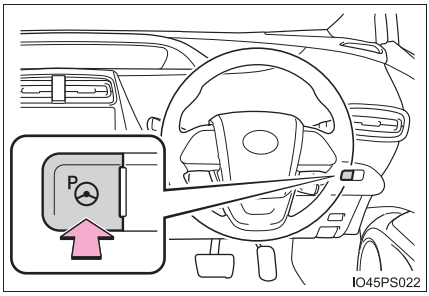
障害物を感知できる範囲などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 661）

アシストモードの切りかえ

■ S-IPA スイッチによる切りかえ

S-IPA スイッチを押す

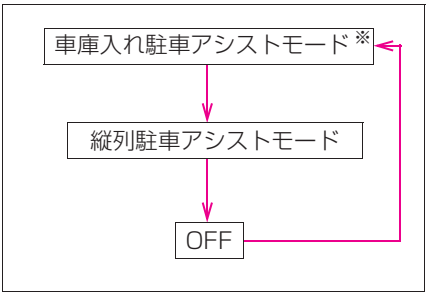
機能の切りかえ、アシストモードの中止／再開ができます。



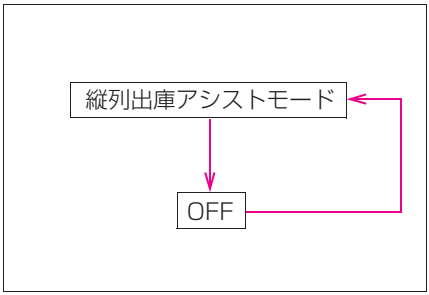
パワースイッチが ON モード、車速が約 30km/h 以下のとき、S-IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部（→P. 385）に表示されます。

▶ シフトポジションが P 以外で S-IPA スイッチを押したとき



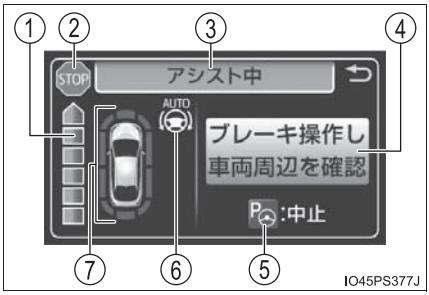
▶ シフトポジションが P で S-IPA スイッチを押したとき



※ 車庫入れ駐車アシストモードの作動条件（→ P. 391）を満たしたときに切りかえできます。
作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車アシストモードに切りかわります。

ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイにガイド画面が表示されます。



① アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置までの段階を目盛りの数で表示します。

② ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。

③ 作動表示部

シンプルインテリジェントパーキングアシストの作動状態を示します。

④ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。画面の例では、「ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、車両周辺の安全を確認してください」という内容をお知らせしています。

⑤ S-IPA スイッチアイコン

S-IPA スイッチを操作することでアシストモードの切りかえ、システムの中止／再開ができるときに表示されます。

⑥ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき表示されます。

⑦ クリアランスソナー表示／ドア開閉状態表示

→ P. 355

知識

■ メーター内のシンプルインテリジェントパーキングアシスト表示灯（→ P. 126）について

シンプルインテリジェントパーキングアシストによるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

シンプルインテリジェントパーキングアシスト作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→ P. 354）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。（→ P. 355）

アシストモードの中止・中断

次のときにアシストモードが中止、または中断されます。

■ アシストが中止されるとき

- システムの温度保護機能が働いた
- システム異常
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

アシストが中止されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは中止されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

■ アシストが中断されるとき

- ハンドルを操作した
- アシスト中に車速が 7km/h をこえた
- パーキングサポートブレーキが作動した

アシストが中断されたときは、表示画面の案内に従うことでアシストを再開できます。

知識

■ アシスト中に制限車速を超過しそうになったとき

ブザーが鳴り、制限車速をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。

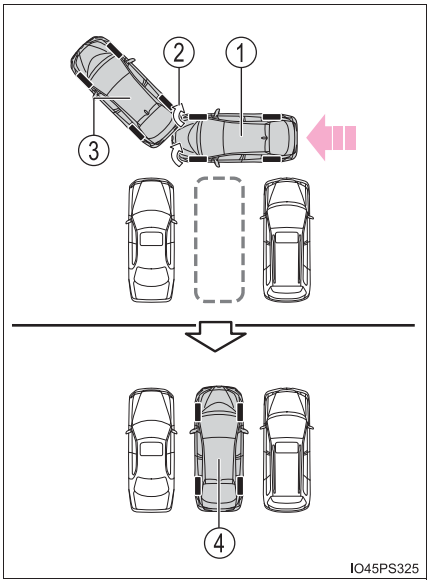
アドバイスが表示されたときは、ただちにブレーキペダルを踏んで減速してください。減速しないまま加速し続けると、一定の速度をこえた時点でアシストが中断されます。
(→ P. 407)

IO45PS378J

並列駐車のしかた（車庫入れ駐車アシストモード）

■ 機能概要

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、車庫入れ駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、S-IPA スイッチを 1 回押して車庫入れ駐車アシストモードを選択

② 移動を開始するとハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音と表示により案内します。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合や、車両前方に障害物があるような場合は案内されません。

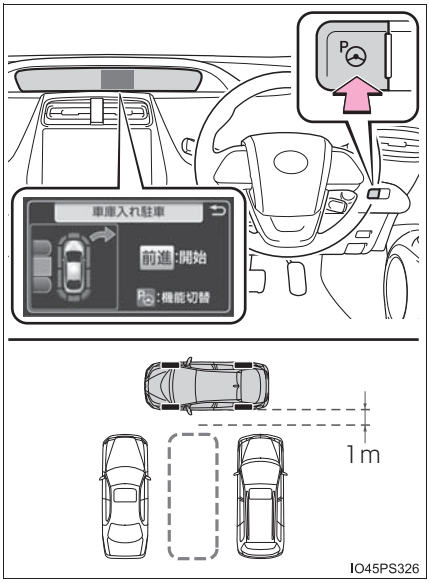
④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

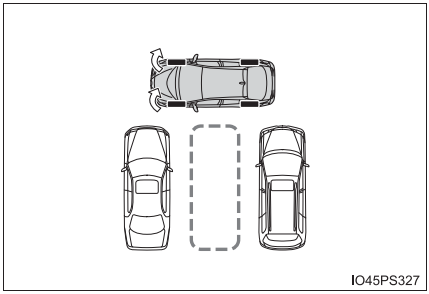
■ 駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、S-IPA スイッチを 1 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「車庫入れ駐車」に切りかわったことを確認する



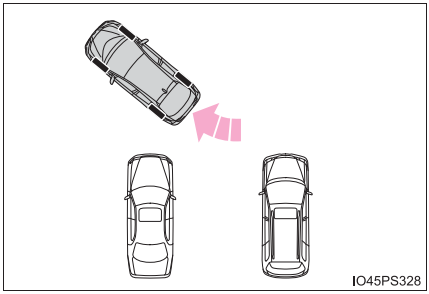
- 表示内のハンドル自動操作による車両進行方向を示す矢印の先の状況、および目標駐車位置を目視で確認してください。
- S-IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 384）
- シフトポジションが D または B 以外のときは、「車庫入れ駐車」の表示には切りかわりません。
- 車速が検知されていると、「縦列駐車」に切りかわります。「車庫入れ駐車」に切りかえる場合は、完全に停車した状態で再度 S-IPA スイッチを押してください。
- 方向指示レバー（→ P. 254）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。
- 駐車スペースが狭い場合や、アシストに十分なエリアがない場合はシステムを使用できません。マルチインフォメーションディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると“ピー”という音とともにメーター内の表示灯が点灯し、アシストが開始されます。



- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドルAUTO操作表示（→ P. 385）とアシスト段階表示（→ P. 385）が表示されます。
- アシストを中止するには、S-IPAスイッチを押します。
- 車速が速すぎると、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中断されます。（→ P. 386）
- アシスト開始後にスペースが狭かった場合、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中止されます。

3 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

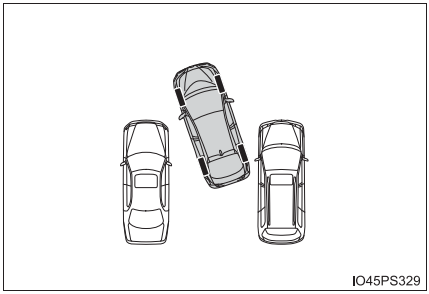


4 シフトポジションをRにする

5 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

・目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順6へ
・切り返しが不要な場合：手順12へ（→ P. 391）

6 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

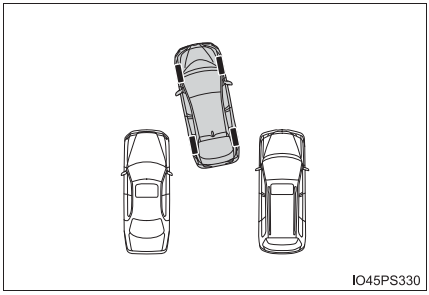


7 シフトポジションを D にする

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトポジションを P にしてください。

8 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する



10 シフトポジションを R にする

11 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 6 から 11 をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、“ピー”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

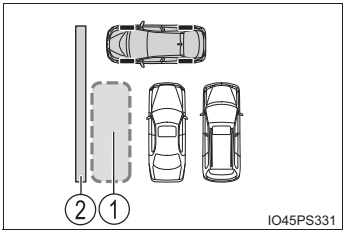
車庫入れ駐車アシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で鳴ります。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■車庫入れ駐車アシストモードの作動条件

- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行し、駐車スペースのほぼ真横で完全に停車してから S-IPA スイッチを操作してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 413）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車位置を特定できないため、車庫入れ駐車アシストモードを作動できません。
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、車庫入れ駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

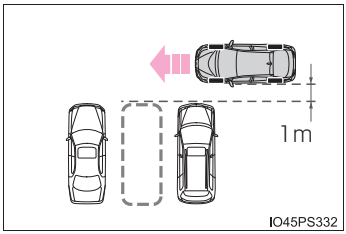


① 目標駐車位置

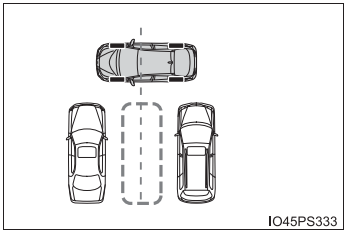
② 壁

■車庫入れ駐車アシストモードを使用するときのコツ

●駐車車両と約1m間隔をあけて目標駐車位置に近付いてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。



●目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、S-IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。



注意

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れ駐車アシストモードは使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

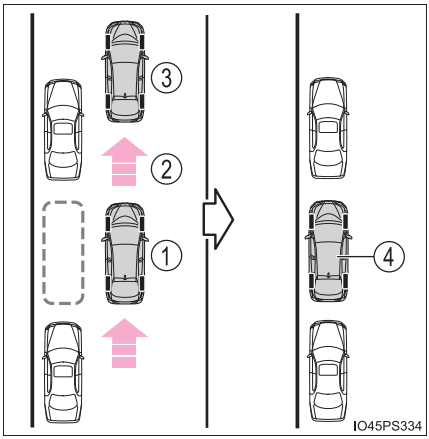
●低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 道路または路肩と平行にまっすぐ前進して目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、S-IPA スイッチを 2 回押して、縦列駐車アシストモードを選択

② 道路または路肩と平行にまっすぐ前進し駐車スペースを検出

③ アシスト可能な後退開始位置に着いたことを音と表示により案内し、案内に従ってシフトを切りかえ、移動を開始するとハンドルの自動操作が開始されます。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向かい側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

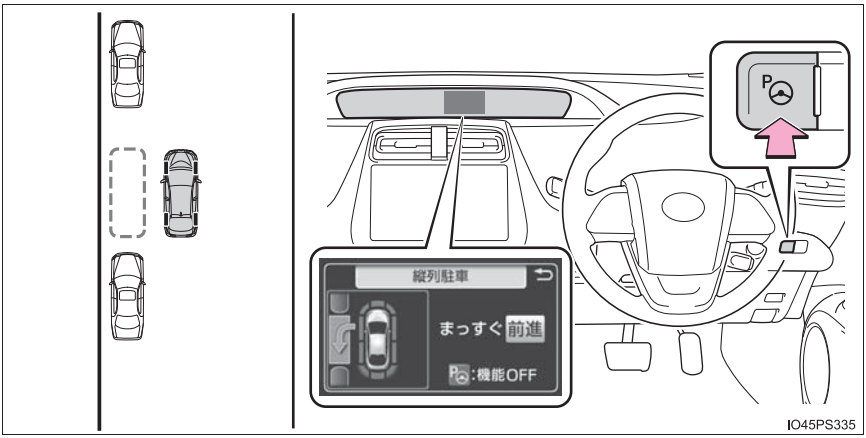
駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ 駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、S-IPA スイッチを 2 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

● S-IPAスイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 384)

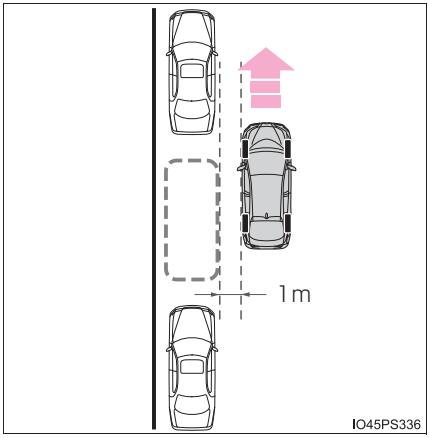
● 車速が約 30km/h 以上のときは、S-IPA スイッチを押しても「縦列駐車」の表示には切りかわりません。



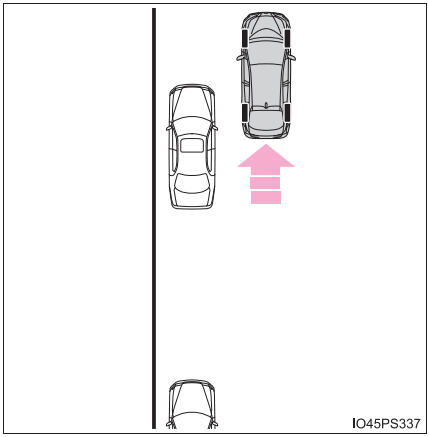
2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約 1m の位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 254）で車両左右の駐車スペースを選択できます。
- 機能を中止する場合は、S-IPA スイッチを 1 回押して、機能を OFF にしてください。
- 駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。



3 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する



4 シフトポジションを R にする

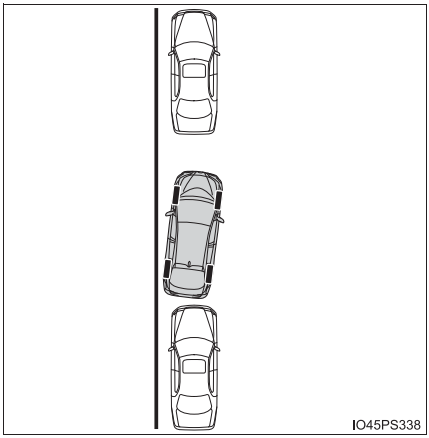
5 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると“ピー”という音と共にメーター内の表示灯が点灯し、アシストが開始されます。

- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 385）とアシスト段階表示（→ P. 385）が表示されます。
- アシストを中止するには S-IPA スイッチを押します。

6 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

- 後退車速が速すぎると、“ピピッ”という音が鳴り、アシストが中断されます。（→ P. 386）
- 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 7 へ
  切り返しが不要な場合：手順 13 へ（→ P. 397）

7 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する



8 シフトポジションを D にする

9 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

10 “ポーン”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

11 シフトポジションを R にする

12 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順7から12をくり返す場合があります。

13 車両がほぼ目標駐車位置に入り、“ピー”という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車アシストモードの作動条件

- 縦列駐車アシストモードを正しく動作させるために、道路（または路肩）と平行に駐車車両との間隔が約 1m の位置をゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 413）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車車両を特定できないため縦列駐車アシストモードは作動できません。
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、縦列駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 車速が約30km/h 以上になる、またはS-IPAスイッチにより機能をOFF にするまで案内が継続されます。

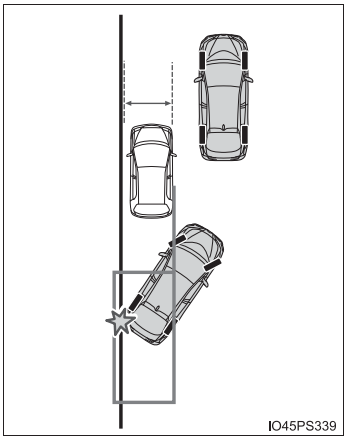
■S-IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車アシストモードを使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

- 手順1で、目標駐車位置の手前を通りこして S-IPA スイッチを押した
  手順1で、停車せずに車両移動中に S-IPA スイッチを押す場合、1 回押すだけで「縦列駐車」を選択でき、そのまま手順2に移ることができます。
- S-IPA スイッチを押していない状態のまま、手順3の位置まで車両を移動し、シフトポジションを R にしてから S-IPA スイッチを押した

注意

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合や、駐車車両が通路側にはみ出した位置に駐車されている場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。
- 駐車スペースに障害物、段差や縁石があるときでも、隣接車両に合わせた位置にアシストします。
  接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチでシステムを中止してください。
- 低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

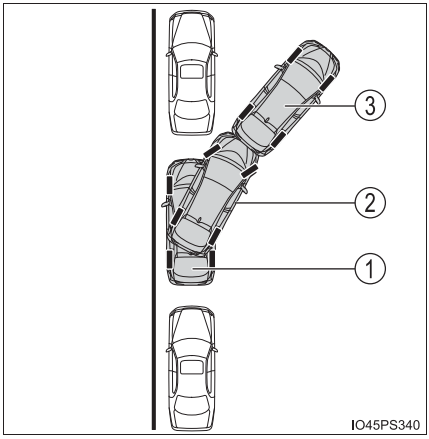
縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

① シフトポジションが P の状態でS-IPAスイッチを押して、縦列出庫アシストモードを選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② 案内に従ってシフトを切りかえると、ハンドルの自動操作が作動します。

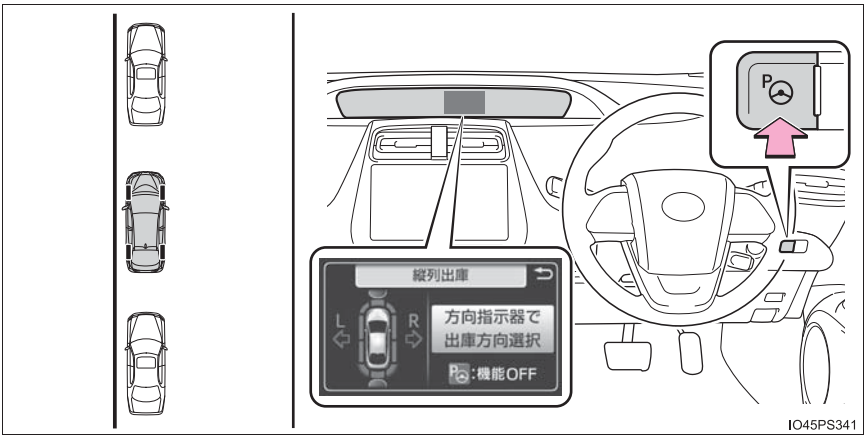
③ 発進可能な位置に到達したことを音と表示で案内します。

駐車スペースの状況により、②でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



■ 縦列出庫アシストモードを使用して出庫する

1 シフトポジションが P の状態で S-IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する



2 方向指示レバー（→ P. 254）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

出庫方向に障害物などがあると出庫できないと判断し、アシストが中止されます。

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 385）に従って、シフトポジションを R（または D）にすると “ピー” という音が鳴りアシストが開始されます。

手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト [R]」が表示されたときの場合です。

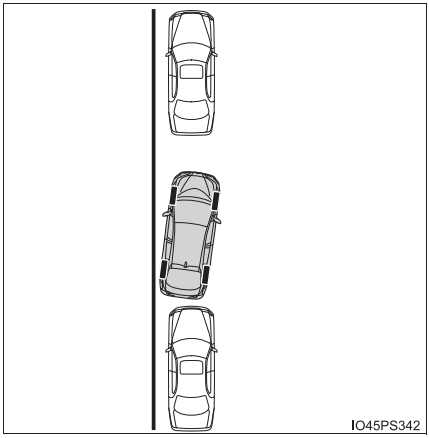
● ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 385）とアシスト段階表示（→ P. 385）が表示されます。

● アシストを中止するには S-IPA スイッチを押します。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退してください。

● 後退車速が速すぎると、“ピピッ” という音が鳴り、アシストが中断します。（→ P. 386）

5 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

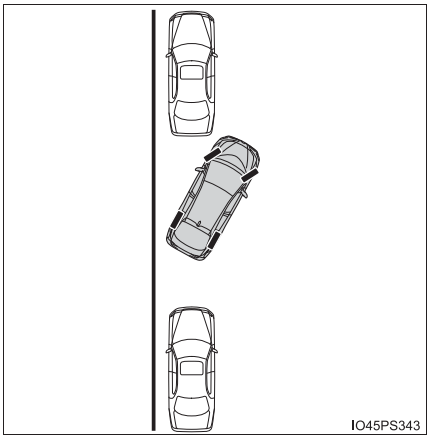


6 シフトポジションを D にする

7 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

・一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
・切り返しが不要な場合：手順 14 へ（→ P. 402）

8 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する

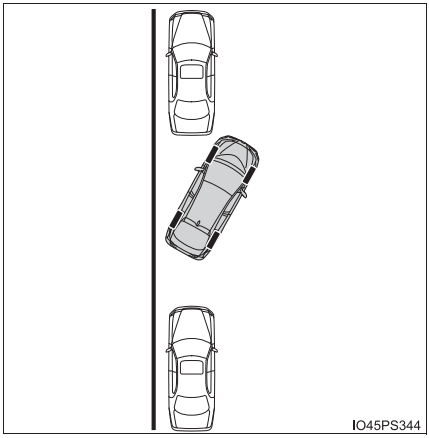


9 シフトポジションを R にする

10 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

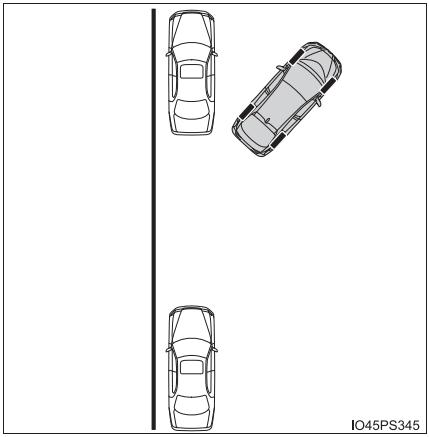
11 “ポーン” という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 385）が点灯したら停車する



12 シフトポジションを D にする

13 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、“ピー” という音が鳴り、アシストが終了します。
そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

■縦列出庫アシストモードについて

●アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを終了します。

●車両の前方に駐車車両がない場合、または車両の前方と駐車車両との間隔があきすぎている場合は、アシストを使用できません。

●縦列出庫アシストモード使用時の周囲の環境によってはアシストモードが作動できない場合があります。

注意

●障害物を検知できる範囲（→ P. 357）は限られるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

●発進可能な位置に出庫する際は、周辺の安全を直接確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

シンプルインテリジェントパーキングアシストが作動できないときや、作動が中止または、中断されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

■ 作動できないとき

メッセージ	状況・対処方法
	システムに異常があるおそれがある → パワースイッチをいったん OFF にしてからハイブリッドシステムを始動してください。再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	システムに故障のおそれがある
	パワーステアリング装置の一時的な過熱が起きた → パワースイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからハイブリッドシステムを始動して使用してください。
	ハイブリッドシステムが作動していない → ハイブリッドシステムを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 凍結部が溶ければ正常に復帰します。
	補機バッテリーを脱着した → 約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行してください。
	車速が30km/hを超過した状態でS-IPAスイッチを操作した → 車速約 30km/h 以下にして使用してください。
	駐車スペースがない場所で S-IPA スイッチを操作した、または道幅の狭い駐車スペースで S-IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。 → 道幅が狭いためアシストできません。道幅が約4.5m以上の駐車スペースの近くで使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	自車が駐車するのには狭すぎる駐車スペースでS-IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。
	自車前方に障害物が存在し、後退開始位置まで前進できないような場所でS-IPAスイッチを操作した → 前方に障害物があるためアシストできません。駐車スペースの前で停車した際に、前方に障害物がないような駐車スペースで使用してください。
	ハンドルに力を加えた状態でアシストを開始した → ハンドルに力を加えないように手を添えてください。アシストが開始されます。
	ハンドルに力を加えた状態で車両移動し、アシストを開始した → 停車し、案内どおりに操作するとアシストが開始されます。
	縦列出庫で自車前後の間隔が狭いときにS-IPAスイッチを操作した → 自車前後スペースが狭く、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。
	縦列出庫で、前方近くに障害物が存在しない、または自車側方に障害物が存在し、出庫ができない状況で S-IPA スイッチを操作した → 容易に出庫できる、または側方に障害物があるため、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。

■ 作動が中止されたとき

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト中に運転者がシフトポジションをPに切りかえた、またはS-IPAスイッチを操作した
	縦列アシストモードの駐車スペース探索中に車速が30km/hをこえた
	駐車スペースが狭い場所でアシストを開始した
	縦列出庫アシストモードにおいて、方向指示レバーで出庫方向を選択せずにシフトポジションを切りかえた → 案内どおりに操作してください。
	アシスト開始時に、案内と逆方向に進行した → 案内どおりに操作、進行してください。
	アシスト中に切り返し回数が上限になった、急な路面勾配で使用したため設定した目標位置に到達できない → 路面勾配のない、広いスペースでアシスト案内に従って使用してください。

■ 作動が中断されたとき

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中に運転者がハンドルに力を加えた	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でS-IPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に車速が7km/hをこえた	
	アシスト中断中、ハンドルに力を加えた状態でS-IPA スイッチを押した	→ ハンドルに力を加えないように手を添えた状態で停車するとアシストが再開します。
	アシスト中断中、車両が移動している状態でS-IPA スイッチを押した	
	アシスト中断中（再開可能）	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でS-IPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に、前方障害物に接近しすぎた	→ シフトポジションをRに切りかえてから、S-IPAスイッチを押すと、アシストを再開できます。
	アシスト中に、後方障害物に接近しすぎた	→ シフトポジションをDに切りかえてから、S-IPAスイッチを押すと、アシストを再開できます。

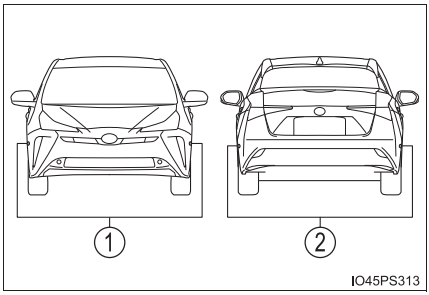
使用上の注意点について

■ センサーについて

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定します。

① フロントサイドセンサー

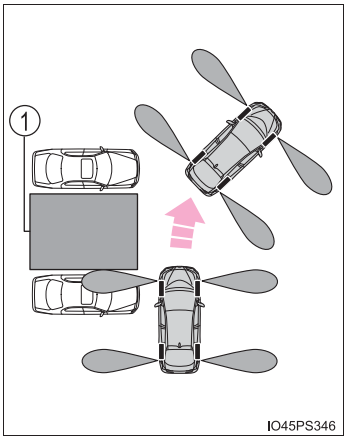
② リヤサイドセンサー



知識

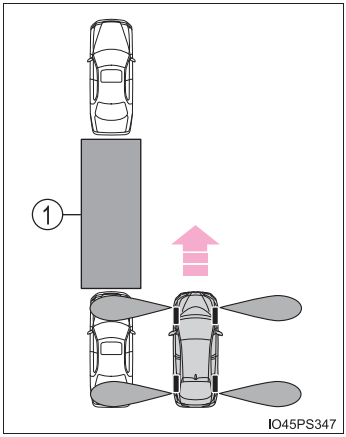
●車庫入れ駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

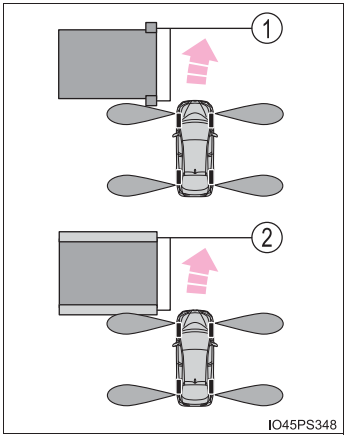


●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

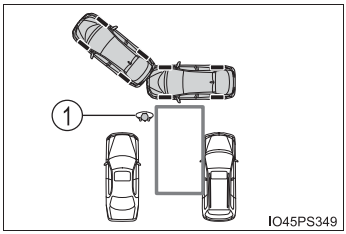
① 柱

② 壁



●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



●駐車スペース内の路面にあるグレーチングや縞板鋼板などを検知し、シンプルインテリジェントパーキングアシストを使用できないことがあります。

警告

- シンプルインテリジェントパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- マルチインフォメーションディスプレイだけを見ながら後退することは絶対にしないでください。表示と実際の状況は異なることがあり、表示だけを見て後退すると車にぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。後退するときは必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、S-IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ずスペースに車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、目標位置に正しくアシストできず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険なため使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき
  - ・目標駐車位置や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤ★を使用しているとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・極端に重いものを積んでいるとき
・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●縦列出庫アシストモードについて次のことをお守りください。

縦列出庫アシストモードは縦列駐車からの出庫時に使用する機能ですが、車両前方にある障害物や人をセンサーで検知すると機能を使用できる場合があります。縦列駐車から出庫する以外の状況では、機能を使用しないでください。万が一、ステアリングの制御が作動してしまった場合には、S-IPA スイッチで OFF するかハンドルを操作すると、制御を中止します。

●次のような状況では、誤って縦列出庫アシストモードを使用してしまうと、障害物にふれるおそれがあります。

サイドセンサーで障害物を検知できておらず、障害物のある方向に出庫機能を作動させてしまった場合（柱が車両の真横にある状況等）

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
・高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・サイドエリアのスキャン（→ P. 359）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。
・センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
・センサーを手でふさいだとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
・雨や水しぶきがかかったとき
・目標駐車位置に駐車車両があるにもかかわらずアシストが開始されたときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車両が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

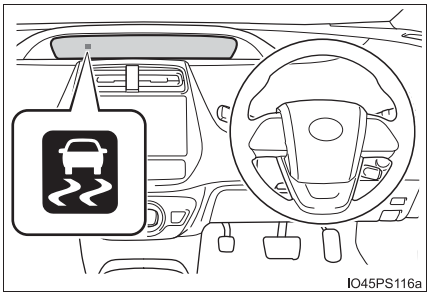
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ E-Four（電気式 4WD システム）★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面などさまざまな走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

VSC・TRC・ABS が作動しているとき

VSC・TRC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

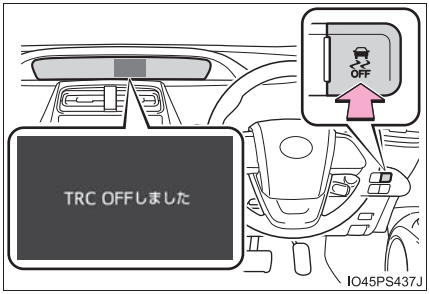
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■ **TRC と VSC を停止するには**

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 293）

■ **を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき**

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 595

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

メッセージ	状況	対処方法
4WD 高負荷 走行を控えてください 2WD 走行に切替わります	4WD システムが過熱している状態です。	しばらくのあいだ停車する、または車速10km/h以上で走行することで、4WD システムの負荷を低減してください。警告メッセージが消えれば、問題ありません。
4WD システム高温 2WD 走行に 切替わりました	過熱のため4WDシステムが一時解除され、2WD 走行に切りかわりました。	
4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検してください	システムの異常により、4WD システムが停止し、2WD 走行に切りかわりました。	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**スリップ表示灯が点滅しているとき**

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 659）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

パノラミックビューモニター ※ ★

※ バックガイドモニター装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」または「販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成して画面上につなぎ目のない車両上方からの映像を表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

知識

- 本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

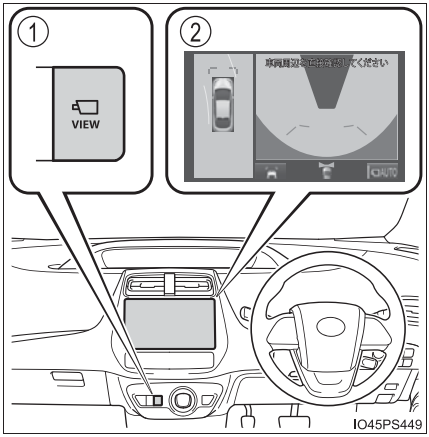
パノラミックビューモニター画面の表示

パワースイッチが ON モードのときにメインスイッチを押すと、パノラミックビューモニター画面がディスプレイに表示されます。

一定の車速を上まわっているときは、一定時間が経過すると、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報表示画面にもどります。
パノラミックビューモニター画面が表示される時間は、現在の車速等の条件によりかわります。(→ P. 424)

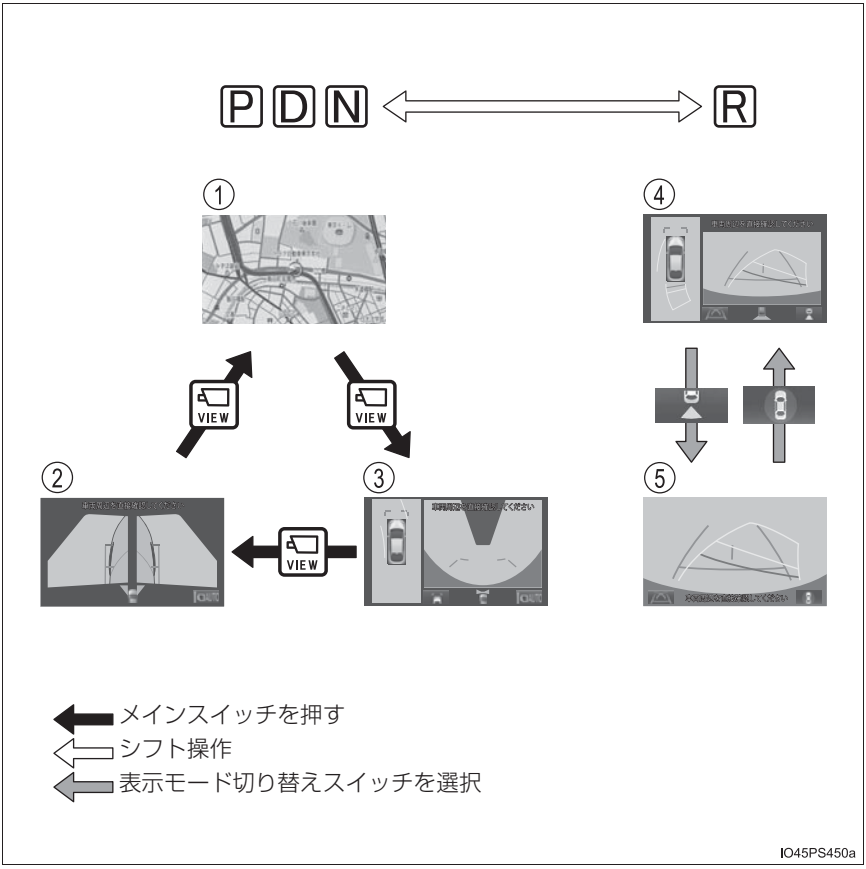
① メインスイッチ

② ディスプレイ



パノラミックビューモニターの画面遷移

パノラミックビューモニター画面の表示中にスイッチを操作することで、次のように画面表示を切りかえることができます。（以下は一例です。）



① ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面など ※

② 両サイドビュー：→ P. 428

③ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー：→ P. 426

④ パノラミックビュー＆バックビュー：→ P. 430

⑤ バックビュー：→ P. 430

※ 詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」または「販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

- 車速が約 20km/h 以下でメインスイッチを押した場合、パノラミックビューモニター画面を表示します。
- 車速が約 20km/h 以上になった場合、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面が表示されます。

パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

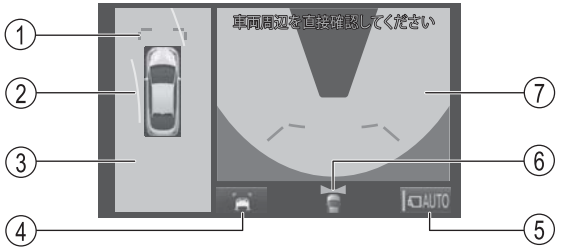
見通しの悪い交差点や T 字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトポジションを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを押す

パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが表示されます。



IO45PS525

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示す（黄色）。
（直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示）

③ パノラミックビュー

④ ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 427）

⑤ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 427）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

⑥ 表示エリア

⑦ ワイドフロントビュー

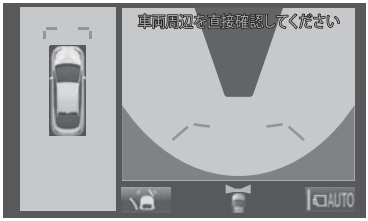
警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ ガイド線表示モードについて

ガイド線表示モード切り替えスイッチを選択するごとに、表示モードが切り替わります。

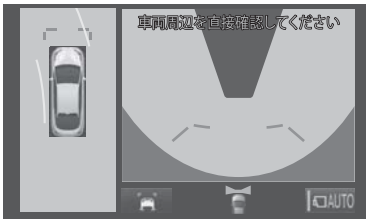
▶ 距離目安線表示モード



IO45PS452

● 車両前端から約 1.0 m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



IO45PS453

● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示されます。

■ 自動表示モードについて

メインスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。
・シフトポジションを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトポジションが R 以外）

● AUTO を選択するごとに、自動表示モードの ON と OFF が切り替わります。

両サイドビュー

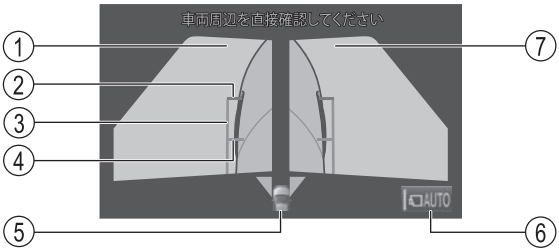
左右両サイドに設置されたカメラからの映像を表示し、車両側方の安全確認や狭小路での接触回避などの操作を補助するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトポジションを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを両サイドビューが表示されるまで押す

◆ 画面の見方について



IO45PS526

① サイドビュー（左前側方）

② 前方距離目安線

車両前端から約 0.5m 先（赤色）を示す。

③ 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安（青色）を示す。

④ 前輪接地線

前タイヤの位置（青色）を示す。

⑤ 表示エリア

⑥ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 427）

・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

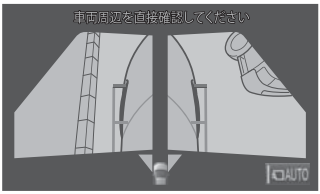
⑦ サイドビュー（右前側方）

⚠ 警告

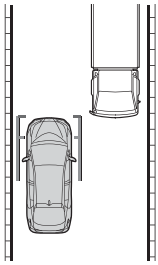
乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

◆ 車幅平行線の使い方

画面



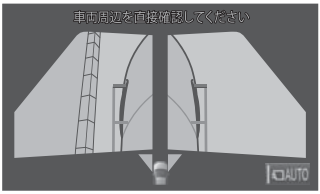
車の状況



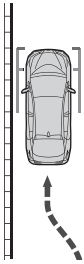
IO45PS455

- 車幅平行線と障害物との位置関係を見ます。
- 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドルを操作して前進します。

画面



車の状況



IO45PS456

- 車幅平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を見ます。
- 上記のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。
- 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

パノラミックビュー&バックビュー

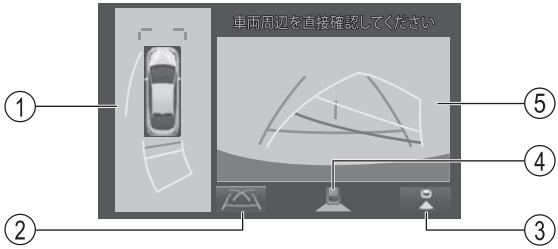
駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。表示モード切り替えスイッチを選択するとバックビューのみを表示するモードに切り替えることができます。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトポジションを R に入れる

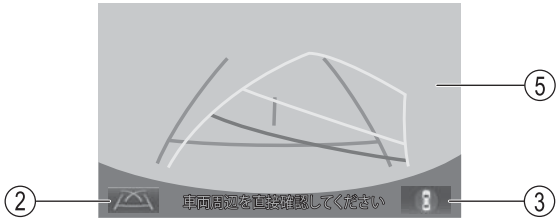
パノラミックビュー&バックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー&バックビューモード



IO45PS527

▶ バックビューモード



IO45PS528

① パノラミックビュー

② ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 427）

③ 表示モード切り替えスイッチ

パノラミックビュー&バックビューモードとバックビューモードの間で表示モードを切り替える。

④ 表示エリア

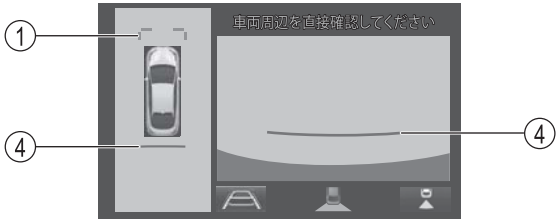
⑤ バックビュー

◆ 画面の見方について

■ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。

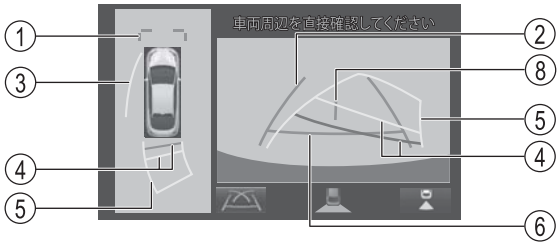
ガイドを必要としない方はご使用ください。



IO45PS459

■ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

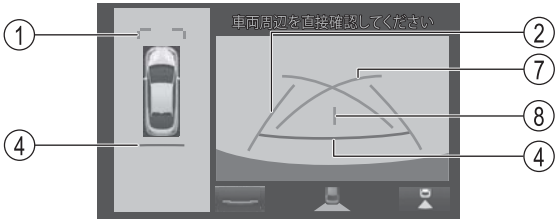


IO45PS460

■ 駐車ガイド線表示モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路線表示を必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。



IO45PS461

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示す。

・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。（予想進路線表示モード）

③ 側方予想進路線

ハンドルの角度から算出した後退予想進路（黄色）を示す。

・ ハンドルの方向に応じて、フロントに旋回方向外側の後退予想進路を表示します。

④ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。予想進路線表示モードでは、ハンドル操作と連動する。

・ 予想進路線と連動する。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）・約 1 m 先（黄色）を示す。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）を示す。（距離目安線表示モード / 駐車ガイド線表示モード）

⑤ 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示す。

⑥ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。

・ バンパー後端から約 0.5 m 先（青色）を示す。

⑦ 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安（青色）を示す。
・駐車時にハンドルを操作する位置の目安。

⑧ 車両中央線

車幅延長線の中心位置（青色）を示す。

警告

- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

- バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

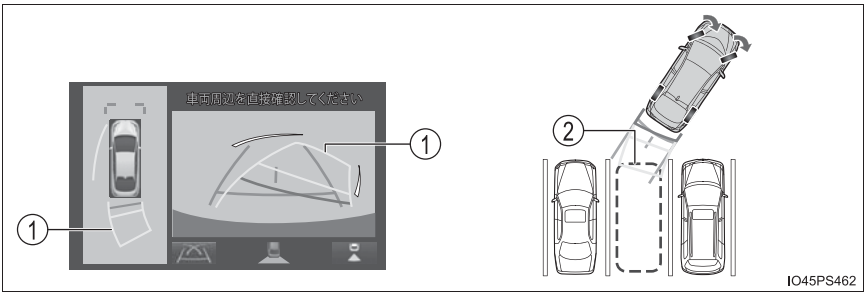
◆ 駐車する

■ 並列駐車をする（予想進路線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

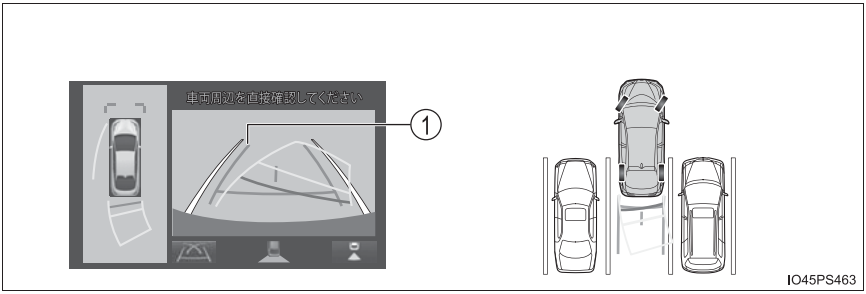
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



① 予想進路線

② 駐車スペース

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線の間に入るようにハンドルを操作する



① 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

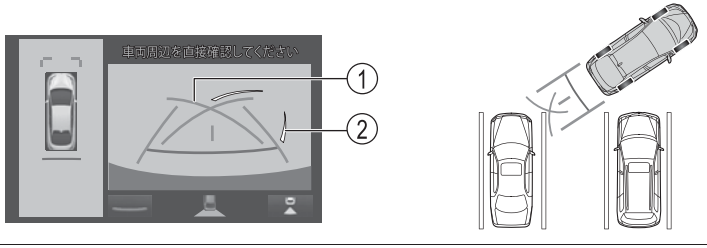
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

■ 並列駐車をする（駐車ガイド線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトポジションを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



① 駐車ガイド線

② 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

パノラミックビューモニターの注意点

運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。お守りいただかないと、車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビューモニターを使用するときは以下のことをお守りください。

警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
  画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 以下のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない道路
  - ・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
  - ・サスペンションを改造しているとき
  - ・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

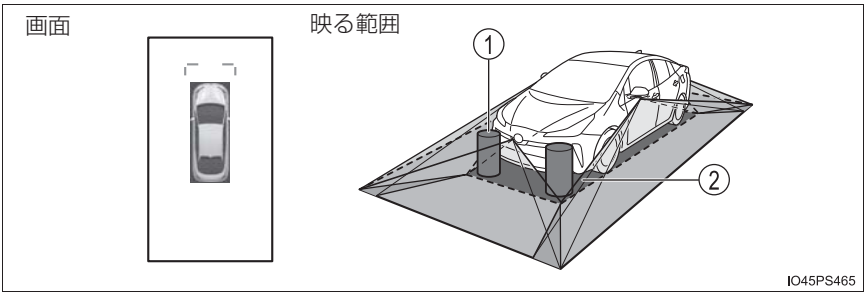
注意

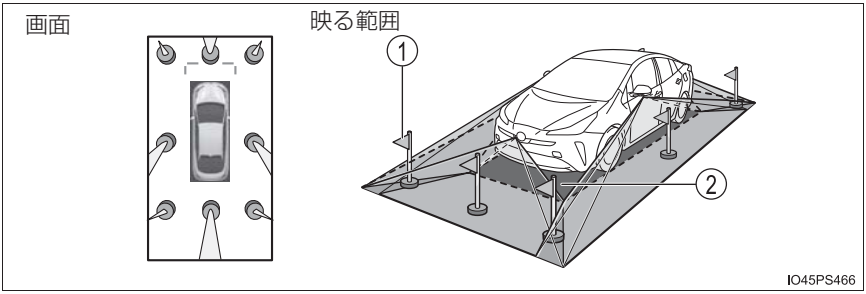
- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解したうえで使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。

◆ 画面に映る範囲について

■ パノラミックビューの表示される領域について

車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。





① 表示されません。

② 表示されません。（車両アイコンまわりに黒色で示されている部分）

知識

●車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。

●パノラミックビューは、4 つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、以下のように表示されることがあります。

・立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える。
・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない。
・高さのある物が合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある。

●照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。

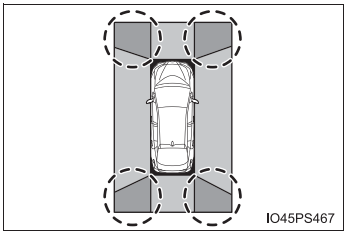
●乗員人数、積載状況、ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。

●ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。

●パノラミックビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。

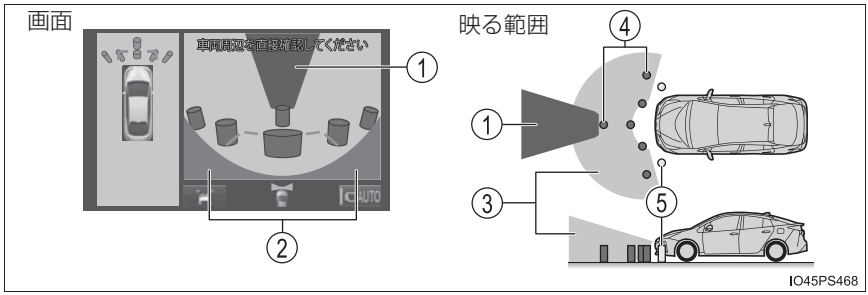
●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

●図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ カメラに映る範囲について

▶ ワイドフロントビュー



① マスキング

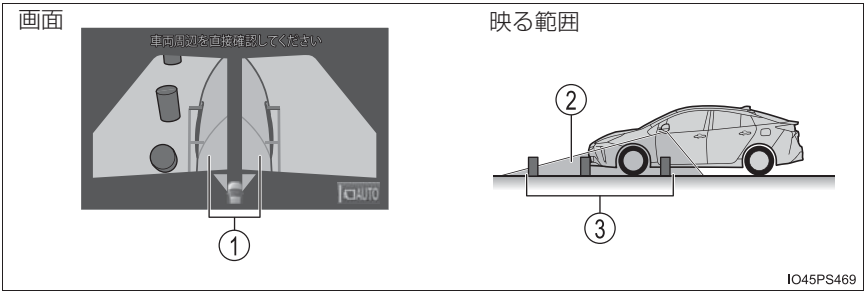
② 画面に車体の一部（バンパーやグリルなど）が映ります。

③ カメラの視野範囲

④ カメラで確認できる対象物

⑤ カメラで確認できない対象物

▶ 両サイドビュー

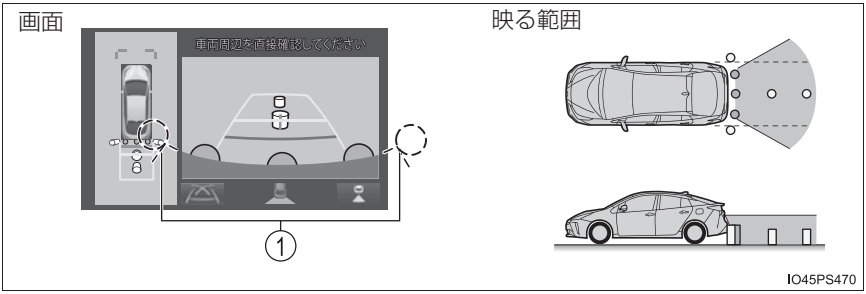


① 画面に車体の側方が映ります。

② カメラの視野範囲

③ カメラで確認できる対象物

▶ バックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

知識

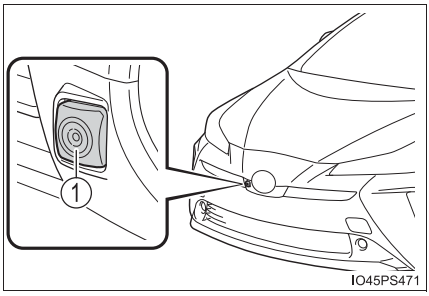
- 車両前方は距離感が異なるため、マスキングをしています。
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にある物は映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビュー・両サイドビュー・バックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

◆ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは以下の位置にあります。

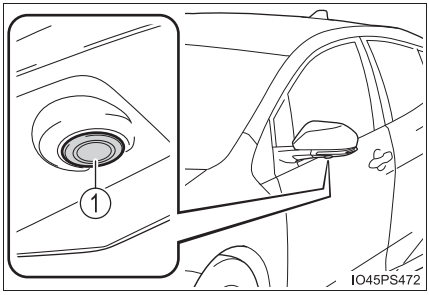
■ フロントカメラ

① フロントカメラ



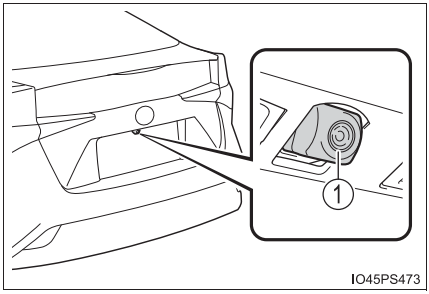
■ サイドカメラ

① サイドカメラ（左右両側）



■ バックカメラ

① バックカメラ



■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

注意

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

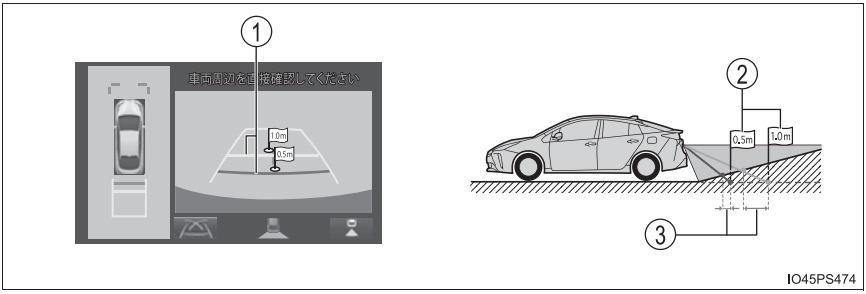
◆ 画面と実際の路面との誤差について

▶ パノラミックビュー／バックビュー

距離目安線や、パノラミックビューの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

■ 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



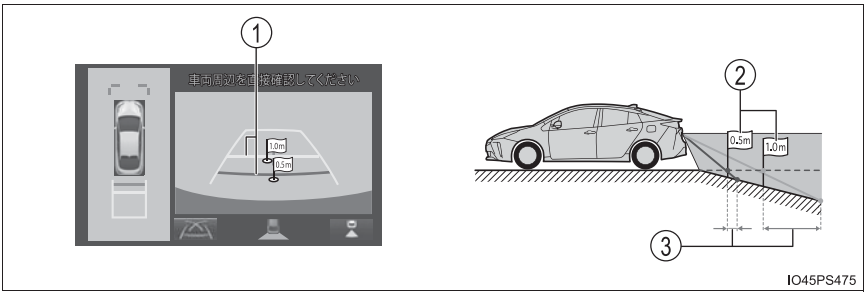
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

■ **急な下り坂が後方にあるとき**

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線

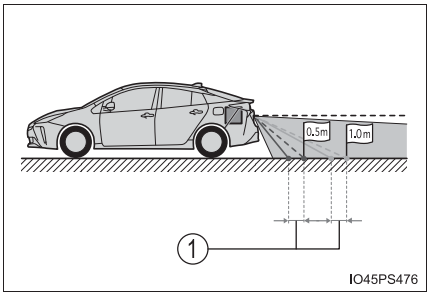
② 実際の距離

③ 誤差

■ **車が傾いているとき**

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

① 誤差



◆ 画面と実際の立体物との誤差について

路面より高い位置にある立体物（車両バンパーなど）が近くにあるときは、以下のことにご注意ください。

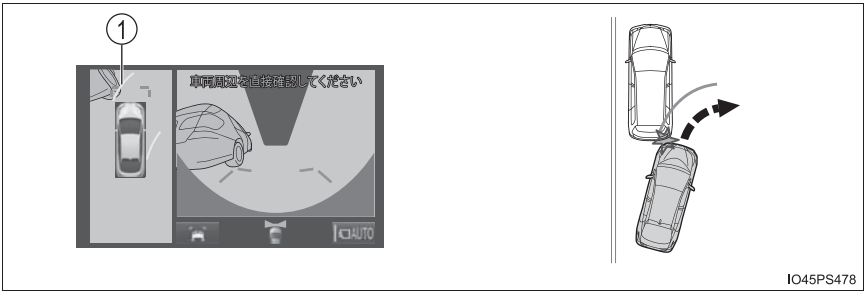
■ パノラミックビューの表示について

パノラミックビューは、平らな路面を基準に画像を加工して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーとの間に余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。
周囲の安全を直接確認してください。

■ 予想進路線について

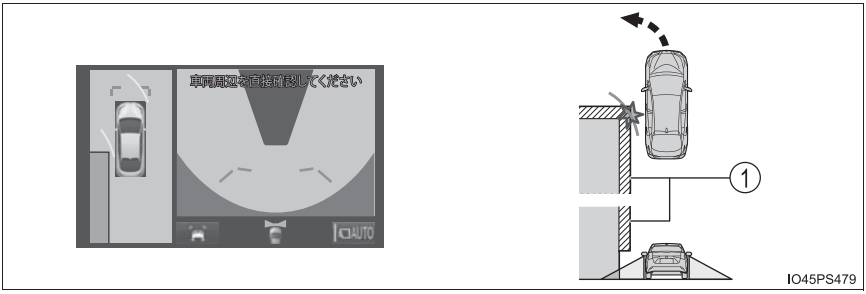
▶ パノラミックビュー

予想進路線は平らな路面に対して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。



① 予想進路線

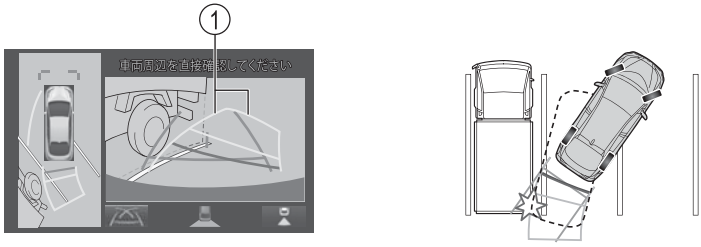
高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。
周囲の安全を直接確認してください。



① 壁の張り出し部分

▶ バックビュー

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

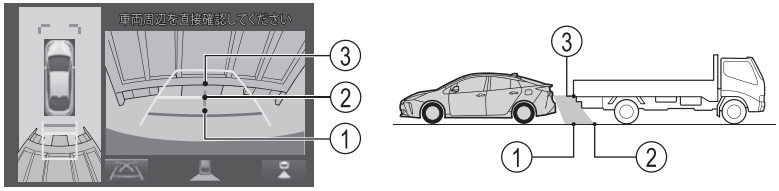


IO45PS480

① 予想進路線

■ 距離目安線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①・②・③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



IO45PS481

知っておいていただきたいこと

◆ 故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	対処方法
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用。 ・レンズ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低いとき。 ・カメラに水滴がついた。 ・雨天時など湿度が高い。 ・カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びパノラミックビューモニターをご使用ください。） パノラミックビューモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。
❑ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が与えられた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ・傾斜地で使用するとき。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

考えられる原因	対処方法
❑ ハンドルが直進状態であるにも関わらず予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	
ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ 車両後方のガイド線が表示されない	
バックドアが開いている。	バックドアを閉める。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ！マークが表示される	
・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ・補機バッテリー能力が低下した。 ・ステアリングセンサーを脱着した。 ・ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 340）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 140）

◆ シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 543）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め ※ をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）.....458
オートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）.....469
シートヒーター（快適温熱シート）／シートベンチレーター.....481

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....483
・フロントインテリアランプ.....484
・マップランプ.....484
・リヤインテリアランプ.....485

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....486
・グローブボックス.....487
・コンソールボックス.....488
・カップホルダー.....489
・ボトルホルダー／ドアポケット.....490
・小物入れ.....491
・カードホルダー.....492
・シートバックポケット.....492
ラゲージルーム内装備.....493

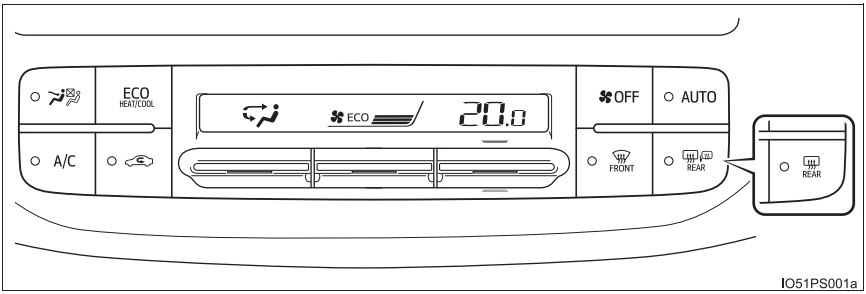
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....499
・サンバイザー.....499
・バニティミラー.....499
・アクセサリーソケット.....500
・ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.....501
・アームレスト.....507
・コートフック.....507
・アシストグリップ.....508
・ステアリングスイッチ.....509
アクセサリーコンセント.....510
非常時給電システム.....517

オートエアコン（ナビゲーションシステム※ 非装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

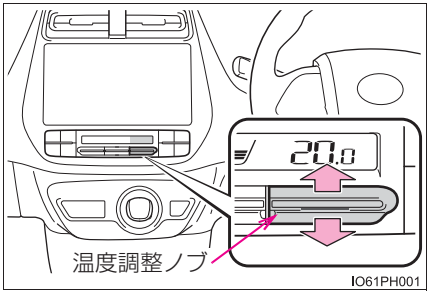
基本操作



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ノブを上に、下げるときは下に操作する

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

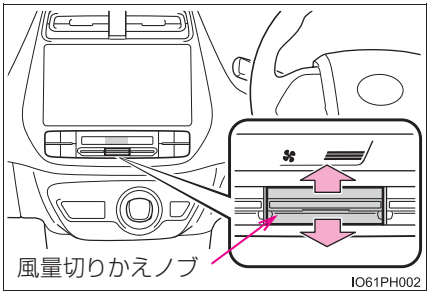


■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量切りかえノブを上に、減らすときは下に操作する

風量は 7 段階に調整できます。

を押すと、ファンが止まります。



※：メーカーオプションのナビゲーションシステム

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえノブを上下に操作する

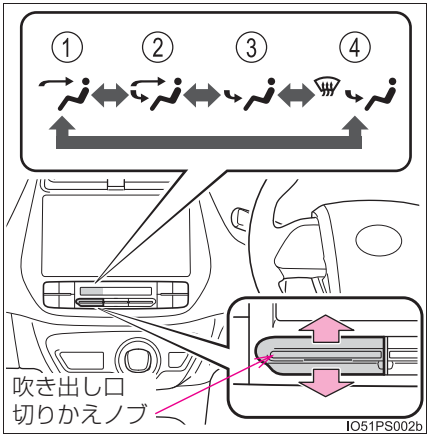
操作するたびに、吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 461）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 461）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る（→ P. 462）

オート設定で使用する

1 ○ AUTO を押す

2 温度を設定する（→ P. 458）

3 ○ A/C を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、 ✻OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、 ○ AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、 ○ が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルの ○ を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

を押す

押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モードを使用する

燃費性能を優先した作動に切りかえることができます。（→ P. 465）

を押す

押すたびにエコ空調モードの ON ／ OFF が切りかわります。

エコ空調モードのときは、モニター部に「ECO」が表示されます。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラスと運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

作動中は、 の作動表示灯が点灯します。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ **リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

／

を押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

ON のときは、 ／ の作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

■ **「ナノイー」★を ON ／ OFF する**

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 159）から、「ナノイー」の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

ON を選択すると、モニター部に「 nanoe 」が表示されます。

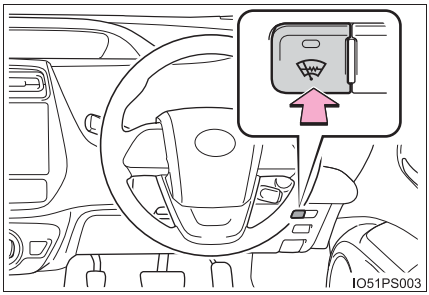
■ **ウインドシールドデアイサー★**

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

スイッチを押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。
ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



■ **エコジャッジ（空調スコア）について**

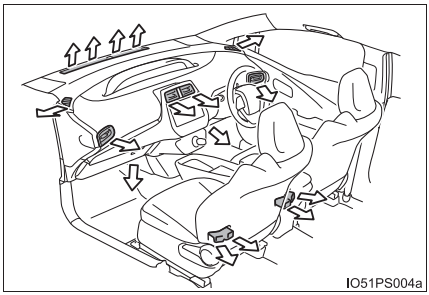
→ P. 156

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

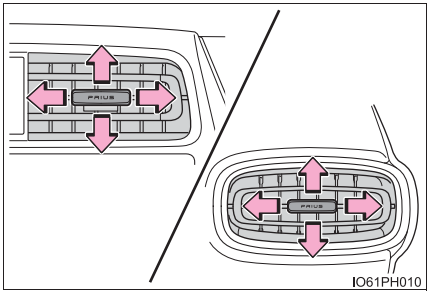
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



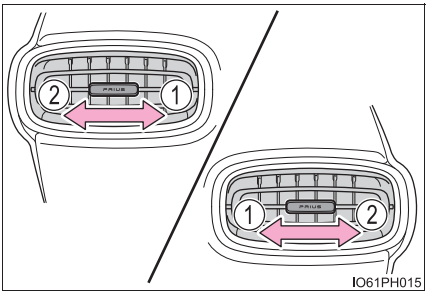
■ 風向きの調整

ノブを上下左右に動かす



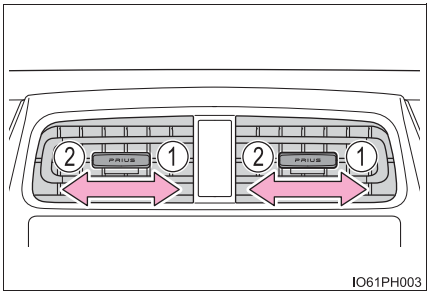
■ 吹き出し口の開閉

▶ 助手席サイド／運転席サイド



① 開ける
② 閉める

▶ 中央



① 開ける
② 閉める

知識

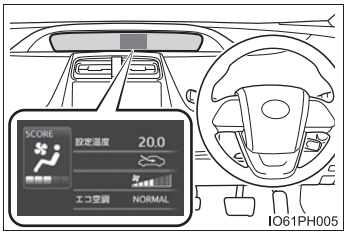
■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、[AUTO] を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■エアコン設定内容の確認表示

エアコンの設定を変更すると、マルチインフォメーションディスプレイにエアコン設定内容の確認画面が表示されます。

メーター操作スイッチの を押すと、前の画面表示にもどります。



IO61PH005

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

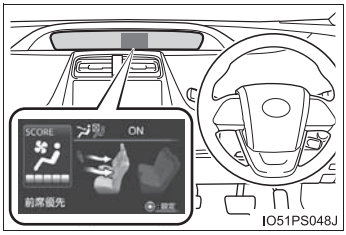
手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1. 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
2. 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

■フロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動について

[S-FLOW] を押すと、マルチインフォメーションディスプレイにフロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動状態が表示されます。



IO51PS048J

■マルチインフォメーションディスプレイでエアコンの設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からエアコンの設定を変更することができます。（→ P. 155）

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■駐車時外気導入システム

駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコ空調モードを解除する

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。この場合でも ECO MODE を押すと、エコ空調モードを解除できます。（→ P. 340）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が作動しない場合があります。

■「ナノイー」★※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※2。

●「ナノイー」設定が ON のとき（→ P. 462）にファンが作動すると、「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 ・または のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・「ナノイー」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 549

■カスタマイズ機能

○ AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

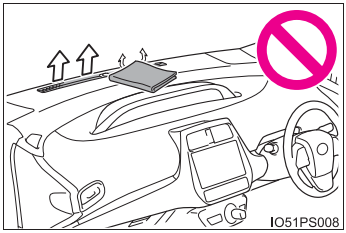
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■**リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

●ミラーヒーター装着車：ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●ウインドシールドデアイサー装着車：フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■**「ナノイー」★について**

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

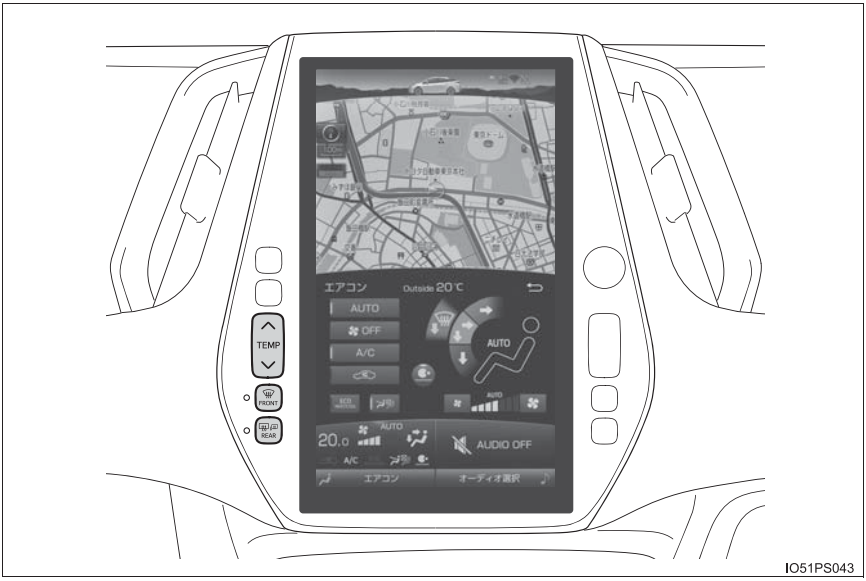
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン（ナビゲーションシステム※装着車）

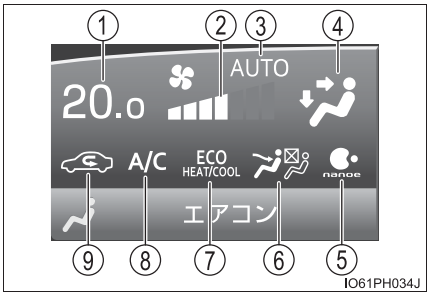
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



※：メーカーオプションのナビゲーションシステム

エアコン情報表示エリア

ナビゲーション画面に次の情報が表示されます。



① 設定温度表示

② 風量表示

③ オート設定の表示

④ 吹き出し口表示

⑤ ナノイー★※ の設定

⑥ フロント席集中送風モード（S-FLOW）の設定

⑦ エコ空調モードの設定

⑧ A/C（冷房・除湿機能）の設定

⑨ 内気循環／外気導入の設定

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

エアコン操作画面を表示する

ナビゲーション画面のエアコン情報表示エリアにタッチすると、エアコン操作画面が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

基本操作

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の“∧”を、下げるときは“∨”を押す

A/C が選択されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは、エアコン操作画面の を、減らすときは を選択する

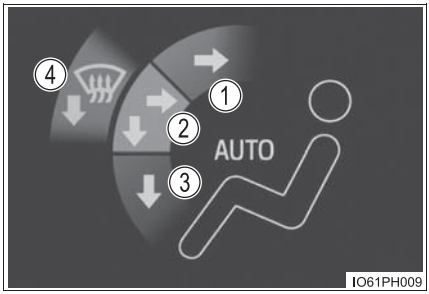
風量は 7 段階に調整できます。

OFF を選択すると、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作画面のそれぞれのスイッチを選択すると、吹き出し口を切りかえることができます。

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 473）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 473）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る（→ P. 474）

オート設定で使用する

1 エアコン操作画面の AUTO を選択する

2 温度を設定する（→ P. 471）

3 ファンを止めたいときは、OFF を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

センターディスプレイの を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

エアコン操作画面の を選択する

選択するたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モードを使用する

燃費性能を優先した作動に切りかえることができます。（→ P. 477）

エアコン操作画面の ECO HEAT/COOL を選択する

選択するたびにエコ空調モードの ON ／ OFF が切りかわります。

エコ空調モードのときは、ECO HEAT/COOL の作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラスと運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

REAR を押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。
ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

■「ナノイー」★を ON ／ OFF する

エアコン操作画面の nanoe を選択する

選択するたびに ON ／ OFF が切りかわります。

ON のときは、nanoe の作動表示灯が点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からも、ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 159）

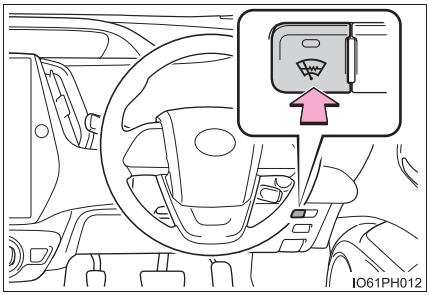
■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

スイッチを押す

押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。
ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



■ エコジャッジ（空調スコア）について

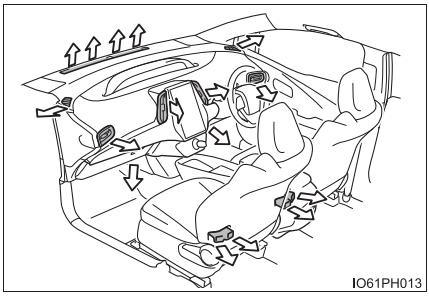
→ P. 156

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

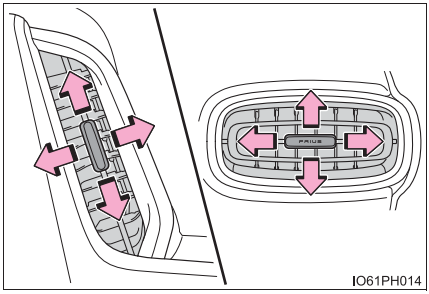
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



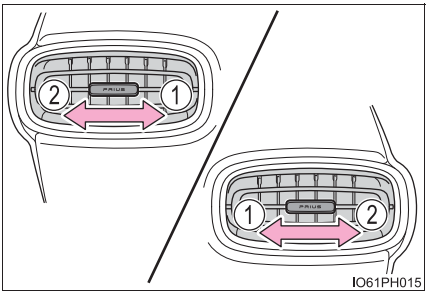
■ 風向きの調整

ノブを上下左右に動かす



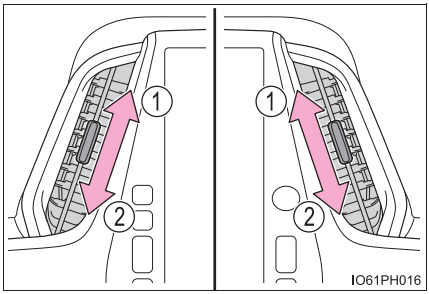
■ 吹き出し口の開閉

▶ 運転席サイド／助手席サイド



① 開ける
② 閉める

▶ 中央



① 開ける
② 閉める

知識

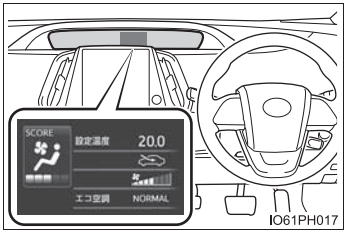
■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を選択した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■エアコン設定内容の確認表示

エアコンの設定を変更すると、マルチインフォメーションディスプレイにエアコン設定内容の確認画面が表示されます。

メーター操作スイッチの を押すと、前の画面表示にもどります。



IO61PH017

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

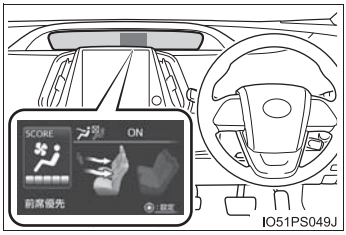
手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1. 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
2. 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

■フロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動について

エアコン操作画面の を選択すると、マルチインフォメーションディスプレイにフロント席集中送風モード（S-FLOW）の作動状態が表示されます。



IO51PS049J

■マルチインフォメーションディスプレイでエアコンの設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からエアコンの設定を変更することができます。（→ P. 155）

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■駐車時外気導入システム

駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコ空調モードを解除する

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。この場合でも、エアコン操作画面の ECO HEAT/COOL を選択するとエコ空調モードを解除できます。（→ P. 340）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

エアコン操作画面の A/C を選択しても除湿機能が作動しない場合があります。

■「ナノイー」★について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、車室内を爽やかな空気環境に導きます※。

●「ナノイー」設定が ON のとき（→ P. 474）にファンが作動すると、「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・「ナノイー」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※ 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 549

■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

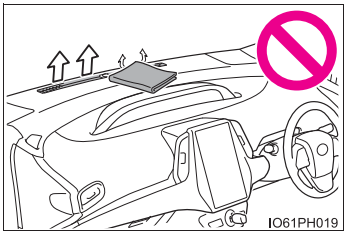
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONTを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■**リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●ウインドシールドデアイサー装着車：フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■**「ナノイー」★について**

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター（快適温熱シート）★／シートベンチレーター★

● シートヒーター（フロントシートのみ）

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター（フロントシートのみ）

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

・長時間連続使用しない
・毛布・クッションなどを使用しない

注意

●シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

●補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

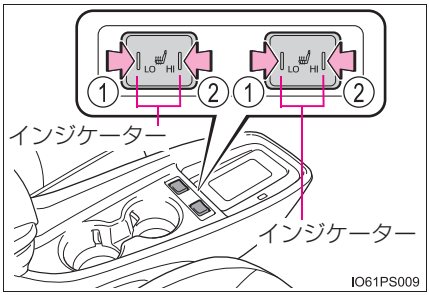
シートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車

① LO（弱）であたためる

② HI（強）であたためる

押した側のインジケーターが点灯します。
OFF にするときは、押されていない側を軽く押して、スイッチを中立の位置にします。



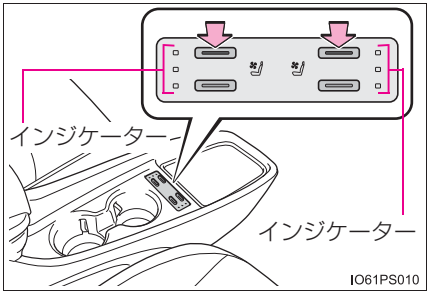
▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押す

シートヒーターが作動し、インジケーター（黄）が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF



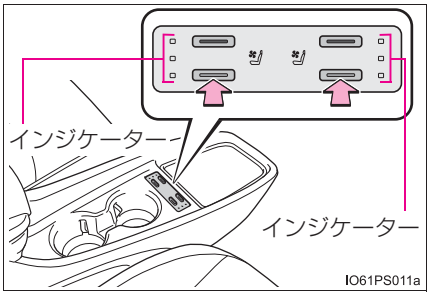
シートベンチレーター

スイッチを押す

シートベンチレーターが作動し、インジケーター（緑）が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

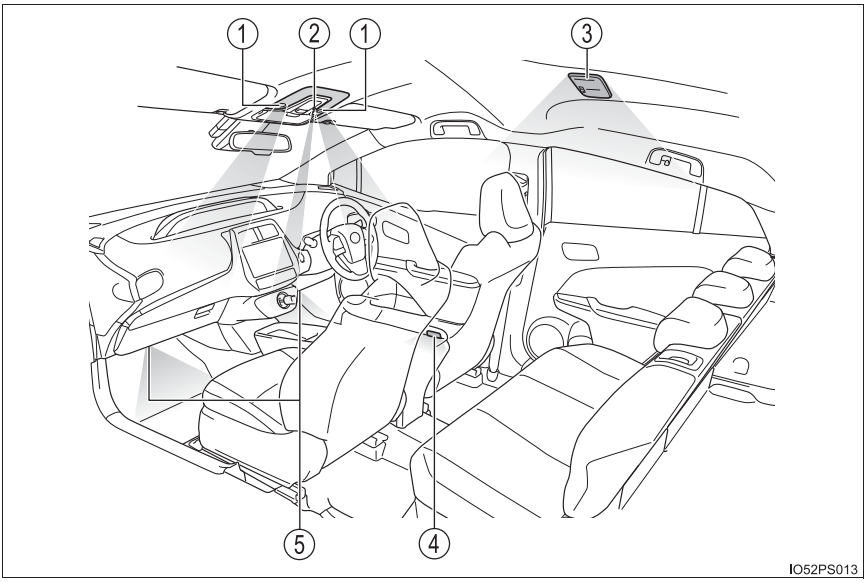
強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モードのとき
- 使用しないときはスイッチを OFF にしてください。インジケーターが消灯します。

室内灯一覧

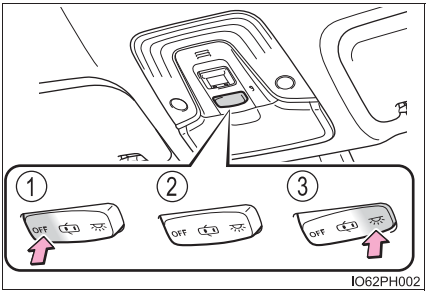


① フロントインテリアランプ・マップランプ（→ P. 484）
② シフトレバー照明
③ リヤインテリアランプ（→ P. 485）
④ ドアカーテシランプ
⑤ 足元照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントインテリアランプ

▶ ムーンルーフ非装着車

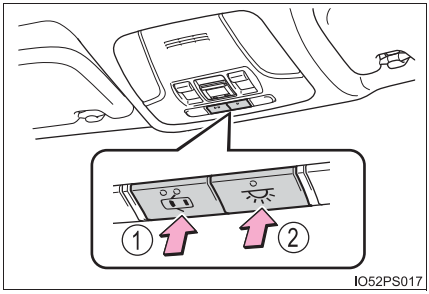


① ランプを消灯する

② ドアポジション（ドア連動）をONにする

③ ランプを点灯する

▶ ムーンルーフ装着車

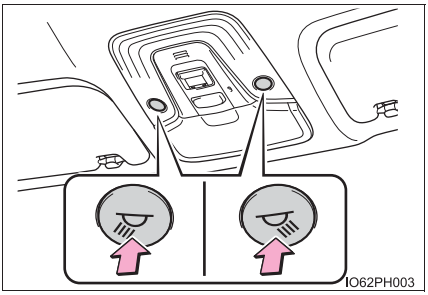


① ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

② ランプを点灯・消灯する

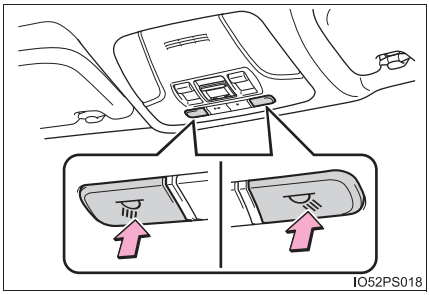
マップランプ

▶ ムーンルーフ非装着車



ランプを点灯・消灯する

▶ ムーンルーフ装着車



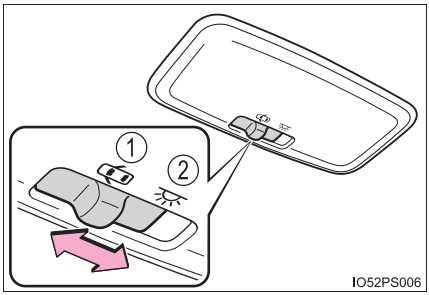
ランプを点灯・消灯する

リヤインテリアランプ

① ドアポジション（ドア連動）をONにする※

※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、スイッチ状態がOFFのときはランプが点灯しません。

② ランプを点灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、各部の照明が点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

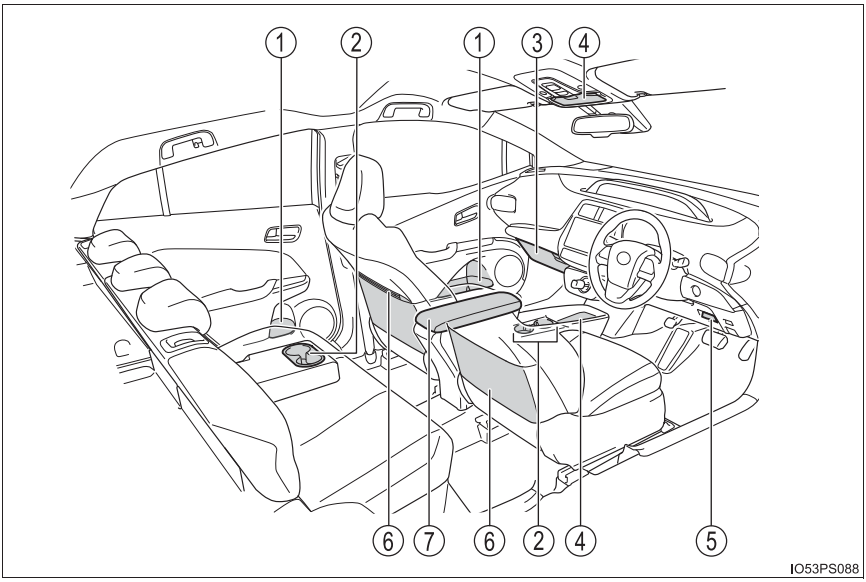
■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 661）

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① ボトルホルダー／ドアポケット（→ P. 490）
② カップホルダー（→ P. 489）
③ グローブボックス（→ P. 487）
④ 小物入れ（→ P. 491）
⑤ カードホルダー（→ P. 492）
⑥ シートバックポケット（→ P. 492）
⑦ コンソールボックス ※（→ P. 488）

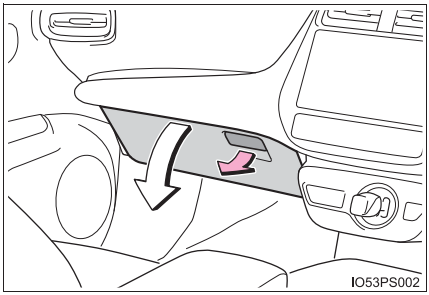
※ コンソールボックスは、グレードにより形状が異なります。

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

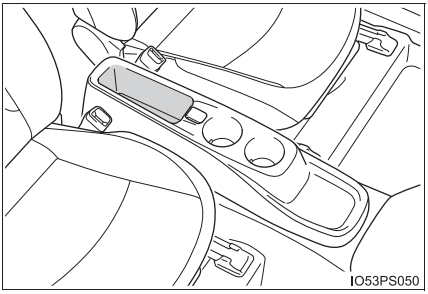


知識

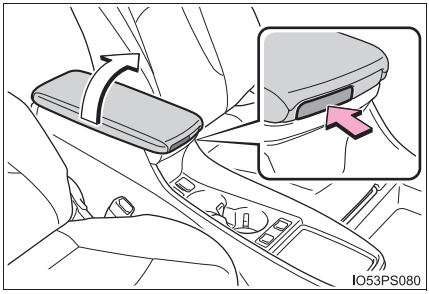
車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

▶ 小型コンソールボックス装着車



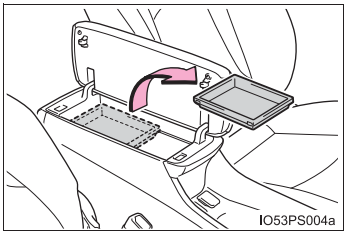
▶ 大型コンソールボックス装着車



ノブを押し、ロックを解除してフタを持ち上げて開く

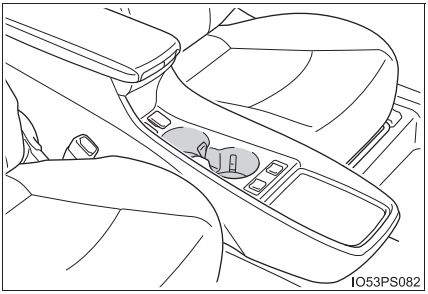
知識

大型コンソールボックス装着車：
コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。

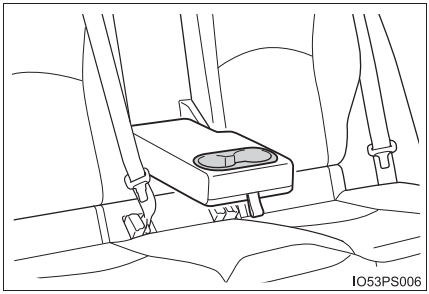


カップホルダー

▶ フロントカップホルダー（大型コンソールボックス装着車のみ）



▶ リヤカップホルダー★



リヤセンターアームレストを引き出す

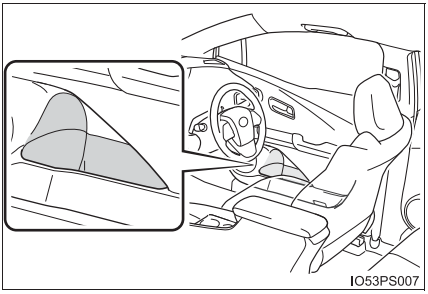
警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

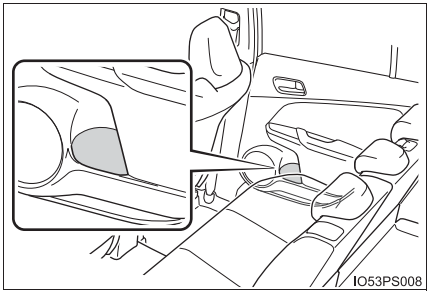
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロントドア



▶ リヤドア



知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

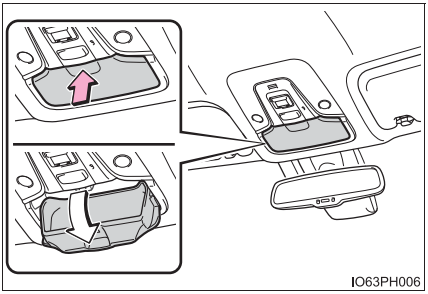
●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

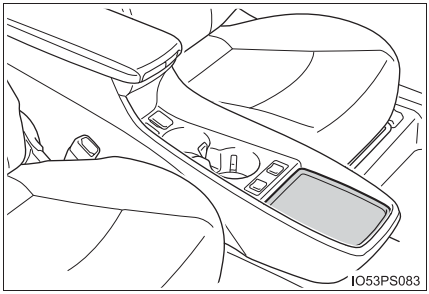
▶ オーバーヘッドコンソールボックス★



フタを押す

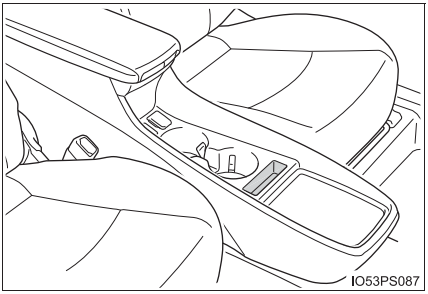
小物を一時的に収納できます。

▶ フロントコンソールトレイ★



ワイヤレス充電器（おくだけ充電）装着車は、P. 501 を参照してください。

▶ 小物入れ★



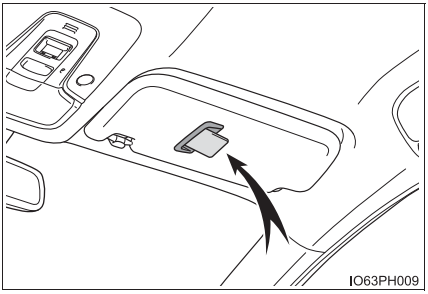
警告

オーバーヘッドコンソールボックスに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールボックスが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

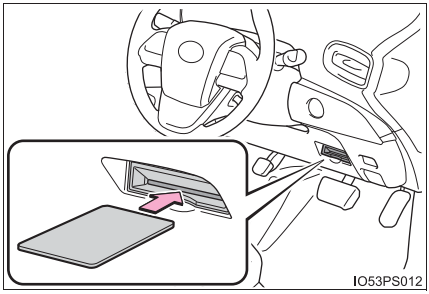
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カードホルダー

▶ サンバイザー（運転席側）

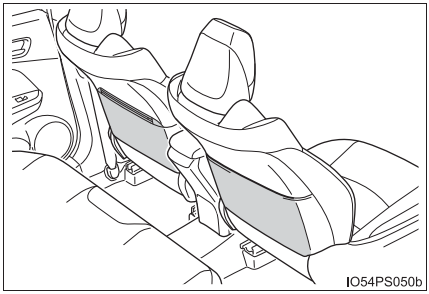


▶ 運転席横★



シートバックポケット★

助手席側のファスナーポケットには取扱書などを収納できます。



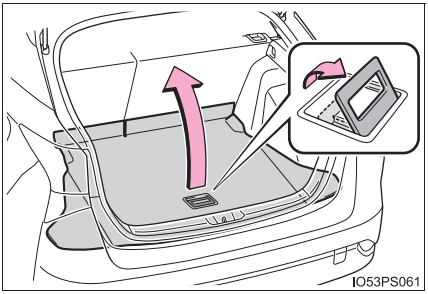
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

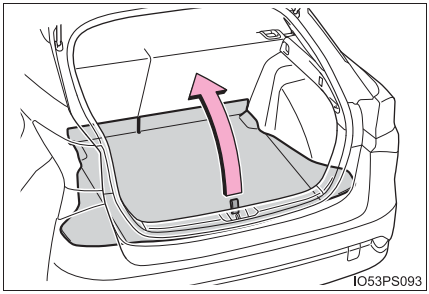
1 デッキボードを持ち上げる

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



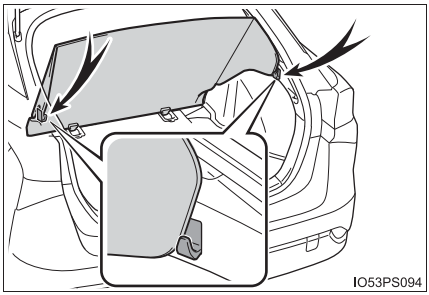
レバーを持って引き上げる

▶ 応急用タイヤ装着車



ストラップを持って引き上げる

2 左右両側の買い物フック（→P. 495）を起こして、デッキボードを固定する



警告

- デッキボードを開けたときは、走行前に必ずもとどおりに閉じておいてください。開けたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- デッキアンダートレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

注意

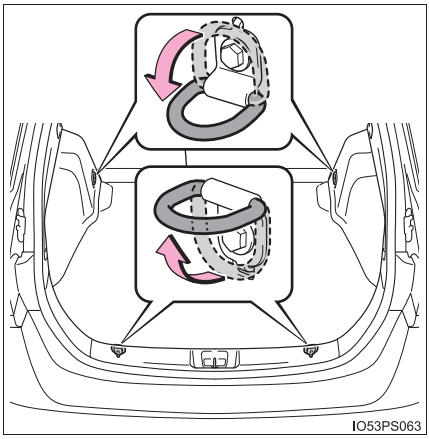
破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

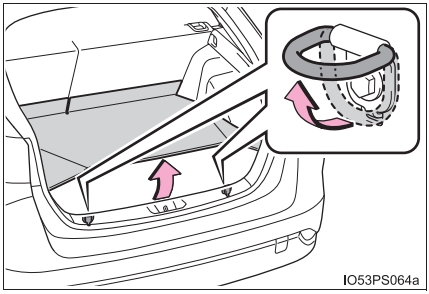
▶ タイヤパンク応急修理キット装着車（FF 車）

フックを起こして使用する



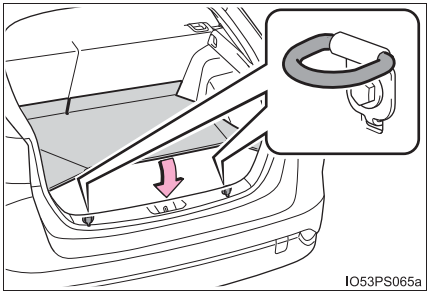
▶ タイヤパンク応急修理キット装着車（4WD 車）および応急用タイヤ装着車

1 手前のフックを使用するときは、デッキボードを持ち上げ、フックを起こす



2 デッキボードをもとどおりに閉じる

奥側のフックを使用するときは、そのまま手前に倒します。



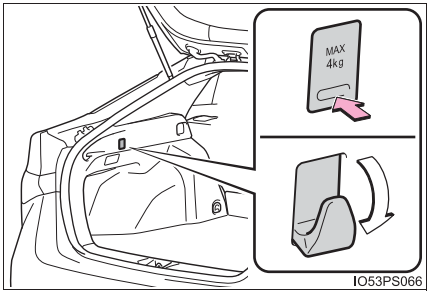
警告

フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

使用するときは、下側を押してフックを起こす

フックは運転席側にもあります



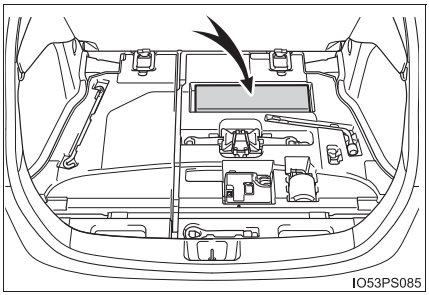
注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

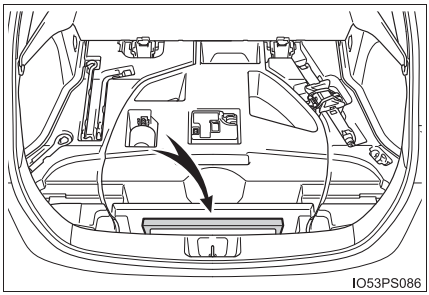
三角表示板等収納スペース（タイヤパンク応急修理キット装着車のみ）

デッキアンダートレイに三角表示板等を収納することができます。

▶ FF 車



▶ 4WD 車



知識

三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

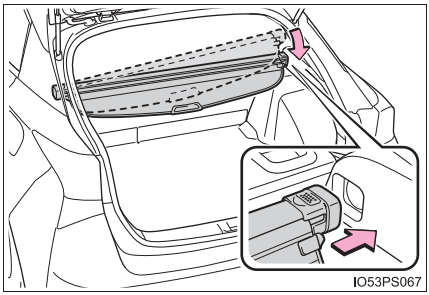
警告

三角表示板等を収納するときは、確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トノカバー★

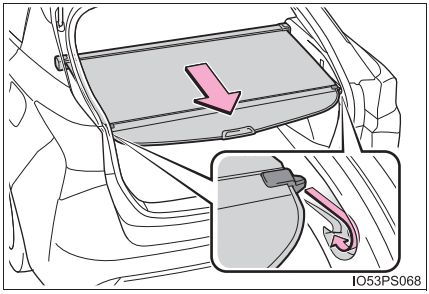
■ 取り付け方

トノカバー本体の一方をホルダーに取り付け、もう一方の先端を内側に押し込みながらホルダーに取り付ける



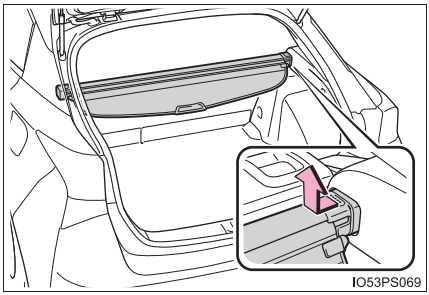
■ 使い方

トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける



■ 取りはずし方

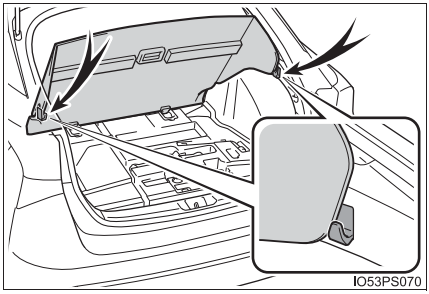
一方の先端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす



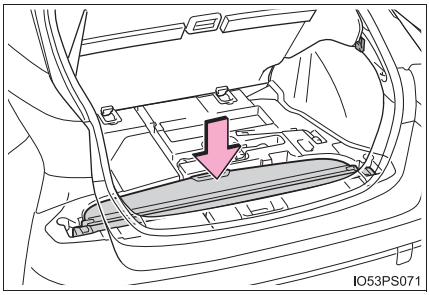
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 収納のしかた（タイヤパンク応急修理キット装着車のみ）

1 デッキボードを開いて買い物フックで固定する（→P. 493）



2 デッキアンダートレイへ収納する



3 デッキボードをもとどおりに閉じる

警告

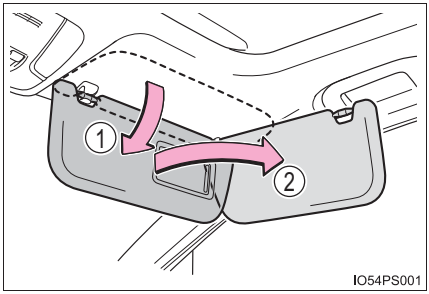
- トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
  トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トノカバーを取り付けるときは、後方視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
  お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

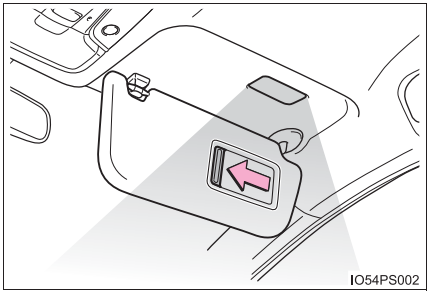
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。



知識

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

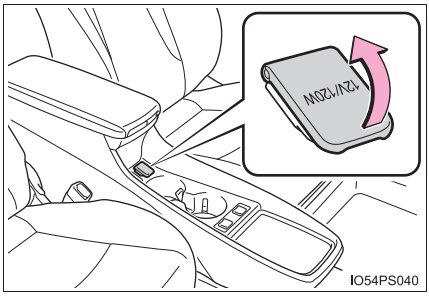
注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケット

DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを手前に引いて開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

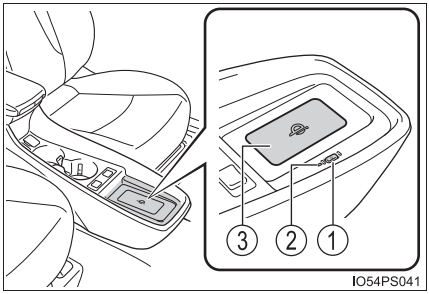
「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ
② 作動表示灯
③ 充電エリア



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

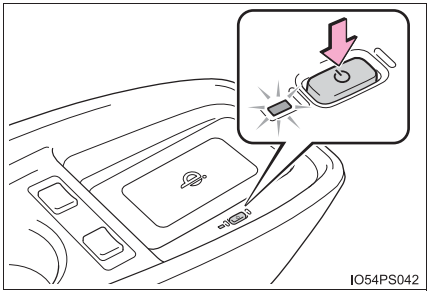
■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

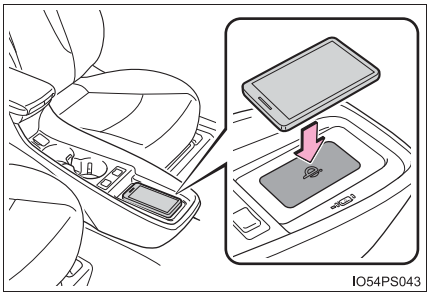


2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能
- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアのあいだに異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムの作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるとき

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に AM ラジオにノイズが入るとき

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。
ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

●充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない

●小物入れがわりにものを置かない

●強い力や衝撃をかけない

●分解や改造、取りはずしをしない

●指定された携帯機器以外は充電しない

●磁気を帯びたものを近付けない

●充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない

●ワイヤレス充電器に異物を入れたり、飲料水などをかけない

●布などをかぶせて充電しない

●充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電
- ●充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- ●充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- ●携帯機器の充電面を上にして置いた
- ●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

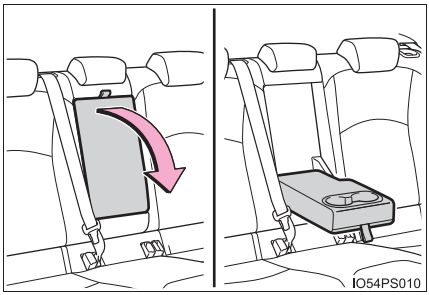
- ●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- ●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレスト★

手前に倒して使用します。

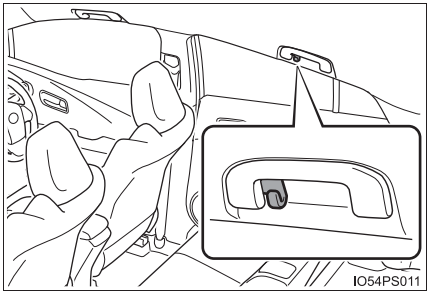


注意

破損を防ぐために、アームレストに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



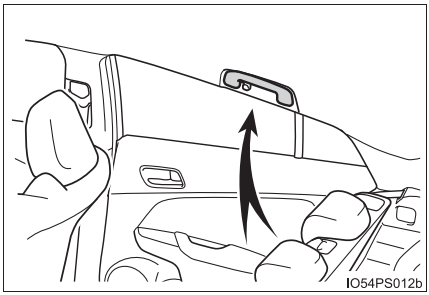
警告

ハンガーなどの硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

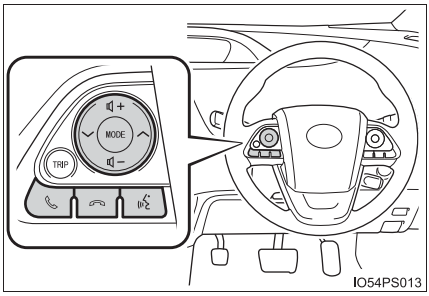
破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ★

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



警告

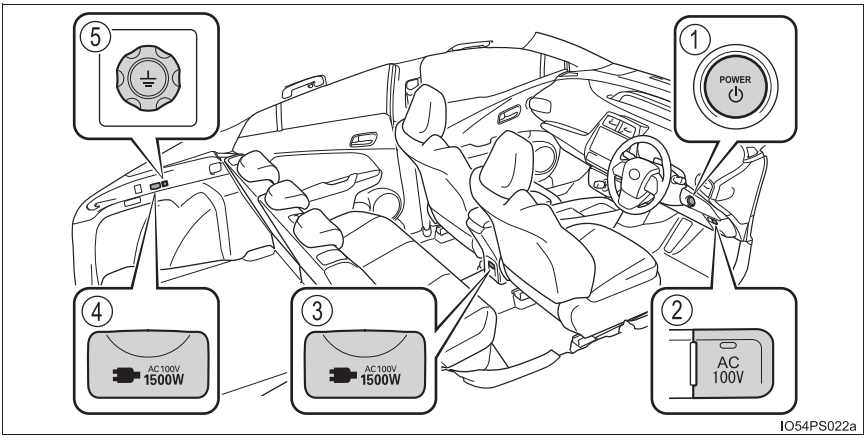
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

◆ 各部の名称



① パワースイッチ（→ P. 240）

② AC100V スイッチ

③ 室内コンセント（コンソールボックス後方）★

④ ラゲージルーム内コンセント（助手席側）

⑤ アース端子

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

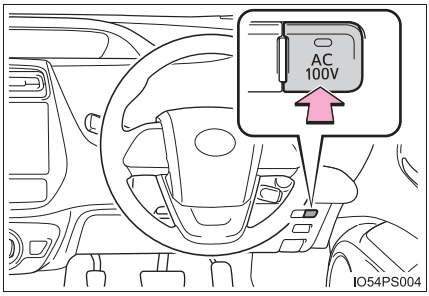
コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 240）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントのON／OFFが切りかわります。

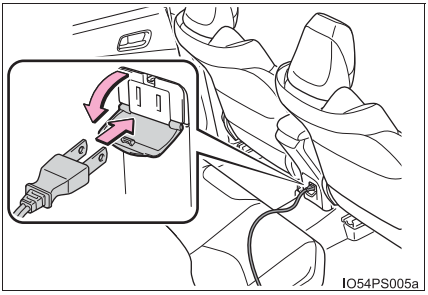


電気製品の電源プラグを接続するとき

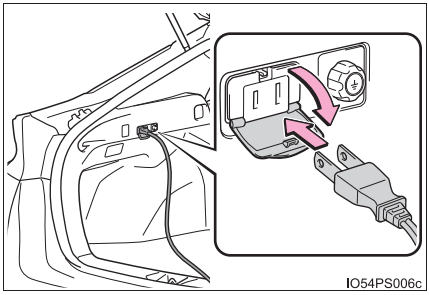
フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

▶ コンソールボックス後方★



▶ ラゲージルーム



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計がAC100V で最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。

●一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

・走行中の振動による電気製品の故障
・車室内の温度変化 ※ による電気製品の故障または作動不良
・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※ 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリーコンセントについて

●コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●極めて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、すべてのアクセサリーコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 138）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を温めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満・滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。

●給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●車外で電気製品を使用するときや、災害などによる非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムを使用してください。（→ P. 517）

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

●医療機器
車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

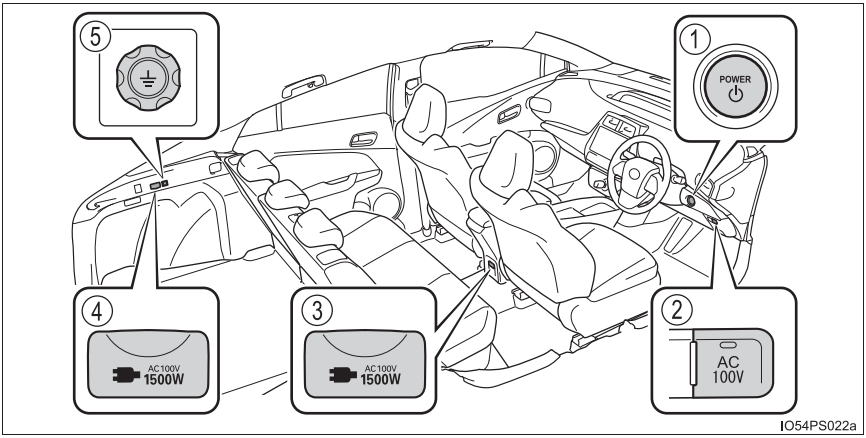
■特に外気温が低いとき

駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

◆ 各部の名称



① パワースイッチ（→ P. 240）
② AC100V スイッチ
③ 室内コンセント（コンソールボックス後方）★
④ ラゲージルーム内コンセント（助手席側）
⑤ アース端子

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

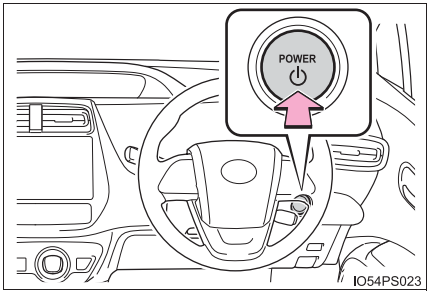
- パーキングブレーキがかかっていること
- ヘッドランプなどが OFF になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON モードにする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

READY インジケーター、AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、READY インジケーターが点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、作動表示灯が点灯しない場合があります。

その場合は再度、AC100V スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

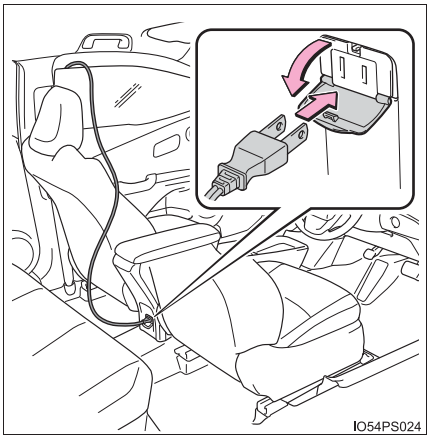
3 非常時給電システムを起動後、エアコンを ON にする（→ P. 458, 469）

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

コンセントが室内とラゲージルーム内の 2ヶ所にある車両では、給電するときは、室内コンセントを使用することをおすすめします。

電気製品の接続されていることがわかるように助手席側の窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。



アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウィンドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないようにすき間を確保してください。（→ P. 218）

一時的に給電を停止するとき

- AC100Vスイッチを押すたびにコンセントのON／OFFが切りかわります。このとき、非常時給電モードは継続します。
- AC100V スイッチ上の作動表示灯の点灯状態により、コンセントのON／OFFを確認できます。

非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1. 使用している電気製品の電源をOFFにする
2. AC100Vスイッチを押してOFFにする
3. コンセントから電源プラグを取りはずす
4. コンセントのフタを閉める
5. パワースイッチをOFFにする

知識

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例にふれるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

●AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなりますが、故障ではありません。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●極めて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、すべてのアクセサリーコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
・駆動用電池の残量を確認してください。（→ P. 139）残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。
その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池をあたためてから使用してください。

●READYインジケーターが点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●起動が完了する前に運転席ドアの開または閉操作をした場合、非常時給電モード起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

・「燃料の残量低下により給電停止しました」
燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。

・「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」
シフトポジションが P から切りかわったため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は 60Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキーのみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをＰから切りかえないでください。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。
コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
  過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満・滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。
  使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器
  車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

⚠注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■非常時給電システムの使用中

- エアコンを使用してください。
- 長時間給電をするときは、エンジン作動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■特に外気温が高いとき

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。
その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。

■特に外気温が低いとき

- 駆動用電池を保護するため数十分間、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池を暖めてから使用してください。
- 排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....528
内装の手入れ.....534

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 537
ガレージジャッキ.....540
ウォッシャー液の補充.....541
タイヤについて.....543
タイヤ空気圧について 547
エアコンフィルターの
交換 549
駆動用電池冷却用吸入口／
フィルターの清掃 552
ワイパーゴムの交換.....557
電子キーの電池交換.....562
ヒューズの点検、交換.....565
電球（バルブ）の交換.....568

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する(→ P. 200)

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド(磨き粉)が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

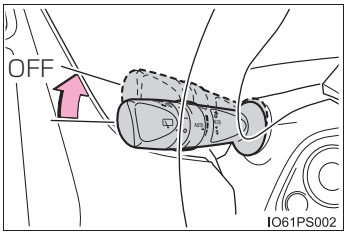
■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

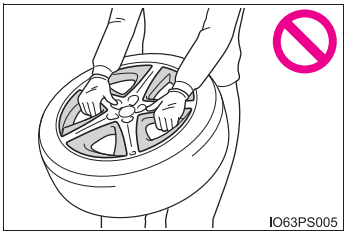
注意

■樹脂加飾部品の取り扱いについて（17 インチホイール装着車）

●ホイールに装着されている樹脂加飾部品の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、樹脂加飾部品またはホイールが損傷するおそれがあります。

・樹脂加飾部品を取りはずさない
樹脂加飾部品の取りはずしが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

・樹脂加飾部品を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしない



●樹脂加飾部品にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、トヨタ販売店でホイールの点検を受けてください。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ★周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■アルミ部品の清掃について

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5%にうすめて使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 101）など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 34）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→ P. 501）をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 279）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

●熱線やアンテナ★を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナ★にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナ★を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

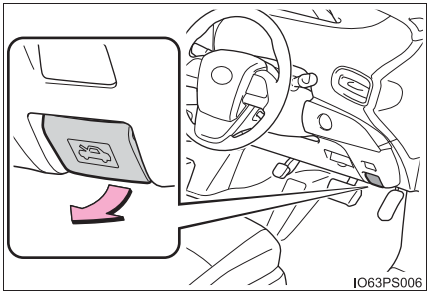
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

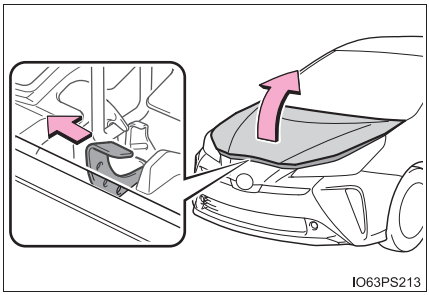
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

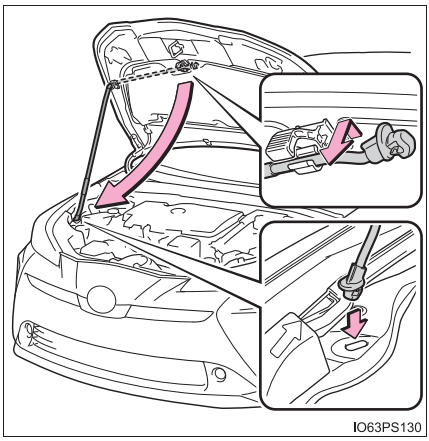
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを開けるとき

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■エンジンルーム点検後の確認

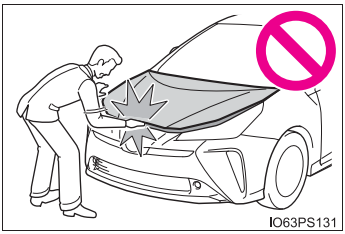
エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ **ボンネットを閉めるとき**

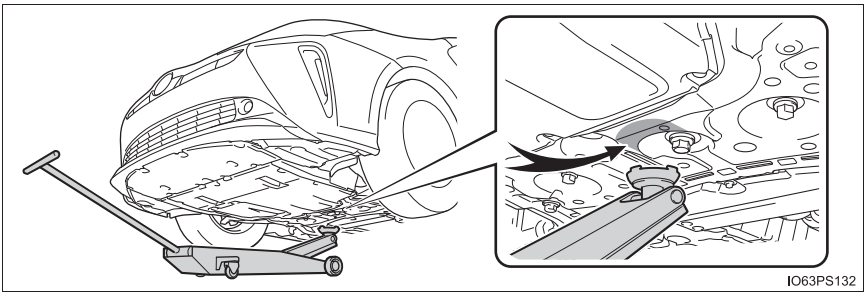
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

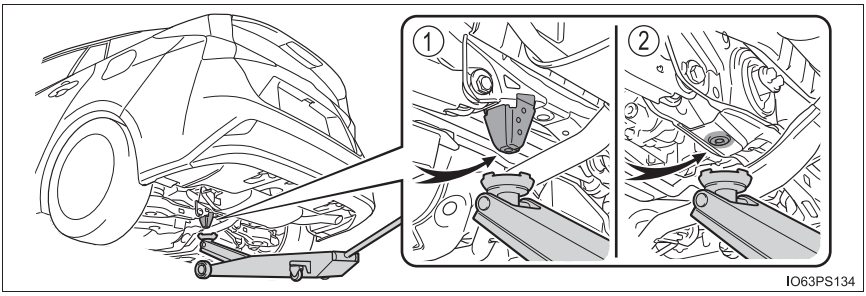
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側



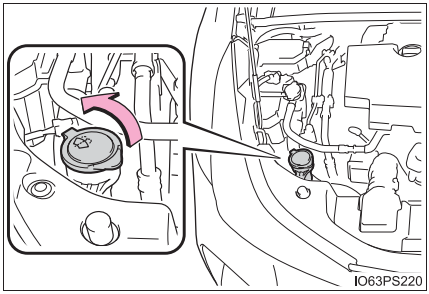
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

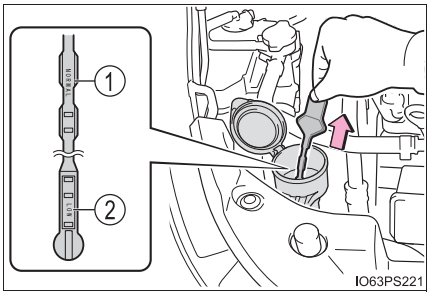
1 フタを開く



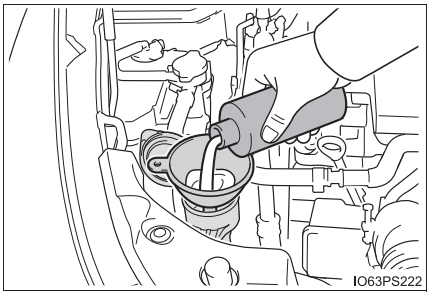
2 レベルゲージでウォッシャー液の量を確認する

① NORMAL（通常）

② LOW（少ない）



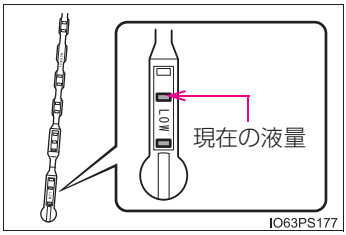
3 液面が LOW の位置に近付いたら
ウォッシャー液を補充する



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

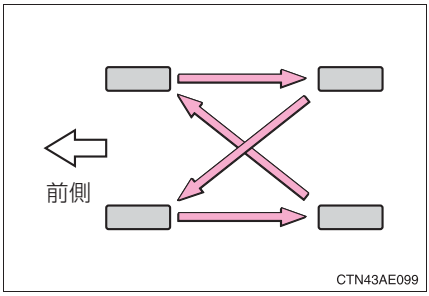
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

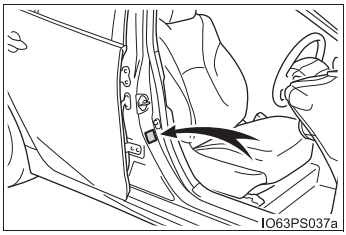
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	空気圧※kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
195/65R15 91S	260（2.6）	250（2.5）
195/65R15 91H	250（2.5）	240（2.4）
215/45R17 87W	220（2.2）	210（2.1）

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 タイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R17 タイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 630）
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■**異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 タイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 659）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

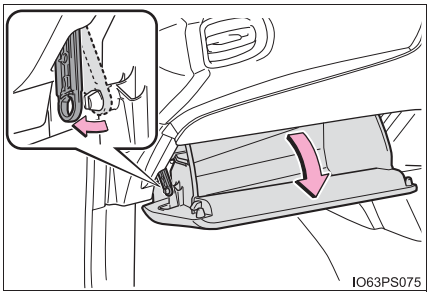
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

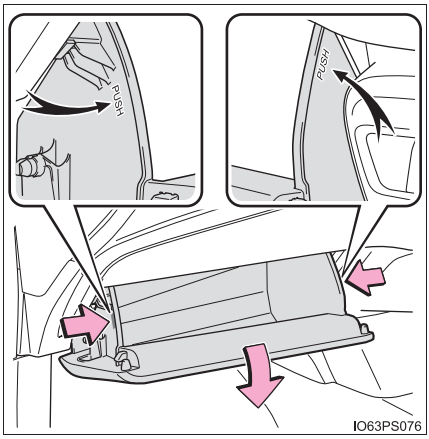
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

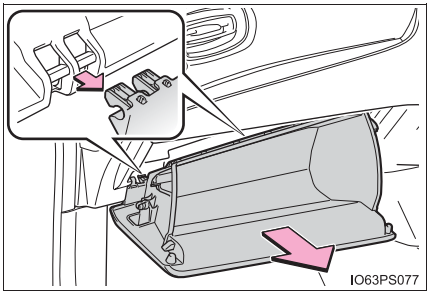


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

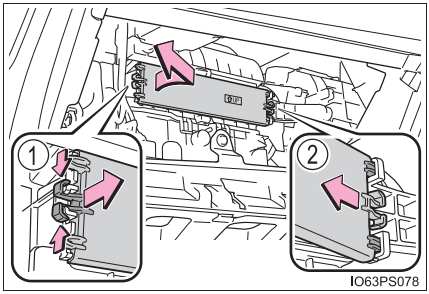
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



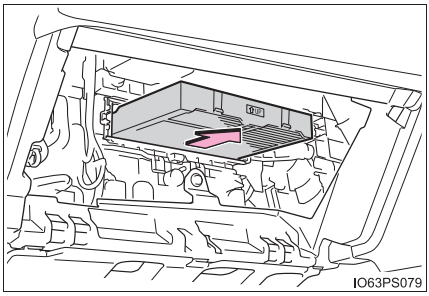
5 フィルターカバーを取りはずす

① つまみを押してフィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

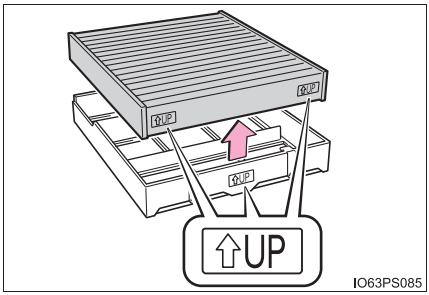


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。
15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

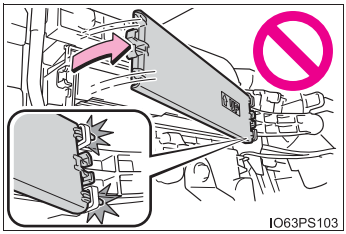
●フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 549）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



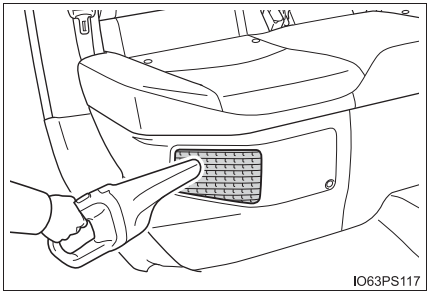
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。
(→ P. 556)

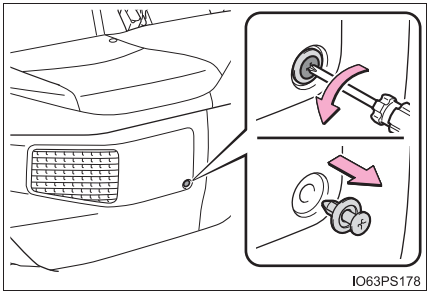


ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

1 パワースイッチを OFF にする

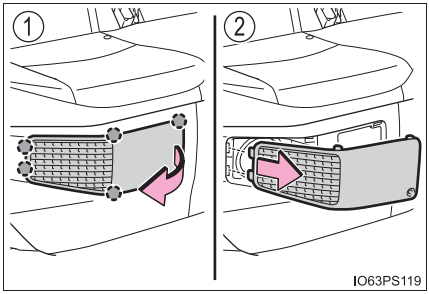
2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



3 吸入口カバーを取りはずす

① 吸入口カバーを手前に引いて、図で示す5ヶ所のツメを右端からはずす

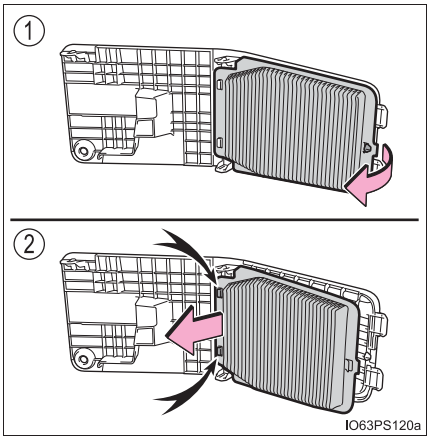
② 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす



4 フィルターを取りはずす

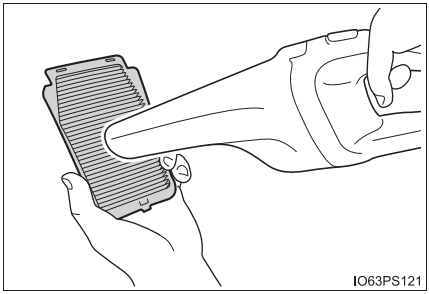
① 図で示す 1ヶ所のツメからフィルターをはずす

② 吸入口カバーから残り 2ヶ所のツメを外してフィルターを取りはずす



5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。

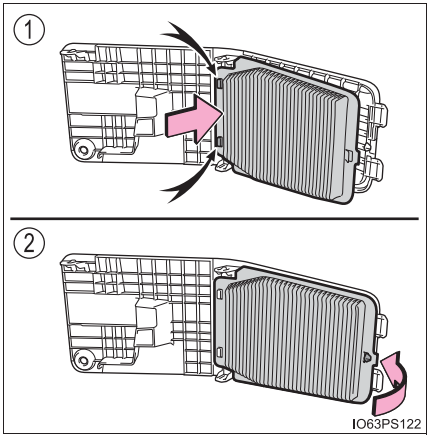


6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

① 図で示す 2ヶ所のツメにフィルターを引っかける

② 残り 1ヶ所のツメにフィルターを取り付ける

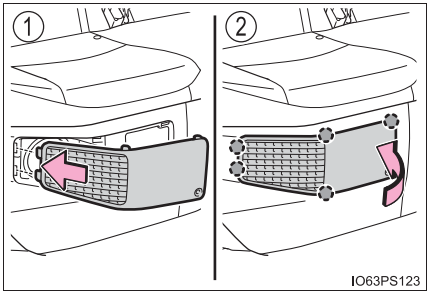
フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。



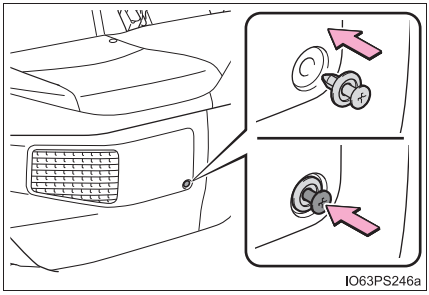
7 吸入口カバーを取り付ける

① 吸入口カバー左端のツメを差し込む

② 図で示す 5ヶ所のツメを取り付ける



8 クリップを取り付ける



知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

●吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

●誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

●吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→ P. 552）

●清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■吸入口の清掃をするときは

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

■吸入口カバーを取りはずすときは

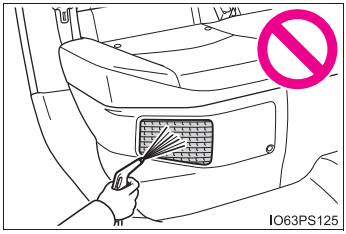
吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→ P. 103）

⚠注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因になったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
  フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

ワイパーゴムの交換

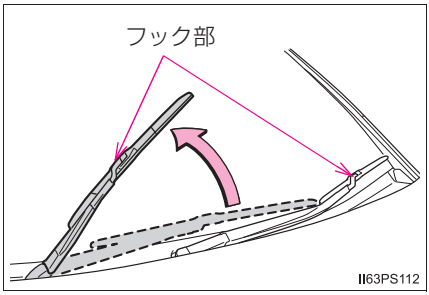
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

■ フロントワイパーブレードの脱着

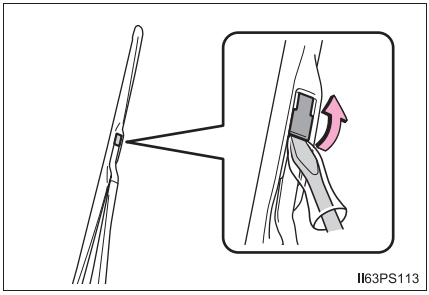
1 ワイパーアームを起こす

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げてください。



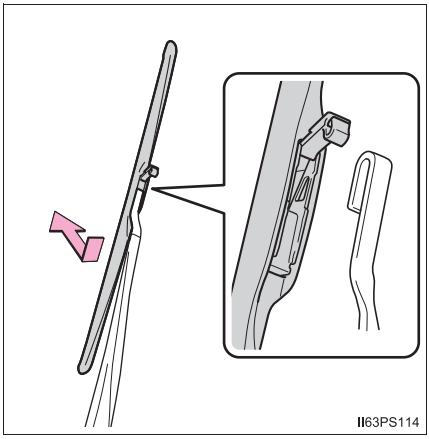
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



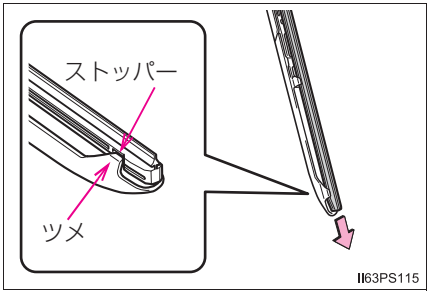
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



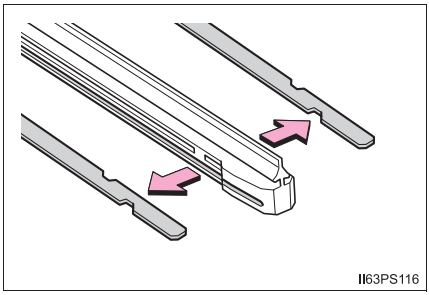
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。

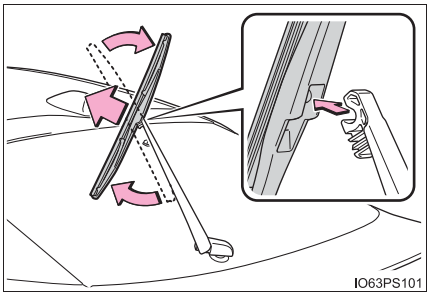


3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

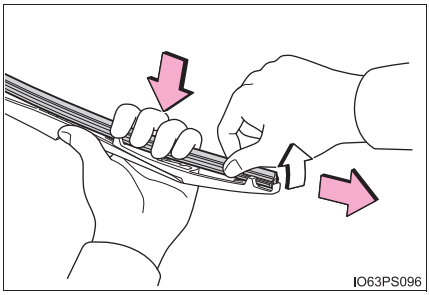
リヤワイパー★

1 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

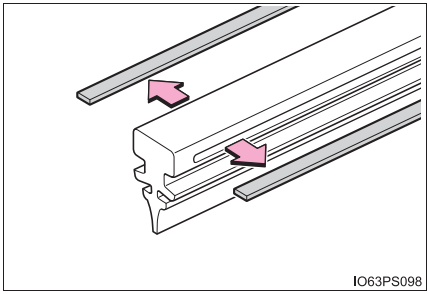


2 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。



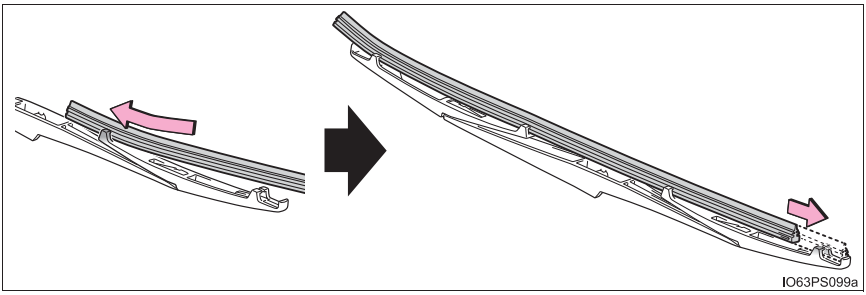
3 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3 つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った 1 つのツメに通す

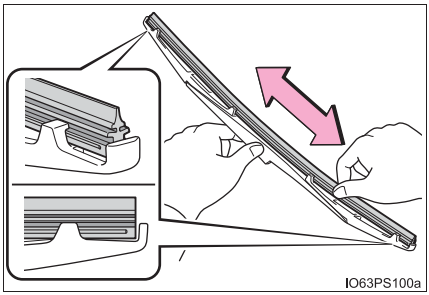
ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



5 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



6 ワイパーブレードを取り付けるときは、1 と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■損傷を防ぐために

●ワイパーゴムを交換するときは、ツメの損傷に注意してください。

●ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。

●無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

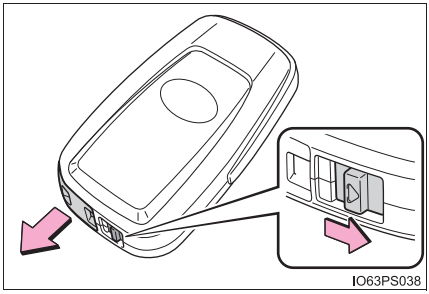
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

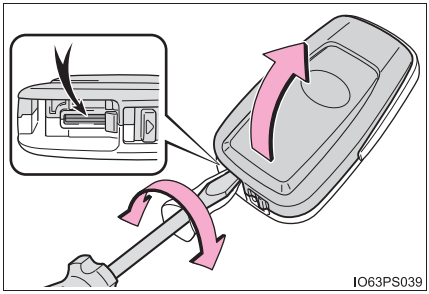
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く


IO63PS038

2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

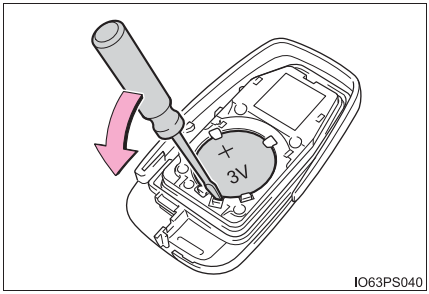
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


IO63PS039

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。



IO63PS040

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

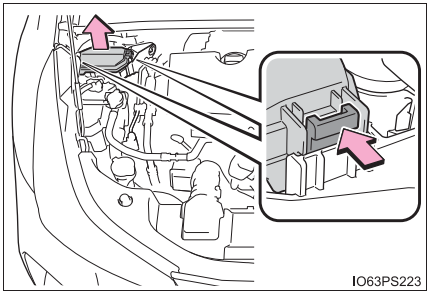
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）

2ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

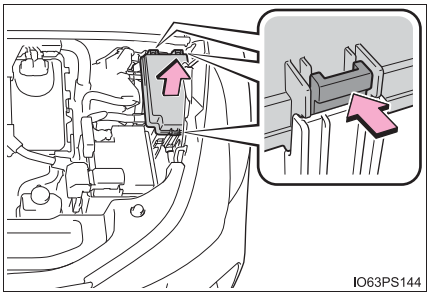
閉めるときは、2ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（助手席側）

3ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

閉めるときは、3ヶ所のツメを確実に閉めてください。



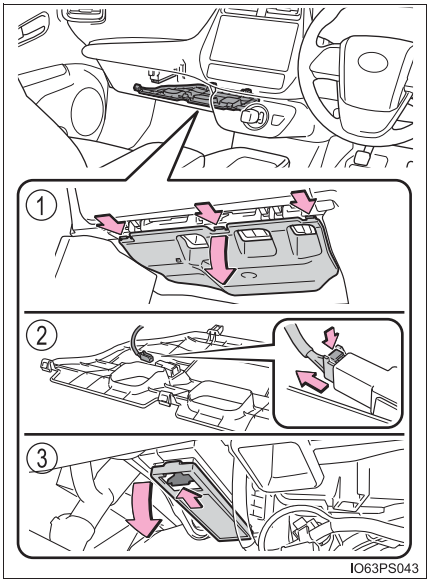
▶ 助手席足元

① ツメを押してロックをはずし、アンダーカバーを取りはずす

② ツメを押してロックをはずし、コネクター★を取りはずす

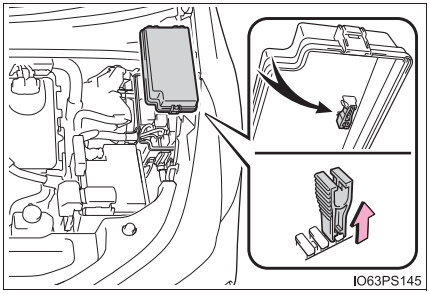
③ ヒューズボックスカバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

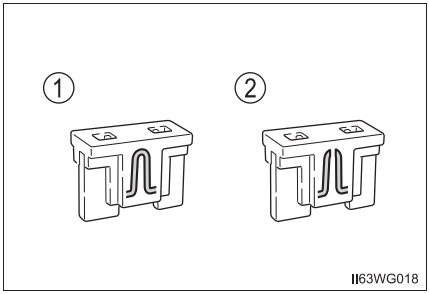


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
（→ P. 568）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

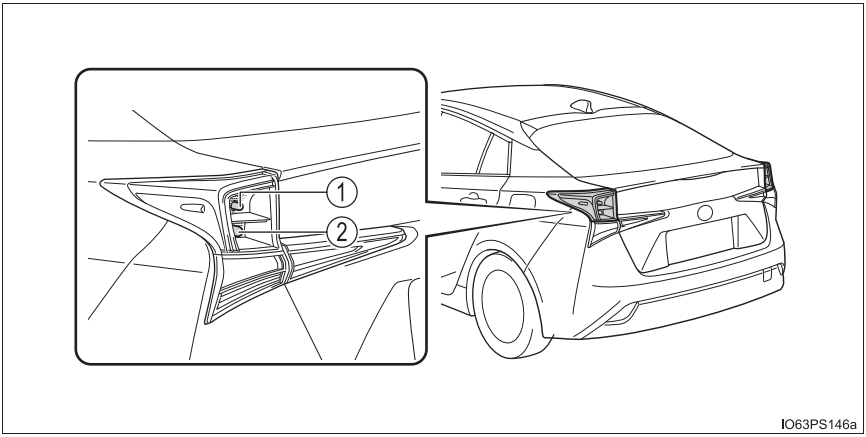
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 660）

バルブ位置



① 後退灯 ※

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

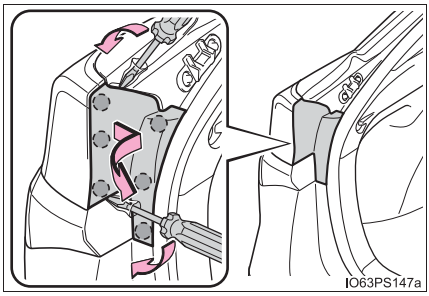
※ リヤフォグランプ装着車の場合、後退灯は助手席側のみに装着されます。

電球交換のしかた

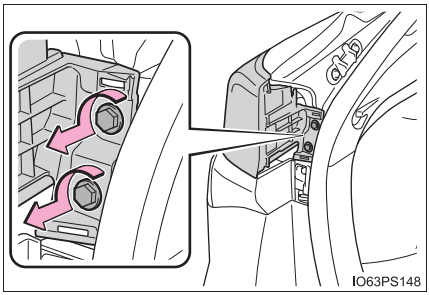
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯

1 バックドアを開け、ランプ側面のカバーの内側にドライバーを入れ、車両後方の点線部のツメをはずしてカバーを起こし、車両内側斜め後方へ引きながら車両内側の点線部のツメをはずす

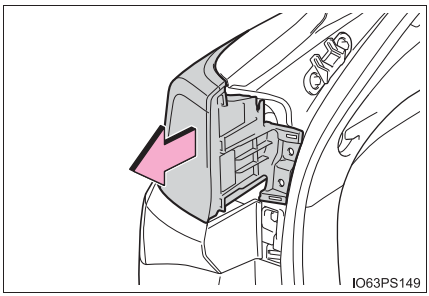
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 ボルト（2 個）をはずす

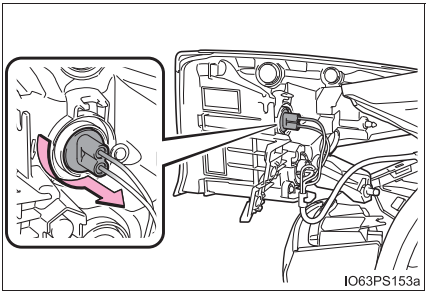


3 ランプ本体を車両後方に引いて取りはずす

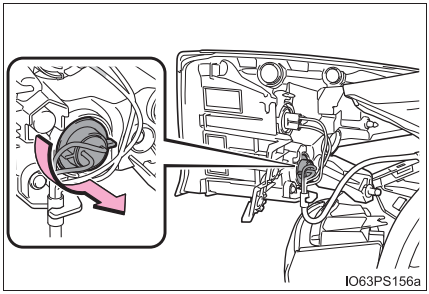


4 ソケットを取りはずす

▶ 後退灯

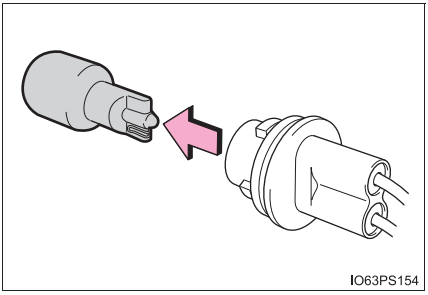


▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

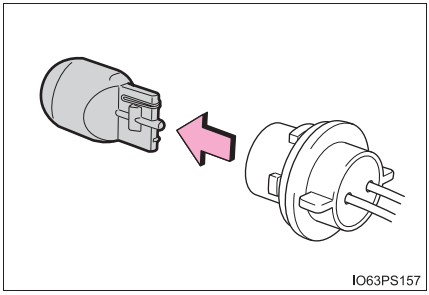


5 電球を取りはずす

▶ 後退灯

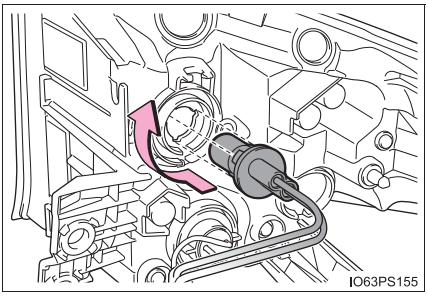


▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

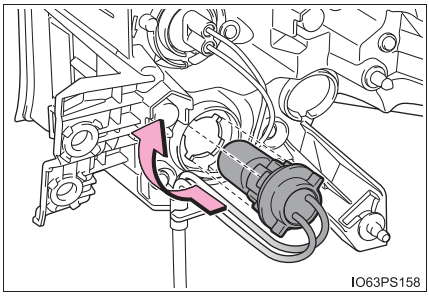


6 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に取り付ける

▶ 後退灯

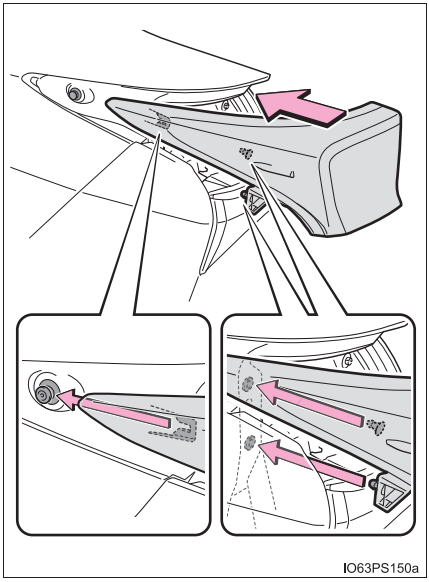


▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

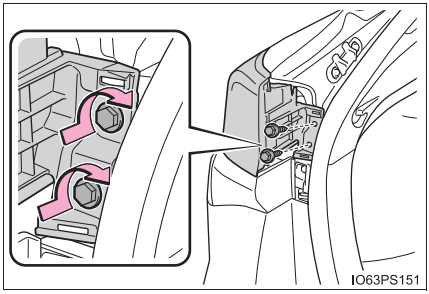


7 車体側のクリップをランプ本体の溝の位置に合わせてから、裏側にあるピン（2ヶ所）がはまるように、ランプ本体をまっすぐ押し込む

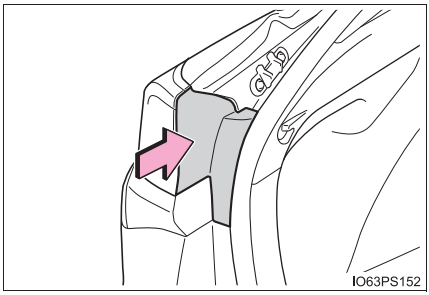
押し込んだあと、ランプ本体がしっかり固定されたことを確認してください。


IO63PS150a

8 ボルト（2 個）を取り付ける


IO63PS151

9 カバーを取り付ける


IO63PS152

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- 薄暮灯★
- フロントフォグランプ★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- リヤフォグランプ★
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 567

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....576
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....577
発炎筒.....578
車両を緊急停止するには.....580
水没したときは.....581

7-2. 緊急時の対処法

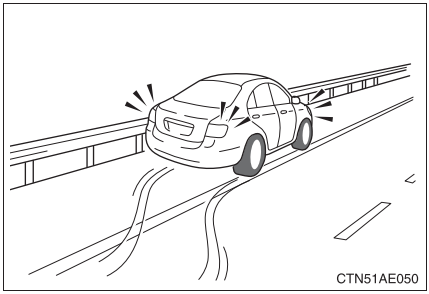
けん引について.....582
警告灯がついたときは.....590
警告メッセージが
表示されたときは.....596
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....605
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....623
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....635
電子キーが正常に
働かないときは.....637
補機バッテリーが
あがったときは.....640
オーバーヒート
したときは.....646
スタックしたときは.....651

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

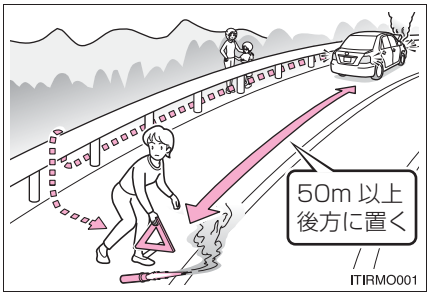
非常点滅灯（→ P. 577）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

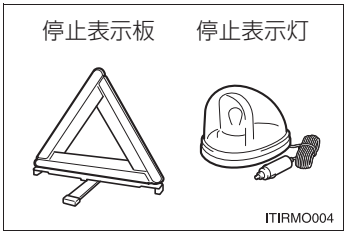
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 578）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



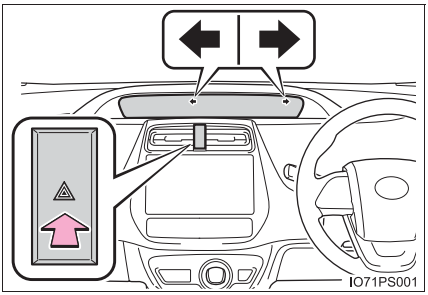
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

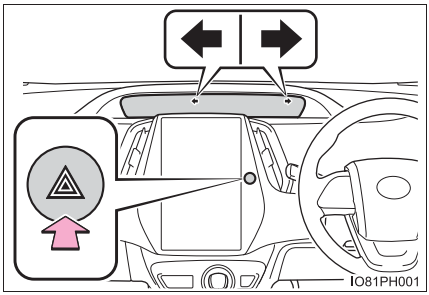
スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

▶ ナビゲーションシステム※ 非装着車



▶ ナビゲーションシステム※ 装着車



※ メーカーオプション

知識

■非常点滅灯について

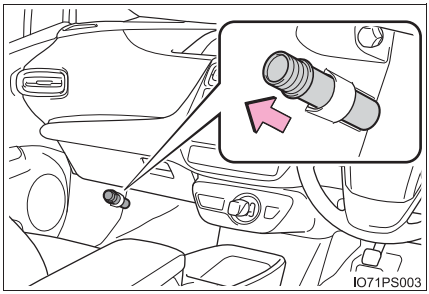
●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

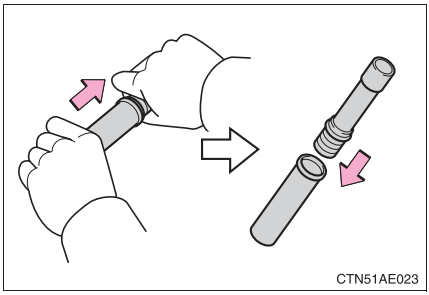
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

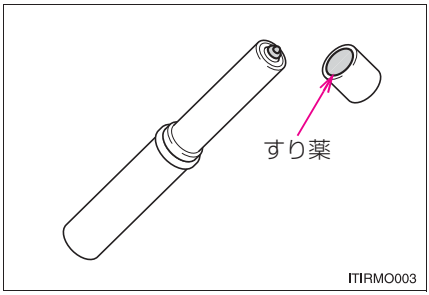


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

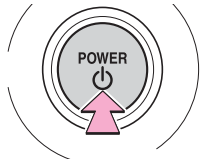
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■緊急脱出用ハンマー ※1 の使用について

この車両のリヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー ※1 で割ることはできますが、フロントウインドウガラス・フロントドアガラス ※2 は合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー ※1 で割ることができません。

※1 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

※2 合わせガラス装着車

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

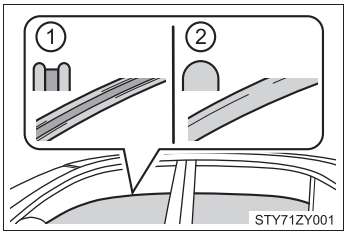
知識

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。

① 合わせガラス

② 強化ガラス



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 244, 603）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 107）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→ P. 637）
- 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 640）

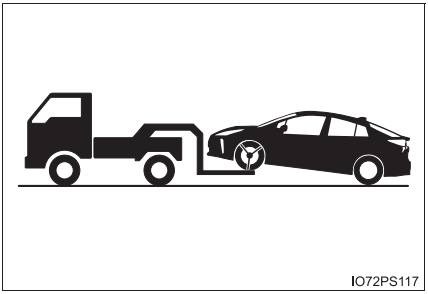
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

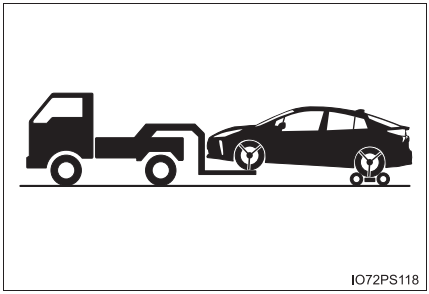
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



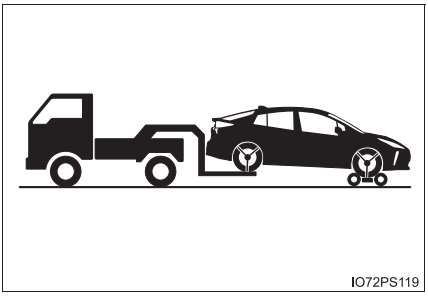
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

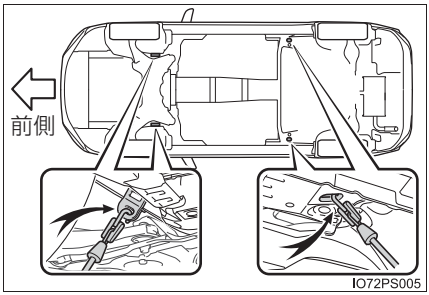
▶ うしろ向きにけん引するときは



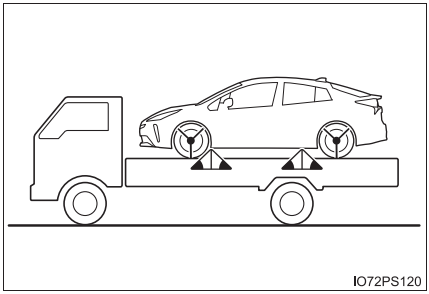
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



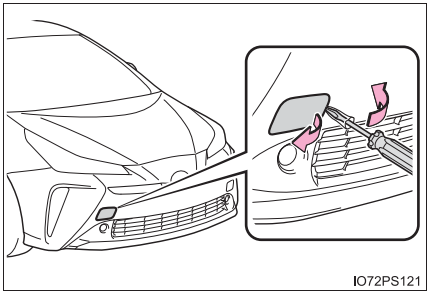
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

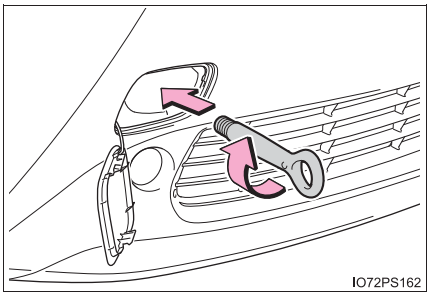
1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 607, 624）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

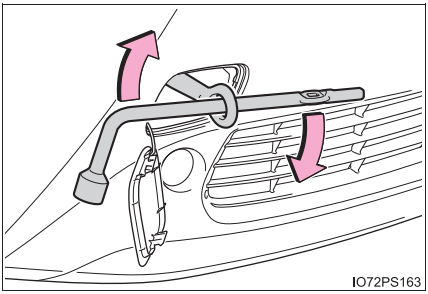


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチ、または固い金属の棒で車体を傷付けないように注意してください。

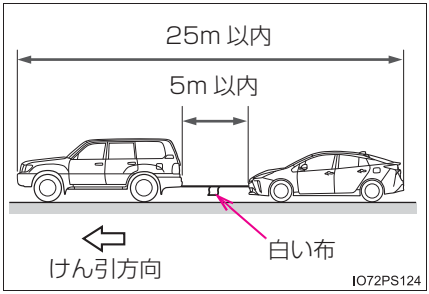


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

パーキングサポートブレーキ★を OFF にしてください。（→ P. 366）

8 けん引される車両のシフトポジションを N※ にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

※ シフトポジションの切りかえができない、または現在のシフトポジションが確認できない場合は、トヨタ販売店または専門業者にご連絡ください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

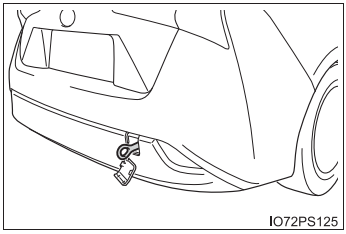
■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 607, 624）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ側のフック取り付け位置について

リヤ側のフック取り付け位置は、船舶固縛で車両を輸送するときに、車両を固定するためのものです。この車で他車をけん引することはできません。



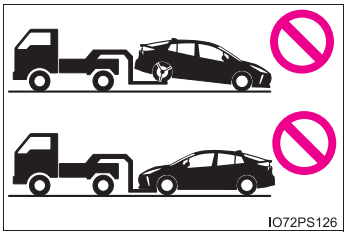
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

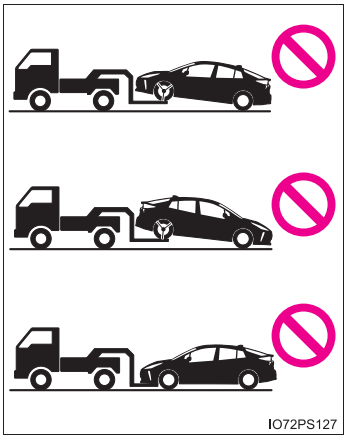
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。
パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

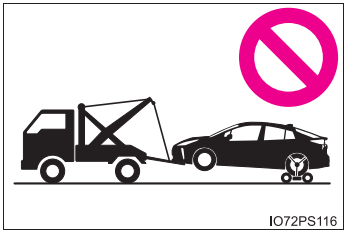
●けん引フックは、搭載されている車両専用です。他の車のけん引フックを使用したり、この車のけん引フックを他の車に取り付けたりしないでください。

●指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

▶FF 車

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶4WD 車

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯 マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されているか確認する ・メッセージの表示がない場合： 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** ・メッセージが表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ → P. 601
	油圧警告灯（警告ブザー ※2） エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色／黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** ・警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 283, 603）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 293**
（橙色）	**LTA 表示灯（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 305）**
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	高水温警告灯 ・警告灯が点滅したとき： エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。 **→ ただちに安全な場所に車両を停車して点検する（→ P. 646）** ・警告灯が点滅することなく、点灯したとき： 排熱回収器★の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★** パーキングサポートブレーキの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** システムの異常時以外にも、表示灯が次のように作動します。 ・パーキングサポートブレーキを OFF にすると点灯します。（→ P. 366） ・システムの作動中に点灯します。（→ P. 369） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 373）
	半ドア警告灯（警告ブザー ※3） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※4） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※5） リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 596**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／パーキングサポートブレーキ★／急アクセル時加速抑制★（シンボル表示 ※6） **ブレーキオーバーライドシステム** アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動した **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール** アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動した（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **パーキングサポートブレーキ** パーキングサポートブレーキ作動時（→ P. 369） **→ 表示された画面の指示に従ってください。** **急アクセル時加速抑制** 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、ハイブリッドシステムの出力が抑制された **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 油圧警告ブザー：
READY インジケーターが点灯しているとき、エンジンオイルの圧力低下により警告灯が点灯すると、最大で約 30 秒間、警告ブザーが鳴ります。

※3 半ドア走行時警告ブザー：
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※4 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※5 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※6 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ★の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

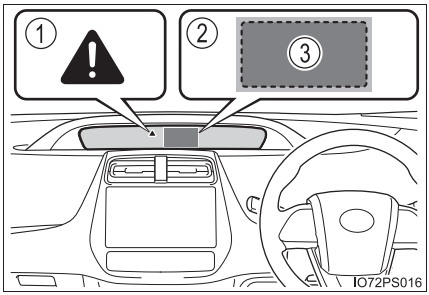
■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。※

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

※ メッセージの内容によっては、マスターウォーニングが連動しない場合があります。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージ、または画像が表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 591）

●「故障のためブレーキ力が低下します　販売店で点検してください」が表示されている：
電子制御ブレーキ警告灯（黄）が点灯します。（→ P. 590）

●いずれかのドアが開いていることを示す画像が表示されている（停車中）：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 592）

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 228, 602）
・ドライブスタートコントロール・パーキングサポートブレーキ★が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 227, 369）。
画面の指示に従って対処してください。
・急アクセル時加速抑制が作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 376, 602）

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり（→ P. 250）、シフト操作が指示されたりすることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●「故障のためブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

●「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」

●「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書確認ください」が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→ P. 601）

■「シフト系不作動 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムに問題が発生しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションなどの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 603）

■「シフト系故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」または「シフト系通信故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 603）

■「P スイッチ故障　駐車時はパーキングブレーキをかけ　取扱書を確認」が表示されたとき

P ポジションスイッチが働かない可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

■「シフト系故障 シフト切替えできません 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムの故障が発生しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを P から P 以外に切りかえられない可能性があります。

■「シフト系故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを切りかえられない可能性があります。安全な場所に停車してください。

■「シフト系故障 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

放置すると、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。

■「補機バッテリー充電不足 駐車時パーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーが充電不足です。補機バッテリーを充電または交換してください。

- このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 603）
- 補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。

■「補機バッテリー充電不足 シフト切替えできません 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーの電圧が低下したため、シフトポジションの切りかえができなくなっています。補機バッテリーを充電、または交換してください。
（補機バッテリーあがりの対処方法：→ P. 640）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 646

■「4WD 高負荷 走行を控えてください 2WD 走行に切替わります」または「4WD システム高温 2WD 走行に切替わりました」が表示されたとき（4WD 車）

負荷の高い走行状況が続いたときに、メッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 419

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたとき

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。

●吸入口が汚れている場合は、P. 552 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

●吸入口が汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されたとき

●数秒後※に表示が消えたときは

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 640）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「N レンジです　アクセルを緩めて　希望レンジに切り替えてください」が表示されたとき

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「N レンジに切替えました P にする場合は 停車し P スイッチ操作」が表示されたとき

走行中に P ポジションスイッチを押したとき、自動的にシフトポジションが N に切りかわり、このメッセージが表示されます。（→ P. 250）

■「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■「アクセルとブレーキが両方踏まれています」が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。（→ P. 228）

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「アクセルを戻してください」が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ドライブスタートコントロール（→ P. 227）
- プラスサポート★（→ P. 379）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。
（→ P. 283, 591）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール一時使用不可　取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法→ P. 283）

■「クルーズコントロール　現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■警告メッセージが表示され、シフトポジションを変更できなかったり、パワースイッチを操作してOFFにしようとしてもアクセサリーモードになったりするときは

補機バッテリーが充電不足になったり、シフト制御システムが故障してしまったりした場合、次のような現象が起こる場合があります。

●シフトポジションを P に切りかえられない可能性があります。
駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。

●パワースイッチを操作して OFF にしようとしても、アクセサリーモードになることがあります。
その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると、OFF にすることができます。

●自動 P ポジション切りかえ機能（→ P. 251）が働かない可能性があります。
パワースイッチを OFF にする前に、確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 595

⚠注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■「駆動用電池を点検してください」が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 606）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

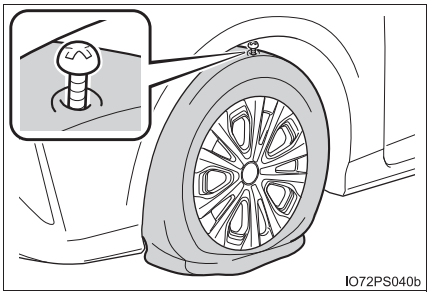
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

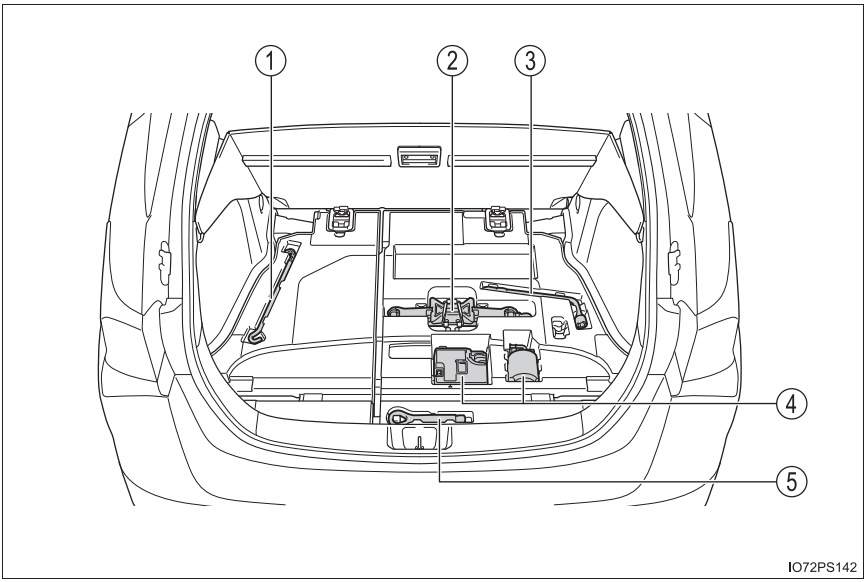
■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF 車



① ジャッキハンドル

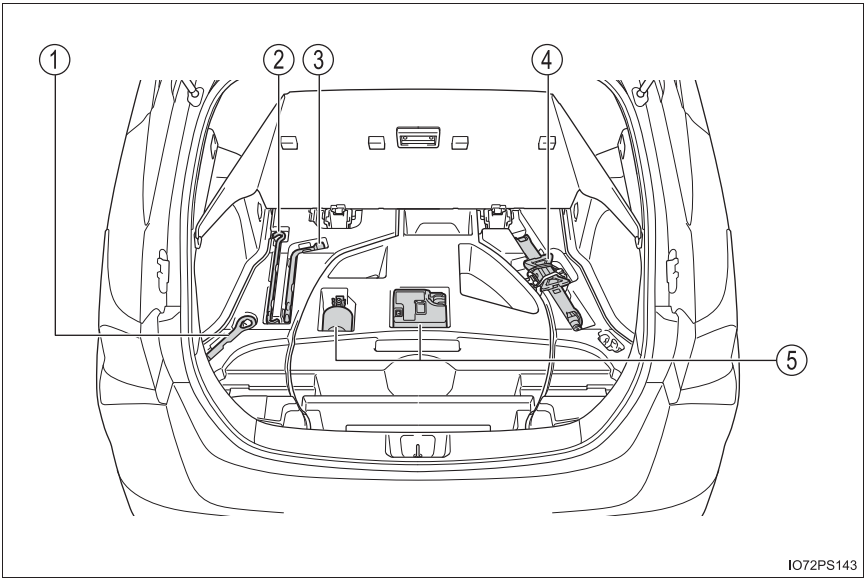
② ジャッキ
（使用方法：→ P. 611）

③ ホイールナットレンチ

④ タイヤパンク応急修理キット

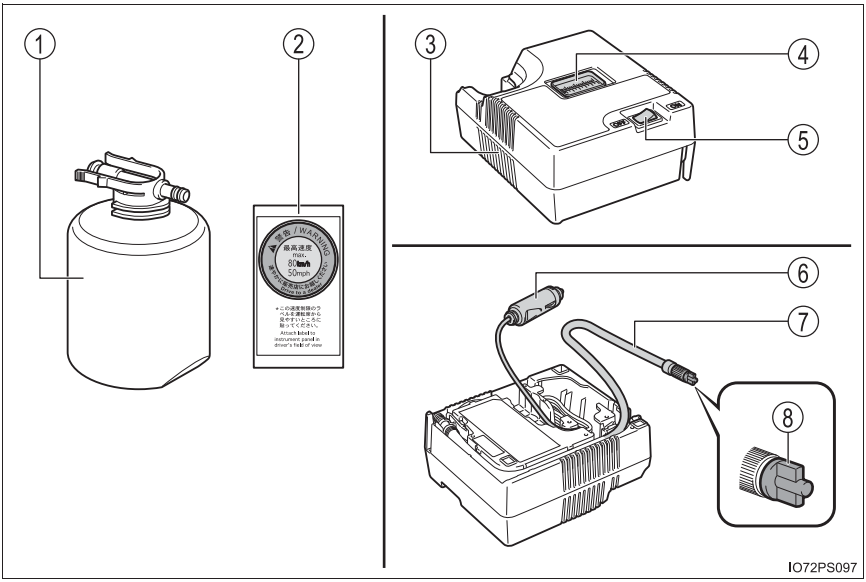
⑤ けん引フック

▶ 4WD 車



① けん引フック
② ジャッキハンドル
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキ
（使用方法：→ P. 611）
⑤ タイヤパンク応急修理キット

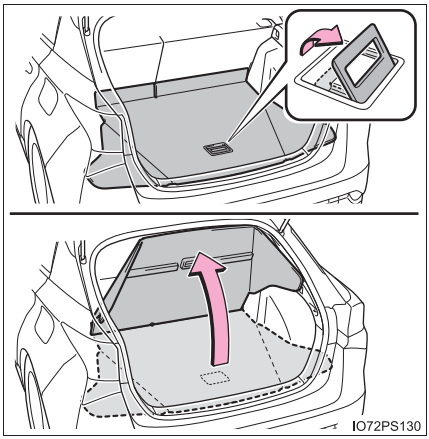
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



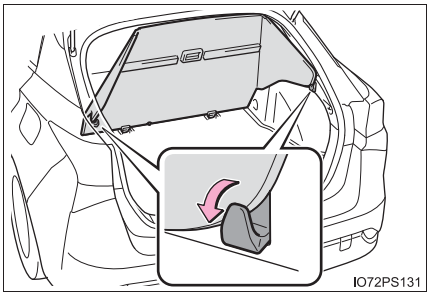
① ボトル
② 速度制限ラベル
③ コンプレッサー
④ 空気圧計
⑤ 電源スイッチ
⑥ 電源プラグ
⑦ ホース
⑧ 空気逃がしキャップ

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 ハンドルを引き上げて、デッキボードを開く



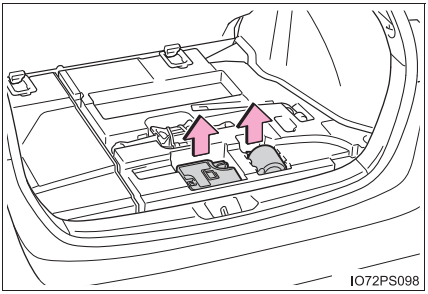
2 買い物フック(→P. 495)を使って、デッキボードを固定する



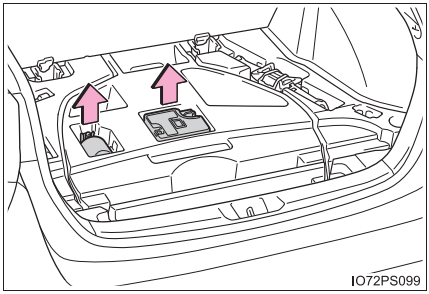
3 応急修理キットを取り出す

FF 車でトノカバー★を収納している場合は、トノカバーの先端をめくって、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

▶ FF 車



▶ 4WD 車

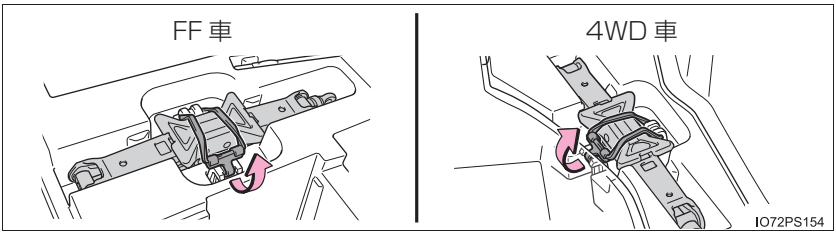


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

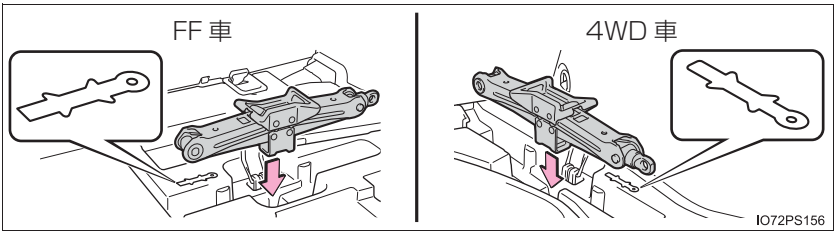
■ジャッキの取り出し方

固定バンドのフックをはずして取り出します。



■ジャッキを収納するとき

収納位置の横にあるマークと同じ向きになるように、ジャッキを収納します。



警告

■ジャッキや工具を使用したあとは

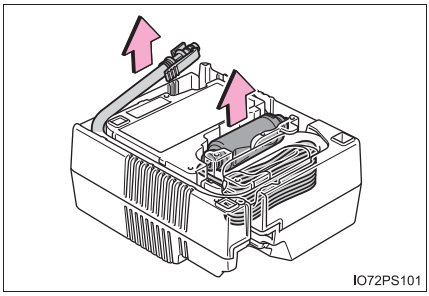
走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

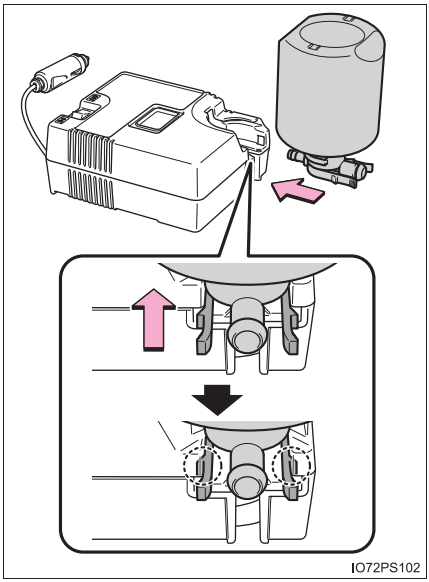
ボトルに同封されているラベルは、所定の位置へ貼り付けます。（手順10へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



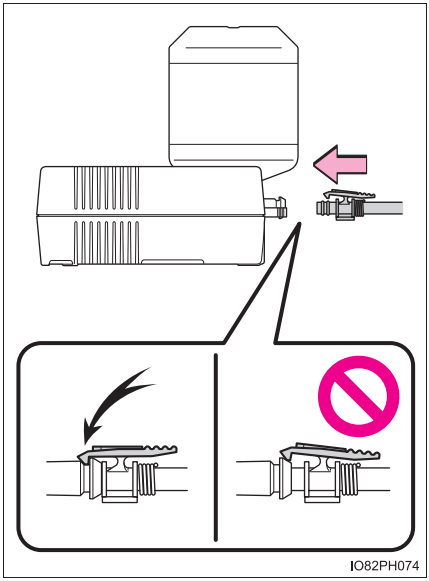
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

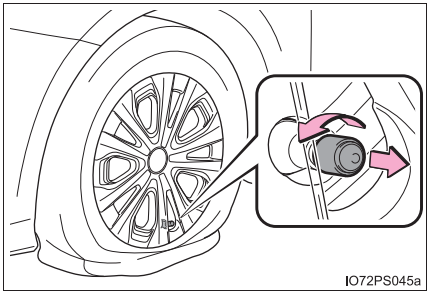


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

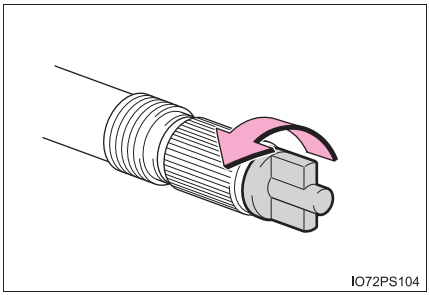


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



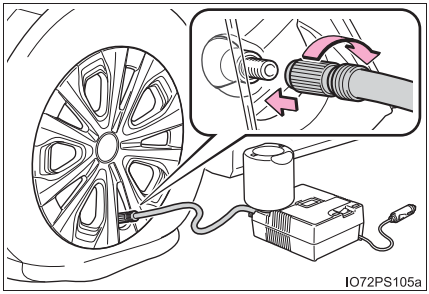
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

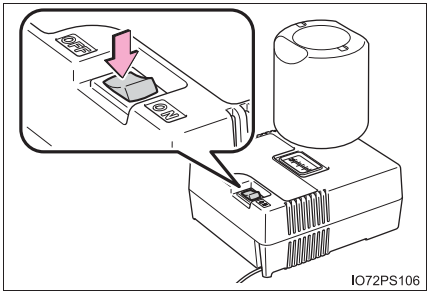


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

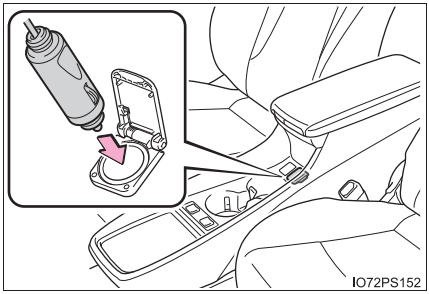

IO72PS105a

8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

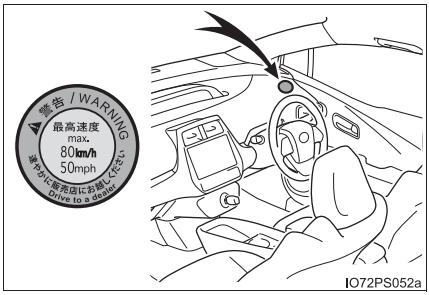


IO72PS106

9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 500）


IO72PS152

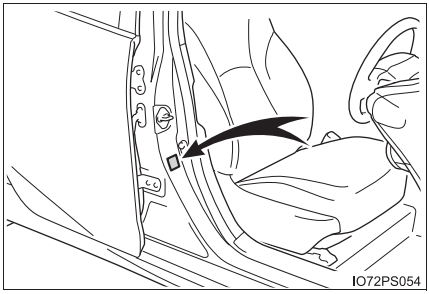
10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



IO72PS052a

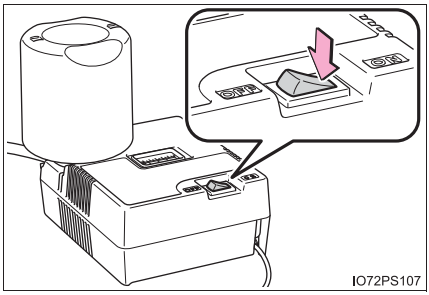
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 544）



12 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 240）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



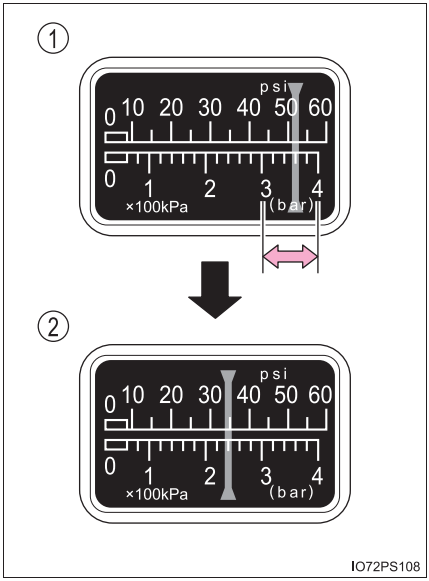
14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa(3.0～4.0kg/cm^2)まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約５～20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 618, 659)

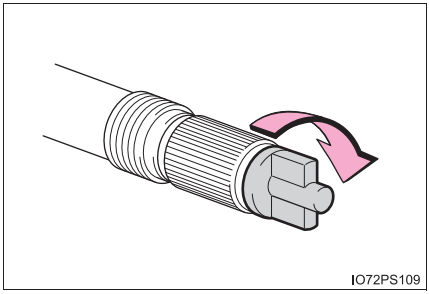
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

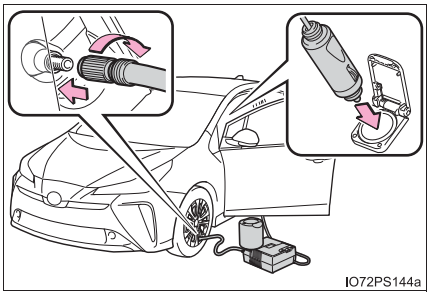


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

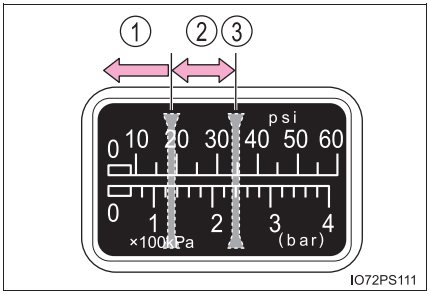


21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順22へ

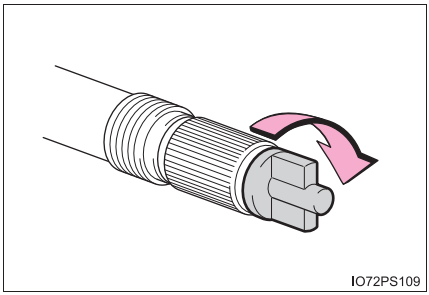
③ 空気圧が指定空気圧（→P. 659）の場合：手順23へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順20から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、かつ 80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

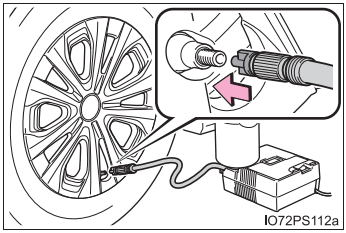
トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 543 を参照してください）

警告

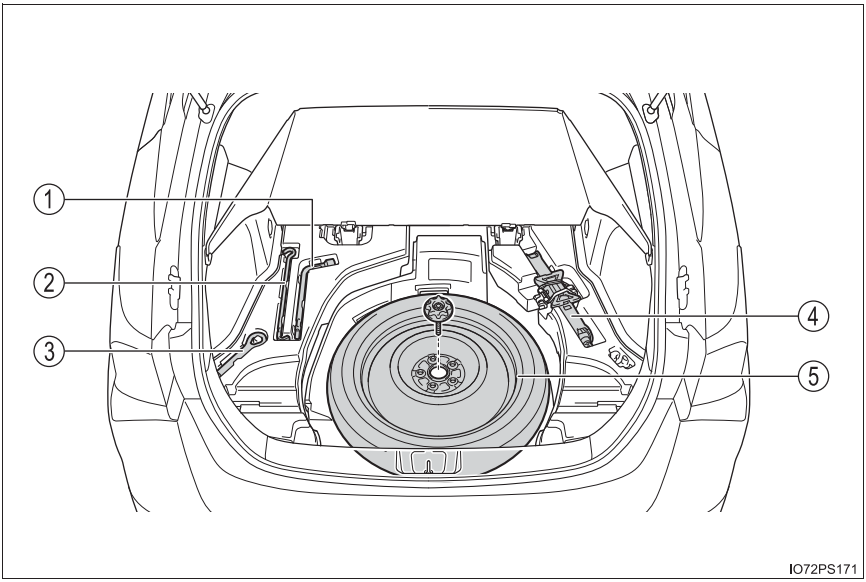
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 577）

工具とジャッキ位置



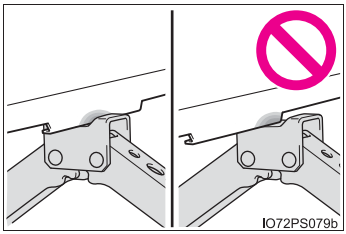
① ホイールナットレンチ
② ジャッキハンドル
③ けん引フック
④ ジャッキ
⑤ 応急用タイヤ

警告

■ **ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→ P. 628）

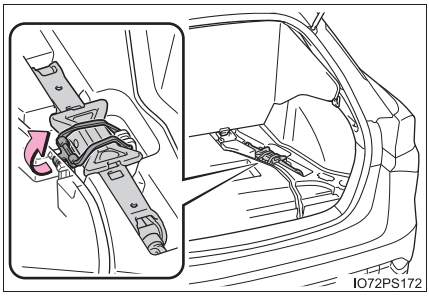


- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを開いて固定する（→ P. 493）

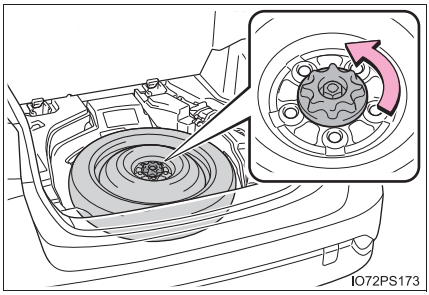
2 固定バンドのフックをはずし、ジャッキを取り出す



応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを開いて固定する（→ P. 493）

2 留め具を取りはずし、応急用タイヤを取り出す



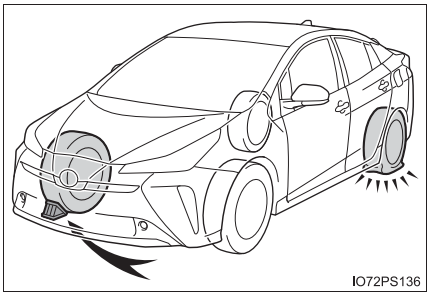
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

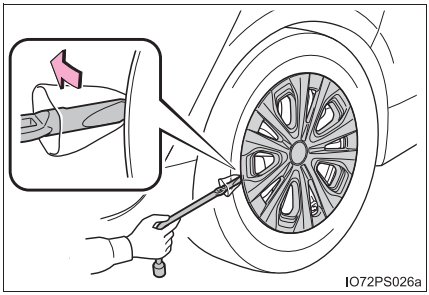


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

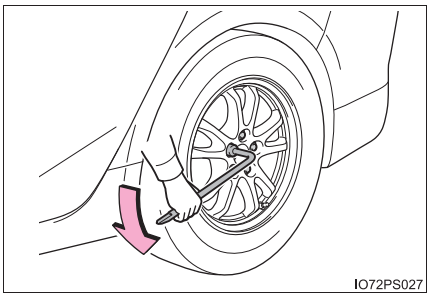
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 195/65R15 タイヤ装着車は、ホイールキャップを取りはずす

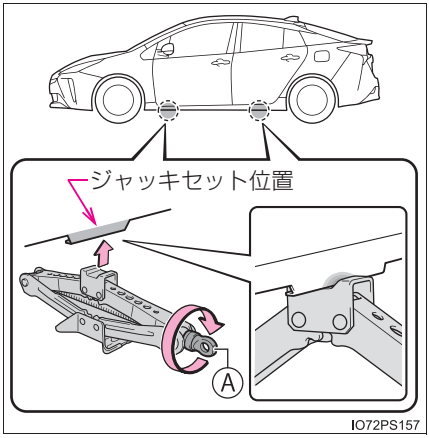
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。



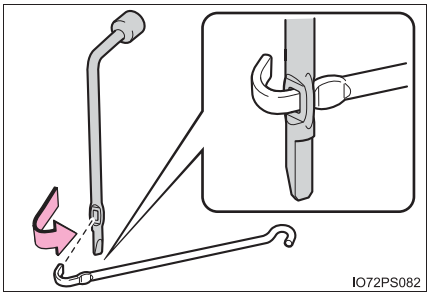
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



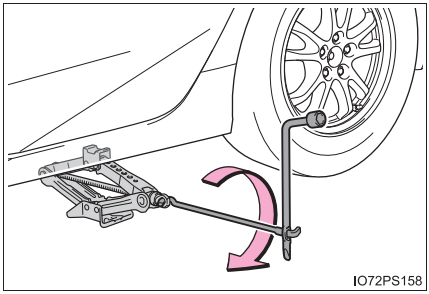
4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのⒶ部を手でまわす



5 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

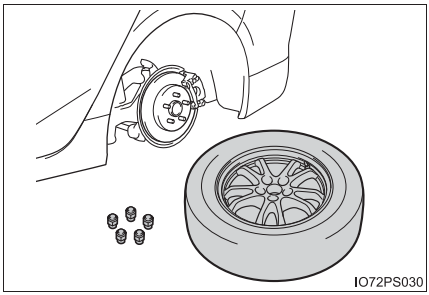


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

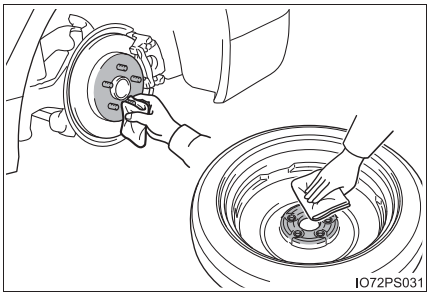
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

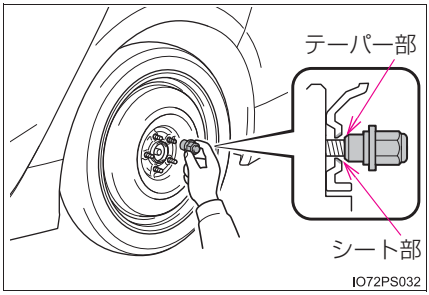
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

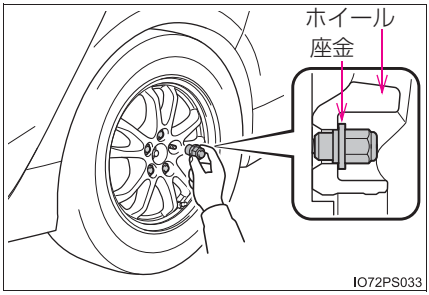


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

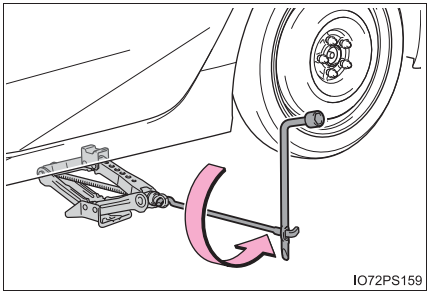
アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



アルミホイールからアルミホイールにかえるときは、ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。

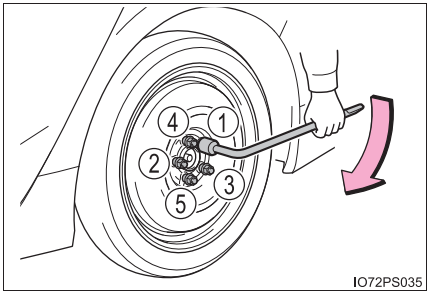


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

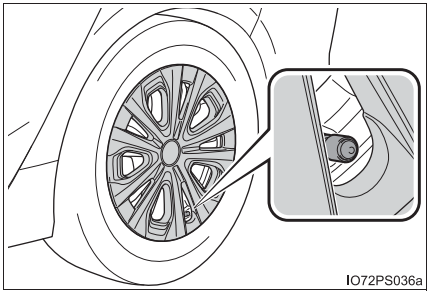
締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 車両に装着されていたホイールにもどしたときは、ホイールキャップを取り付ける※
（195/65R15 タイヤ装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません。



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 659）

■応急用タイヤを装着しているとき

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

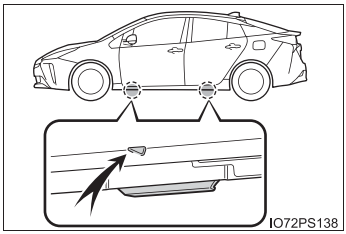
1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

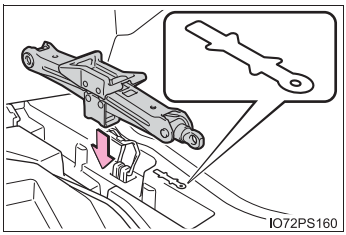
■ジャッキセット位置を確認するとき

ジャッキセット位置を確認するためのマークが、車体の下側に刻印されています。



■ジャッキを収納するとき

収納位置の横にあるマークと同じ向きになるように、ジャッキを収納します。



警告

■**応急用タイヤを使用するとき**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・AHB（オートマチックハイビーム）
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・クリアランスソナー
・パーキングサポートブレーキ★
・S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）★
・パノラミックビューモニター★
・バックガイドモニター★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・E-Four（電気式 4WD システム）★

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■樹脂加飾部品の取り扱いについて（17 インチホイール装着車）

→ P. 532

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 240）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 638）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 102）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※
  （→ P. 107）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※
  （→ P. 244, 603）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 636）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。（→ P. 102, 243）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 640）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 641）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 640）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 641）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. パワースイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 201）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 183）を使って次の操作ができます。

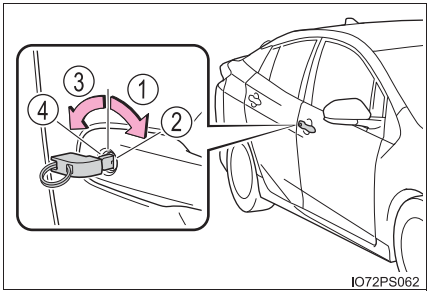
① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 661）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

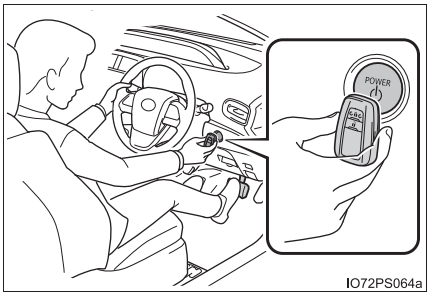
ハイブリッドシステム始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

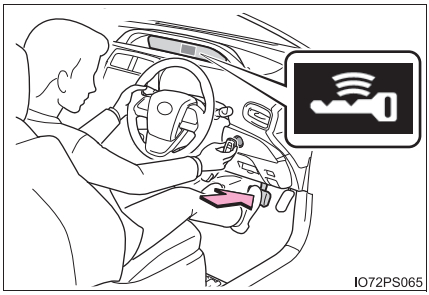
2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する



4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにして、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 562）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 242）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 661）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→ P. 200）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスとムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

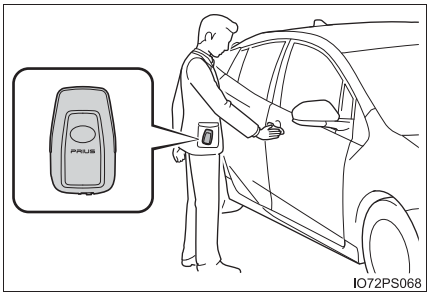
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

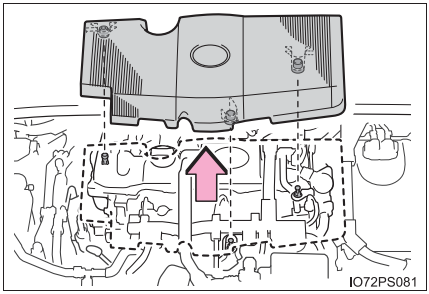
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。
(→ P. 110)



2 ボンネットを開ける（→ P. 537）

3 エンジン上部のカバーをはずす

両端をつかんで垂直に持ち上げると、カバーがはずれます。



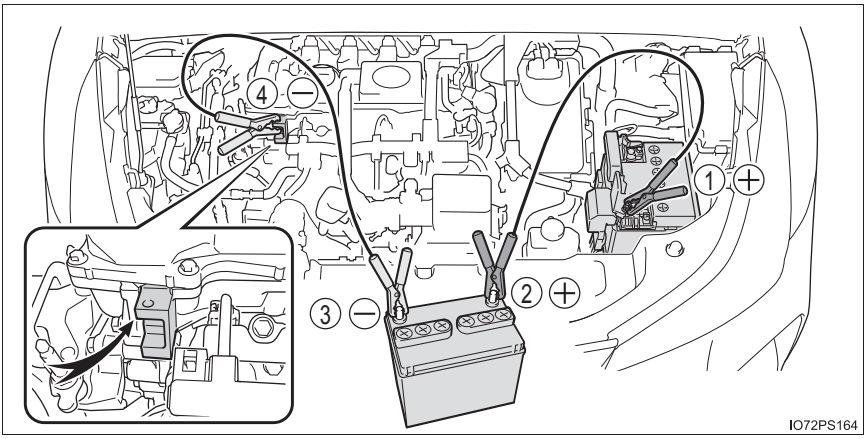
4 補機バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を補機バッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ



5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー＋ 端子のカバーをもとにもどしてください。

9 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける

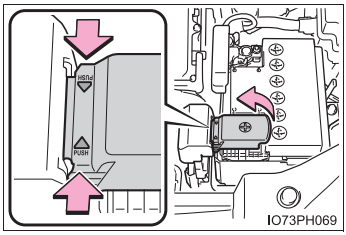
取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーの＋端子カバーを開くとき

図に示す位置を両側から押しながら、カバーの先端を持ち上げます。



■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。（→ P. 670）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションがPの状態で補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
（→ P. 582）

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（295A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■**補機バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 592）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

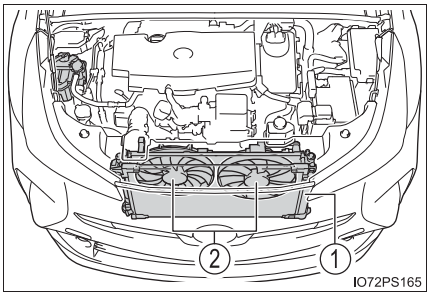
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

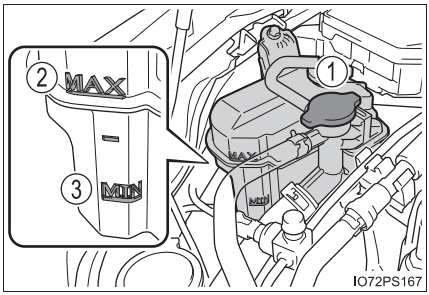


4 冷却水の量がリザーバータンクの “MAX”（上限）と “MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

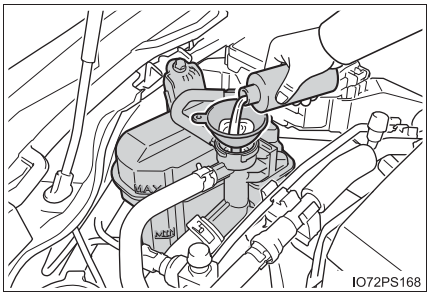
② “MAX”（上限）

③ “MIN”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

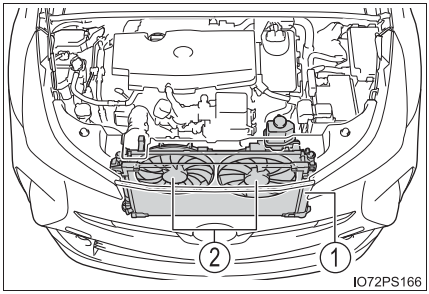
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

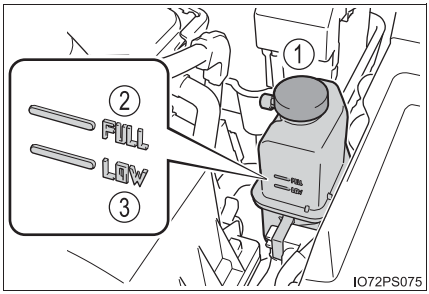


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

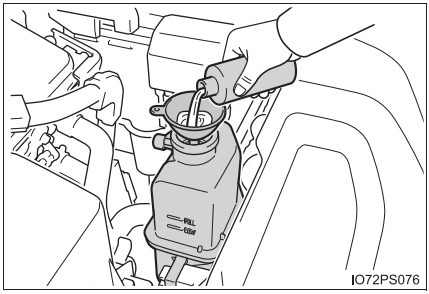
③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、メインディスプレイ上の「アクセサリー」・「イグニッション ON」の表示、または走行距離表示（→ P. 130）と、READY インジケーターが消えていることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

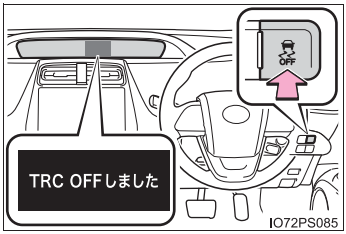
ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

TRC を停止するには を押してください。（→ P. 416）



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....654
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....661
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....670

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）	
	リヤワイパー非装着車	リヤワイパー装着車
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	38	43

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SN 0W-16 —API SN/RC, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20 —API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.9	4.2

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、まず水平な場所に駐車し、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

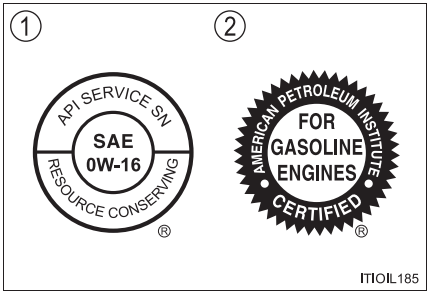
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

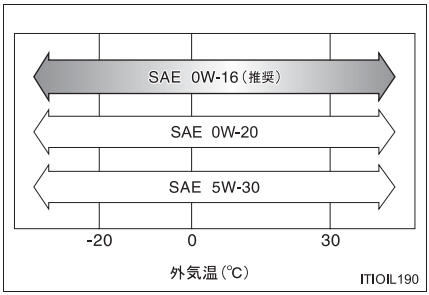
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　−12 ℃ 濃度 50%　−35 ℃	6.2	1.4

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS※	3.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ **トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電気モーター［4WD 車のみ］）

指定銘柄	容量［L］（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS※	1.2

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ **リヤディファレンシャルフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときのコラムホールカバーとのすき間 ※	117

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（31kgf）の踏力をかけたときのコラムホールカバーとのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（31kgf）のときのノッチ ※ 数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

車種	容量［L］（参考値）
リヤワイパー非装着車	2.0
リヤワイパー装着車	4.8

タイヤ・ホイール

▶ リヤワイパー非装着車

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
195/65R15 91S	15 × 6 1/2J	260（2.6）	250（2.5）

▶ リヤワイパー装着車

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R15 91H	15 × 6 1/2J	250（2.5）	240（2.4）
	215/45R17 87W	17 × 7J	220（2.2）	210（2.1）
応急用タイヤ★	T125/70D17 98M	17×4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車外	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
車内	バニティミラーランプ	8
	フロントインテリアランプ／マップランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
		フロント	リヤ	
ZVW51	2ZR-FXE（1.8L ガソリン）	1NM	－	FF（前輪駆動）
ZVW55			1MM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、メーカーオプションのナビゲーションシステム★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（T-Connect スマホアプリのご利用、またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはT-Connectスマホアプリでご確認ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

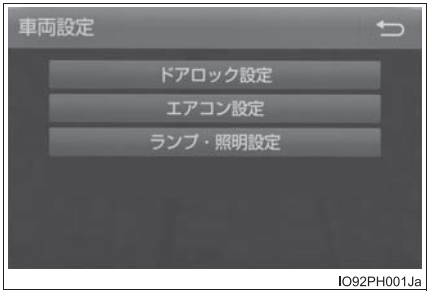
■ メーカーオプションのナビゲーションシステム★で設定するには

1 「MENU」スイッチを押す

2 「設定・編集」を選択する

3 「設定・編集」画面の「My カー」を選択し、「車両設定」を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する



5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。
音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「＋」または「－」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの〈または〉を押して を選択する

2 ∧または∨を押して「 （車両カスタマイズ）」を選択し、○を押す

3 ∧または∨を押して変更する項目を選択し、○を押す

4 ∧または∨を押して設定したい項目を選択し、○を押す

設定を終了する場合は、⮌を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

② メーカーオプションのナビゲーションシステム★で設定変更可能

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 108）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	―	―	○

■ メーター照明（→ P. 112）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２	―	―	○

■ HUD（ヘッドアップディスプレイ）★（→ P. 166）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ルート案内★	する	しない	○	―	―

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 187, 198）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図（ブザー音量調整）	5	OFF	○※	○	○
		1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○※	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	―	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のみ

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 198）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○※	○	○
連続してできる施錠操作の回数	無制限	2 回	―	―	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のみ

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 187）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○

■ ドアミラー（→ P. 216）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	―	―	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ・ムーンルーフ★（→ P. 218, 222）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能（開）	しない	する	―	―	○
メカニカルキー連動開閉機能（閉）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（開）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（閉）	しない	する	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	する	しない	―	―	○

■ ドライブスタートコントロール（→ P. 227）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
後退速度の抑制制御	する	しない※	○	―	―

※「しない」に変更しても、パワースイッチを ON モードにするたびに「する」にもどります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 256）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	－２	－２～＋２	○※	○	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	―	―	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のみ

■ 雨滴感知式ワイパー★（→ P. 268）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイパースイッチを “AUTO” にしたときの作動	雨滴感知	車速連動間欠作動（間欠時間調整式）	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 306）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり	なし	○	—	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	○	—	—
		告知表示とブザー			
制限速度超過の告知車速	2km/h	10km/h	○	—	—
		5km/h			
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ	なし	○	—	—
		告知表示とブザー			

■ ITS Connect★（→ P. 330）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
信号情報	ON	OFF	○	—	○
道路環境情報	ON	OFF	○	—	○
緊急車両通知	ON	OFF	○	—	○
支援タイミング	早	遅	○	—	○
クルーズ（ITS）	ON	OFF	○	—	○

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 342）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→ P. 354）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
バックセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	—	—	○

■ S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）★（→ P. 381）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
障害物回避距離	標準	短い	—	—	○
		少し長い			
		長い			
並列駐車可能スペース	標準	狭い	—	—	○
		少し広い			
		広い			
縦列駐車可能スペース	標準	狭い	—	—	○
		少し広い			
		広い			

■ エアコン（→ P. 458, 469）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して A/C の ON ／ OFF を自動的に切りかえる ※1	する	しない	—	○	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○ ※2	○	○

※1 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 483）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
消灯までの時間	15 秒	OFF	○※	○	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	―	―	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
足元照明の点灯★	あり	なし	―	―	○
室内照明の点灯制御	あり	なし	―	―	○

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

●車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された

●パワースイッチが OFF になった

●車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

警告

■カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 219
ムーンルーフ★	正常に働かないとき	P. 223
パーキングサポートブレーキ★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 373
シンプルインテリジェントパーキングアシスト★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 404
パノラミックビューモニター★	補機バッテリーの充電、交換後の再接続時	P. 450

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）....672
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....676
アルファベット順さくいん.....678
五十音順さくいん.....680

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 183）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 186）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 562）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 242）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 201）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 190）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 240）
- シフトポジションは P になっていますか？（→ P. 249）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 199）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 638）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 640）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 218）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 242）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 676）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 590、596 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 605）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 623）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 651）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 108
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 596
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 220 P. 223
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 108
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 562
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 199
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 199

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはパワースイッチをONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 190
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 255
	運転席･助手席のシートベルトを着用していない ※	P. 594
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 233
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 318
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 284
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 298
前の車が発進しても停止し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 327

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 458, 469
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 414, 591
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）. 414
AHB
（オートマチックハイビーム）. 260
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 342
DCM
（データコミュニケーションモジュール）. 64
E-Four
（電気式 4WD システム）. 415
ECB
（電子制御ブレーキシステム）. 414
EDR
（イベントデータレコーダー）.. 11
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 414, 591
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 660
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）. 166
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 655
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 57, 60
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 294
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 284, 591
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 364, 592
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 342, 349

RSA
（ロードサインアシスト）. 306
S-FLOW
（フロント席集中送風モード）. 460, 472
S-IPA
（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）. 381
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール）. 414
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 34, 591
Toyota Safety Sense
AHB（オートマチックハイビーム）. 260
LTA（レーントレーシングアシスト）. 294
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 284
RSA （ロードサインアシスト）. 306
先行車発進告知機能. 327
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 311
TRC
（トラクションコントロール）. 414, 591
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 414, 591

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 640
アームレスト（リヤシート）..... 507
RF 送信機..... 12
RSA
（ロードサインアシスト）..... 306
ITS Connect..... 330
アウターミラー
（ドアミラー）..... 216
操作 216
格納のしかた..... 216
BSM（ブラインド
スポットモニター）..... 342
ミラーヒーター 462, 474
アクセサリーコンセント 510
アクセサリーソケット..... 500
アクセサリーモード..... 242
アクティブコーナリングアシスト
（ACA）..... 414
アシストグリップ..... 508
足元照明 483
アラーム
オートアラーム 108
音さくいん..... 676
警告ブザー..... 590, 596
アンチロックブレーキ
システム（ABS）..... 414
アンテナ
スマートエントリー&
スタートシステム..... 198

い

ECB（電子制御ブレーキ
システム）.....414
ETC2.0 システム ※
E-Four（電気式 4WD
システム）.....415
EV ドライブモード.....246
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）.....240
自動電源 OFF 機能.....242
車両を緊急停止するには 580
ハイブリッドシステム
始動のしかた.....240
モードの切りかえ.....242
位置交換
（タイヤローテーション）.....543
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 11
イモビライザーシステム.....107
イルミネーテッド
エントリーシステム.....485
インジケーター（表示灯）.....125
ドアミラーインジケーター 342
ハイブリッドシステム
インジケーター.....140
表示灯 125
READY 240
インテリアランプ 484, 485
インテリジェントパーキング
アシスト（S-IPA）.....384
インナーミラー 214

う

ウインカー（方向指示灯）..... 254
電球（バルブ）の交換..... 569, 572
方向指示レバー..... 254
ワット数..... 660
ウインドウ..... 218
ウインドシールドデアイサー..... 462, 474
ウォッシャー..... 267, 271
パワーウインドウ..... 218
リヤウインドウデフォッガー..... 462, 474
ウインドウロックスイッチ..... 218
ウォーニングランプ（警告灯）..... 123, 590
ウォッシャー..... 267, 271
液の補充..... 541
スイッチ..... 267, 271
タンク容量..... 658
冬の前の準備・点検..... 454
動けなくなったときは（スタック）..... 651
雨滴感知式ワイパー..... 267
運転..... 226
雨の日の運転..... 228
運転を補助する装置..... 414
エコアクセルガイド..... 141
寒冷時の運転..... 454
正しい運転姿勢..... 28
手順..... 226
ハイブリッド車運転のアドバイス..... 452
運転席シートベルト非着用警告灯..... 592

え

エアコン..... 458, 469
エコ空調モード..... 461, 473
エコジャッジ（空調スコア）..... 156
オートエアコン..... 458, 469
曇り取り（フロントウインドウガラス）.... 461, 473
曇り取り（リヤウインドウ）..... 462, 474
フィルターの交換..... 549
フロント席集中送風モード（S-FLOW）..... 460, 472
エアバッグ..... 34
SRS エアバッグ警告灯..... 591
お子さまのための注意..... 35
改造・廃棄..... 37
作動条件..... 38, 39
正しい姿勢..... 28
配置..... 34
AUX 端子 ※
S-IPA（シンプルインテリジェントパーキングアシスト）..... 384
ガイド画面..... 385
縦列出庫..... 399
縦列駐車..... 393
並列駐車..... 387
メッセージ..... 404
S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）..... 414
エネルギーモニター..... 138, 173
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 294

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

エレクトリックパワーステアリング（EPS）..... 414
機能 414
パワーステアリング警告灯.... 591
エンジン
イモビライザーシステム..... 107
エンジン警告灯 590
エンジンスイッチ（パワースイッチ）..... 240
エンジンルームから蒸気が出ている 646
オーバーヒート 646
緊急時の停止方法 580
ハイブリッドシステムが始動できない 635
ハイブリッドシステムの始動方法 240
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）..... 240
ボンネット 537
エンジンオイル..... 655
冬の前の準備・点検 454
メンテナンスデータ 655
油圧警告灯 590
容量 655
エンジンスイッチ（パワースイッチ）..... 240
自動電源 OFF 機能..... 242
車両を緊急停止するには..... 580
ハイブリッドシステムの始動のしかた 240
モードの切りかえ 242
エンジンフード（ボンネット）... 537

お

オーディオ ※
オーディオ操作スイッチ.....509
オートアラーム 108
オートエアコン 458, 469
オートマチックハイビーム（AHB）.....260
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）.....258
オーバーヒート 646
オープナー
給油扉 275
バックドア 193
ボンネット 537
オイル（エンジンオイル）.....655
応急用タイヤ 623
空気圧 659
交換方法 623
おくだけ充電 501

お子さまを乗せるとき 43
ウインドウロックスイッチ 218
エアバッグ 35
お子さまの安全のために 43
キーの電池 563
シートの取り扱いに関する警告 206, 208
シートベルトの着用 31
シートヒーターに関する警告 481
チャイルドシート 44
チャイルドプロテクター 190
発炎筒の取り扱いに関する警告 579
バックドアに関する警告 195
パワーウインドウに関する警告 220
補機バッテリーに関する警告 644
ムーンルーフに関する警告 224
オドメーター 131

か

カーテンシールドエアバッグ 34
カードホルダー 492
カーペット
洗浄 535
フロアマットの取り付け方 26
外気温表示 129
快適温熱シート（シートヒーター） 481
回生ブレーキ 97
外装の電球（バルブ） 568
交換要領 568
ワット数 660
買い物フック 495
ガス欠になったとき 102
カスタマイズ機能 661
型式 660
カップホルダー 489
カメラ
前方カメラ（Toyota Safety Sense） 279
バックガイドモニター ※
パノラミックビューモニター 443
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 462, 474
ガレージジャッキ 540
冠水路走行 237
寒冷時の運転 454

き

キー 182
キーナンバープレート 182
キーの構成 182
キーレスエントリー 187, 198
キーをなくした 183, 186
スマートエントリー＆スタートシステム 198
正常に働かない 637
施錠・解錠ができない 637
電子キー 182
電池が切れた 562, 637
ハイブリッドシステムが始動できない 635
メカニカルキー 183
ワイヤレスリモコン 182

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

キーレスエントリー
スマートエントリー&
スタートシステム..... 198
ワイヤレスドアロック..... 187
きしみやひっかき音が聞こえる
（ブレーキパッドウェア
インジケーター）..... 233
給油..... 273
給油扉が開かないとき..... 276
給油のしかた..... 273
メンテナンスデータ 654
緊急時シートベルト固定機構 31
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム）..... 636
緊急時の対処
オーバーヒートした 646
キーの電池が切れた 562, 637
キーをなくした 183, 186
警告灯がついた 590
警告メッセージが
表示された 596
けん引..... 582
故障した..... 576
車両を緊急停止する 580
水没した..... 581
スタックした..... 651
電子キーが
正常に働かない 637
ハイブリッドシステムが
始動できない 635
発炎筒..... 578
パンクした..... 605, 623
補機バッテリーがあがった.... 640
緊急停止システム..... 101
緊急ブレーキシグナル..... 415

く

空気圧（タイヤ）.....659
区間距離計
（トリップメーター）.....131
駆動用電池.....100
警告メッセージ.....596
充電について 97
搭載位置 100
冷却用吸入口 101
駆動用電池冷却用吸入口.....101
手入れ.....552
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス 461, 473
ミラーヒーター.....462, 474
リヤウインドウ
デフォッガー.....462, 474
クラクション（ホーン）.....212
クリアランスソナー 354
表示.....355
ブザー 357
巻き込み警報機能.....359
クリアランスランプ
（車幅灯）.....256
スイッチ 256
電球（バルブ）の交換.....572
クリップ
フロアマット 26
クルーズコントロール
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）.....311
グローブボックス 487
グローブボックスランプ.....487

け

警音器（ホーン）..... 212
計器類
（コンビネーションメーター）... 112
警告灯／表示灯 122
時計の調整..... 117
マルチインフォメーション
ディスプレイ 135
メインディスプレイ 129
警告灯 123, 590
ABS ＆ブレーキアシスト..... 591
LTA 表示灯 591
SRS エアバッグ 591
エンジン..... 590
高水温..... 592
シートベルト非着用 592
充電 590
スリップ表示灯 591
電子制御ブレーキ 590
ドライブスタート
コントロール 593
燃料残量..... 592
パーキングサポート
ブレーキ..... 593
パワーステアリング 591
半ドア..... 592
PKSB OFF 表示灯..... 592
PCS 591
プリテンショナー 591
ブレーキ..... 590
ブレーキオーバーライド
システム 593
マスターウォーニング..... 592
油圧 590
警告ブザー
クリアランスソナー.....354
シートベルト非着用.....592
シフトポジション切りかえ
制限 250
車線逸脱警報機能.....298
衝突警報（PCS）.....284
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.....318
先行車発進告知機能.....327
パーキングブレーキ
未解除走行時.....255
半ドア 188, 199, 592
ふらつき警報機能.....299
ブレーキ 590
リバース 250
警告メッセージ 596
警告ラベル（ハイブリッド
システム）.....100
化粧ミラー（バニティミラー）....499
けん引.....582
けん引のしかた.....582
フックの搭載場所.....607, 624
フックの取り付け.....585

こ

交換
キーの電池 562
タイヤ 623
電球（バルブ） 568
ヒューズ 565
ワイパーゴム 557
工具（ツール） 607, 624
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール） 227
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 569
ワット数 660
高電圧部位 100
コートフック 507
小物入れ 491
コンセント
アクセサリーコンセント 510
非常時給電システム 517
コンソールボックス 488
コンライト（自動点灯・消灯装置） 256

さ

サービスプラグ 100
サイドエアバッグ 34
サイドドア 187
サイド方向指示灯 254
電球（バルブ）の交換 572
方向指示レバー 254
サイドミラー（ドアミラー） 216
格納のしかた 216
操作 216
BSM（ブラインドスポットモニター） 342
ミラーヒーター 462, 474
三角表示板等収納スペース 496
サンシェード
ムーンルーフ 223
サンバイザー 499

し

シート.....205, 207
シートヒーター
（快適温熱シート）.....481
シートベンチレーター.....481
正しい運転姿勢.....28
チャイルドシート.....44
調整.....205, 207
手入れ.....534
ヘッドレスト.....209
シートバックポケット.....492
シートヒーター.....481
シートベルト.....30
お子さまの着用.....31
緊急時シートベルト
固定機構.....31
シートベルト非着用警告灯....592
高さ調節.....31
正しく着用するには.....30
着け方・はずし方.....30
手入れ.....535
妊娠中の方の着用.....32
シートベルト非着用警告灯.....592
シートベルトプリテンショナー.....31
機能.....31
プリテンショナー警告灯.....591
シートベンチレーター.....481
事故が発生したとき
（ハイブリッド
システムの注意）.....104
室内灯（インテリアランプ）.....483
始動のしかた
（ハイブリッドシステム）.....240
シフトポジション.....249
シフトレバー.....248
シフトポジションの
切りかえ.....248
シフトレバー照明.....483
P ポジションスイッチ.....249
リバース警告ブザー.....250
締め付けトルク（ホイール）.....631
車間距離切りかえスイッチ.....317
車線逸脱警報機能.....298
ジャッキ
ガレージジャッキ.....540
車載ジャッキ.....607, 624
ジャッキハンドル.....607, 624
車幅灯.....256
電球（バルブ）の交換.....572
ランプスイッチ.....256
車両型式.....660
車両仕様（スペック）.....654
車両接近通報装置.....96
車両データの記録.....10
車両を緊急停止するには.....580
収納装備.....486
瞬間燃費.....132, 177
仕様（車両仕様）.....660
初期設定.....670
助手席シートベルト
非着用警告灯.....592

す

スイッチ
アクセサリーコンセント..... 511
EV ドライブモード..... 246
イグニッション 240
ウインドウロック 218
ウインドシールド
デアイサー 462, 474
ウォッシャー 267, 271
HUD（ヘッドアップ
ディスプレイ）..... 166
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 260
AC100V..... 510, 517
S-IPA
（シンプルインテリジェント
パーキングアシスト）..... 384
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 300
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 240
オーディオ ※ 509
クルーズコントロール..... 311
シート調整..... 205
シートヒーター 482
シートベンチレーター..... 482
車間距離切りかえ 317
ステアリング ※ 509
電話 509
ドアミラー..... 216
ドアロック..... 189
トーク（音声認識）※..... 509
ドライブモードセレクト..... 340
TRIP..... 131
ハザードランプ 577
バックドアオープン 193
パノラミックビューモニター
メイン 423
パワーウインドウ.....218
パワースイッチ.....240
P ポジション 249
非常時給電システム.....517
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....577
VSC OFF.....416
フォグランプ 264
ヘルプネットボタン ※ 71
方向指示レバー.....254
ホーン（警音器）.....212
ムーンルーフ 222
メーター操作 113
ランプ.....256
リヤウインドウ
デフォッガー.....462, 474
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）.....311
ワイパー 267, 271
ワイヤレス充電.....501
スタック.....651
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC).....414
ステアリングホイール
（ハンドル）.....212
位置調整 212
スイッチ 509
ホーン（警音器）.....212
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....572
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....454
スピードメーター 129

スペアタイヤ（応急用タイヤ）... 623
空気圧 ... 659
交換方法 ... 623
スペック（車両仕様）... 654
スマートエントリー＆
スタートシステム ... 198
アンテナの位置 ... 198
カスタマイズ設定 ... 664
緊急始動機能 ... 636
警告ブザー ... 199
作動範囲 ... 199
正常に働かないとき ... 637
節電機能 ... 200
電波がおよぼす
影響について ... 204
ドアの解錠・施錠 ... 187, 192
ハイブリッドシステムの
始動 ... 240
スモールランプ（車幅灯）... 256
電球（バルブ）の交換 ... 572
ランプスイッチ ... 256

せ

清掃 ... 528, 534
アルミホイール ... 529
外装 ... 528
駆動用電池冷却用吸入口 ... 552
シートベルト ... 535
前方カメラ ... 281
内装 ... 534
レーダーセンサー ... 280
制動灯
電球（バルブ）の交換 ... 572
積算距離計（オドメーター）... 131
セキュリティ
インジケーター ... 107, 108
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）... 318
先行車発進告知機能 ... 327
センサー
インナーミラー ... 215
雨滴感知センサー ... 269
AHB（オートマチック
ハイビーム）... 260
S-IPA
（シンプルインテリジェント
パーキングアシスト）... 408
クリアランスソナー ... 354
前方カメラ ... 279
ドアハンドル ... 187
Toyota Safety Sense ... 279
パーキングサポート
ブレーキ ... 366
BSM（ブラインドスポット
モニター）... 345
ライトセンサー ... 258
レーダーセンサー ... 279, 345
洗車 ... 528
前照灯（ヘッドランプ）... 256
オートレベリングシステム ... 258
電球（バルブ）の交換 ... 572
ライトセンサー ... 258
ランプ消し忘れ防止機能 ... 258
ランプスイッチ ... 256
前方カメラ ... 279

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

そ

走行モード
（ドライブモード）..... 340
速度計（スピードメーター）..... 129

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 254
電球（バルブ）の
交換..... 569, 572
方向指示レバー 254
ワット数..... 660
タイヤ 543
応急用タイヤ 623
空気圧..... 547, 659
交換 623
締め付けトルク 631
チェーン..... 454
低偏平タイヤ 544
点検 543
パンク応急修理キット..... 607
パンクしたときは 605, 623
冬用タイヤ 454
ホイールサイズ 659
ローテーション
（位置交換）..... 543
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 651
タイヤチェーン..... 454

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....454
チャイルドシート 44
ISOFIX ロアアンカレッジ
で固定 60
お子さまを乗せるときは 43
規格 49
固定方法の種類.....57
シートベルトで固定.....58
知っておいて
いただきたいこと 44
テザーベルト 62
トップテザーアンカレッジに
固定 62
チャイルドプロテクター.....190
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....255
操作 255
冬季の注意 455
未解除走行時警告ブザー 255
メンテナンスデータ 658

つ

通信利用型レーダー
クルーズコントロール.....320
ツール（工具）.....607, 624

て

T-Connect DCM 単体 64
T-Connect について 64
ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ） 71
ヘルプネットボタン 71
マイカー Security 87
リモートメンテナンスサービス 94
低偏平タイヤ 544
手入れ 528, 534
アルミホイール 529
外装 528
駆動用電池冷却用吸入口 552
シートベルト 535
前方カメラ 281
内装 534
レーダーセンサー 280
テールランプ（尾灯） 256
電球（バルブ）の交換 572
ランプスイッチ 256
デッキフック（荷物固定用フック） 494
デッキボード 493
デフォッガー
フロントウインドウガラス 461, 473
リヤガラス 462, 474
電気モーター 95, 100
電球（バルブ） 660
交換要領（外装バルブ） 568
ワット数 660
点検基準値（メンテナンスデータ） 654
電子キー 182
作動範囲 199
正常に働かないとき 637
節電モード 200
電池が切れた 637
電池交換 562
電池交換（キー） 562
電話スイッチ 509

と

ドア 187
スマートエントリー＆スタートシステム 198
チャイルドプロテクター 190
ドアガラス 218
ドアロックスイッチ 189
バックドア 192
ロックレバー 189
ワイヤレスリモコン 187
ドアカーテシランプ 483
位置 483
ワット数 660
ドアポケット 490
ドアミラー 216
操作 216
格納のしかた 216
BSM（ブラインドスポットモニター） 342
ミラーヒーター 462, 474
盗難防止装置
イモビライザーシステム 107
オートアラーム 108
トークスイッチ 509
時計 112
時刻を設定する 117
表示 112
トップテザーアンカレッジ 62

トノカバー 497
Toyota Safety Sense..... 278
RSA
（ロードサインアシスト）..... 306
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 260
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 294
先行車発進告知機能 327
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 284
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 311
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 137
ドライブスタート
コントロール..... 227
急発進の抑制制御 227
後退速度の抑制制御 227
ドライブモード
セレクトスイッチ..... 340
トラクション
コントロール（TRC）..... 414
機能 414
VSC OFF スイッチ..... 416
トランスミッション..... 248
自動 P ポジション
切りかえ機能 251
操作 248
メンテナンスデータ 657
リバース警告ブザー 250
トリップメーター..... 131

な

内装
収納装備 486
手入れ 534
「ナノイー」.....462, 474
ナビゲーションシステム ※

に

荷物
積むときの注意.....238
デッキフック
（荷物固定用フック）.....494
荷室内装備 493

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）.....651

ね

燃費
エネルギーモニター.....138, 173
燃費情報（ドライブ
インフォメーション）.....137
燃料 654
給油.....273
種類.....654
燃料残量警告灯.....592
容量.....654
燃料計.....129

は

パーキングサポートブレーキ 364
警告灯 593
警告メッセージ 369
操作 366
表示灯 126
パーキングブレーキ 255
操作 255
冬季の注意 455
未解除走行時警告ブザー 255
メンテナンスデータ 658
排気ガス 42
ハイビーム（ヘッドランプ） 256
AHB（オートマチックハイビーム） 260
電球（バルブ）の交換 572
ランプスイッチ 256
ハイブリッドシステム 95
EV ドライブモード 246
運転のアドバイス 452
オーバーヒート 646
回生ブレーキ 97
ガス欠になったとき 102
緊急始動機能 636
緊急時の停止方法 580
緊急停止システム 101
駆動用電池冷却用吸入口 101
高電圧部位 100
サービスプラグ 100
事故が発生したとき 104
始動できないときは 635
始動方法 240
車両接近通報装置 96
充電 97
注意 100
特徴 95
特有の音と振動 98
パワー（イグニッション）スイッチ 240
補機バッテリーがあがった 640
メンテナンス・修理・廃車するとき 99
ハイブリッドシステムインジケーター 140
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 572
ハザードランプ（非常点滅灯） 577
緊急ブレーキシグナル 415
スイッチ 577
電球（バルブ）の交換 569, 572
ワット数 660
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 219
ムーンルーフ 219
発炎筒 578
バックアップランプ（後退灯） 568
電球（バルブ）の交換 569
ワット数 660
バックドア 192
バックドアが開かないとき 194
バックドアハンドル 193
半ドア警告灯 592
ラゲージルームランプ 194

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

バッテリー（駆動用電池）..... 100
充電について..... 97
搭載位置..... 100
冷却用吸入口..... 101
バッテリー（補機バッテリー）
交換するとき..... 643
搭載位置..... 641
冬の前の準備..... 454
補機バッテリーがあがった.... 640
バニティ（化粧用）ミラー..... 499
バニティミラーランプ..... 499
装備について..... 499
ワット数..... 660
パノラミックビューモニター 422
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 568
ワット数..... 660
パワーウインドウ..... 218
ウインドウロックスイッチ.... 218
開閉することが
できないとき..... 219
操作..... 218
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能..... 219
挟み込み防止機能..... 219
巻き込み防止機能..... 219
パワーコントロールユニット 100
パワー（イグニッション）
スイッチ.....240
自動電源 OFF 機能.....242
車両を緊急停止するには 580
ハイブリッドシステム
始動のしかた.....240
モードの切りかえ.....242
パワーステアリング 414
機能.....414
警告灯.....591
パンクした
応急用タイヤ装着車.....623
タイヤパンク応急修理
キット装着車.....605
番号灯（ライセンスプレート
ランプ）.....256
電球（バルブ）の交換.....572
ランプスイッチ.....256
ハンドル
（ステアリングホイール）.....212
位置調整.....212
スイッチ.....113, 509
ホーン（警音器）.....212

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 414
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 284
機能 284
警告灯..... 591
設定を変更する 287
ヒーター
オートエアコン 458, 469
シートヒーター 481
ミラーヒーター 462, 474
P ポジションスイッチ 249
非常時給電システム..... 517
非常点滅灯（ハザードランプ）... 577
緊急ブレーキシグナル..... 415
スイッチ..... 577
電球（バルブ）の
交換..... 569, 572
ワット数..... 660
尾灯（テールランプ）..... 256
電球（バルブ）の交換..... 572
ランプスイッチ 256
ワット数..... 660
ヒューズ 565
表示灯 125
日よけ（サンバイザー）..... 499
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 414

ふ

VSC（ビークルスタビリティ
コントロール 414
ブースターケーブルの
つなぎ方 640
フォグランプ 264
スイッチ 264
電球（バルブ）の交換..... 572
ブザー
RCTA 342
S-IPA
（シンプルインテリジェント
パーキングアシスト）..... 381
クリアランスソナー..... 354
シートベルト非着用..... 592
車線逸脱警報機能（LTA）..... 298
衝突警報（PCS）..... 284
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 318
先行車発進告知機能..... 327
パーキングサポート
ブレーキ 369
パーキングブレーキ
未解除走行時..... 255
半ドア 188, 199, 592
ふらつき警報機能（LTA）..... 299
ブレーキ 590
リバース 250

フック
買い物フック 495
けん引フック 585
コートフック 507
デッキフック
（荷物固定用フック） 494
フロアマット固定フック 26
フューエルメーター（燃料計） 129
フューエルリッド（給油扉） 275
給油扉が開かないとき 276
給油のしかた 273
冬の前の準備（寒冷時の運転） 454
冬用タイヤ 454
ブラインドスポットモニター
（BSM） 342
プラスサポート 376
プリクラッシュセーフティ
（PCS） 284
機能 284
警告灯 591
設定を変更する 287
ブレーキ
回生ブレーキ 97
緊急ブレーキシグナル 415
警告ブザー 590
パーキングブレーキ 255
ブレーキ警告灯 590
メンテナンスデータ 658
ブレーキアシスト 414
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 591
機能 414
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 233
ブレーキフルード 658
フロアマット 26
フロントインテリアランプ 484
フロントシート 205
シートヒーター 481
シートベンチレーター 481
正しい運転姿勢 28
調整 205
手入れ 534
ヘッドレスト 209
フロントドア 187
フロントフォグランプ 264
スイッチ 264
電球（バルブ）の交換 572
フロント方向指示灯 254
電球（バルブ）の交換 572
方向指示レバー 254

へ

平均車速 146
平均燃費 144
ヘッドアップディスプレイ 166
ヘッドランプ 256
　オートレベリングシステム 258
　電球（バルブ）の交換 572
　ライトセンサー 258
　ランプ消し忘れ防止機能 258
　ランプスイッチ 256
ヘッドランプオートレベリング
　システム 258
ヘッドレスト 209
ヘルプネットボタン ※ 72
ベンチレーター
　（シートベンチレーター） 481

ほ

ホイール
　交換（タイヤ） 623
　メンテナンスデータ 659
ホイールナットレンチ 607, 624
方向指示灯 254
　電球（バルブ）の
　　交換 569, 572
　方向指示レバー 254
　ワット数 660
ホーン（警音器） 212
補機バッテリー
　交換するとき 643
　搭載位置 641
　冬の前の準備 454
　補機バッテリーがあがった 640
保証 12
ボトルホルダー 490
ボンネット 537

ま

巻き込み防止機能 219
マスターウォーニング 592
マルチインフォメーション
　ディスプレイ 135
　RCTA 検知画面 342
　エアコン設定画面 155
　S-IPA
　　（シンプルインテリジェント
　　パーキングアシスト） 385
　エネルギーモニター 138
　LTA（レーントレーシング
　　アシスト） 300
　クリアランスソナー 355
　警告メッセージ表示画面 158
　衝突警報（PCS） 284
　設定画面 159
　走行支援システム連携画面 158
　ドライブ
　　インフォメーション 137
　ナビゲーションシステム
　　連携画面 154
　パーキングサポート
　　ブレーキ 369
　表示項目 135
　レーダークルーズ
　　コントロール
　　（全車速追従機能付き） 311

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

み

ミラー
インナーミラー 214
ドアミラー 216
バニティミラー 499
BSM（ブラインドスポットモニター） 342
ミラーヒーター 462, 474

む

ムーンルーフ 222
警告ブザー 223
操作 222
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 223
挟み込み防止機能 223

め

メインディスプレイ 129
メーター（計器類） 112
警告灯／表示灯 122
照度調整 114
時計の調整 117
マルチインフォメーションディスプレイ 135
メインディスプレイ 129
メカニカルキー 183
メンテナンスデータ 654

も

モーター（電気モーター） 100
モーターでの走行（EV ドライブモード） 246

ゆ

USB 端子 ※
ユーザーカスタマイズ機能 661
雪道ですべって動けない（スタックした） 651
油脂類 654

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯） 256
電球（バルブ）の交換 572
ランプスイッチ 256
ラゲージフック 494
ラジエーター
オーバーヒート 646
メンテナンスデータ 657
ランプ
インテリアランプ 484, 485
AHB（オートマチックハイビーム） 260
室内灯 483
電球（バルブ）の交換 568
ドアカーテシランプ 483
非常点滅灯（ハザードランプ） 577
フロントフォグランプ 264
ヘッドランプ（前照灯） 256
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 254
ライトセンサー 258
ラゲージルームランプ 194
ランプ消し忘れ防止機能 258
リヤフォグランプ 264
ワット数 660
ランプ消し忘れ防止機能 194, 258, 485, 499

り

リヤアームレスト..... 507
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 462, 474
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA）..... 342, 349
リヤシート 207
リヤフォグランプ..... 264
スイッチ..... 264
電球（バルブ）の交換..... 572
リヤ方向指示灯..... 254
電球（バルブ）の交換..... 569
方向指示レバー 254
ワット数..... 660

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 214
ルームランプ（室内灯）..... 483

れ

レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）.....311
接近警報 318
通信利用型レーダー
クルーズコントロール 320
レーダーセンサー.....279
レーントレーシングアシスト
（LTA）.....294
スイッチ 300
メーター表示 300
冷却水.....657
警告灯 592
冬の前の準備 454
メンテナンスデータ.....657
冷却装置（ラジエーター）.....657
オーバーヒート.....646
メンテナンスデータ.....657
レバー
シフト.....248
ハンドル位置調整.....212
方向指示 254
ボンネット解除.....537
ロック（ドア）.....189
ワイパー 264, 271

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ろ

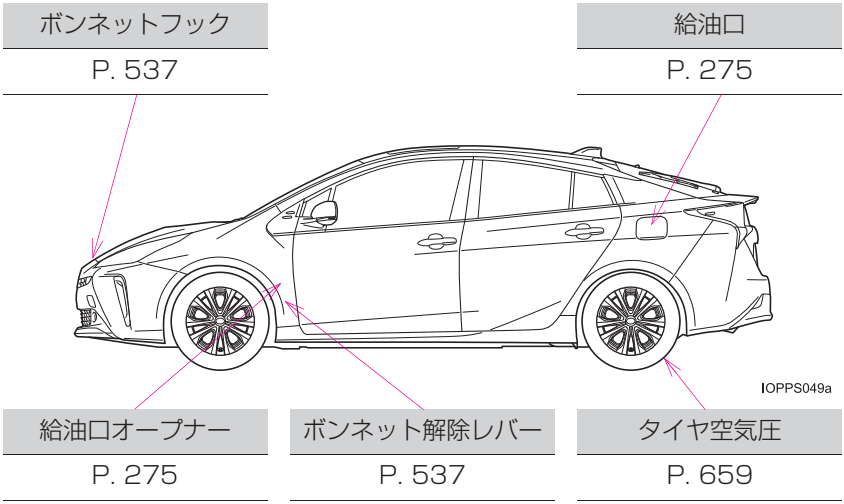
ロードサインアシスト
（RSA）..... 306
ロック
ウインドウロック 218
スマートエントリー&
スタートシステム..... 198
チャイルドプロテクター..... 190
ドア 187, 189
バックドア..... 192
ワイヤレスリモコン 187

わ

ワイパー & ウォッシャー
ウインドシールド
デアイサー 462, 474
ウォッシャー液の補充..... 541
フロント..... 267
リヤ 271
ワイパーゴムの交換 557
ワイヤレスリモコン..... 182
作動の合図..... 188
操作 182
電池の交換..... 562
半ドア警告ブザー 188
ワックス 528
ワット数 660

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	リヤワイパー非装着車：　38L リヤワイパー装着車：　43L
燃料の種類 （→ P. 654）	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	

タイヤサイズ	前輪	後輪
195/65R15 91S	260（2.6）	250（2.5）
195/65R15 91H	250（2.5）	240（2.4）
215/45R17 87W	220（2.2）	210（2.1）
応急用タイヤ★	420（4.2）	

エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時：　3.9L オイルとオイルフィルター交換時：　4.2L
エンジンオイルの種類 （→ P. 655）	トヨタ純正モーターオイル 推奨： ・ SN 0W-16（API SN/RC, SAE 0W-16） 適合： ・ SN PLUS 0W-20（API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ニ-14

M 47E07
01999ー47E07
II-2020年 6 月24日
2020年 7 月 1 日 初版
プリウス